インドネシア国
国家官房

インドネシア国
帰国研修員支援に係る
情報収集・確認調査
最終報告書

平成27年2月
（2015年）

独立行政法人 国際協力機構

株式会社 国際開発センター

イネ事
ＪＲ
15-001

インドネシア国
国家官房

インドネシア国
帰国研修員支援に係る
情報収集・確認調査
最終報告書

平成27年2月
（2015年）

独立行政法人 国際協力機構

株式会社 国際開発センター

為替交換レート（2015年2月現在）

USD1=JPY 117.93

IDR100=JPY0.938

独立行政法人 国際協力機構
インドネシア国帰国研修員支援に係る情報収集・確認調査
最終報告書

目次

要約票

第 1 部　調査の目的と実施方針 1
1-1 調査の背景 1
1-2 調査の目的 6
1-3 実施期間 6
1-4 調査の対象者、対象機関、対象地域 6
1-5 調査の枠組み、実施方法 7
1-6 調査の手順 8
1-6.1 帰国研修員対象質問紙調査 9
1-6.2 帰国研修員対象フォーカスグループディスカッション 10
1-6.3 日本関連機関対象面談調査 11
1-7 調査の実施体制 12

第 2 部　調査結果と分析 14
2-1 帰国研修員に対する質問紙調査 14
2-1.1 分析の視点 14
2-1.2 回答者の属性 15
2-1.3 研修時に知り合った日本人・研修先との交流 15
2-1.4 同じ研修に参加した研修員との交流 17
2-1.5 JICA 同窓会との関係 17
2-1.6 ネットワーキング 20
2-1.7 日本の印象：研修時 25
2-1.8 興味・関心のある活動 27
2-1.9 ネットワーキングと興味・関心のある活動との関連 30
2-1.10 帰国研修員間の交流手段 32
2-1.11 グループ間比較 32
2-1.12 JICA への協力 36
2-1.13 結論 37

2-2　帰国研修員に対する面談調査（フォーカスグループディカッション）の結果 41
2-2.1 フォーカスグループディカッションの目的と対象 41
2-2.2 フォーカスグループディカッションにおける設問 41
2-2.3 参加者の属性 42
2-2.4 フォーカスグループディスカッションにおける帰国研修員の回答 43
2-2.5 調査結果・傾向 48
2-3 日本関係機関に対する面談調査の結果 53
2-3.1 面談の目的と調査対象機関 53
2-3.2 類似の同窓会組織の活動からの教訓および JICA 帰国研修員との連携可能性 53
2-3.3 帰国研修員の参画・貢献ポテンシャルの高いセクターとその現状分析 ... 59
2-3.3.1 ビジネス・経済分野の動向・ニーズ 59
2-3.3.2 行政分野の動向・ニーズ 62
2-3.3.3 学術・教育分野の動向・ニーズ 65
2-3.3.4 国際交流・その他分野の動向・ニーズ 66
2-4　調査結果の分析 69
2-5　調査結果報告セミナーの開催・結果 82
2-6　帰国研修員支援に係る提言 85
2-6.1 ネットワーク 85
2-6.2 活動 87
2-6.3 日本関連機関との連携可能性 88

添付資料 1：帰国研修員対象質問紙調査票 1
添付資料 2：日本関連機関対象調査項目 6
添付資料 3：フォーカスグループディスカッション記録 9
添付資料 4：帰国研修員アンケート結果 24
添付資料 5：現地調査日程・面談者リスト・参考資料/文献リスト 32
添付資料 6：Web アンケート報告書・オンライン調査票 37

Abbreviation　略語表

AJAFA	ASEAN Japan Friendship Association for the 21st Century
AJM	All Japan Meeting
ASCOJA	ASEAN Council of Japan Alumni (ASEAN 元日本留学生評議会)
ASEAN	Association of South East Asian Nations
BPPT	Badan Penkajian dan Penerapan Teknologi (インドネシア国技術評価応用庁)
DAY	Development Association for Youth Leaders （日本ユースリーダー協会）
EOJ	Embassy of Japan （日本大使館）
EOI	Embassy of the Republic of Indonesia （インドネシア大使館）
FGD	Focus Group Discussion
HIDA	Overseas Human Resources and Industry Development Association（海外産業人材育成協会）
IDCJ	International Development Center of Japan（株式会社国際開発センター）
IDS	International Development Solutions （株式会社国際開発ソリューションズ）
IKA JICA	Ikatan Keluarga Alumni Pelatihan JICA （JICA 技術研修帰国研修員同窓会）
IKAMAJA	Ikatan keluarga Alumni Magang Pertanian Jepang （アジア農業青年人材育成研修同窓会）
JETRO	Japan External Trade Organization（日本貿易振興機構）
JF	Japan Foundation （独立行政法人国際交流基金）
JICA	Japan International Cooperation Agency（独立行政法人国際協力機構）
JICE	Japan International Cooperation Center（一般財団法人日本国際協力センター）
JJC	Jakarta Japan Club
JNTO	Japan National Tourism Organization （日本政府観光局）
KAPPIJA 21	The Alumni of the Indonesia-Japan Friendship Program for 21st Century （インドネシア青年研修帰国研修員同窓会）
LP3ES	Lembaga Penelitian, Pendidikan dan Penerangan Ekonomi & Sosial/ Institute for Social and Economic Research, Education & Information
MAFF	Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries（日本国農林水産省）
METI	Ministry of Economy, Trade, and Industry （日本国経済産業省）
MOA	Ministry of Agriculture（インドネシア国農業省）
MOFA	Ministry of Foreign Affaires （日本国外務省）
MOI	Ministry of Industry （インドネシア国工業省）
NGO	Non Governmental Organization
PERSADA	Perhimpunan Alumni Dari Jepang （インドネシア元日本留学生協会）
SETNEG	Kementerian Sekretariat Negara Republik Indonesia/ State Secretariat of the Republic of Indonesia （インドネシア国国家官房）
SME	Small and Medium Sized Enterprises （中小企業）
YLTP	Youth Leaders Training Program （青年研修）

インドネシア国帰国研修員支援に係る情報収集・確認調査
最終報告書　要約票

第１部　調査の目的と実施方針

調査の背景

JICA の研修員受入事業は 1954 年に開始して以来、2012 年までに世界 194 カ国、約 30 万人もの研修員受入の実績を誇る。中でもインドネシアからの受け入れは、約 2 万 3 千人にのぼり、支援対象国中第 1 位となり、計画・行政、公共・公益事業、農林水産、エネルギー、商業・観光、人的資源、保健・医療、社会福祉など多岐にわたる分野で研修を実施してきた。こうした多様な分野のインドネシア人帰国研修員間、また日イ双方の効果的なネットワークの構築・活用が国家安全保障戦略等で求められており、とりわけ人材育成事業で培った人的関係の維持・発展、組織間協力関係の強化が希求されている。かかる状況に応じ、帰国研修員支援を検討する基礎情報となる帰国研修員の意識や現在の活動状況の把握が求められていた。

調査の目的

本調査は、インドネシアにおける JICA 帰国研修員の意識・関心・ニーズについて多角的に把握し、帰国研修員ネットワーク活用の方策の検討、JICA 帰国研修員、JICA および他の日本関連機関との有効な連携のメカニズム構築のため、基礎情報を収集・分析することを目的とする。

実施期間

本調査は、2014 年 9 月から 2015 年 2 月まで、約 5 か月にわたって実施された。
本調査はインドネシアの JICA 帰国研修員、インドネシア（主にジャカルタ）に拠点を置く日本関連機関、日本（主に東京首都圏）に拠点を置く関連機関を対象として実施された。
a. インドネシアの帰国研修員：質問紙調査では、一般技術研修、青年研修など全ての研修スキームに参加した全国各地在住の帰国研修員約 1,700 名対象。分野、年代、性別、地域、研修スキームなどを特定せず、多様な属性の帰国研修員を対象。
b. インドネシアに拠点を置く日本関連機関：外交、行政、学術、文化交流、ビジネス・経済などの分野で国際協力・交流を実施している日本関係機関 9 機関が対象。
c. 日本に拠点を置く関連機関：上述の分野で国際協力・交流を実施している日本関係機関 9 機関が対象。

調査の手順

(1) 帰国研修員対象質問紙調査
JICA インドネシア事務所で管理されているデータベースに登録された帰国研修員約 1,700 名を対象に、回収率 30%を達成した。

(2) 帰国研修員対象フォーカスグループディスカッション
ジャカルタ（2 セッション）、ジョグジャカルタ（2 セッション）、マカッサル、バリに在住の帰国研修員を対象に計 4 都市 6 グループを対象として行われた。

(3) 日本関連機関対象面談調査

日本の省庁、外交、自治体、学術、ユース親善、産業・ビジネス、インドネシア関連、などの分野/分類においてインドネシアの帰国研修員との交流や連携の潜在的可能性が見込める、類似ネットワーキングの参考例の情報収集が期待される機関を対象に実施された。

第 2 部　調査結果と分析

2-1 帰国研修員に対する質問紙調査

分析の視点

質問紙調査では帰国研修員が JICA の研修によって得た日本の印象や帰国後の日本に対する興味・関心、および彼等が現在行っているネットワーキングの状況を把握し、ネットワーキングと日本に対する興味・関心との関連性から活用的なネットワーク構築の可能性を探った。

回答者の属性

インドネシア 34 州に居住する帰国研修員からの質問票への回答 536 である。回答数はジャカルタ特別州が 28.5%で最も多く、西ジャワ州が 24.8%で、全回答中の半数以上を占める。回答者の年齢は 24 歳から 65 歳で、平均 39 歳である。35 歳から 39 歳までの回答者は全体の 29.1%で最も多く、次いで多いのは 30 歳から 34 歳までで 24.4%を占めている。性別については、男性が 65.1%、女性が 34.5%である

結果・結論

(1) 研修時に知り合った日本人・研修先との交流

研修時に知り合った日本人や研修先との帰国後の交流維持の程度は低く、“たまに”あるいは“時々”連絡を取り合っている程度の関係が多い。しかし、交流頻度は多くないものの、日本に関する情報を入手するための日本の友人との交流は回答者の 82.8%が維持しており、また、日本との繋がりや仕事上のアドバイスための交流は 68%程度の回答者が維持している。研修先との交流は友人との交流に比べて少なく、交流を維持しているのは回答者の 50%から 60%である。

(2) 同じ研修に参加した研修員との交流

同じ研修への参加者との研修後の交流頻度は、インドネシアの帰国研修員の場合は“時々”あるいは“しばしば”連絡を取り合う関係が多く、回答者の 90.1%が交流を維持している。他国の研修員との交流頻度は同国の研修員に比べて有意に少なくなり、回答者の 41.0%は全く交流していない。

(3) JICA 同窓会との関係

a. 会員

同窓会の会員は回答者の 53.9%で、半数近くは非会員である。非会員の 79.8%が帰国研修員の同窓会の存在を知らず、非会員であることの最も大きな理由となっている。また、非会員である大きな理由の一つに同窓会オフィスが居住地域から遠いことも挙げている。

b. 同窓会に対する会員の意識

会員の同窓会に対する感情は好意的なものである。同窓会のイベントを楽しみしており、会員であることにメリットがあると考えている回答者が多い。

c.同窓会における会員の活動

会員の活動における得点は 1.54 から 2.54 で、活動の程度はそれほど活発とはいえない。しかし、比較的多い活動である会員間における研修で習得した知識・技術の普及や活用は“しばしば”“いつも”行っている回答者が 20%強おり、回答者の 78.7%が研修で習得した知識・技術の普及の活動をしており、習得した知識・技術を活用した提案については 75.9%が行っている。

会員間での研修で習得した知識・技術の交換や日本に関する情報交換もそれぞれ回答者の 73.0%、68.3%が行っているが、“たまに”“時々”の活動頻度が多く、“しばしば”“いつも”活動している回答者は 10.7%、7.1%である。また、同窓会の定例会議や日本文化の紹介行事への参加は回答者の 41.8%、34.9%で、参加していない者が多い。

(4) ネットワーキング

ネットワーキングについては、“職場/組織内での同僚”“専門分野の仲間”“地域の仲間”グループの方が“日本での研修先”“インドネシア在住の日本人”“他ドナーの研修参加者”“同じ研修に参加した他国の研修員”“ASEAN 諸国の人々”グループと比較すると多い。

活動内容はどのネットワーキング・グループにおいても“研修で習得した知識・技術の普及”の活動頻度が最も多くなっている。

ネットワーキング状況は総じて活発とはいえないが、“職場/組織内での同僚”グループでは、“研修で習得した知識・技術の普及”活動を回答者の 92.7%が行っており、“専門分野の仲間”グループでは 81.6%、“地域の仲間”グループでは 69.3%が行っている。

“新しい知識・技術についての勉強会”については“職場/組織内での同僚”グループが回答者の 61.2%、“専門分野の仲間”グループでは 54.5%、“地域の仲間”グループでは 40.8%が行っている。

“社会に貢献するためのボランティア活動”については“職場/組織内での同僚”グループでは回答者の 53.6%、“専門分野の仲間”グループでは 47.6%、“地域の仲間”グループでは 50.5%が行っている。

“日本文化の紹介イベント”については“職場/組織内での同僚”グループでは回答者の 27.7%、専門分野の仲間”グループでは 26.5%、“地域の仲間”グループでは 28.7%である。

“日本での研修先”“インドネシア在住の日本人”“他ドナーの研修参加者”“同じ研修に参加した他国の研修員”“ASEAN 諸国の人々”のグループでは、どの活動においても全く活動していない回答者が 60%から 90%近くおり、不活発な活動状況である。

(5) 日本の印象：研修時

研修員は日本人の国民性や仕事に対する態度、日本の文化に対して良い印象を持っている。

日本人の時間に対する几帳面さに最も強い印象を持ち、日本人のきれい好きであることや仕事に対する勤勉さや効率性に対しても強い印象を受けている。日本文化に対する印象は日本人の国民性や仕事への態度に対する印象に比べると若干弱まるが、観光地への旅行の印象はとても良い。さらに、日本の伝統文化や日本人家庭の訪問の経験者は良い印象を抱いている。

(6) 興味・関心のある活動

研修員の専門分野やアカデミック関連の活動に対する興味・関心が総じて高く、“専門分野”“日本への留学”“日本での研修”“日本人との共同研究”に対する興味・関心が高い。“日本人学生をインドネシアに招へい”に対する興味・関心は高いが、評価は他に比

べて若干低い。
　日本の文化に関連する活動に対する興味・関心は研修員の専門分野やアカデミック関連の活動に比べると総じて若干低いものの相対的な興味・関心の高さが認められる。その中で“日本へ旅行”への興味・関心が最も高く、“日本語学習”“日本の伝統的文化”“日本の食文化”への興味・関心が高い。日本食文化については、研修時の日本の食べ物に対する印象はあまり高くなかったが、調査時には興味・関心が高くなっている。
　ビジネス関連への興味・関心は他の活動に比べて若干低い。日本やインドネシアにおいて同じ企業やプロジェクトで日本人と一緒に働くことへの興味・関心は高いが、“日本企業の誘致”“日本人との起業”に対する興味・関心は若干低い。“日本企業との取引”に対する興味・関心は他に比べて相対的に低い。
　“アセアン諸国と地域間活動”に対する興味・関心はとても高く、“社会福祉ボランティアやNGO活動”“他ドナーが実施している活動”に対しては興味・関心は比較的高い。

(7) ネットワーキングと興味・関心のある活動との関連
　“地域の仲間”グループでのネットワーキングが多い回答者は“アカデミック関連”“日本の文化関連”“ボランティアやNGO活動”“他ドナーが実施している活動”“ビジネス関連”の活動に対する興味・関心が高い。
　“専門分野”での活動が多い回答者は“アカデミック関連”“ボランティアやNGO活動”“他ドナーが実施している活動”に対する興味・関心が高い。

(8) グループ間比較
a.居住地域別
　各州間でのネットワーキングには大きな差はみられないが、総じて中部ジャワ州におけるネットワーキングは他の州に比べて少ない。“専門分野の仲間”グループにおいては東ジャワ州の方が中部ジャワ州に比べるとネットワーキングが多く、“ASEAN諸国の人々”“他ドナーの研修参加者”グループにおいては西ジャワ州およびジャカルタ特別州の方が中部ジャワ州に比べてネットワーキングが多い。また、“インドネシア在住の日本人”グループにおいては南スラウェシ州はジャカルタ特別州よりもネットワーキングが多い。
　興味・関心のある活動については、“日本への留学”に対してバンテン州はジャカルタ特別州に比べて興味・関心が高い。“日本への旅行”に対する興味・関心はジャカルタ特別州、西ジャワ州、バンテン州はジョクジャカルタ特別州に比べ高く、バンテン州は南スラウェシ州に比べても高い。
b.年齢別
　ネットワーキングについては、30歳代の方が20歳代に比べてネットワーキング活動が多い傾向がある。“職場/組織内での同僚”“専門分野の仲間”“地域の仲間”“日本での研修先”“他ドナーの研修参加者”グループでは40歳代の方が30歳代よりも活発である。
c.同窓会会員・非会員別
総じて、どのネットワーキングにおいても同窓会会員の方が非会員に比べて活発で、“専門分野の仲間”“地域の仲間”“インドネシア在住の日本人”“同じ研修に参加した他国の研修員”“他ドナーの研修参加者”“ASEAN諸国の人々”グループにおけるネットワーキングは会員の方が多い。興味・関心のある活動に関しては、会員と非会員の活動に対する興味・関心の程度はほとんど同じであるが、“日本企業の誘致”に対する興味・関心は会員の方が高い。

(9) 交流手段・JICAへの協力
　自国の研修員との交流の場合は多く用いられている手段はE-mailやFacebookで、携

帯電話も比較的多く用いられている。また、SMS も用いられている。他国の研修員との場合は Email や Facebook が多く用いられおり、SMS や Skype も比較的多く用いられている。
なお、回答者の 98%は JICA から協力依頼があった場合には依頼に応じるとの意思を持っている。

2-2 帰国研修員に対する面談調査（フォーカスグループディカッション）の結果

目的と対象

フォーカスグループディスカッションは、質問紙調査による帰国研修員の日本に対する印象、興味・関心、ネットワーキングの現状と期待など全般的な意識把握に加え、帰国研修員の意識・関心をより掘り下げ、具体的に把握すること、帰国研修員の生の声を拾うこと、インドネシア-日本あるいは ASEAN-日本の関係強化という視点から帰国研修員の意識・期待を把握することを目的として実施された。
また都市毎のネットワーキングへの布石となることを期待して、ジャカルタ（2 セッション）、ジョグジャカルタ（2 セッション）、マカッサル、バリの 4 都市で計 6 つのグループを対象に実施した。ジャカルタ、ジョグジャカルタでは、青年研修（旧青年招へい含む）と一般技術研修の帰国研修員を分け、研修スキーム別の帰国研修員の意識の違いの把握も試みられた。参加者のセクターは教育、保健、環境から地域開発、税務などまで多岐にわたり、年齢層も 25～62 歳までと幅広い。

結果・傾向

(1) 同窓会の知名度
青年研修参加者には、KAPPIJA21 は周知されている。他方、課題別研修、国別研修等の参加者には、IKA-JICA、KAPPIJA21 の存在は周知されておらず、帰国研修員の同窓会やネットワーキングについての情報提供が絶対的に不足していることが確認された。一般技術研修参加の帰国研修員は、帰国研修員同窓会の存在、入会の仕方、帰国後自動入会で自分も会員となりうること、などの情報を知らない人が大多数であった。

(2) 同窓会の活動状況
青年招へい・青年研修参加者の同窓会である KAPPIJA21 の活動はジャカルタでは活発であり、定期集会やイベントなど自発的な活動が行われている。代表者や事務局などのイニシアティブが発揮され、運営委員会が頻繁に会合を重ねている。地方での KAPPIJA21 の活動は、津波や災害などが発生した地域では、当該地域在住の KAPPIJA21 メンバーが迅速に結束して活発に支援活動を行ったエピソードも紹介された。一方、都市によって活動状況にバラつきがあることも指摘された。現状として、National network としての KAPPIJA21 の地方への浸透の度合いは、比較的弱いと思われる。

(3) 親日の度合い・日本に対する期待
青年招へい時代に参加し、ホームステイや社会・文化交流プログラムを経験した参加者の親日度合いは非常に高い。またホストファミリーやその他日本人との交流が継続している。
一方、2007 年以降、青年研修に変わり、社会・文化交流要素が削減されてからの参加者は日本人や日本社会に対する高評価（勤勉、清潔、時間管理等）はあるものの、感情的な絆を感じるには至っておらず、それと関連して帰国後の日本人とのコミュニケーションも継続しない傾向が観察される。帰国後の日本人や受入機関との交流が継続するか

どうかは、どれだけ親密な文化交流や専門的交流を行ったかによると言える。

(4) 社会文化交流への興味・関心
　様々な社会文化体験への強い興味・関心が示されたが、活動そのものを体験するというより、むしろ日本人と一緒に体験する、日本人と社会文化活動を通じて交流する、日本人の思考や行動様式を知ることの方に意義を感じていることが観察された。帰国研修員がホームスティや地域の人々との交流が強いインパクトを持ち、鮮明な記憶を留めていることからもその意義が確認できる。

(5) 専門性を通じた関係構築・継続の希望
　一般技術研修の参加者（国家公務員)、また 2007 年以降の青年研修参加者の日本に対する期待は、彼らの職業専門性に関わる領域での情報交換・交流が多く、そのためのネットワーキングを強く希望している。またインドネシアにおける彼らの活動への資金的、技術的支援要望も多く聞かれた。またプロフェッショナルな領域への興味・関心と同時に、ASEAN 諸国との交流の後押しへの期待も強い。

(6) 地域別特性
　ジャカルタは中央省庁職員がメインであり、各省内での帰国研修員ネットワーキング組織の可能性が高く、実際に警察や財務省などの活発な事例がある。ジョグジャカルタはガジャマダ大学（UGM）を中心とした学園都市であり、学術交流推進が期待され、専門領域・研究分野と絡めた社会貢献活動への関心も高い。バリ、マカッサルは環境保全や地域開発など地域ごとの開発イシューがあり、社会貢献の基盤が備わっており、コミュニティも相互扶助の伝統があるため、地域の専門家として帰国研修員の活動が受け入れられやすく、地域コミュニティと連携が図れる。

(7) ポテンシャルと実際の行動
　在インドネシアの日本関係機関との持続的ネットワークの拡大、学術関係者は研究領域で日本人研究者との交流基盤の構築、工業省の組織的支援を受けた勉強会との連携、マカッサルなど地域の特産物を日本に紹介する小規模な地場産業支援などにおいて活動や連携のポテンシャルがある。

(8) 帰国研修員ネットワーキングにおける共通点
　IKA JICA や KAPPIJA21 など異なる同窓会の間の横のつながりの必要性、帰国研修員対象の活動への期待感、地域での帰国研修員間の活動・連携の活性化、日本人・日本組織との交流、日本企業の CSR への協力などへの期待等が強いことが共通点として確認された。

(9) 属性別による意識の違い
　青年研修と一般技術研修との間の経験・活動状況の違い、青年研修と旧青年招へい事業の内容とインパクトの違い、同窓会組織の地域でのアクセスやコミュニケーションなど違いが確認された。

2-3 日本関係機関に対する面談調査の結果

面談の目的と調査対象機関

面談調査は、①類似の同窓会組織の活動からの教訓抽出、②帰国研修員が参加・貢献する機会があると思われる社会文化振興事業や民間企業振興事業の情報収集、③対象機関と JICA 帰国研修員の連携可能性の検討・打診の 3 点を目的として、日本及びインドネシ

アに拠点を置く関連機関へのインタビューを行った。

結果・傾向

（1）類似の同窓会組織の活動からの教訓および JICA 帰国研修員との連携可能性

AOTS/HIDA 同窓会からは、HIDA の事業に同窓会が組み込まれる形で多様な活動が定期的に行われていること、同窓会がインドネシア国内で法人格を持ち、自主財源を持っていること、著名人や企業のサポーターがいること、産学官連携事業を共催していること、インドネシア-日本の間の双方向の交流があること等を参考事例として聴取した。

アジア農業青年人材育成事業の同窓会組織である IKAMAJA の事例からは、関係省庁（農業省）が政策的に同窓会組織を継続的に支援していること、元研修生が地域での技術指導を行っていること、メンバー間の自発的ネットワークがアグロビジネスに活用されていること、日本の研修受け入れ農家をインドネシアに招待して交流を続けていること、SNS の活用等コミュニケーション上の情報が工夫されていることなどが教訓として挙げられた。AOTS/HIDA 同窓会、IKAMAJA ともに機会があれば、JICA 帰国研修員とのネットワーキングに前向きであることが確認された。

帰国研修員の参画・貢献ポテンシャルの高いセクターとその現状分析

ビジネス・経済分野の動向・ニーズ

＜SME サポート＞
インドネシアに進出する日本企業（特に SME）が税制、商習慣、環境配慮等の経営上直面する課題について、現地有識者、とりわけ親日的な有識者との情報交換や助言を求める声があり、帰国研修員には日本の SME から知恵袋としての期待や寄せられており、ポテンシャルが認められる。

＜CSR 事業での連携＞
日本企業の CSR に地元の帰国研修員が参画・貢献し、地元コミュニティやキーパーソンとの橋渡しに協力し、また啓発活動やコミュニティイベントに地元の帰国研修員・同窓会員が協力・参加する形での協働もありえる。また、CSR としてのインターンシップ受入への協力可能性もある。

＜ビジネス連携＞
割合としては小さいが、帰国研修員の中には民間企業の人もおり、活発なネットワークを支えている。日本企業とのビジネス連携の可能性は十分にある。

行政分野の動向・ニーズ

横浜市は市を挙げて国際協力を推進しており、水道技術、都市・産業開発（Y-PORT）、官民連携、環境、国際都市ネットワーク構築（CITY-NET）、TICAD V 誘致など自治体主導の多角的な国際協力を展開している。また横浜市のほかに近年、国際交流・連携に積極的な自治体が増加傾向にあり、産官学連携での海外事業展開事例や国境を越えた都市間ネットワーキングが活発化している。他方、マカッサル、スラバヤなどインドネシア側自治体も日本の自治体運営を参考事例として視察し、制度の導入を検討する動きもあり、自治体間連携に対するインドネシア側のニーズの高さも確認されている。帰国研修員とのネットワーク、強みが活きる領域と考えられる。

学術・教育分野の動向・ニーズ

優秀なインドネシア人学生・研究者の発掘や紹介に協力できる帰国研修員は、東京工業大学をはじめ、留学生の受け入れを推進する多くの学術機関から期待されている。また、日本とインドネシアの架け橋となる若手人材を高校生の時から発掘し、受け入れ準備の段階、帰国後の進路、就職についても行政官の多い帰国研修員の寄与が期待される。また、日本の各関係機関が協力し、インドネシアの若者の日本留学を準備段階から卒業、そして就職までオールジャパンで支援することが効果的で、そのプロセスで帰国研修員との連携があること望まれる。

国際交流・その他分野の動向・ニーズ

日本政府は、インドネシア人への訪日観光誘致に力を入れており、日本の自治体も工場見学やテーマパークや温泉紹介などを強化し、観光客誘致に乗り出す一方、インドネシア側でも日本への観光に関心を持つ層が増えている。JNTO ジャカルタ事務所と KAPPIJA21 との連携が既に行われており、今後も観光分野での帰国研修員ネットワークとのつながりが期待される

青年育成・交流分野では、日本ユースリーダー協会、KAPPIJA21、AJAFA21 が活発に活動・連携を展開しているが、今後も継続・拡大が期待される。

学術交流では、国際交流基金がセクターや研究者・実務者を超えた専門・学術交流を実施しており、最近は災害復興、防災、宗教のテーマに積極的に取り組んでおり、JICA 帰国研修員との接点、関わりが生じている。帰国研修員が、高校に派遣される日本語パートナーズの地域でのサポーターになることが期待されている。

主な日本関連同窓会、友好会では、プルサダ、KAJI 会、JICA 帰国研修員、東南アジア青年の船の OB 会、ジェネシス、ハビビ奨学金（BPPT 奨学金制度）のネットワークなどが挙げられる。それら同窓会、友好会のプラットフォームとして拡大判オールジャパンミーティング（AJM）が期待される。「日本まつり」などの交流イベントの共催も効果的であると思われる。

2-5 帰国研修員支援に係る提言

ネットワーク

現在、地域やセクター、参加した研修毎に複数の同窓会や帰国研修員ネットワークが存在することから、それらのネットワークの関係性を捉えなおし、ピラミッド型・縦型運営から水平型・横のつながり型ネットワークの拡大・強化という新たなネットワーキング戦略が検討される時期に来ている。また、帰国研修員の同窓会およびネットワークの存在が十分に周知されていないことから、同窓会入会案内やイベント情報などの周知の強化、また IKA や KAPPIJA21 などの現在の組織やネットワークの活性化と横の連携強化、ホームページからの情報発信力向上、ソーシャルメディアの活用、インドネシア-日本双方向のネットワーキングの実現などが効果的方策として提案される。

活動

帰国研修員の専門分野、セクター、学術関係や社会貢献を中心に活動を企画・実施すること、日本の社会文化の「体験型」活動の企画、前者と後者の活動を組み合わせて実施すること、ジャカルタ首都圏中心のみならず地方での活動も立ち上げ、活性化すること、日本を交えた ASEAN の域内交流の機会を創出すること、などが活動として提案され

る。

日本関連機関との連携可能性

親日派・知日派ネットワークの強化として、HIDA/AOTS 同窓会、IKAMAJA、PERSADA、KAJI Kai などの同窓会組織との交流の機会を持ち、交流会などで協働すること、経済・ビジネス連携としては SME 支援、CSR での協力などを行うこと、インドネシア-日本間の自治体交流における連携を行うこと、日本への観光の広報や情報発信へ協力すること、農業分野や食品ビジネスにおいて連携を行うこと、セクターを特定せず、全般的に日本関連機関、日本関連イベントのサポーターとなることなどにおいて帰国研修員ネットワークのポテンシャルが非常に高い。

提言を踏まえた対応可能性のある支援

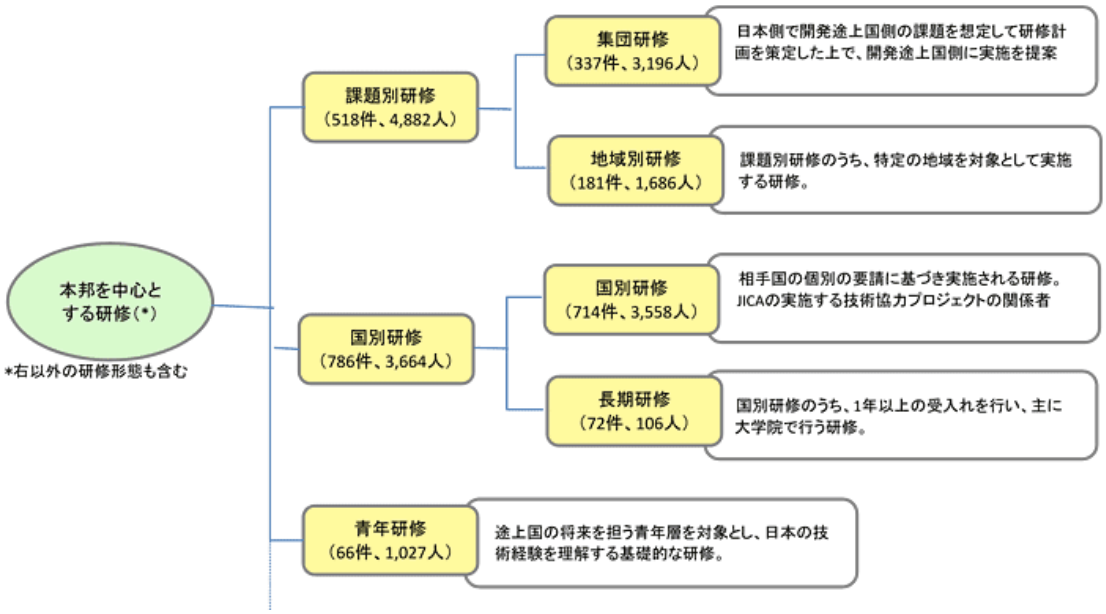
- 定期的な帰国研修員データベースアップデートのための各省庁、組織に置ける情報網の確立とフォーカルパーソンの開拓（省庁、組織ごとのデータベース整備）
- データベースアップデートの情報網でカバーされない帰国研修員の可能な限りのトレース
- 地域ごとのデータベース整備
- 帰国研修員への情報発信強化（帰国研修員へ声が届く仕組みづくり）
- 各 JICA 帰国研修員同窓会組織や地域グループのコーディネーター（世話役）との定期的調整会合（情報交換会）の開催
- 帰国研修員と日本関連機関との連携のきっかけづくり
- 帰国研修員と他の類似同窓会・同好会とのプラットフォーム構築（拡大 AJM 実現の働きかけ）
- 実施中の JICA 協力案件との有機的連携のための仕組みづくり（形成から実施、評価まで全サイクルにおいての部分的連携）
- 帰国研修員の優良活動事例共有会開催（競争的インセンティブ・表彰の導入）

第 1 部　調査の目的と実施方針

1-1 調査の背景

研修員受入事業の動向

独立行政法人国際協力機構（以下、JICA）の研修員受入事業は、その歴史、対象国数、参加した研修員数、研修の分野・バリエーションにおいて、非常に顕著な成果を上げてきた。研修員受入事業は開発途上国の人材育成支援だけでなく、開発途上国における知日派・親日派の創出（外交手段としての目的）、日本国内の国際化と地域の発展（「オールジャパン」スキームの目的）という 3 つの複合的目的のもと[1]、実施されている。現在の JICA 研修受入事業（本邦研修）の形態は下図に示すとおり、大きく「課題別研修」「国別研修」「青年研修」の 3 つの形態で実施されている。課題別研修は共通する開発課題を対象とした集団研修、特定の地域を対象とする地域別研修、国別研修は主に技術協力プロジェクト関係者を対象とする国別研修、大学院が受け入れる長期研修からそれぞれ構成されている。課題別研修、国別研修は合わせて「一般技術研修」とも総称されている。



出所：　JICA HP より抜粋

(http://www.jica.go.jp/activities/schemes/tr_japan/summary/jisseki.html)

図 1-1　JICA 研修受入事業の形態と、形態別案件数および研修員人数（2012 年実績）

2012 年の研修受入実績では、世界各国からの全体で 9,573 人を受入れており、課題別研修に 51.0%、国別研修に 38.3%（一般技術研修としては 89.3%）、青年研修に 10.7%がそれぞ

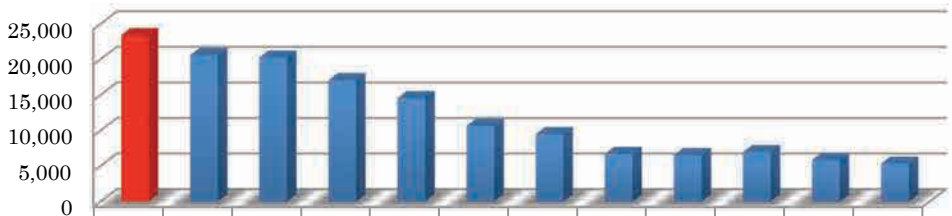
[1] 外務省（2012）『平成 23 年度外務省 ODA 評価 研修員受入事業の評価（第三者評価）報告書』：2-2～3

れ参加している。別の統計では、1974 年～2010 年までの累計で、一般技術研修参加者が全体の 80.6%、青年招へい研修および青年研修参加者が全体の 14.6%という割合となっており、JICA 研修受け入れ事業による帰国研修員は、一般技術研修参加が大多数を占めていると言える。

また、本邦研修は、第二国・第三国研修と比較して、日本の科学技術および文化などを研修員に対して直接アピールする機会となり、親日派人材創出に効果的だと評価されている[2]。

インドネシアからの研修員受入の状況

JICA 研修受入事業は 1954 年に開始し、2012 年時点までに世界 194 カ国から約 30 万人もの研修員を受け入れた実績を誇る。下図が示すとおり、インドネシアの研修員数 23,410 人（累計）は、支援対象国の中で第１位となっており、中国、タイ、フィリピン、マレーシアがその後に続く。他の先進国の研修事業と比較して、日本の研修事業は、理論と実践をバランスよく取り入れている点が研修員の間で好評であり、さらに個々のニーズに対応したアクションプラン作成という方法も評価されている[3]。また、研修事業を独立した協力事業として実施しているケースは、他の先進国には例を見ないユニークな事業である[4]とされている。



	インドネシア	中国	タイ	フィリピン	マレーシア	ベトナム	ブラジル	韓国	スリランカ	インド	メキシコ	エジプト
■人	23,410	20,605	20,267	17,070	14,548	10,659	9,477	6,692	6,520	6,945	5,841	5,341

出所：JICA 発行資料，2013：6-7 のデータをもとに作成

図 1-2　国別研修員数（1954～2012 年累計）

これまで２万人を超えるインドネシアからの研修員は、計画・行政、公共・公益事業、農林水産、エネルギー、商業・観光、人的資源、保健・医療、社会福祉など[5]多岐にわたる本邦研修コースに参加し、インドネシアの社会経済開発に寄与する多くの成果をもたらした。

---

[2] 外務省(2012)：1-7

[3] 独立行政法人国際協力機構（以下、JICA）編集・発行（2013)『mundi（機関誌)』(2013 年 12 月号 No.3)：5

[4] 外務省（2012)：1-1

[5] JICA（2010)『インドネシアにおける JICA 事業の足跡に関する情報収集・確認調査　最終報告書』：188

本邦研修のインパクト

本邦研修の有効性については、既に多くのインパクト調査で確認されているところであるが、総括すると、インドネシアからの研修員は研修を通し、日本の組織・文化を直接体験することにより、日本の技術・システムを自国で応用する際に、インドネシアと日本の社会文化的な相違点を考慮し、インドネシアに最適な方法を創出することが可能となっている[6]。また、フィールド訪問や現場における活動を通じた日本人との交流などを通じて得られた発見・感動など体験が、帰国後 10 数年を経てもなお，特別な日本での体験として生きており、それが帰国研修員間のネットワーキングや親日感情の形成につながっている[7]。

研修での交流をきっかけに、帰国後の国際連携に発展した事例も様々報告されている[8]。

- ◆ 大学との連携事例（帯広畜産大学）
- ◆ 地方自治体との連携（横浜市、JICA 横浜）
- ◆ 地域活性化・国際化への貢献（帰国後の国際交流の継続）
- ◆ 農産物の海外ビジネス展開に繋がった事例（帯広の事例）
- ◆ 官民連携（北九州市の事例）

このほか、家具の輸出入振興、アセアン域内など国際的制度構築、工業製品基準策定など、多くの事例が報告されている[9]。これらの研修成果の継続のためには、効果的なネットワーク作りと支援体制の強化が必要である。

インドネシアにおける帰国研修員ネットワークの概況

このような貢献の一部は帰国研修員同士のネットワークに支えられてきたことにも起因するものである。帰国研修員同窓会組織としては、JICA インドネシア事務所を中心とした IKA JICA Indonesia、青年研修[10]の帰国研修員の KAPPIJA21 の知名度が高いが、このほかに、財務省、国家警察など、省庁ごとに同窓会が組織されている例もある[11]。

帰国研修員の積極的な活動例としては、KAPPIJA21 は、民間セクターや NGO 出身の人材が中核となって各種活動を実施している。KAPPIJA21 は自主的に各種機関からの支援を取り付け、2014 年 2 月にジャカルタにおいて「ASEAN 加盟国の持続的都市づくりと 2015 年共同体形成へ向けた準備状況」をテーマにした代表者会議を開催した。同会議には、ASEAN 諸国および日本の 9 カ国から 60 名以上の青年研修の帰国研修員および日本のボランティア団体が参加した。このように、KAPPIJA21 は ASEAN 域内におけるネットワークの拡大・強化を行うなど、自発的な活動を促進しつつある。

また、国家警察内で組織されている Sakura 警察官帰国研修員同窓会は、約 450 人にのぼる全国に散らばっている会員の間で同窓会ホームページを通じた活発な情報共有、意見交換を行っている。これまで 3,000 におよぶ記事が会員から寄せられ、質疑応答など課題解決のための相談コーナー的な機能も果たしている[12]。また、帰国研修員による地元の交番

---

[6] JICA（2010）：195
[7] 外務省(2012)：4-21～22
[8] 以下の事例全て- 外務省(2012)：5-16～24
[9] JICA（2013)『平成 24 年度 課題別研修事後評価調査・現況調査 調査報告書』：71～77
[10] 本報告書では、青年研修の名称に統一し、断りがない限り、青年招へいと青年研修を含めた総称として使う。(青年招へい 1984 年～2006 年、青年研修 2007 年～2014 年)
[11] JICA（2010）：189
[12] 外務省(2012)：4-13

建設も行われる、など、Sakura は活発に機能している[13]。

しかし、これらの事例は依然として局所的であり、さらに効果的なネットワーク活用の余地があると期待されている。また、帰国研修員の多数を占める政府官僚は常に多忙であり、民間セクターと比較してネットワーキングへの関心が低いとされ、現状として帰国研修員の全国レベルの活動はあまり活発ではない[14]ことが指摘されている。

日本とインドネシアおよび ASEAN との関係強化

他方、我が国においては、2013年12月に閣議決定された国家安全保障戦略の中で、途上国の持続的な経済・社会発展に役立つ人材育成のより一層の推進に言及し、人材育成で培ったネットワークの維持・発展を図り、協力関係の基盤の拡大と強化を強調している。また、同戦略中、双方向の青少年交流の拡大を重視しており、そのための施策を実施し、将来にわたって各国との関係を強化していくという方針を示している[15]。また、近年インドネシアを対象に行われた各種評価調査においても、長期的視点から帰国研修員との関係強化が提言されている。日本が長年にわたり数多くの研修員を受け入れ続けてきた実績、これまで築いてきた層の厚い帰国研修員ネットワークこそが、他ドナーと比較した場合の日本の明確な比較優位であると言える[16]。

インドネシアの現政権にも帰国研修員が4人入閣している（各プロファイルは下表のとおり）。現政権より、外交的な観点及び日本企業の海外展開の観点から、帰国研修員に関する問合せが増えている[17]という。

Box 1：
ジョコ・ウィドド大統領の勤労内閣入閣の JICA 帰国研修員（2015 年 1 月現在）

2014 年 10 月 26 日に発足したインドネシアの新内閣に次の JICA 帰国研修員が入閣した。

１．内務大臣（Ministry of Home Affairs）
　Mr. Tjahjo Kumolo
　研修コース：青年招へい「インドネシア学生グループ」
　研修コース実施年度：1984 年
　所管国内機関：関東支部
　実施協力団体：(財) 世界青少年交流協会
　地方協力団体：ASEAN 青年交流歓迎委員会（三島）
２．財務大臣　(Ministry of Finance)
　Prof. Dr. Bambang Brodjonegoro
　研修コース名：①国別研修　「知識経営」
　　②国別（有償）研修「インドネシア・セミナー2009」
　研修コース実施年度：①2008 年、②2009 年

[13] JICA (2010)：195
[14] 外務省(2012)：4-12
[15] 「国家安全保障戦略（2013 年 12 月閣議決定)」：29-30
[16] 外務省（2012)：4-23～24
[17] JICA インドネシア事務所（2014 年 10 月 31 日情報提供）

所管国内機関：①JICA 東京、②国内事業部
３．環境林業大臣（Ministry of Environment and Forestry）
Dr. Ir. Siti Nurbaya Bakar
研修コース：カウンターパート研修「日本の地方自治における人材育成」
研修コース実施年度：2002 年
所管国内機関：JICA 東京
４．土地空間計画大臣　(Ministry of Agrarian and Spatial Planning)
Mr. Ferry Musyidan Baldan
研修コース：国別研修「インドネシア地方分権政策研修」
研修コース実施年度：2003 年
所管国内機関：JICA 東京

出所：JICA インドネシア事務所（2014 年 10 月 31 日）

さらに、帰国研修員を含むインドネシアの著名人らは、これからの研修事業のあり方として下表のような真摯な提言を行っており[18]、今後の JICA 研修事業の展開にも大きな期待を寄せていることが分かる。

Box 2：インドネシア著名人の JICA 研修事業に対する提言

- ◆ インドネシアを含む ASEAN 諸国の日本にとっての重要性を考えた場合、これまでの蓄積を生かし、新たな研修事業を創造すべきではないか。
- ◆ 世界的なインパクトを考慮した三角協力を検討すべきと考える。
- ◆ 研修事業をインドネシアや ASEAN、世界レベルの外交にも活用すべきである。
- ◆ 青年同士の交流の経験は精神的インパクトが強く、長期にわたって持続するポテンシャルを活用すべきと考える。

出所：外務省（2012）：4-20-21

このように、日本にとっての重要なアセットである帰国研修員との交流・連携の必要性が今後ますます増していくことが予想される。

意識調査の指向性

かかる状況に応じ、本調査において、帰国研修員支援を検討する基礎情報となる帰国研修員の意識にかかる情報収集を行う。これは、単に帰国研修員の JICA あるいは ODA 事業に関連した活動に対する興味・関心等を把握するだけでなく、日本全体に対する社会・文化的側面に対する帰国研修員の興味・関心等も含み、帰国研修員活動への動機づけとなる因子を総合的に収集・分析することを意図するものである。

外務省が実施した ASEAN 諸国対象の対日世論調査では、日本への関心としては、ASEAN 全般では「科学技術」「生活・考え方」「食文化」[19]が挙げられ、インドネシア人は「科学

[18] 外務省（2012）：4-20～21
[19] 外務省（2014）『ASEAN７カ国における対日世論調査』：9

技術」「食文化」「コミックやアニメ」[20]が上位であった。今後日本との協力強化すべき分野としては、「科学技術」「貿易投資」「地球環境問題」「エネルギー」を選択している[21]。「日本が信頼出来る国である」という回答が最も多かったのもインドネシアであり[22]、ASEAN の中で最も親日派の多い国と言える。また、JICA 調査では、研修後のフォローアップ支援として「プロジェクト実施の支援」「講習会や研修実施計画の支援」「資材・教材の供与」「日本人技術専門家の派遣」という要望が確認された。本調査では、このような先行調査の結果を踏まえつつ、インドネシアの帰国研修員に特化した現在の意識を確認するための調査デザインを採用する。また、本調査において、日本側・インドネシア側双方での明確な帰国研修員ネットワークの活用ニーズを把握すること、未来指向の調査結果の抽出を狙い、回答者の独創性、有効性の高いアイディアを収集する工夫を織り込むこと、若手世代にも魅力的な日本側関係機関とのネットワーキングや類似日本友好組織との連携などを分析することに重点をおく。さらに、調査の具体的成果として、日・イ関係の活性化に影響力を持つ人材、関係機関で活用可能なリソース・パーソンや青年層のリーダーなどを抽出し、リスト化も試行する。

1-2　調査の目的

本調査は、インドネシアにおける JICA 帰国研修員の意識・関心・ニーズについて多角的に把握し、帰国研修員ネットワーク活用の方策の検討、JICA 帰国研修員、JICA および他の日本関連機関との有効な連携のメカニズム構築のため、基礎情報を収集・分析することを目的として実施された。

1-3　実施期間

本調査は、2014 年 9 月から 2015 年 2 月まで、約 5 か月にわたって実施された。その間に 2 回の現地調査が実施された。

1-4　調査の対象者、対象機関、対象地域

本調査はインドネシアの JICA 帰国研修員、インドネシア（主にジャカルタ）に拠点を置く日本関連機関、日本（主に東京首都圏）に拠点を置く関連機関を対象として実施された。各サブ調査の対象者・対象機関・実施地域は次のとおりである。

（１）インドネシアの帰国研修員

質問紙調査
帰国研修員約 1,700 人対象 Web アンケートおよび電子メールによるアンケート調査

[20] 外務省（2014）：22
[21] 外務省（2014）：11
[22] 外務省（2014）：20

フォーカス・グループ・インタビュー
帰国研修員 6 グループ対象（各グループ 10 名程度を目安） ジャカルタ、ジョグジャカルタ、マカッサル、バリの 4 地域にて実施

注記１：帰国研修員は、課題別・国別・青年・長期研修など全てのタイプの研修参加者が対象。

注記２：帰国研修員情報は JICA インドネシア事務所より提供。

（２）インドネシアに拠点を置く日本関連機関

在ジャカルタ日本関連機関
日本大使館、国際交流基金、日本商工会議所／ジャカルタ・ジャパン・クラブ、海外産業人材育成協会（HIDA）ジャカルタ事務所、日本政府観光局（JNTO）、アジア農業青年人材育成研修同窓会（IKAMAJA）、日本貿易振興機構（JETRO）ジャカルタ事務所、JICA インドネシア事務所、住友林業ジャカルタ事務所

注記 3：JICA インドネシア事務所と調査チームとともに対象機関を選定。

（３）日本に拠点を置く関連機関

日本に拠点を置く関連機関
JICA 本部、経済産業省、農林水産省、横浜市、東京工業大学、日本ユースリーダー協会、在東京インドネシア大使館、日本貿易振興機構（JETRO）、海外産業人材育成協会（HIDA）

注記 4：JICA インドネシア事務所と調査チームとともに対象機関を選定。

1-5　調査の枠組み、実施方法

本調査は、帰国研修員に対する質問紙調査、帰国研修員対象のフォーカスグループディカッション、ジャカルタおよび関東拠点の日本関連機関を対象とした面談調査の３つのサブ調査で構成される。

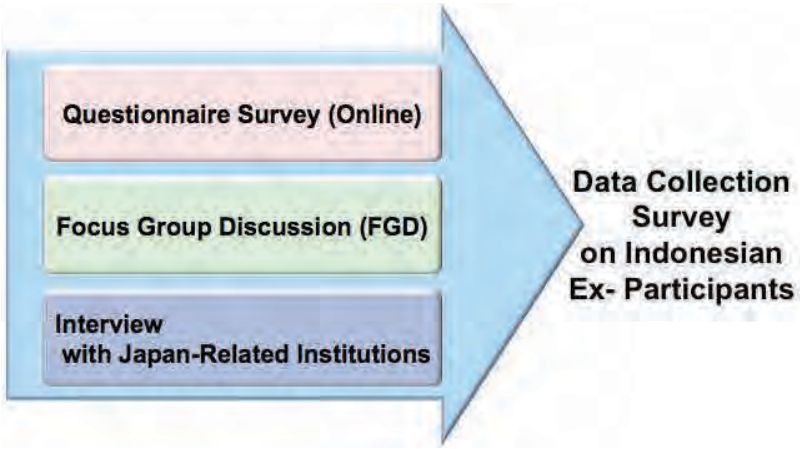


図 1-3 調査の枠組み

質問紙調査では、帰国研修員の日本における JICA 研修プログラムおよび日本全般に対する印象、JICA 研修のインパクト、研修成果の活用、研修から派生した活動形成・実施状況、日本人や帰国研修員間のつながり、JICA 同窓会の認識、参加状況、日本に対する興味・関心、JICA との継続的つながりに対する意欲などについての確認を行うことを目的とし、Web アンケート調査を実施し、結果について定量的分析を行った。

フォーカスグループディスカッションでは、質問紙調査の関連事項をより掘り下げ、帰国研修員の日本に関係する興味・関心などや状況を議論することから、より具体的な意識やニーズ、ネットワークの現状の把握を目的とし、調査チームがディスカッションのファシリテーターとなり、各地域のグループの議論をサポートする形での調査を行った。

日本関連機関に対する面談調査では、帰国研修員との交流・連携や貢献の可能性のある分野開拓も意図し、類似の同窓会組織の活動からの教訓抽出、帰国研修員が参加可能な社会文化振興事業や民間企業振興事業についての情報収集、対象機関と JICA 帰国研修員の連携可能性の検討を目的とし、調査チームが各機関を訪問し、面談調査を行った。

本調査の作業フローは下図のとおりである。国内作業において調査設計、質問紙調査票確定、対日本関連機関の質問事項確定を行い、第 1 回現地調査において質問紙調査（Web アンケート調査）を開始し、フォーカスグループディスカッションを開催し、日本関連機関の面談調査を実施した。第 2 回現地調査においてそれまでにとりまとめた調査結果の報告を行い、セミナー参加者や関係者からのインプットを最終報告書に反映させた。

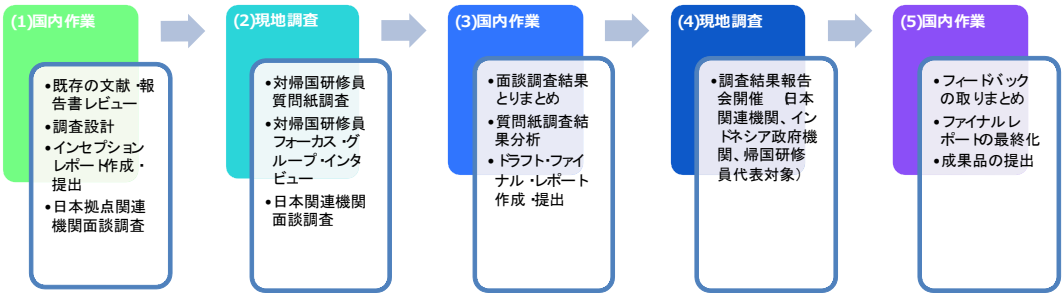


図 1-4 調査フロー

1-6　調査の手順

帰国研修員に対する質問紙調査、帰国研修員対象のフォーカスグループディカッション、ジャカルタおよび関東拠点の日本関連機関を対象とした面談調査は次の時期に実施された。

表 1-1　各調査の実施時期

	調査種別	実施時期
1	帰国研修員対象質問紙調査	2014 年 11 月 6 日～12 月 24 日
2	帰国研修員対象 フォーカスグループディスカッション	2014 年 11 月 6 日～11 月 15 日
3	日本関連機関対象面談調査	2014 年 10 月 17 日～11 月 20 日

各調査の手順は次に示すとおりである。

1-6.1　帰国研修員対象質問紙調査

帰国研修員質問紙調査は、国別/集団研修、課題別研修、青年研修、長期研修など全ての研修スキームの参加者を対象とした。 質問紙調査の対象者数は約 1,700 人であり、全て JICA インドネシア事務所が管理するデータベースに登録されている帰国研修員である。回答の回収率については全体の 30%を目標とした。

質問紙調査票の構成は下表に示すとおりである。

質問紙調査票のフレーム	
1)　参加した JICA 研修の情報	8)　帰国後のネットワーキング
2)　JICA 研修の印象	9)　日本に対する興味・関心
3)　研修受講後の行動変容	10)　日本に関する情報へのアクセス
4)　研修後の日本人・日本の組織とのつながり	11)　帰国後の研修成果の活用状況
5)　日本の印象	12)　帰国研修員のプロファイル
6)　帰国研修員間のコンタクト	13)　JICA との連携への協力意思
7)　JICA 同窓会への参加状況	

回答者の意識の程度をより具体的に把握するため、質問項目の多くは 5 段階評価となっている。頻度を尋ねる場合は、「1（全くない）、2（たまに）、3（時々）、4（しばしば）、5（いつも）」のスケールとし、「6（今はしていない）」を付加している。程度を尋ねる場合は、「1（全く同意しない）、2（あまり同意しない）、3（どちらとも言えない）、4（いくらか同意する）、5（非常に同意する）」のスケールとしている。詳細な内容については、添付資料 1 質問紙調査票を参照されたい。

質問紙調査は、Web アンケート（オンライン・アンケート）および電子メールによって実施された。本アンケート業務は現地再委託により現地調査会社（LP3ES）が実施した。

質問紙調査実施の際の戦略および留意点
• 回答者にとって簡便に記入、返信できるように考慮し、質問紙調査をオンライン・パネル方式とし、オンライン・パネルを好まない回答者のためにエクセル記入・返信式も選択できるようにする。 • 質問紙調査の依頼メール送付の際に JICA インドネシア事務所所長の調査への協力依頼状を添付する。 • 質問紙調査実施において、個人情報保護の対策・周知を徹底する。 • 1 週間経過しても返信のない人に、4・5 日間隔でリマインダー・メールを 2 回以上送る。また、メールでのリマインダーだけでなはく、電話、

携帯電話メッセージが効果があるとされていることから、1 回目のメールでのリマインダーとともに電話でのリマインダーも行う。
- 今後の帰国研修員の同窓会の活性化や効果的活動の企画において影響力のあると見られる帰国研修員の発掘を行う。

オンラインの Web アンケートによる質問紙調査の実施においては、帰国研修員のデータベースの扱い、帰国研修員とのメール送受信、Web アンケートの回答など全プロセスにおいて個人情報保護、漏洩回避のための徹底した対策が講じられた。

1-6.2　帰国研修員対象フォーカスグループディスカッション

フォーカスグループディスカッションは、ジャカルタ（2 セッション）、ジョグジャカルタ（2 セッション）、マカッサル、バリに在住の帰国研修員を対象に実施された。ジャカルタ、ジョグジャカルタでは、青年研修（旧青年招へいを含む）と一般技術研修の帰国研修員を分け、計 4 都市 6 グループを対象として行われた。

参加者の選定は、JICA インドネシア事務所が選定をした各都市のフォーカルパーソンから各地域の帰国研修員に参加を募る形で行われた。各グループに 10 名参加を目安とし、セクター、世代、ジェンダー、研修スキームなど可能な限り多様で偏りのないよう配慮がなされた。各フォーカスグループディスカッションの参加スキーム別、実施日、参加人数などは下表に示すとおりである。2014 年 11 月上中旬に集中的に実施された。

表 1-2　フォーカスグループディスカッション実施日

No.	地域	研修スキーム	実施日	参加者数
1	ジャカルタ 2	青年研修	2014 年 11 月 6 日	9
2	マカッサル	全研修	2014 年 11 月 10 日	10
3	バリ	全研修	2014 年 11 月 11 日	7
4	ジャカルタ 1	一般技術研修（MOI）	2014 年 11 月 12 日	4
5	ジョグジャカルタ 1	一般技術研修	2014 年 11 月 15 日	9
6	ジョグジャカルタ 2	青年研修	2014 年 11 月 15 日	4

フォーカスグループディスカッションの設問
1)　日本での研修中に文化交流・社会観察の機会の有無、その感想
2)　参加した研修について非常に優れている点、改善点
3)　同窓会の活動の参加しやすさ、効果的活動の事例、今後の希望
4)　今後のイ・日関係の発展への自分の貢献
5)　アジアおよび世界の中の日本に期待すること
6)　他国ドナー等が組織する帰国研修員活動に対する興味・関心及び過去の経験

1-6.3　日本関連機関対象面談調査

日本関連機関対象の面談調査は、日本（関東首都圏）及びインドネシア（ジャカルタ）に拠点を置く関連機関を対象とし、日本の省庁、外交、自治体、学術、ユース親善、産業・ビジネス、インドネシア関連、などの分野/分類においてインドネシアの帰国研修員との交流や連携の潜在的可能性が見込める、あるいは類似ネットワーキングの参考例の情報収集が期待される日本拠点の 9 機関、ジャカルタ拠点の 10 機関を対象に実施された。面談調査の各対象機関および面談実施日を下表に示す。

表 1-3　関東拠点の日本関連機関と面談調査実施日

No.	分類	機関名	実施日
1	省庁	経済産業省	2014 年 10 月 22 日
2	省庁	農林水産省	2014 年 10 月 28 日
3	自治体	横浜市	2014 年 11 月 18 日
4	学術	東京工業大学	2014 年 10 月 17 日
5	インドネシア関連機関	在東京インドネシア大使館	2014 年 10 月 30 日
6	国際友好親善協会	日本ユースリーダー協会 (DAY)	2014 年 10 月 31 日
7	産業・技術	海外産業人材育成協会(HIDA)	2014 年 11 月 6 日
8	産業・ビジネス	日本貿易振興機構（JETRO）	2014 年 11 月 7 日
9	国際協力	JICA 国内事業部	2014 年 11 月 6 日

表 1-4　ジャカルタ拠点の日本関連機関と面談調査実施日

No.	分類	機関名	実施日
1	外交	日本大使館	2014 年 11 月 3 日
2	学術・文化交流	国際交流基金	2014 年 11 月 6 日
3	産業・ビジネス	海外産業人材育成協会(HIDA) ジャカルタ事務所	2014 年 11 月 10 日
4	産業・ビジネス	Jakarta Japan Club（JJC)/ Japan Chamber of Commerce	2014 年 11 月 4 日
5	産業・ビジネス	日本貿易振興機構（JETRO）ジャカルタ事務所	2014 年 11 月 30 日
6	観光	日本政府観光局(JNTO)ジャカルタ事務所	2014 年 11 月 18 日
7	農業・技術	インドネシア農業省（アジア農業青年人材育成事業インドネシア同窓会 IKAMAJA）	2014 年 11 月 11 日
8	ビジネス	住友林業	2014 年 11 月 17 日
9	ビジネス・JICA	SME Support Team/ JICA Indonesia Office	2014 年 11 月 17 日
10	JICA 同窓会	前 IKA JICA 代表	2014 年 11 月 20 日

面談調査は、調査チームが直接対象機関を訪問し、下記の質問項目にそって面談を行った。より詳細な質問事項については、添付資料 2 日本関連機関に関する調査項目を参照されたい。

日本関連機関対象面談調査の質問項目
1)　インドネシアやアセアンに対する意識・関心
2)　類似の帰国研修員/留学生ネットワークや同窓会組織の有無、活動の情報
3)　過去、現在に実施している海外研修員／帰国研修員／帰国留学生との交流事業、社会文化振興事業、民間企業振興事業など、それらの事業への JICA 研修事業の帰国研修員の参加機会／参加可能性、連携可能性
4)　帰国研修員／留学生の交流に対するニーズ把握（専門分野、社会文化的分野、日本のイベント、定期的交流活動など）
5)　インドネシアの帰国研修員ネットワークや同窓会が果たす役割への期待
6)　ASEAN などの域内の取り組みの有無、活動内容
7)　調査対象機関と類似分野の他ドナー等が組織する帰国研修員活動の動向、過去の事例
8)　JICA の研修事業や帰国研修員ネットワークの有効活用に対する具体的アイディア・提案

1-7　調査の実施体制

本調査チームの構成は、表 1-5 に示すとおりである。調査チームは、JICA インドネシア事務所、JICA 本部、インドネシア政府等との密な調整・連携を図りつつ、調査業務の遂行にあたる。また、本調査のチーム体制を図 1-5 に示す。

表 1-5　本調査の実施体制

担当名	氏　名
総括／意識調査	高澤　直美（IDCJ）
意識調査補助 1	松浦　由佳子（IDCJ 補強（IDS））
意識調査補助 2／アンケート調査	菊田　怜子（IDCJ 補強（JICE））
意識調査補助 3	山田　祐美子（IDCJ）

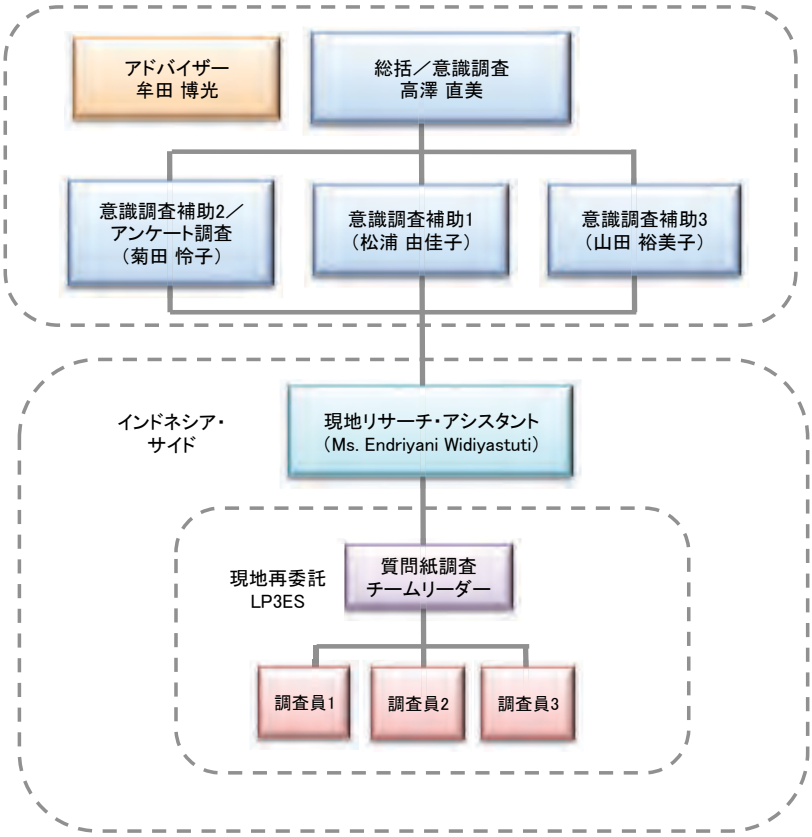


図 1-5　本調査の実施体制

第 2 部　調査結果と分析

2-1 帰国研修員に対する質問紙調査

2-1.1　分析の視点

帰国研修員が JICA 研修で習得した知識･技術を活用してインドネシアで様々な活動を行っているが、日本とインドネシア間の関係をより活性化するために活用的なネットワークの構築が求められる。質問紙調査では帰国研修員が JICA の研修によって得た日本の印象や帰国後の日本に対する興味・関心、および彼等が現在行っているネットワーキングを把握することを目的としており、ネットワーキングと日本に対する興味・関心との関連性から活用的なネットワーク構築の可能性を探る。

ネットワーキングに関する質問項目は、交流・活動頻度からネットワーキングの活用状況を明らかにするために次の 4 つの大項目を設定する。

a. 研修先機関および研修中に知り合った日本人との交流
b. 帰国後の研修員同士の交流
c. JICA 同窓会における活動
d. ネットワーキングのグループおよび活動内容

また、帰国研修員の興味・関心に関する質問については、次の 2 つ大項目を設定し、帰国研修員の興味・関心の程度を明らかにする。

a. 研修時の日本に対する印象
b. 専門分野、学術、ビジネス、日本文化などに対する帰国研修員の興味・関心

これら分析の流れを図 2-1 に示す。

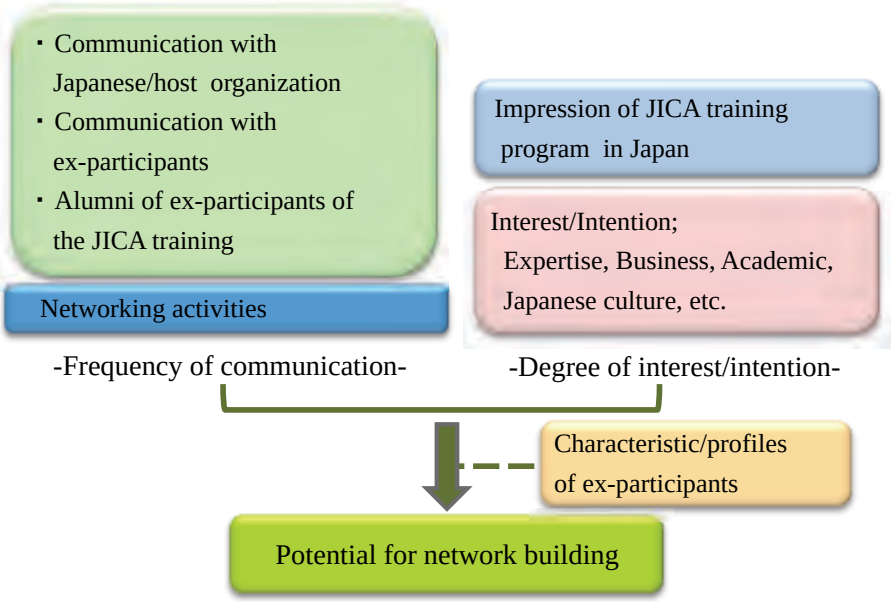


図 2-1　分析の流れ

質問項目の多くは5段階評価となっている。頻度を尋ねる場合は、「1（全くない）、2（たまに）、3（時々）、4（しばしば）、5（いつも）」のスケールとし、“6（今はしていない）”を付加する。程度を尋ねる場合は、「1（全く同意しない）、2（あまり同意しない）、3（どちらとも言えない）、4（いくらか同意する）、5（非常に同意する）」のスケールとする。

なお、統計分析における計算には、回答6を除外した評価1から5までの値を用いる。

2-1.2　回答者の属性

分析対象数は、インドネシア34州に居住する帰国研修員からの質問票への回答536である。回答数はジャカルタ特別州が153（28.5%）で最も多く、西ジャワ州が133（24.8%）で、全回答中の半数以上を占める（図2-2）。ついで多い地域はバンテン州42（7.8%）、南スラウェシ州31（5.8%）、中部ジャワ州および西ジャワ州25人（4.7%）、ジョクジャカルタ特別州22人（4.1%）となっている。

回答者の年齢を5歳ごとのグループ別にして、回答者の年齢グループの割合を示したのが図2-3である。回答者の年齢は24歳から65歳で、平均39歳である。35歳から39歳までの回答者は156人で最も多く、全体の29.1%を占める。次いで多いのは30歳から34歳までの131人で24.4%を占めている。

性別については、男性が349人（65.1%）、女性が185人（34.5%）、不明が2人である。

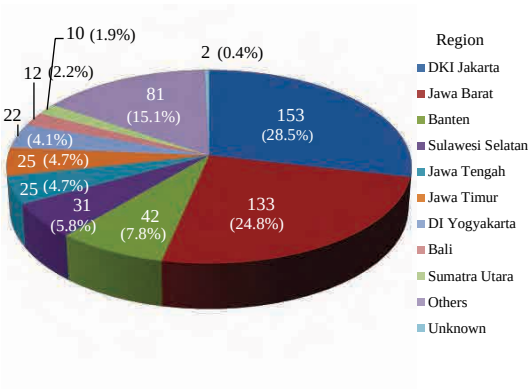


図2-2　回答者の居住地域

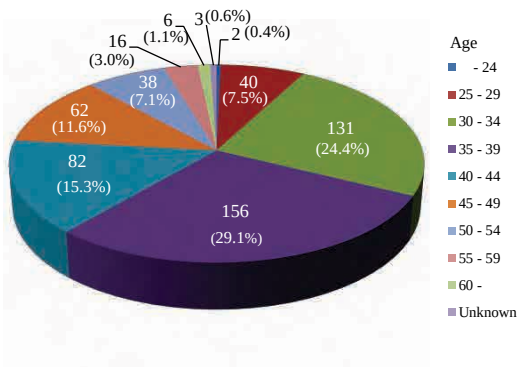


図2-3　回答者の年齢

2-1.3　研修時に知り合った日本人・研修先との交流

図2-4は研修時に知り合った日本人あるいは研修先との帰国後の交流についての各項目の平均得点（回答6は除く）を、また、図2-5は各評価点における回答者数および全体に占める割合を示したものである。

研修時に知り合った日本人・研修先との交流についての平均得点は1.94から2.75であり、総じて交流維持の程度は低く、交流は“たまに”あるいは“時々”行っている程度である（図2-4）。その中で、友人との“日本に関する情報の入手のため”とする交流は他のどの交流に比べても得点が高く有意差がみられ（$p<0.01$）、回答者の26.0%が“しばしば”

“いつも”交流している（図 2-5）。回答者の 14.0%は全く交流していないが、82.8%は交流を維持している。次いで得点が高いのは“日本との繋がりのため”“仕事上のアドバイスのため”で“しばしば”“いつも”交流している回答者はそれぞれ 18.3%、16.5%で、67.9%、68.1%の回答者が交流を維持している。

しかし、研修先との交流に関する“仕事上のアドバイスのため”“合同プロジェクト”の交流頻度の程度については友人との“日本に関する情報の入手のため”“日本との繋がりのため”“仕事上のアドバイスのため”の交流に比べて得点が有意に低く（$p<0.01$）、“しばしば”“いつも”交流している回答者は 14.4%、12.0%と少なくなる。また、37.6%、46.6%の回答者は全く交流していない。さらに、“日本に旅行する時のため”の交流については“しばしば”“いつも”交流している回答者が 14.2%いるが、全く交流していない回答者が 51.9%と多い。

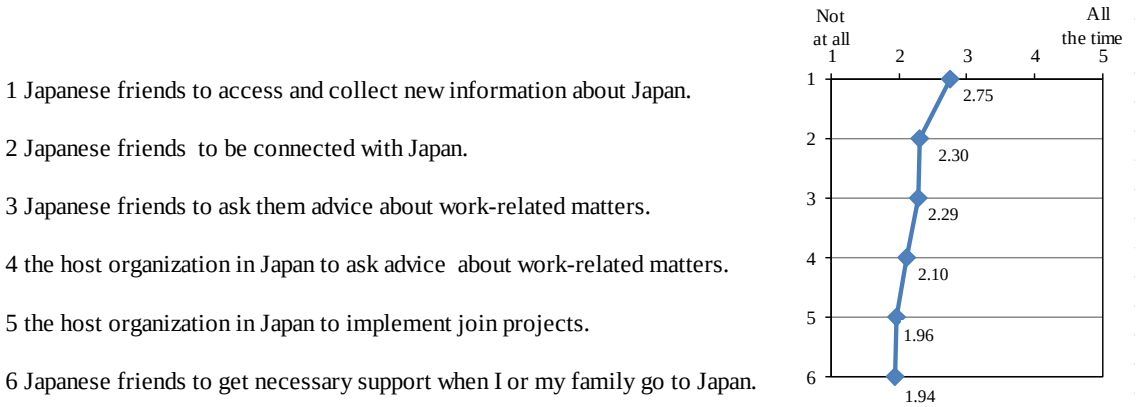


図 2-4　帰国後の交流：平均

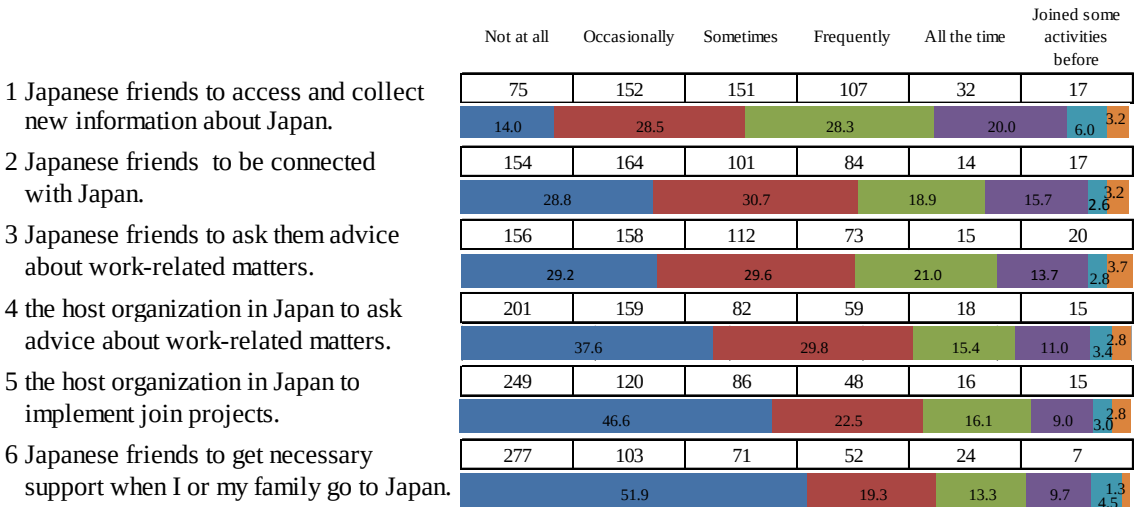


図 2-5　帰国後の交流：頻度

このように帰国研修員が研修中に知り合った日本人や研修先と交流している頻度が少ないが、“日本人の方が連絡してこない”、あるいは帰国研修員の方が“忙しい”ことが交流していない理由として多い（表 2-1）。

表 2-1　交流していない理由

Question items	Yes	No
1 My Japanese friends stopped contacting me.	243	291
2 I became too busy to keep contact with my Japanese friends.	182	350
3 I lost interest in Japan.	1	532
4 I prioritize relations with other countries more than Japan.	11	522

2-1.4　同じ研修に参加した研修員との交流

同じ研修の参加者との研修後の交流に関しては、同国の帰国研修員との交流については得点が 3.15 で、回答者の 37.1%が“しばしば”“いつも”交流している。全く交流していない回答者は 5.8%で、90.1%の回答者が帰国研修員同士の交流を維持している（図 2-6）。一方、同じ研修に参加した他国の研修員との交流については得点が 2.02 で、同国の研修員との交流に比べると交流頻度は少なく有意差がみられる（$p<0.01$）。また、回答者の 11%は他国の研修員と“しばしば”“いつも”交流しており、56.1%が交流を維持しているが、41.5%は全く交流していない（図 2-6）。

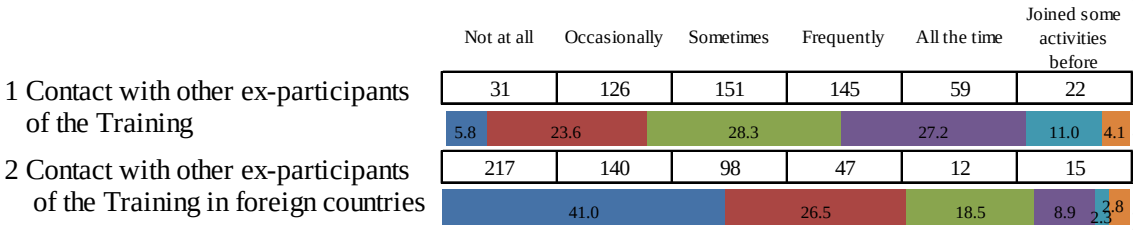


図 2-6　同じ研修に参加した研修員との交流

2-1.5　JICA 同窓会との関係

（１）JICA 同窓会会員

JICA の研修に参加した帰国研修員の同窓会の会員であるかを尋ねたところ、回答者 534 名の中の 283 名が会員であると回答している。つまり、回答者中 53.9%は会員であるが、47.0%が非会員である。

非会員である理由として最も多いのは“同窓会の存在を知らない”と言うことで、非会員の回答者の中の 79.8%が帰国研修員の同窓会があることを知らない。また“同窓会オフィスが居住地域から遠い”ことも非会員である大きな理由の一つとして挙げられている（表 2-2）。

表 2-2　同窓会の非会員である理由

Question items	Yes	No
1 I thought that there is no alumni organization.	198	50
2 The alumni office is located in far distance area from my area.	144	102
3 I have less interest in the alumni activity.	27	221
4 The atmosphere of the alumni is unsuitable for me.	15	232
5 There are few advantages for me to join the alumni.	16	232

（２）同窓会に対する会員の意識

同窓会に対する会員の意識に関する項目の得点は 3.72 から 4.02 であるから、同窓会への感情は総じて好ましいものであると捉えることができる（図 2-7）。その中で“同窓会のイベントを楽しみにしている”に対する得点は 4.02 と高く、回答者の 86.4%が“楽しみ”“とても楽しみ”にしている。また、“会員であることにメリットがある”に対する得点も 4.02 と高く、回答者の 81.6%が同窓会会員であることを“メリットがある”“とてもメリットがある”と捉えている（図 2-8）。

“同窓会よるイベントは有意義である”や“同窓会の雰囲気が自分にあっている”に対する得点は比較的高いが、“同窓会のイベントを楽しみにしている”に比べると評価は低く、有意差がみられる（$p<0.01$）。

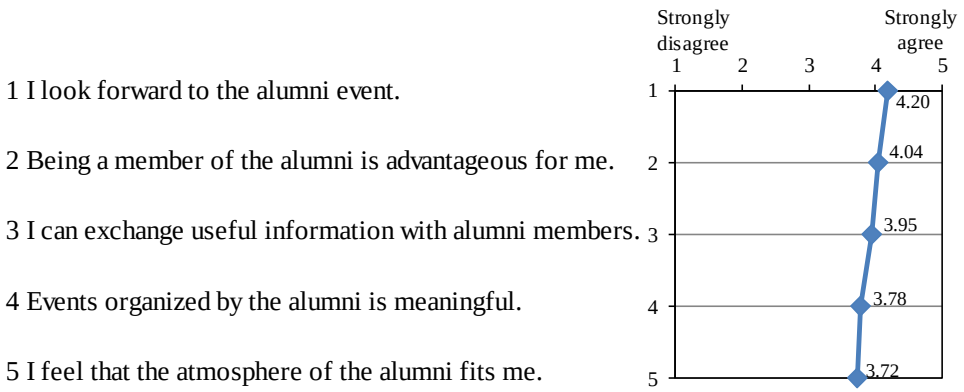


図 2-7　同窓会に対する意識：平均

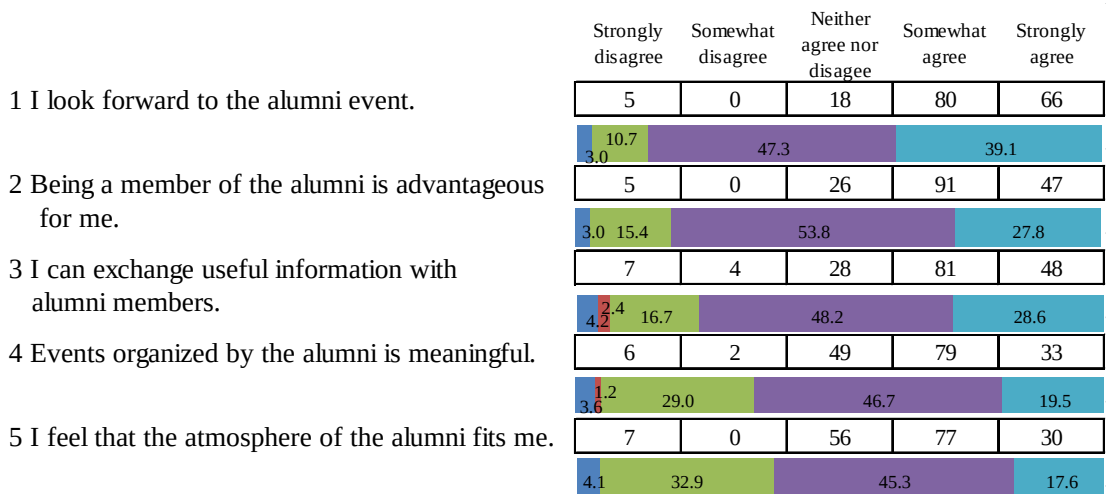


図 2-8　同窓会に対する意識：頻度

（３）同窓会における会員の活動

同窓会における会員の活動は得点が 1.54 から 2.54 であり、総じて活動はそれほど活発ではないことが考えられる（図 2-9）。活動の中で比較的活発なのは会員間における研修で習得した知識･技術に基づいた普及や活用活動である。“研修で習得した知識･技術の普及”や“知識・技術を活用した活動の提案”に関しては得点が 2.54、2.51 で他の 5 項目に比べて高く、有意差がみられる（$p<0.01$）。“研修で習得した知識・技術の普及”の活動では回答者の 19.9%が全く活動していないが、78.7%は活動しており、“しばしば”“いつも”活動している回答者は 22.1%である（図 2-10）。“知識・技術を活用した活動の提案”の活動については、回答者の 22.8%が全く活動していないが、75.9%は活動しており、“しばしば”“いつも”活動している回答者が 22.5%いる。

会員間での“研修で習得した知識・技術の交換”や“日本に関する情報交換”については回答者の 25.3%、29.5%が全く知識・技術交換や情報交換をしていないが、それぞれ 73.0%､68.3%は交換している。しかし､“しばしば”“いつも”行っている回答者は 11.0%、7.1%と少なくなる。

“日本での経験を基づいたボランティア活動”は“しばしば”“いつも”行っている回答者が 10.7%いるが、39.6%の回答者は全くしていない。さらに、“同窓会の定例会議”や“日本文化の紹介イベント”への参加については活動に参加していない会員が多く、回答者中の 54.3%、62.1%が全く参加していない。

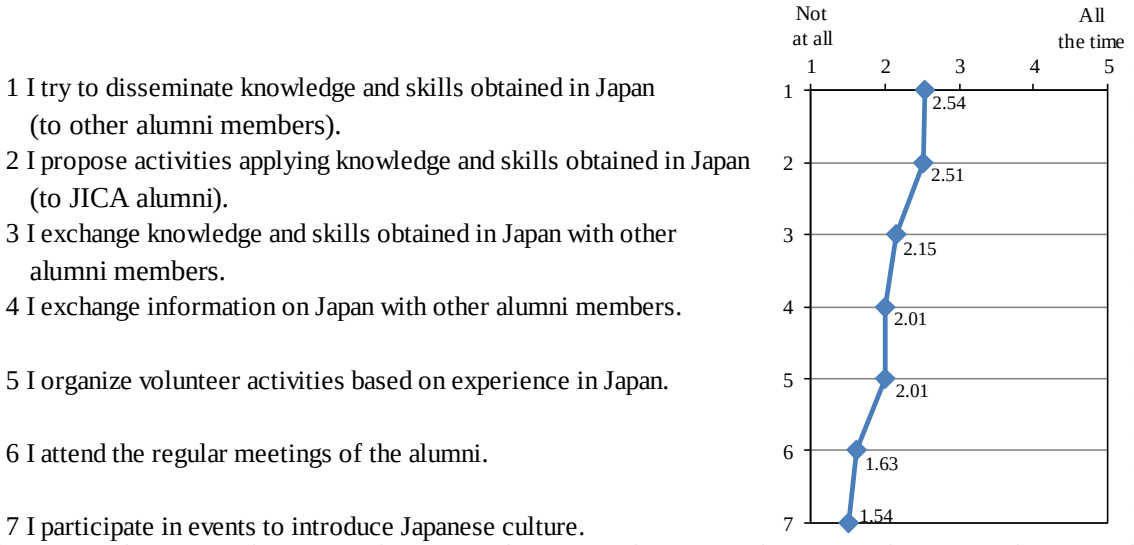


図 2-9　同窓会における活動：平均

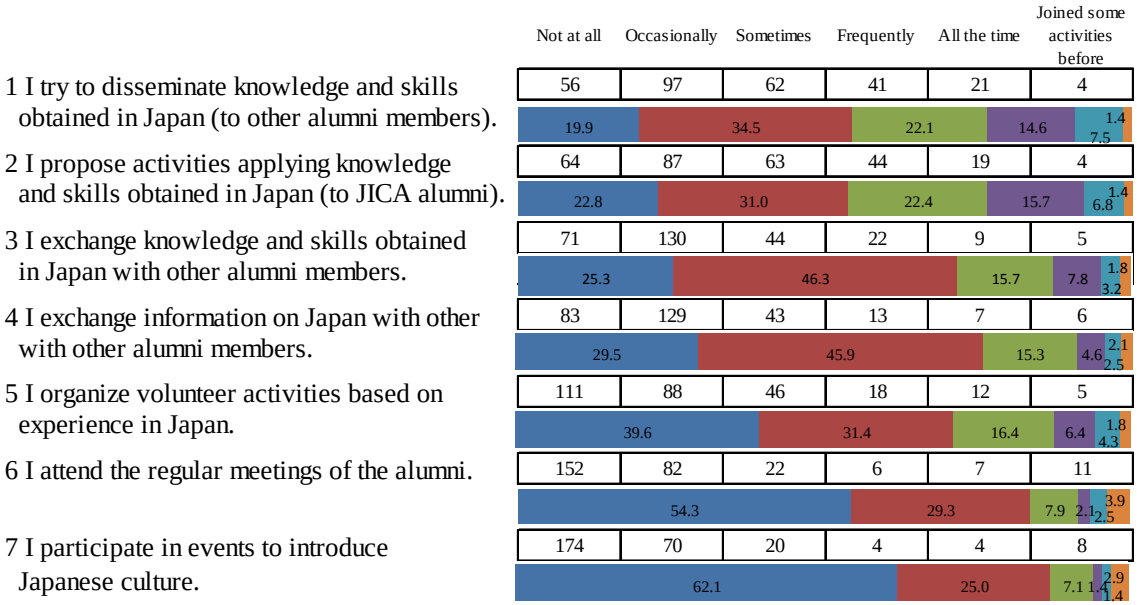


図 2-10　同窓会における活動：頻度

2-1.6　ネットワーキング

ネットワーキングについては、“職場/組織内での同僚”“専門分野の仲間”“地域の仲間”“同じ研修に参加した他国の研修員”“ASEAN 諸国の人々”“日本での研修先”“他ドナーの研修参加者”“インドネシア在住の日本人”の各グループにおけるネットワーキングの頻度、また活動内容として“研修で習得した知識・技術の普及”“新しい知識・技術についての勉強会”“日本文化の紹介イベント”“社会に貢献するためのボランティア活動”について尋ねた。

図2-11には各ネットワーキングにおける4つの活動内容の頻度の合計を平均した値を示してある。また、図2-12には各ネットワーキングを活動内容別に、図2-13aから図2-13hには各ネットワーキングの頻度を示してある。

図 2-11　ネットワーキング・グループ別の平均頻度

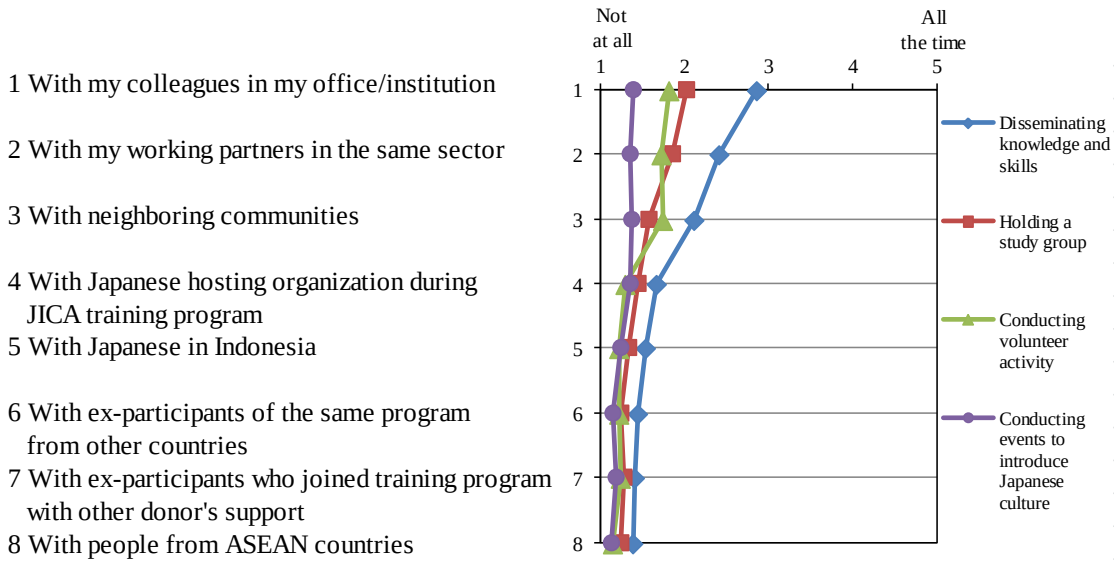


図 2-12　ネットワーキングにおける活動内容

図2-11から明らかなように、各ネットワーキング・グループの得点は1.23から2.02であることから、回答者の帰国後のネットワーキングはあまり活発ではないことが考えられる。ネットワーキング・グループにおける活動頻度を比較すると、“職場/組織内での同

僚”グループでの活動が最も多く、他のグループと比較すると有意差がみられる(p<0.01)。また、“専門分野の仲間”“地域の仲間”グループにおける活動は“日本での研修先”“インドネシア在住の日本人”“他ドナーの研修参加者”“同じ研修に参加した他国の研修員”“ASEAN 諸国の人々”に比べて多く、有意差がみられる（p<0.01)。

各ネットワーキング・グループの活動内容と頻度の関係をみると、いずれのグループにおいても“研修で習得した知識・技術の普及”の活動頻度が最も多く、他の 3 つの活動と比べると有意差がみられる（p<0.01)。次いで“新しい知識・技術についての勉強会”の活動、“社会に貢献するためのボランティア活動”の順に活動は少なくなり、“日本文化の紹介イベント”が最も少ない傾向がみられる（図 2-12)。

総じてネットワーキングの状況は活発とはいえないが、“職場/組織内での同僚”グループでは、“研修で習得した知識・技術の普及”活動を回答者の 92.7%が行っており、25.8%は“しばしば”“いつも”の頻度で活動している（図 2-13a)。“新しい知識・技術についての勉強会”においては活動状況が低くなり、61.2%が活動しており、9.7%が“しばしば”“いつも”活動しているが、回答者の 37.3%は全く活動してない。“社会に貢献するためのボランティア活動”においては、回答者の 53.6%が活動しており、6.5%が“しばしば”“いつも”活動しているが、回答者の 45.2%は全く活動していない。さらに、“日本文化の紹介イベント”においては全く活動していない回答者が 70.9%と多くなり、活動している回答者は 27.7%で、“しばしば”“いつも”活動している回答者は 1.9%である。

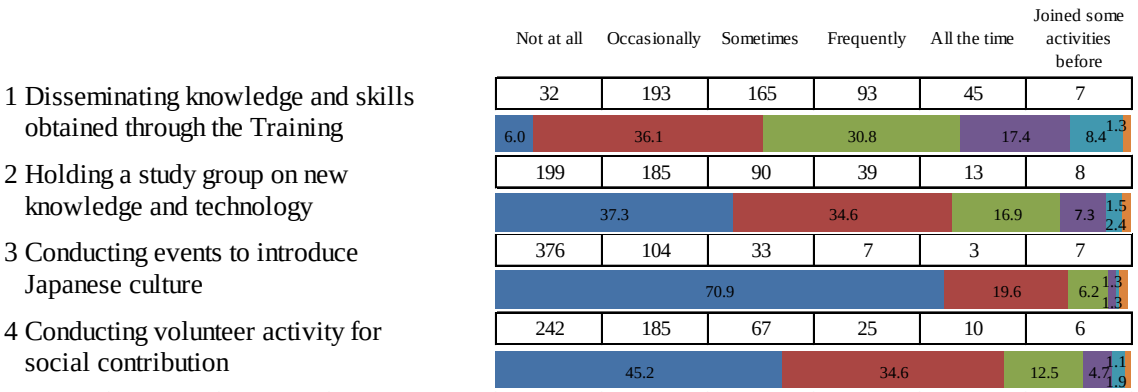


図 2-13a　ネットワーキング頻度：職場/組織内での同僚

“専門分野の仲間”グループでは、“研修で習得した知識・技術の普及”活動を回答者の 81.6%がしており、15.9%が“しばしば”“いつも”活動している（図 2-13b）。“新しい知識・技術についての勉強会”においては回答者の 54.5%が活動をしているが、“しばしば”“いつも”活動している回答者は 7.1%で、44.7%は全く活動していない。“社会に貢献するためのボランティア活動”においては、回答者の 51.4%が全く活動していない。活動している回答者は 47.6%で、“しばしば”“いつも”活動しているのは 5.8%である。“日本文化の紹介イベント”においては全く活動していない回答者が 72.2%と多くなり、26.5%の回答者が活動している。“しばしば”“いつも”活動している回答者は 1.9%である。

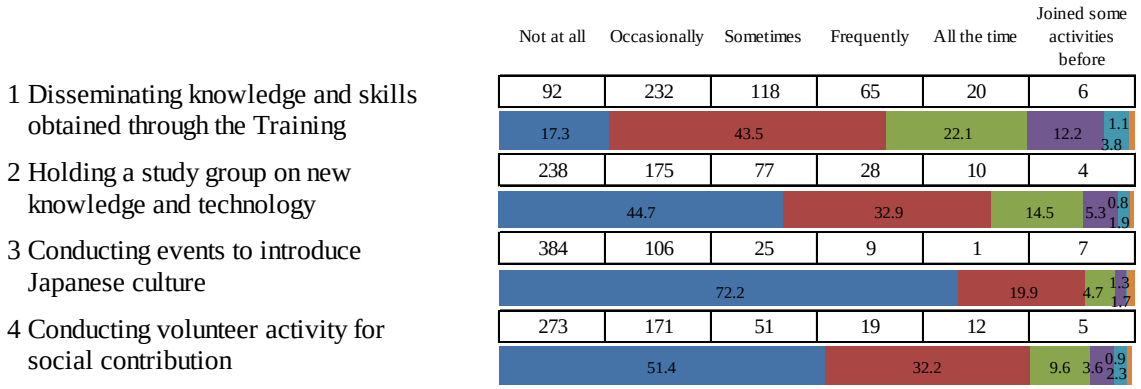


図 2-13b　ネットワーキングの頻度：専門分野の仲間

“地域の仲間”グループでは、“研修で習得した知識・技術の普及”の活動を回答者の69.3%がしており、11.0%が“しばしば”“いつも”活動している（図 2-13c）。全く活動してない回答者は 30.3%である。“新しい知識・技術についての勉強会”においては回答者の 58.3%が全く活動していない。活動している回答者は 40.8%で、3.4%が“しばしば”“いつも”活動している。“社会に貢献するためのボランティア活動”においては、回答者の 50.5%が活動しており、7.0%が“しばしば”“いつも”活動している。全く活動してない回答者は 48.6%である。“日本文化の紹介イベント”においては全く活動していない回答者が 70.0%と多くなり、活動している回答者は 28.7%である。“しばしば”“いつも”活動している回答者は 2.3%である。

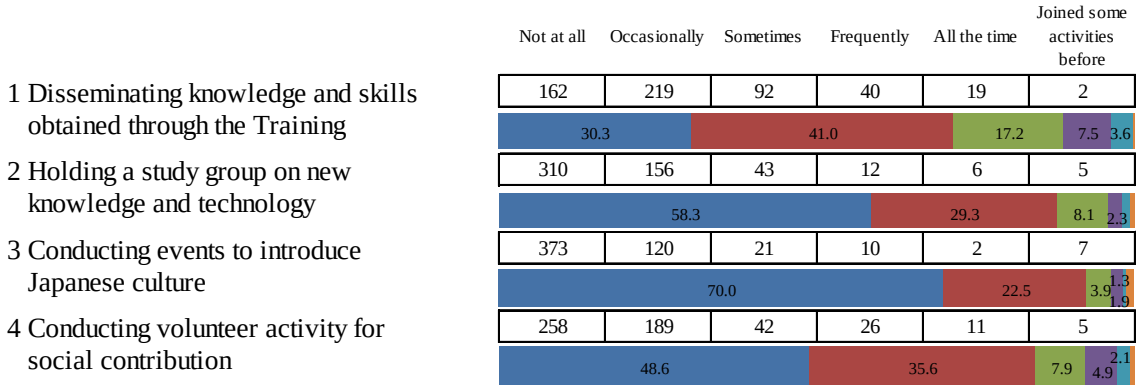


図 2-13c　ネットワーキングの頻度：地域の仲間

“日本での研修先”“インドネシア在住の日本人”“他ドナーの研修参加者”“同じ研修に参加した他国の研修員”“ASEAN 諸国の人々”については、いずれの活動内容においても活動していない回答者が多く、不活発な活動状況にある。

“研修で習得した知識・技術の普及”については“日本での研修先”グループの 54.4%の回答者が全く活動していないが、43.3%は活動している。しかし、他の 4 グループでは全く活動していない回答者が 63.7%から 70.5%いる（図 2-13d～2-13h）。“新しい知識・技術についての勉強会”では 67.4%から 81.0%の回答者が全く活動しておらず、“日本文

化の紹介イベント”では 74.3%から 88.7%、“社会に貢献するためのボランティア活動”では 76.9%から 88.6%の回答者が全く活動していない。

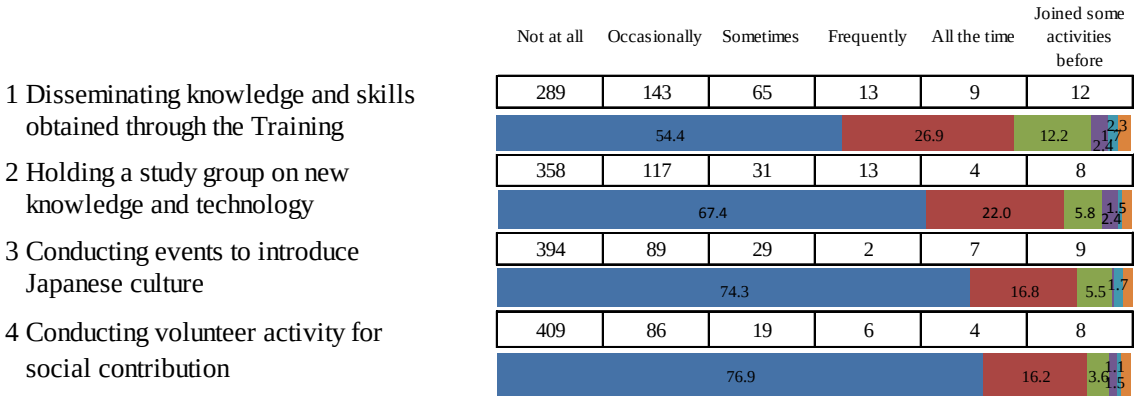


図 2-13d　ネットワーキング頻度：日本での研修先

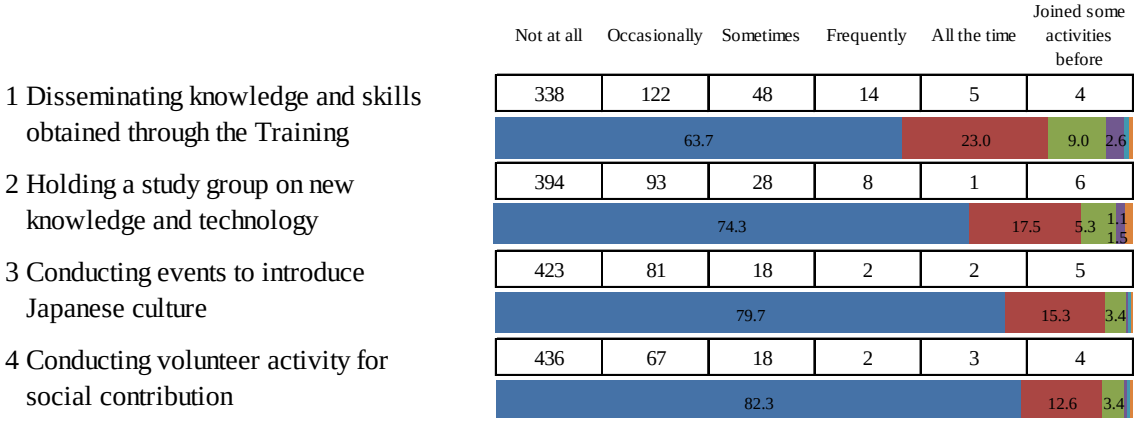


図 2-13e　ネットワーキング頻度：インドネシア在住の日本人

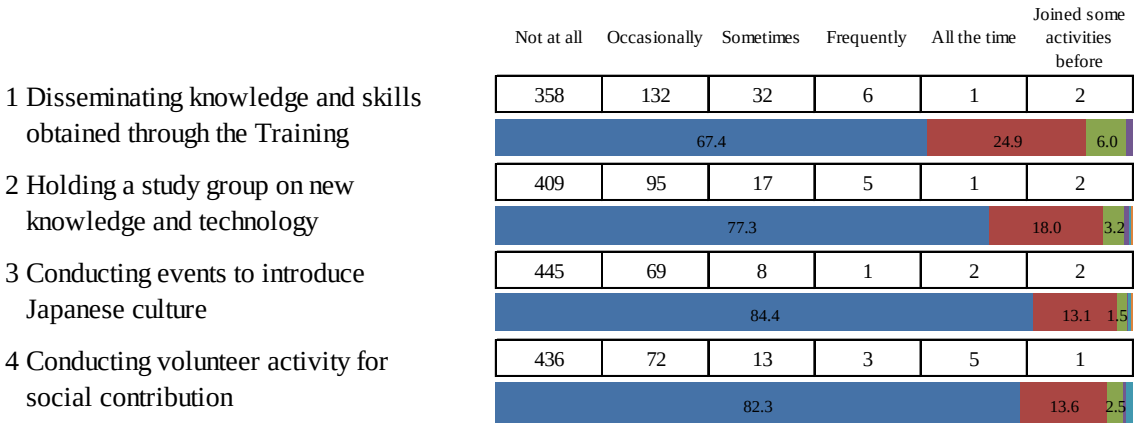


図 2-13f　ネットワーキングの頻度：他ドナーの研修参加者

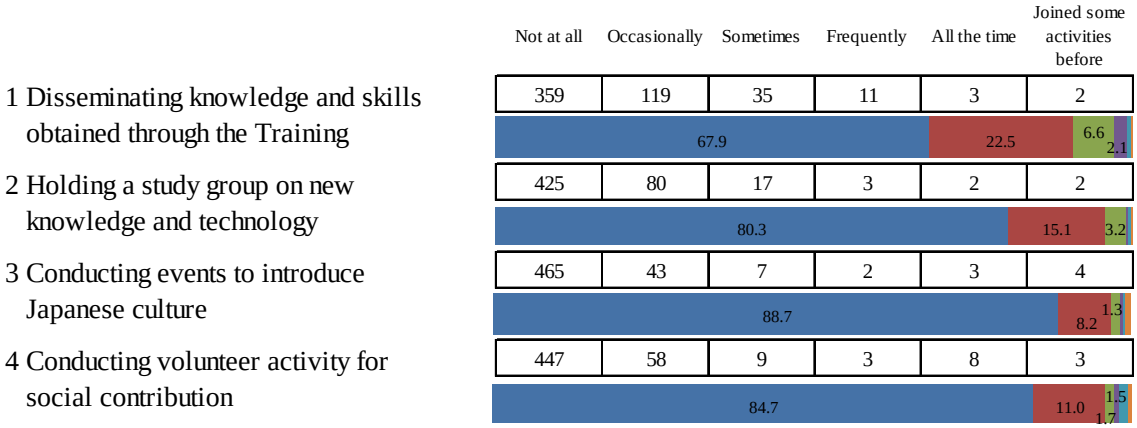


図 2-13g　ネットワーキングの頻度：同じ研修に参加した他国の研修員

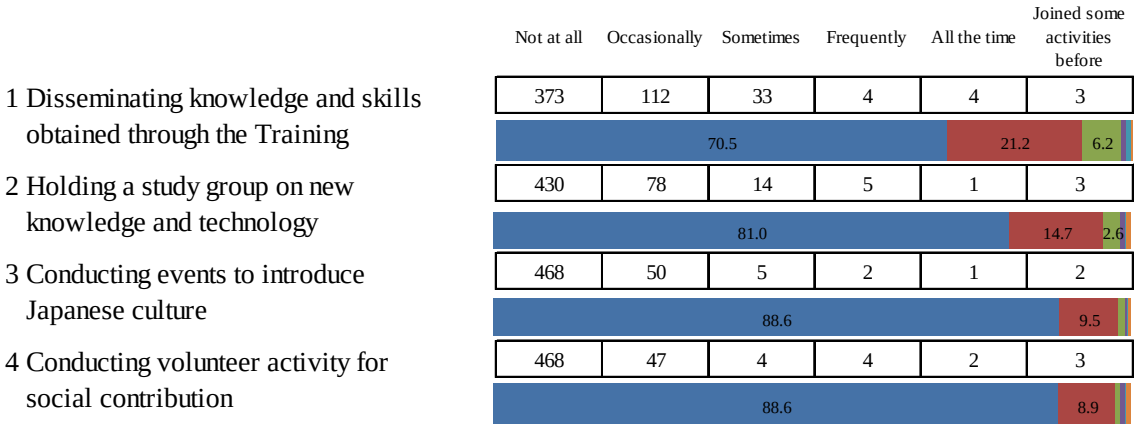


図 2-13h　ネットワーキングの頻度：ASEAN 諸国の人々

2-1.7　日本の印象：研修時

JICA の研修に参加したことにより日本に対してどのような印象を持ったか尋ねたところ、9 項目中 8 項目の得点が 4 点台であることから日本に対して非常に良い印象を抱いていると捉えることができる（図 2-14）。

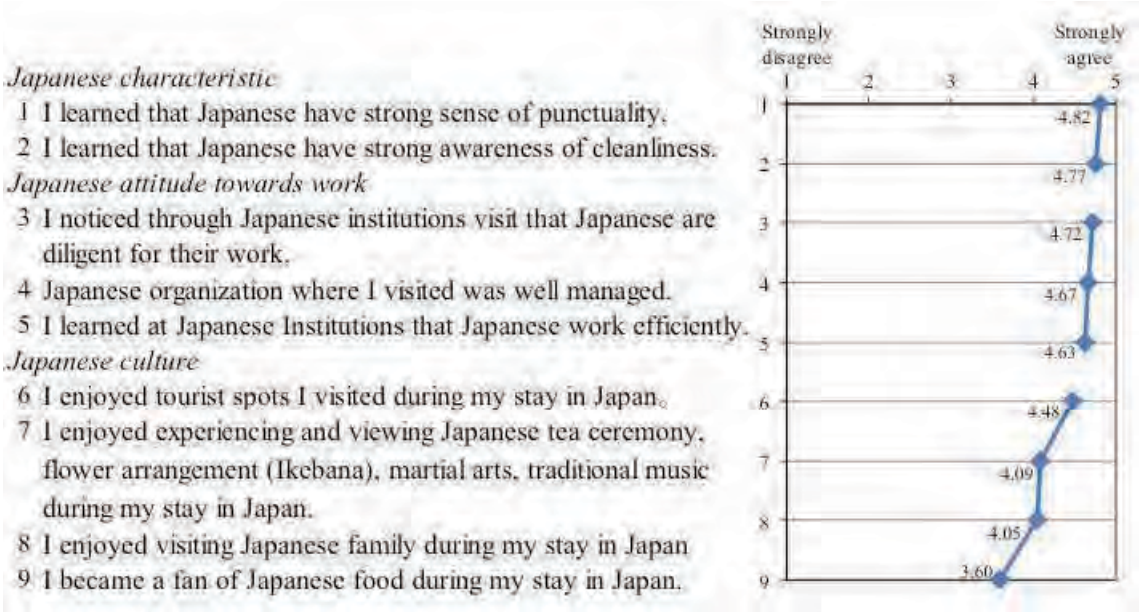


図 2-14　日本の印象：研修時

その中でも“日本人の国民性”や“日本人の仕事に対する態度”についての印象は強く、回答者の 83.4%が“日本人の時間に対する几帳面さ”、78.7%が“日本人のきれい好き”、また 73.8%が“仕事に対する勤勉さ”、64.4%が“仕事に対する効率性”、69.3%が“日本企業の組織管理”に強く印象づけられている(図 2-15)。“日本人の時間に対する几帳面さ”に対する印象は、“日本人の仕事に対する態度”および“日本の文化”における各項目に比べて強く、有意差がみられる（p<0.01)。

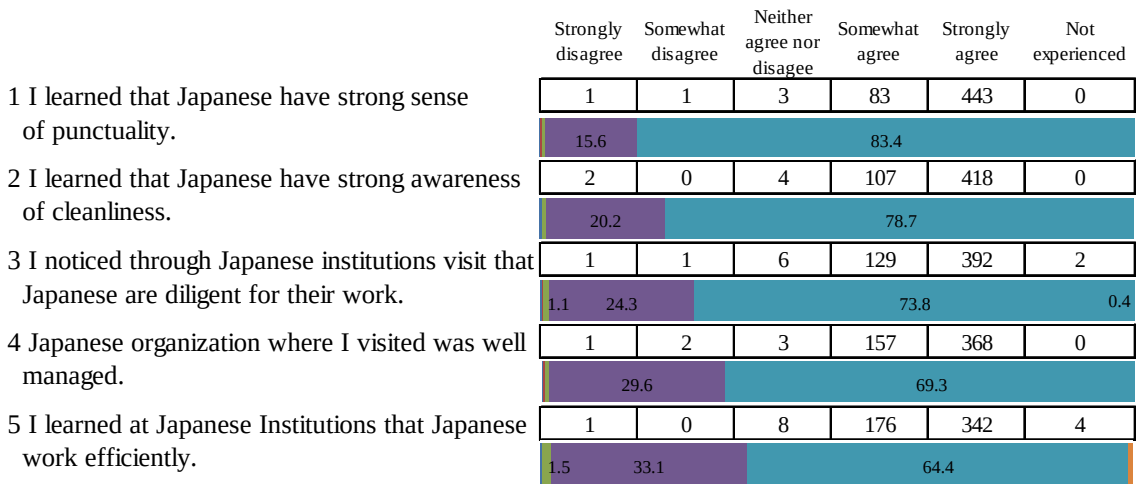


図 2-15　日本の印象：日本人の国民性/日本人の仕事に対する態度

“日本の文化”に対する印象の得点は“日本人の国民性”や“日本人の仕事の態度”についての印象に比べて低く、有意差がみられる（p<0.01)。しかし、“日本での旅行”は回答者の半数以上が“とても楽しんで”おり、回答者の 92.1%が日本での旅行を“楽しんで”いる(図 2-16)。“茶道などの日本の伝統文化”“日本人家庭を訪問”については“とても楽

しんだ”“楽しんだ”回答者は 54.6%、42.6%であるが、経験していない者が多い。そこで、“茶道などの日本の伝統文化”の経験者（全回答者中の 68.2%）、“日本人家庭を訪問”の経験者（全回答者中の 54.8%）についてみると、“とても楽しんだ”“楽しんだ”者がそれぞれ 80.1%、77.7%になる。“日本の食べ物”については 9 項目中得点が最も低く、有意差がみられる（p<0.01）。回答者の 52.9%は日本の食べ物を“とても好きになった”“好きになった”と回答しているが、“どちらともいえない”とする回答者が 33.7%と多い。

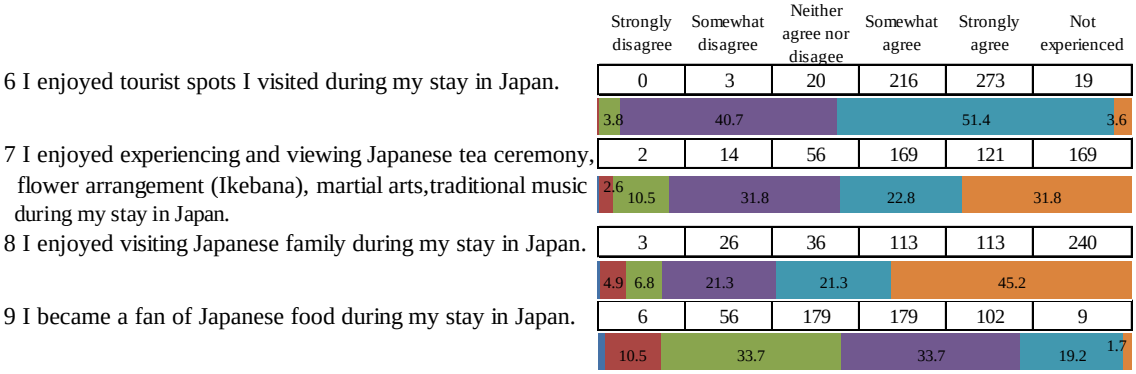


図 2-16　日本の印象：日本の文化

2-1.8　興味・関心のある活動

日本とインドネシアとの関係の観点から、現在どのような活動に対して興味・関心あるか、あるいはそれらの活動に関わりたいかを、帰国研修員の専門分野、ビジネス関連、アカデミック関連、日本の文化関連などの活動に関して尋ねた。

いずれの活動も 3.51 から 4.40 の得点であり、18 活動中 11 は得点が 4 点台である(図 2-17)。この図から明らかなように、専門分野、アカデミック関連さらに ASEAN 地域での活動に対して極めて高い興味・関心を示している（図中 A、C)。また、日本文化、ビジネス関連の活動に対しても高い興味・関心を示している（図中 B)。

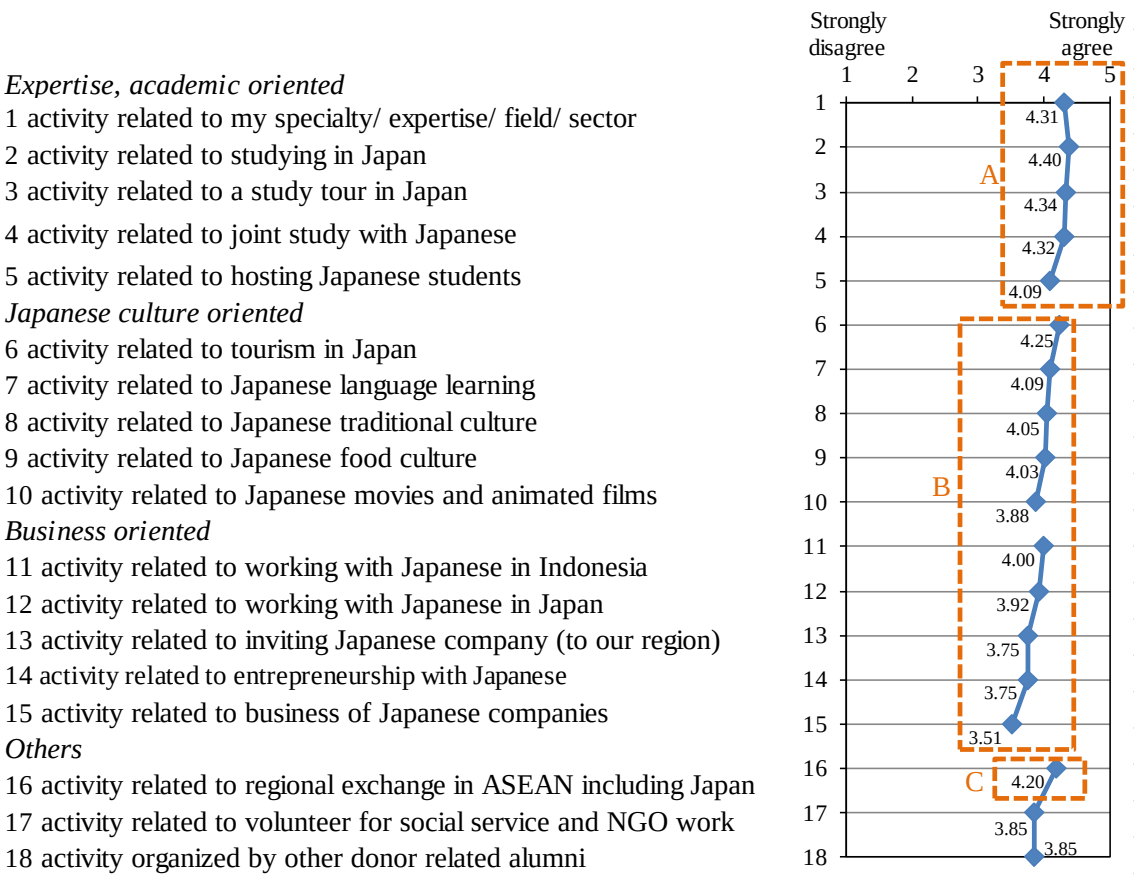


図 2-17　興味・関心のある活動：平均

（1）専門分野・アカデミック関連活動

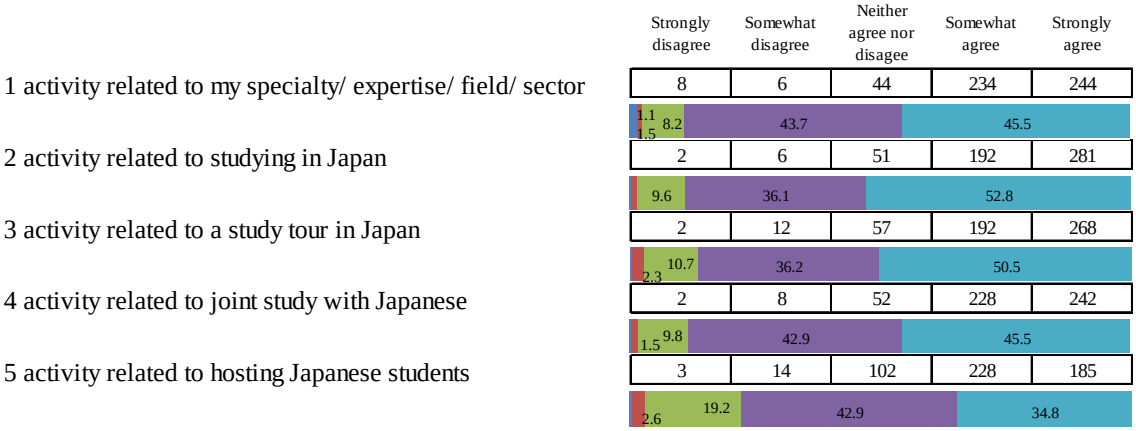


図 2-18　興味・関心：専門分野・アカデミック関連活動

その中で、研修員の専門分野、アカデミック関連の活動については他に比べて得点が高く、知識の習得・活用などに対する興味・関心が高い（図 2-17）。“日本への留学”“日本での研究”においては回答者の半数以上が“とても興味・関心を持っており”、“とても興

味・関心がある”“興味・関心がある”回答者は 88.9%、86.7%を占めている(図 2-18)。また、“日本人との共同研究”については“とても興味・関心がある”“興味・関心がある”回答者は全体の 88.4%を占めている。

（２） 日本の文化関連活動

次いで、興味・関心の高い活動は日本文化に関連する活動で、“日本への旅行”“日本語学習”“日本の伝統的文化”“日本の食文化”における得点はいずれも 4 点以上で、これらの活動への興味・関心が高いと考えられる。その中で、“日本への旅行”の得点は 4.25 と高く、“とても興味・関心がある”回答者は 41.6%である（図 2-19)。“日本の食文化”については、研修時には日本食に対して回答者の半数が好きであると評価しているが（図 2-16)、調査時には得点は 4.03 と高く、回答者の 78.4%が興味を示している。帰国後に日本食への興味・関心が高まったと考えられる。日本の映画・アニメについては日本の文化に関連する活動の中で最も得点が低いものの、回答者の 1/4 程が“とても興味・関心を持って”おり、“とても興味・関心がある”“興味・関心がある”が回答者の 70.5%を占めている。

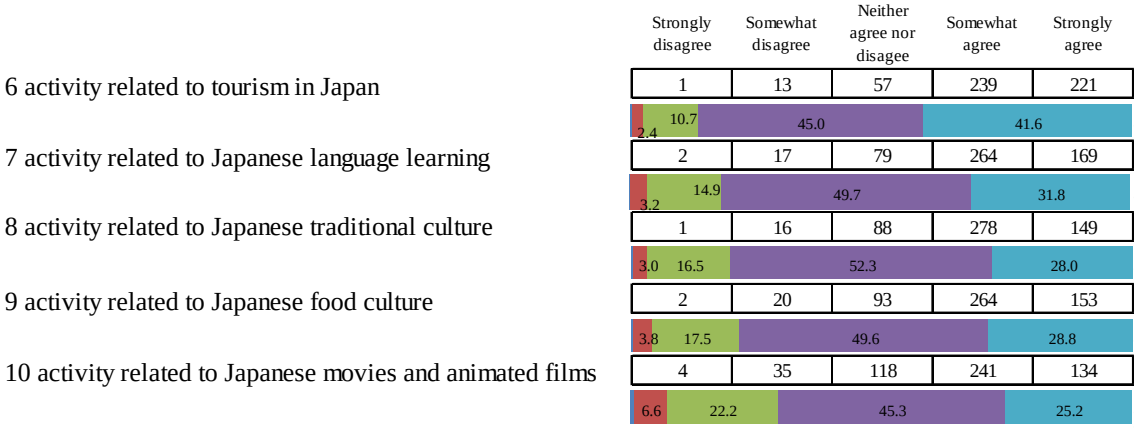


図 2-19　興味・関心：日本の文化関連活動

（３） ビジネス関連活動

ビジネス関連では、インドネシアあるいは日本において日本人と働くことについての得点が 4.00、3.92 であり、“とても興味・関心がある”“興味・関心がある”のが回答者のそれぞれ 77.5%、72.2%であることから（図 2-20)、日本人と働くことへの興味・関心が高いと捉えることができる。“日本企業の誘致”“日本人との起業”についての得点はともに 3.75 で、“とても興味・関心がある”“興味・関心がある”が 62.1%、63.2%であることからこれらに比較的興味・関心があると考えられる。しかし、“日本企業との取引”は 3.51 と最も低く、“とても興味・関心がある”“興味・関心がある”のは回答者の 51.3%である。

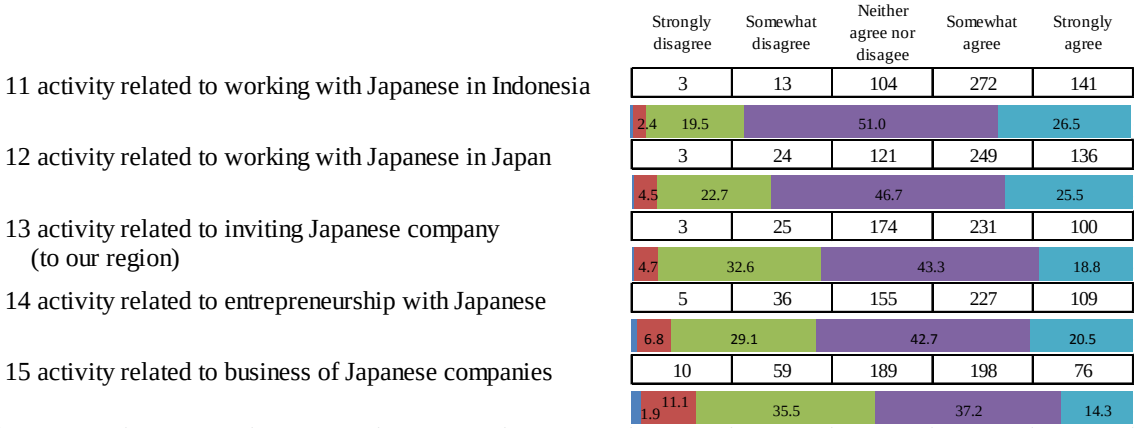


図 2-20　興味・関心：ビジネス関連活動

（４）その他の活動

“アセアン諸国との地域間活動”の得点は 4.20 と高く、回答者の 38.3%が“とても興味・関心を持って”おり、“とても興味・関心がある”“興味・関心がある”回答者は 86.6%を占める（図 2-21）。“社会福祉ボランティアや NGO 活動”および“他ドナーが実施している活動”の得点はともに 3.85 で、“とても興味・関心がある”“興味・関心がある”回答者が 68.2%、69.8%いることから、この活動に対する興味・関心は比較的高いと考えられる。

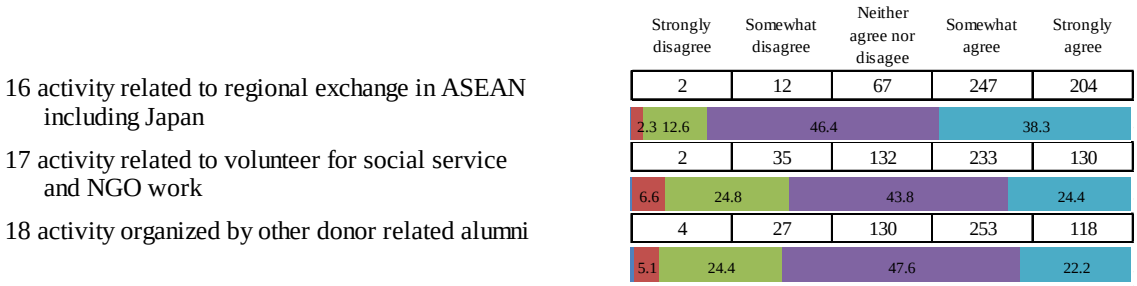


図 2-21　興味・関心：その他の活動

2-1.9　ネットワーキングと興味・関心のある活動との関連

表 2-3 にはネットワーキングと現在興味・関心のある活動とに統計的に有意な関係がみられるものを示してある。数値は相関係数であるが、係数値が 0.2 から 0.3 の場合、弱い相関があると考えられるので、0.2 以上の係数値を赤字で示してある。

なお、ネットワーキングの変数は各小項目の得点を合計し、項目数で割った値の合成変数である。興味・関心に関するアカデミック関連変数は興味・関心のある活動で記述した項目 2 から項目 5 までの 4 項目の合計得点を 4 で割った合成変数、日本の文化関連変数は項目 6 から項目 10 までの 5 項目の合計得点を 5 で割った合成変数、ビジネス関連変数は項目 11 から項目 15 までの 5 項目の合計得点を 5 で割った合成変数である。

“アカデミック関連”の活動への興味・関心は“専門分野の仲間”“地域の仲間”のネットワーキングと相関関係がみられ、“アカデミック関連”の活動に興味・関心が高い人は“専

門分野の仲間”や“地域の仲間”とのネットワーキングも多く行っていると考えられる。また、“職場/組織内での同僚”においても若干の相関関係がみられるところから、“アカデミック関連”の活動に興味・関心がある人は職場・組織におけるネットワーキングも多い傾向があると捉えることができる。

“日本の文化関連”の活動への興味・関心と“地域の仲間”のネットワーキングとの相関関係がみられ、“日本の文化関連”の活動への興味・関心が高い人は地域の仲間とのネットワーキングも多いと考えられる。

表 2-3　ネットワーキングと興味・関心のある活動との相関

Intention/ interest / *Network*	Expertise	Academic oriented	Japanese culture oriented	Business oriented	Volunteer for social service and NGO work	Activity organized by other donor related alumni	Regional exchange in ASEAN
With colleagues in office/institution		0.180 **	0.141 **		0.128 **	0.135 **	
With working partners in the same sector		0.207 **	0.165 **	0.161 **	0.184 **	0.201 **	0.101 *
With neighboring communities		0.218 **	0.213 **	0.189 **	0.236 **	0.257 **	0.136 **
With Japanese hosting organization		0.105 *	0.105 *				
With Japanese in Indonesia							
With ex-participants who joined training program by other donor							
With ex-participants of same program from other countries							
With people from ASEAN countries			0.104 *	0.112 *		0.126 **	

** p<0.01,　* p<0..05

“社会福祉ボランティアや NGO 活動”への興味・関心は“地域の仲間”のネットワーキングとの相関関係がみられ、“ボランティアや NGO 活動”への興味・関心が高い人は“地域の仲間”とのネットワーキングも多く行っていると考えられる。また、“専門分野の仲間”の活動においても若干の相関関係がみられるところから、“ボランティアや NGO 活動”に興味・関心がある人は“専門分野の仲間”におけるネットワーキングが多い傾向があると捉えることができる。

“他ドナーが実施している活動”への興味・関心は“専門分野の仲間”“地域の仲間”のネットワーキングと相関関係がみられ、他ドナーによる活動への興味・関心が高い人は専門分野グループや地域でのネットワーキングも多く行っていると考えられる。

“ビジネス関連”の活動と“地域の仲間”におけるネットワーキングとに若干の相関関係がみられるところから、“ビジネス関連”の活動に興味・関心がある人は地域におけるネットワーキングが多い傾向があると捉えることができる。

以上をネットワーキングの視点から捉えると、地域でネットワーキングが多い回答者は“アカデミック関連”“日本の文化関連”“ボランティアや NGO 活動”“他ドナーが実施している活動”“ビジネス関連”の活動に対する興味・関心が高く、また、専門分野での交流が多い回答者は“アカデミック関連”の活動　“他ドナーが実施している活動”“ボランティ

アや NGO 活動”に対する興味・関心が高いことが考えられる。

2-1.10 帰国研修員間の交流手段

研修後、帰国研修員同士でどのような手段を用いて交流を図っているかを使用頻度の多い順に回答してもらった。自国の研修員との交流の場合は E-mail や Facebook が同程度に多く、携帯電話も比較的多く用いられている（表 2-4）。さらに、2 番目、3 番目の手段として SMS も用いられている。

他国の研修員との場合は Email が最も多く、次いで Facebook が多い。また、3 番目の手段として SMS や Skype が比較的多く用いられている。

表 2-4　研修員間の交流手段

	with ex-participants of the Training			with ex-participants of the Training in foreign countries		
	1st	2nd	3rd	1st	2nd	3rd
E-mail	38.3	27.9	20.2	51.1	45.2	7.4
Facebook	37.9	28.7	8.6	46.0	41.2	2.0
Twitter	0.2	0.7	1.8	0.0	0.8	8.1
Line	0.0	1.1	3.1	0.3	1.2	13.5
Mobile Phone	16.6	16.4	27.7	1.0	3.6	14.9
SMS	4.9	22.1	28.5	0.6	4.0	24.3
Skype	0.0	2.0	4.7	0.0	3.2	23.0
Other	2.0	1.1	5.2	1.0	0.8	6.8

(%)

2-1.11　グループ間比較

回答者の居住地域別、年齢別および同窓会会員別によるネットワーキングおよび興味・関心のある活動に関する比較を行う。

（１）居住地域別

回答数が 20 以上あるジャカルタ特別州、西ジャワ州、バンテン州、南スラウェシ州、東ジャワ州、中部ジャワ州、ジョクジャカルタ特別州を対象として地域間の比較を行う。

各地域におけるネットワーキングにはそれほど大きな差はみられないが、総じて中部ジャワ州においては他の州に比べて活動が少ない（図 2-22）。

“専門分野の仲間”グループにおいては東ジャワ州の方が中部ジャワ州に比べてネットワーキングが多く、有意差がみられる（$p<0.05$）。“ASEAN 諸国の人々”グループにおいては、西ジャワ州やジャカルタ特別州は中部ジャワ州によりもネットワーキングが多く、有意差がみられる（$p<0.05$）。また、“他ドナーの研修参加者”グループにおいても西ジャワ州やジャカルタ特別州は中部ジャワ州よりもネットワーキングが多く、有意差がみられる（$p<0.05$）。

“インドネシア在住の日本人”においては、南スラウェシ州はジャカルタ特別州に比べてインドネシア在住の日本人とのネットワーキングが多く、有意差がみられる（$p<0.05$）。

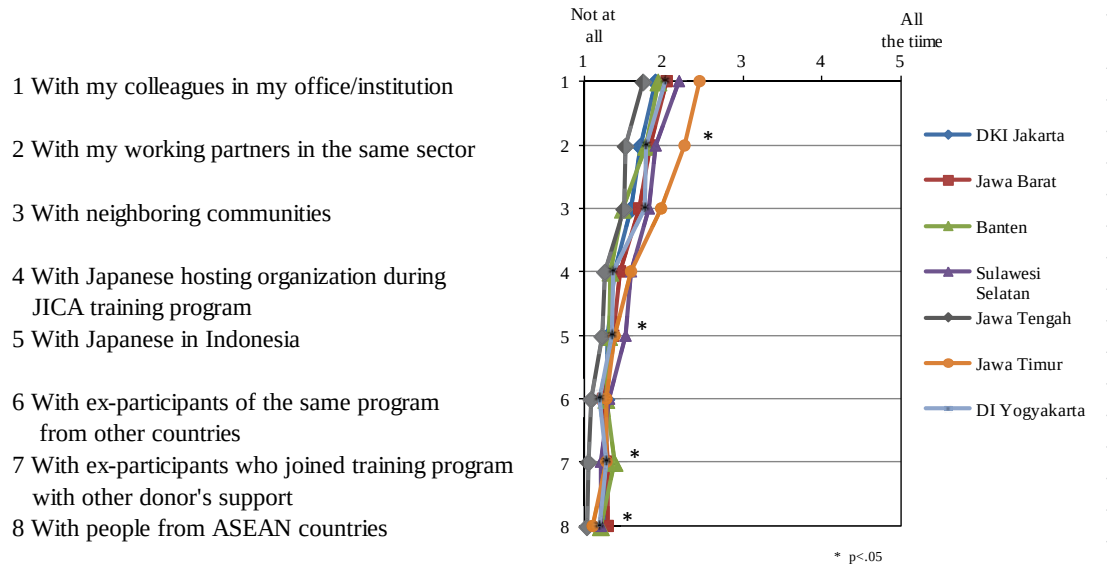


図 2-22　ネットワーキング：地域別

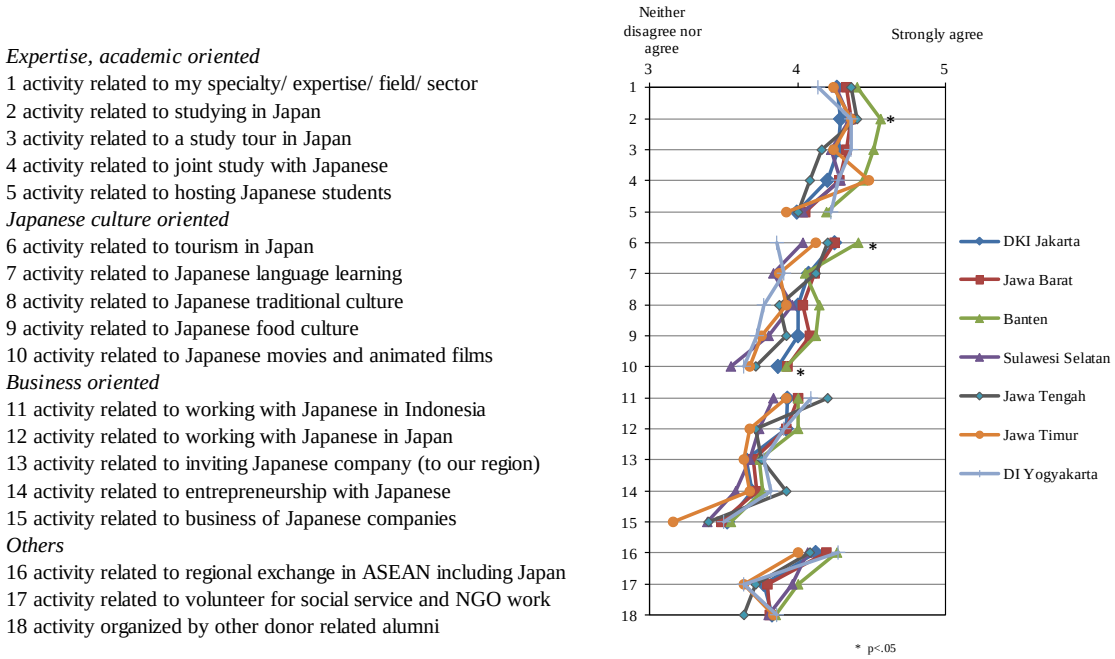


図 2-23　興味・関心のある活動：地域別

興味・関心のある活動についてみると、“アカデミック関連”と“日本の文化関連”において興味・関心の程度が最も高い州と最も低い州との間に統計的に有意差がみられるが、他の興味・関心のある活動の多くについては地域による差はみられない（図 2-23）。

“アカデミック関連”における“日本への留学”については、バンテン州の方がジャカルタ特別州に比べて興味・関心が高く、有意差がみられる（$p<0.05$）。“日本の文化関連”

における“日本への旅行”については、ジャカルタ特別州、西ジャワ州、バンテン州はジョクジャカルタ特別州に比べて興味・関心が高く、有意差がみられる（p<0.05）。また、バンテン州も南スラウェシ州に比べると“日本への旅行”に対する関心・興味が高く、有意差がみられる（p<0.05）。さらに“日本の映画・アニメ”に対しては南スラウェシ州の方が西ジャワ州に比べて興味・関心が高く、有意差がみられる（p<0.05）。

（２）年齢別

年齢を①29 歳まで、②30 歳から 39 歳まで、③40 歳から 49 歳まで、④50 歳以上の 4 グループに分けてネットワーキング及び興味・関心のある活動について年齢別に比較する。

統計的な有意差はみられないものの、20 歳代グループによりも 30 歳代グループの方が総じて得点が高く(8 のうち 7 活動)、30 歳代の方がネットワーキングが多い傾向がみられる（図 2-24）。さらに 30 歳代と 40 歳代を比較すると、“職場/組織内での同僚”“専門分野の仲間”“地域の仲間”“日本での研修先”“他ドナーの研修参加者”において、30 歳代グループに比べると 40 歳代グループの方がネットワーキングが多く、有意差がみられる（p<0.05）。また、統計的に有意な差はみられないが、“同じ研修に参加した他国の研修員”“ASEAN 諸国の人々”“他ドナーの研修参加者”“インドネシア在住の日本人”においても、40 歳代グループの方がネットワーキングが多い。これらから 30 歳代に比べて 40 歳代の方がネットワーキングが活発であると考えられる。

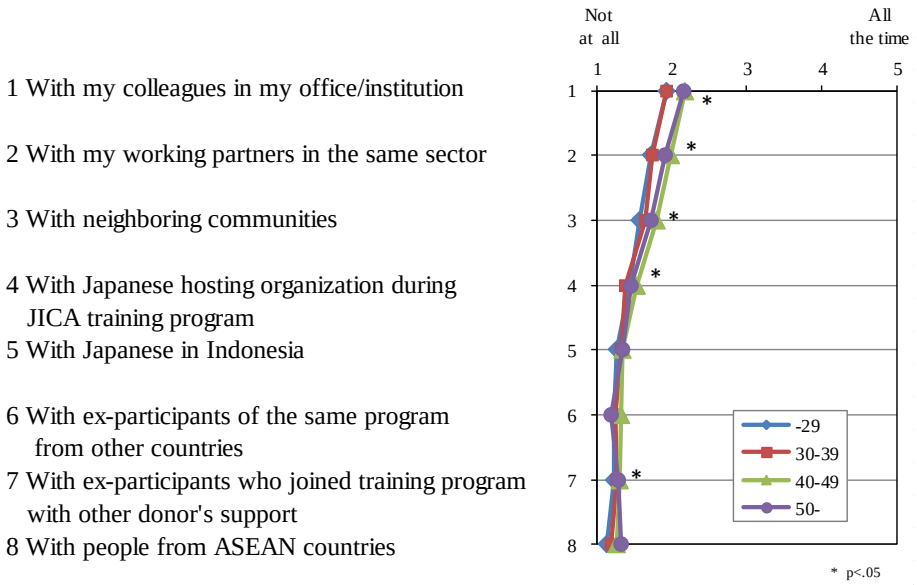
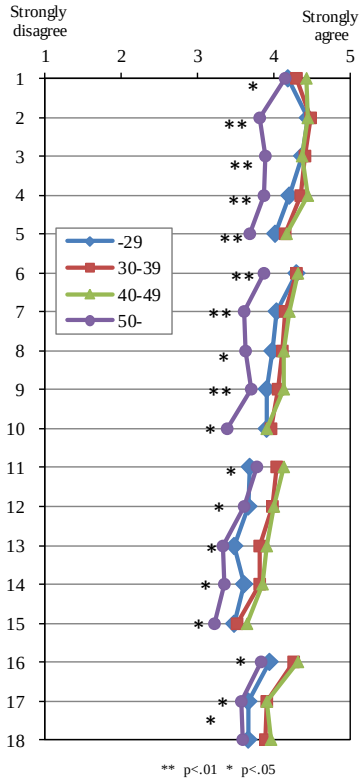


図 2-24　ネットワーキング：年齢別

興味・関心のある活動については、総じて 30 歳代・40 歳代グループの得点が高く、“専門分野・アカデミック関連”“日本の文化関連”“その他”の活動に対する得点は 4 点台と高い（図 2-25）。しかし、50 歳以上のグループは“専門分野”の活動における得点は 4 点台で、興味・関心が高いものの、他の活動における得点は 3 点台と相対的に低い。“専門分野”においては 40 歳代グループに比べて 50 歳以上のグループの活動への興味・関心が低く、有意差がみられる(p<0.05)。さらに“専門分野”の活動以外全ての活動において 50

歳以上グループの得点は 30 歳代グループ及び 40 歳代グループに比べると低く、有意差がみられる(p<0.01、p<0.05)。以上から、50 歳以上グループでは多くの活動に対する興味・関心が最も低いと捉えることができる。



Expertise, academic oriented
1 activity related to my specialty/ expertise/ field/ sector
2 activity related to studying in Japan
3 activity related to a study tour in Japan
4 activity related to joint study with Japanese
5 activity related to hosting Japanese students
Japanese culture oriented
6 activity related to tourism in Japan
7 activity related to Japanese language learning
8 activity related to Japanese traditional culture
9 activity related to Japanese food culture
10 activity related to Japanese movies and animated films
Business oriented
11 activity related to working with Japanese in Indonesia
12 activity related to working with Japanese in Japan
13 activity related to inviting Japanese company (to our region)
14 activity related to entrepreneurship with Japanese
15 activity related to business of Japanese companies
Others
16 activity related to regional exchange in ASEAN including Japan
17 activity related to volunteer for social service and NGO work
18 activity organized by other donor related alumni

図 2-25　興味・関心のある活動：年齢別

（３）同窓会会員・非会員別

総じて、どのネットワーキングにおいても同窓会会員の方が非会員に比べて得点は高い（図 2-26)。“専門分野の仲間”“地域の仲間”“インドネシア在住の日本人”“同じ研修に参加した他国の研修員”“他ドナーの研修参加者”“ASEAN 諸国の人々”におけるネットワーキングは会員の方が多く、有差がみられる。これらから会員の方が非会員に比べてネットワーキングが活発であることが考えられる。

興味・関心のある活動に関しては、会員と非会員の活動に対する興味・関心の程度はほとんど同じであるが、会員の方が若干興味・関心が高い（図 2-27)。“日本企業の誘致”に対する興味・関心は会員の方が高く、有意差がみられる（p<0.05)。

1 With my colleagues in my office/institution

2 With my working partners in the same sector

3 With neighboring communities

4 With Japanese hosting organization during JICA training program

5 With Japanese in Indonesia

6 With ex-participants of the same program from other countries

7 With ex-participants who joined training program with other donor's support

8 With people from ASEAN countries

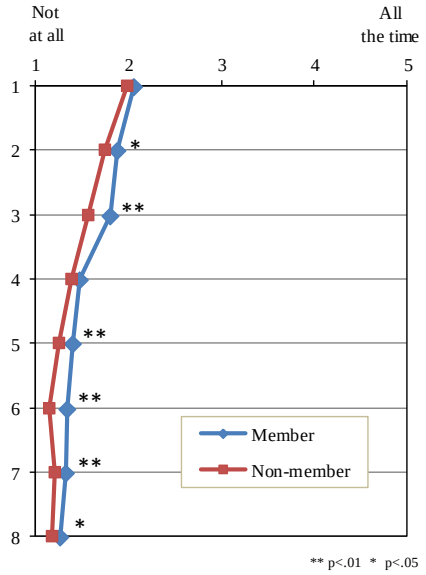


図 2-26　ネットワーキング：同窓会会員別

Expertise, academic oriented

1 activity related to my specialty/ expertise/ field/ sector

2 activity related to studying in Japan

3 activity related to a study tour in Japan

4 activity related to joint study with Japanese

5 activity related to hosting Japanese students

Japanese culture oriented

6 activity related to tourism in Japan

7 activity related to Japanese language learning

8 activity related to Japanese traditional culture

9 activity related to Japanese food culture

10 activity related to Japanese movies and animated films

Business oriented

11 activity related to working with Japanese in Indonesia

12 activity related to working with Japanese in Japan

13 activity related to inviting Japanese company (to our region)

14 activity related to entrepreneurship with Japanese

15 activity related to business of Japanese companies

Others

16 activity related to regional exchange in ASEAN including Japan

17 activity related to volunteer for social service and NGO work

18 activity organized by other donor related alumni

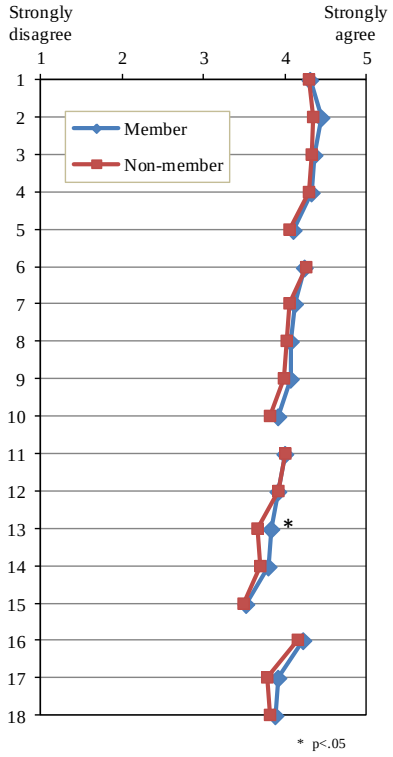


図 2-27　興味・関心のある活動：同窓会会員別

2-1.12　JICA への協力

以上、帰国研修員の日本の印象やネットワーキング、活動に対する興味・参加意思の状

況を明らかにした。今後、JICA が帰国研修の支援を必要とした場合、彼等に協力依頼をすることが可能か尋ねたところ、回答者 536 人中の 526 人（98.1%）が JICA からの依頼に協力する意思があると回答している。

2-1.13　結論

(1) 研修時に知り合った日本人・研修先との交流

研修時に知り合った日本人や研修先との帰国後の交流維持の程度は低く、“たまに”あるいは“時々”連絡を取り合っている程度の関係が多い。しかし、交流頻度は多くないものの、日本に関する情報を入手するための日本の友人との交流は回答者の 82.8%が維持しており、また、日本との繋がりや仕事上のアドバイスための交流は 68%程度の回答者が維持している。研修先との交流は友人との交流に比べて少なく、交流を維持しているのは回答者の 50%から 60%である。

(2) 同じ研修に参加した研修員との交流

同じ研修への参加者との研修後の交流頻度は、インドネシアの帰国研修員の場合は“時々”あるいは“しばしば”連絡を取り合う関係が多く、回答者の 90.1%が交流を維持している。他国の研修員との交流頻度は同国の研修員に比べて有意に少なくなり、回答者の 41.0%は全く交流していない。

(3) JICA 同窓会との関係

a. 会員

同窓会の会員は回答者の 53.9%で、半数近くは非会員である。非会員の 79.8%が帰国研修員の同窓会の存在を知らず、非会員であることの最も大きな理由となっている。また、非会員である大きな理由の一つに同窓会オフィスが居住地域から遠いことも挙げている。

b. 同窓会に対する会員の意識

会員の同窓会に対する感情は好意的なものである。同窓会のイベントを楽しみしており、会員であることにメリットがあると考えている回答者が多い。

c. 同窓会における会員の活動

会員の活動における得点は 1.54 から 2.54 で、活動の程度はそれほど活発とはいえない。しかし、比較的多い活動である会員間における研修で習得した知識・技術の普及や活用は“しばしば”“いつも”行っている回答者が 20%強おり、回答者の 78.7%が研修で習得した知識・技術の普及の活動をしており、習得した知識・技術を活用した提案については 75.9%が行っている。

会員間での研修で習得した知識・技術の交換や日本に関する情報交換もそれぞれ回答者の 73.0%、68.3%が行っているが、“たまに”“時々”の活動頻度が多く、“しばしば”“いつも”活動している回答者は 10.7%、7.1%である。また、同窓会の定例会議や日本文化の紹介行事への参加は回答者の 41.8%、34.9%で、参加していない者が多い。

(4) ネットワーキング

ネットワーキングについては、“職場/組織内での同僚”“専門分野の仲間”“地域の仲間”グループの方が“日本での研修先”“インドネシア在住の日本人”“他ドナーの研修参加者”“同じ研修に参加した他国の研修員”“ASEAN 諸国の人々”グループと比較すると多い。

活動内容はどのネットワーキング・グループにおいても“研修で習得した知識・技術の普及”の活動頻度が最も多く、“日本文化の紹介イベント”が最も少ない傾向がみられる。

ネットワーキング状況は総じて活発とはいえないが、“職場/組織内での同僚”グループでは、“研修で習得した知識・技術の普及”活動を回答者の 92.7%が行っており、“専門分野の仲間”グループでは 81.6%、“地域の仲間”グループでは 69.3%が行っている。

“新しい知識・技術についての勉強会”については“職場/組織内での同僚”グループが回答者の 61.2%、“専門分野の仲間”グループでは 54.5%、“地域の仲間”グループでは 40.8%が行っている。

“社会に貢献するためのボランティア活動”については“職場/組織内での同僚”グループでは回答者の 53.6%、“専門分野の仲間”グループでは 47.6%、“地域の仲間”グループでは 50.5%が行っている。

“日本文化の紹介イベント”については“職場/組織内での同僚”グループでは回答者の 27.7%、専門分野の仲間”グループでは 26.5%、“地域の仲間”グループでは 28.7%である。

“日本での研修先”“インドネシア在住の日本人”“他ドナーの研修参加者”“同じ研修に参加した他国の研修員”“ASEAN 諸国の人々”のグループでは、どの活動においても全く活動していない回答者が 60%から 90%近くおり、不活発な活動状況である。

(5) 日本の印象：研修時

日本の印象に対する得点は 4 点以上が多く、JICA の研修に参加したことにより研修員は日本人の国民性や仕事に対する態度、日本の文化に対して良い印象を持っている。

日本人の時間に対する几帳面さに最も強い印象を持ち、日本人のきれい好きであることや仕事に対する勤勉さや効率性に対しても強い印象を受けている。日本文化に対する印象は日本人の国民性や仕事への態度に対する印象に比べると若干弱まるが ($p<0.01$)、観光地への旅行の印象はとても良い。さらに、日本の伝統文化や日本人家庭の訪問の経験者は良い印象を抱いている。日本食については“どちらともいえない”とする回答者が多く、日本食を好きになった回答者は半数程度である。

(6) 興味・関心のある活動

研修員の専門分野やアカデミック関連の活動に対する興味・関心の得点は 4.3 以上が多く、“専門分野”“日本への留学”“日本での研修”“日本人との共同研究”に対する興味・関心が高い。“日本人学生をインドネシアに招へい”に対する興味・関心は高いが、評価は他に比べて若干低い。

日本の文化に関連する活動に対する興味・関心は研修員の専門分野やアカデミック関連の活動に比べると総じて若干低いが、得点の多くは 4 点台であり、興味・関心は高い。その中で“日本へ旅行”への興味・関心が最も高く、“日本語学習”“日本の伝統的文化”“日

本の食文化”への興味・関心が高い。日本食文化については、研修時の日本の食べ物に対する印象はあまり高くなかったが、調査時には興味・関心が高くなっている。“日本映画・アニメ”への得点は3.88と若干低いが回答者の70%程が興味・関心を持っている。

ビジネス関連の活動に対する得点は3.51から4.00で、ビジネス関連への興味・関心は他の活動に比べて若干低い。日本人と一緒に働くことへの興味・関心は高いが、“日本企業の誘致”“日本人との起業”に対する興味・関心は若干低い。“日本企業との取引”に対する得点は3.51で興味・関心は他に比べて相対的に低い。

“アセアン諸国と地域間活動”に対する興味・関心はとても高く、“社会福祉ボランティアやNGO活動”“他ドナーが実施している活動”に対しては興味・関心は比較的高い。

(7) ネットワーキングと興味・関心のある活動との関連

“地域の仲間”グループでのネットワーキングが多い回答者は“アカデミック関連”“日本の文化関連”“ボランティアやNGO活動”“他ドナーが実施している活動”“ビジネス関連”の活動に対する興味・関心が高い。

“専門分野”での活動が多い回答者は“アカデミック関連”“ボランティアやNGO活動”“他ドナーが実施している活動”に対する興味・関心が高い。

(8) グループ間比較

a.居住地域別

各州間でのネットワーキングには大きな差はみられないが、総じて中部ジャワ州におけるネットワーキングは他の州に比べて少ない。“専門分野の仲間”グループにおいては東ジャワ州の方が中部ジャワ州に比べるとネットワーキングが多く、“ASEAN諸国の人々”“他ドナーの研修参加者”グループにおいては西ジャワ州およびジャカルタ特別州の方が中部ジャワ州に比べてネットワーキングが多い($p<0.05$)。また、“インドネシア在住の日本人”グループにおいては南スラウェシ州はジャカルタ特別州よりもネットワーキングが多い。

興味・関心のある活動については、“日本への留学”に対してバンテン州はジャカルタ特別州に比べて興味・関心が高い($p<0.05$)。“日本への旅行”に対する興味・関心はジャカルタ特別州、西ジャワ州、バンテン州はジョクジャカルタ特別州に比べ高く$p<0.05$)、バンテン州は南スラウェシ州に比べると高い($p<0.05$)。

b.年齢別

ネットワーキングについては、30歳代の方が20歳代に比べてネットワーキングが多い傾向がある。“職場/組織内での同僚”“専門分野の仲間”“地域の仲間”“日本での研修先”“他ドナーの研修参加者”グループでは40歳代の方が30歳代よりもネットワーキングが多い($p<0.05$)。

興味・関心のある活動については、30歳代・40歳代では多くの活動対する得点が4点台で興味・関心が高い。50歳以上は総じて活動に対する興味・関心が30歳代・40歳代に比べて低い($p<0.05$)。

c.同窓会会員・非会員別

総じて、どのネットワーキングにおいても同窓会会員の方が非会員に比べて得点が高く、“専門分野の仲間”“地域の仲間”“インドネシア在住の日本人”“同じ研修に参加した他国

の研修員”“他ドナーの研修参加者”“ASEAN 諸国の人々”グループにおけるネットワーキングは会員の方が多い（$p<0.05$）。

興味・関心のある活動に関しては、会員と非会員の活動に対する興味・関心の程度はほとんど同じであるが、“日本企業の誘致”に対する興味・関心は会員の方が高い（$p<0.05$）。

(9) 交流手段・JICA への協力

自国の研修員との交流の場合は多く用いられている手段は E-mail や Facebook で、携帯電話も比較的多く用いられている。また、SMS も用いられている。他国の研修員との場合は Email や Facebook が多く用いられおり、SMS や Skype も比較的多く用いられている。

なお、回答者の 98%は JICA から協力依頼があった場合には依頼に応じるとの意思を持っている。

2-2　帰国研修員に対する面談調査（フォーカスグループディカッション）の結果

2-2.1 フォーカスグループディカッションの目的と対象

フォーカスグループディスカッションは、質問紙調査による帰国研修員の日本に対する印象、興味・関心、ネットワーキングの現状と期待など全般的な意識把握に加え、帰国研修員の意識・関心をより掘り下げ、具体的に把握すること、帰国研修員の生の声を拾うこと、インドネシア-日本あるいは ASEAN-日本の関係強化という視点から帰国研修員の意識・期待を把握することを目的として実施された。

また、都市毎のネットワーキングへの布石となることを期待して、ジャカルタ（2 セッション）、ジョグジャカルタ（2 セッション）、マカッサル、バリの 4 都市で計 6 つのグループを対象に実施した。ジャカルタ、ジョグジャカルタでは、青年研修（旧青年招へいを含む）と一般技術研修の帰国研修員を分け、研修スキーム別の帰国研修員の意識の違いの把握も試みられた。

参加者の選定は、JICA インドネシア事務所の方で各都市のフォーカルパーソンを選定し、各フォーカルパーソンから各地域の帰国研修員に参加を募る形で行われた。各フォーカスグループディスカッションの参加スキーム別、実施日、参加人数などは下表に示すとおりである。2014 年 11 月上中旬に集中的に実施された。

表 2-5　フォーカスグループディスカッション参加者の
JICA 研修スキームおよび実施スケジュール

No.	地域	参加研修スキーム	実施日
1	ジャカルタ 2	青年研修	2014 年 11 月 6 日
2	マカッサル	スキーム特定なし	11 月 10 日
3	バリ	スキーム特定なし	11 月 11 日
4	ジャカルタ 1	国別・課題別・CP 研修	11 月 12 日
5	ジョグジャカルタ 1	国別・課題別・長期研修	11 月 15 日
6	ジョグジャカルタ 2	青年研修	11 月 15 日

またスマトラ島（メダン、パダン）にも多くの帰国研修員がいるが、現地調査期間の制約上、スマトラ島での開催ができなったことが、フォーカスグループディスカッション結果分析上の制約条件となった。

2-2.2 フォーカスグループディカッションにおける設問

下表に示す共通質問を枠組みとして、フォーカスグループディスカッションを実施した。ディスカッションを進める中で、参加者の共通関心事項が見られる場合や、議論が盛り上がった場合は、ファシリテーターが適宜、設問を弾力的に調整し、議論を深めた。

表 2-6　フォーカスグループディスカッション共通設問

1)	Cultural exchange and social exposure activities they participated during their training program in Japan/日本での研修中に文化交流・社会観察の機会の有無、その感想

2) Advantages, disadvantages, and necessity of improvement of their training program in Japan/参加した研修について非常に優れている点、改善点
3) Convenience to join the alumni activities, good/best practices of the alumni activities, expectation towards alumni activities/ 同窓会の活動の参加しやすさ、効果的活動の事例、今後の希望
4) Possibility of their contribution for further development of the relation between Indonesia and Japan/今後のイ・日関係の発展への自分の貢献
5) Their expectation towards Japan in Asia and the world/アジアおよび世界の中の日本に期待すること
6) Interests and experiences in activities organized by other donor-related alumni/他国ドナー等が組織する帰国研修員活動に対する興味・関心及び過去の経験

2-2.3 参加者の属性

フォーカスグループディスカッションの参加者は、上述のとおり、予め JICA インドネシア事務所で選定されたフォーカルパーソンが各地域で基準に沿って参加を募って集められた。当初、各グループ約 10 名程度の参加者を見込み、専門性、所属先、参加した研修、年代、性別等の条件が偏らないように人選する計画であった。しかし、開催時期がインドネシア省庁の繁忙期(年度末)と重なり、また豪雨の影響で出足が悪い等天候の影響も受け、参加者を募るだけでもやっとというケースもあり、結果的に中には参加者数が限られたグループもあった（ジャカルタ 1、ジョグジャカルタ 2 のグループ)。

各地域での参加者の属性については、下表に示すとおりである。グループ内での分野の偏りは若干あるが、結果として全体的に分野のバランスが取れる形となった。地域開発マネジメント、行財政から環境、教育、保健と幅広く、民間企業所属の帰国研修員の参加も得られた。女性の参加は全体としては約 3 割と控えめであったが、あるグループでは女性の方が多かったケース（バリ）もある。参加者の年代も幅広く、20 歳代終わりから 60 歳代前半までであった。

表 2-7　フォーカスグループディスカッション参加者の属性

No	地域	参加人数	分野	女性	年代
1	ジャカルタ 2	9 名	保健、環境、行財政、教育、企業	3 名	28-50
2	マカッサル	10 名	マミナサタ地域開発マネジメント、公害対策、地域資源開発、都市計画、廃棄物処理、	6 名	37-62
3	バリ	7 名	マングローブ管理、環境 NGO、防災 NGO、下水管理、税務	5 名	35-43
4	ジャカルタ 1	4 名	SME 支援、標準規格認証、メタル生産・輸送機器産業	0 名	35-40
5	ジョグジャカルタ 1	9 名	高等教育、工学研究、伝統工芸、警察、基礎・中等教育、農業	2 名	30-50
6	ジョグジャカルタ 2	4 名	起業家･NPO、イスラム教育、基礎・中等教育	2 名	25-55

2-2.4 フォーカスグループディスカッションにおける帰国研修員の回答

各設問に関する回答や議論の結果は次のとおりである。

(1) 帰国研修員ネットワーキングの現状

- 現状として、一般技術研修参加の帰国研修員はネットワーキングに対する強い指向性は持っていない。
- ほとんどの一般技術研修参加の帰国研修員は自分が IKA-JICA 同窓会メンバーであるということを知らない。あるいは知らされていない。このことから、帰国研修員全体についても同様の状況だと推測される。
- 特にジョグジャカルタの一つのグループでは、IKA-JICA や KAPPIJA21 の存在が知られていなかった。ごくわずかの帰国研修員しか、帰国後 JICA とやり取りを持続していない。しかし、フォーカスグループディスカッションの参加者は現在でも JICA とのコミュニケーションやつながりを持つことを希望している。
- 一方、青年研修参加者の同窓会である KAPPIJA21 は、国内、域内において非常に活発にネットワーキングを行っている。国内、域内、日本と ASEAN の友好関係構築という点において、青年研修はよくデザインされた研修と言える。KAPPIJA21 は定期的に会合を持ち、自主的に活動を実施している。KAPPIJA21 の活動は、JICA 帰国研修員ネットワーキングにおける一つの成功事例と言えるであろう。
- これまで IKA JICA と KAPPIJA21 の間で全くコミュニケーションや連携が図られて来なかったため、今後両組織の協力関係を構築すべく何らかのイニシアチブが発揮されるべきだろう。
- また、KAPPIJA21 と日本企業との連携可能性を探るにあたり、JICA が橋渡し役としての役割を担うというのうも効果的だと考える。
- 本邦研修の ASEAN スキーム（特に青年研修）は、帰国後の情報交流、関係作りという点において非常に効果的である。
- 旧青年招へい事業と青年研修の参加者の間で、気持ちとしての日本とのつながりに大きな差がある。その理由としては、社会文化交流の機会が最近では非常に限定的になってしまったことが挙げられる。

(2) 帰国研修員の日本に対する印象

- 文化活動として、お茶のお点前、生け花、日本舞踊、着物着付け、書道、温泉訪問、日本料理、折り紙などが強く印象に残っている。
- 文化交流は、日本と研修員を強く結びつけることに大変効果的であると感じている。中でも、ホームステイは強い影響力を持っており、ホームステイを経験した帰国研修員のほとんどが何十年経過しても、ホストファミリーと遣り取りをしている。
- 社会的な活動体験として、ホームステイ、ゴルフ、バーベキューパーティー、地域の清掃・防災活動やお祭りなどが異文化経験として強く印象に残っている。地域のお祭りは、全ての世代が一緒に参加していて、素晴らしいと感じた。
- 観光は、訪問先、内容問わず、非常に喜ばれ、強く印象に残っている。研修によっては新幹線を経験出来ないケースがあるため、どの研修にも新幹線乗車を入れるべきである。

- 日本人のマナー、エチケット、気遣いには皆一様に素晴らしいという印象を持っている。日本人に対して、親切、困っている人を助けるという気持ち、清潔、整理整頓、時間厳守、規律正しい、規則を守る、勤勉、信頼出来る、頼りになる、ゴミ処理が素晴らしい、事業や活動の企画運営が行き届いている、年配や目上の人を敬い大切にする、などの印象を持っている。
- 公共施設がきちんと機能するように維持管理されている、現代生活において伝統的価値や文化が重んじられている等の点が素晴らしい。

(3) 参加した研修の優れている点および改善点

- どの研修も参加者の知識、思考を改善するのに大変有益である。
- 様々な制度について学び、一分野だけではなく、イシュー中心に包括的にマネージしていくことの重要性を学べた。
- 工業省において人的資源開発グループが 2014 年 10 月から「知識共有プログラム」を開始した。初回のテーマは「E-Government and communication organization」で、韓国で研修を受けた職員がファシリテーターとなった。このプログラムには 40 人が参加した。同グループは本プログラムの成果である海外からの知識を省内の制度実践に応用できるように期待している。
- 本邦研修の改善点・課題として次のような点が挙げられた。
    - 内容的にインドネシアの現状と照らし、適正技術かどうか、応用可能かどうか疑問に思われる点もあった。
    - ワークショップセッションのアプローチに慣れていない講師がいた。
    - 理論よりも、より実践的な研修内容が望まれる。
    - 著作権の問題があり、一部の研修資料をデータで入手できなかった。
    - 研修期間が短い。理想的には最低 3 週間～1 ヶ月は必要と思われる。
    - よりハイレベルなフォローアップ研修、再研修の機会が望まれる。
    - 青年研修は内容的に素晴らしく、年齢制限 35 歳以下という規定を見直し、もっと上に設定し、広い年齢層が参加するように希望する。

(4) 同窓会の活動の参加しやすさ、効果的活動の事例、今後の希望

- バリでの同窓会活動は 2014 年の 8 月に初めて実施された。JICA 同窓会である IKA-JICA はマカッサル、ジョグジャカルタの参加者の間では全く知られていない。
- 帰国研修員がアクセスしやすいように、JICA 同窓会のホームページをもっと効果的で魅力的な内容に改訂することが必要だと思う。
- 同窓会において Facebook の活用も検討されるべき。
- 帰国研修員は活発な同窓会組織を期待している。現在の組織の体制、機能の見直しを検討してはどうか。帰国研修員は、定期的な同窓会員/帰国研修員間の情報共有を強く望んでいる。
- 多様なバックグランド/分野のメンバーが集うイベントを同窓会が企画することを期待している。
- 同窓会が、バリやマカッサルなどの地域在住の日本人にも参加を呼びかけ、一緒にイベントを行ってほしい。
- 帰国研修員は、彼らと日本関連機関や日本企業との橋渡しを JICA が担うことを期待している。また、彼らの活動への資金的支援にも期待している。

- 実現可能な活動としては、自然環境関連の活動、専門性を生かしたコミュニティ教育支援、学校やコミュニティ対象の防災教育、地域の特産品を日本の市場とつなげるような産業創出、専門分野の学術ネットワーキングなどが挙げられる。

(5) アジアおよび世界の中の日本への期待

- 日本には次のことを期待している。
  - 政府間の協力をプライベートセクターにも拡大してほしい。
  - 技術の優位性を保ち、インドネシアの事業を支援し続けてほしい。
  - アジアにおいて留学や学生交流事業のイニシアティブを発揮してほしい。

(6) 今後のイ・日関係の発展への自分の貢献

- 帰国研修員は同窓会活動を通じて、インドネシアと日本との協力関係の発展に貢献出来ると思う。そのため、同窓会組織が活発に機能することが期待される。
- 帰国研修員が日本の優良事例や素晴らしい文化を紹介する役割を担う。
- インドネシア在住の日本人ともっと交流したい。
- 日本大使館や領事館と共同事業を行えるよう関係構築をしたい。
- 社会活動への関心が高く、植林活動や家庭の衛生教育、税務制度教育などで地域のコミュニティや学校の支援を行いたい。
- CSR に関心があり、専門性を生かし、日本企業との共同事業に貢献したいと考えている。日本企業や JJC に KAPPIJA21 の広報を行い、小規模な社会開発支援を行いたい。
- 日本の学生や若者の受け入れに協力する。
- 日本や他の外国で習得した知識や情報を共有する。

(7) 他国ドナー等が組織する帰国研修員活動に対する興味・関心及び過去の経験

- アメリカやオーストラリアなど他ドナーも JICA と類似した Capacity Development 活動を支援している。
- 他ドナーの支援活動も JICA と同様に効果的で成果をあげていると考えられている。
- 他ドナーも元研修生組織があるが、あまり活発ではない。
- 他ドナーの元研修生が行っている活動は同窓会会合のみである。
- 同窓会のオンラインネットワークの好事例としては、アメリカの International Exchange Alumni というイニシアティブが導入されている。様々な米政府の人材育成研修に参加した各国の研修員のオンラインネットワークで、米国務省が主導している。参加者が自身の活動や研究報告を共有し、オンライン上でコミュニティを形成することも可能。また助成金の広報などもオンラインネットワーク上で行われている。リンクは次のとおりである。
  https://alumni.state.gov/about-international-exchange-alumni
- オーストラリアの ADS は同窓生の実績やキャリアを常にモニタリングしている。ADS は新奨学生対象のワークショップに同窓生にも一緒に参加し、交流を図っている。ADS はプログラムの内容や関連情報の広報も兼ねたワークショップを実施している。

- ADS は同窓生の ML を管理しており、各種情報や参加可能なプログラムの情報などを発信している。
- 一般的傾向として、学位取得の研修コースの同窓生の方が短期研修の参加者同士より結束が強いと言える。

Box 3: Good Practice-ジョグジャカルタで KAPPIJA21 と IKA-JICA の連携がスタート！

KAPPIJA21 の中でも活発な支部の一つ KAPPIJA ジョグジャカルタは、1985 年の夏に青年招へい研修に参加した起業家・NPO 活動家の Mr. Saptoto らが中心となって創設以来、KAPPIJA21、AJAFA と連携した日本・ASEAN 青年交流イベントや、JICA や国際交流基金と共催でプランバナン寺院グローバル・ファン・ウォーキングなども実施してきた。しかし近年は、ジョグジャカルタへの日本人訪問者が減少傾向にあり、活動が停滞気味であることが、2014 年 11 月、本調査で実施したフォーカスグループディスカッション（FGD）で明らかとなった。また国別・課題別研修に参加した帰国研修員は、KAPPIJA21 のみならず JICA 同窓会 IKA－JICA の存在を知らず、それぞれの接点もなかったことが判明した。FGD を機に、研修種別による同窓会の縦割りを超えて、在ジョグジャカルタの帰国研修員のネットワーキングを作ろうとの機運が高まった。

こうして 2015 年 1 月に FGD に参加したメンバーが中心となって、KAPPIJA21、IKA-JICA の垣根を越えた初めての共同イベント〝BATIK を作ろう〟が実現した。工業省バティックセンターに勤務する Ms. Umah の発案で、青年研修 OG の Bantul 県教育局職員、中学校教員や警察研修に参加した女性警察官、Mr. Saptoto らが数回の事前準備会合を重ね、当日は約 10 名の帰国研修員がボランティア参加し、地元の小学校 15 校から約 150 人の生徒、教師 36 人が参加した大盛況のバティック講習会となった。別の地域からも既に次回の開催リクエストがあり、今後の活動を検討している。この他にこれからの活動案としてコミュニティ防災イベント等のアイデアも出ている。また 2015 年 3 月には、日本ユースリーダ協会からの依頼で、20 人の日本人高校生・大学生をジョグジャカルタで受け入れることが決まり、Mr. Saptoto 他、FGD に参加したメンバーが連携して、ホームステイやガジャマダ大学訪問・交流の準備に奔走中である。

今回のイベントは、帰国研修員同士のネットワーキングに向けた機運を捉えた JICA インドネシア事務所が後押して実現した面もあり、JICA からの適時の支えや励ましが帰国研修員のネットワーキングや活動の活性化に大きく影響すると観察された。小学校やコミュニティでのイベントは、CSR 活動として日系企業の支援を得られる可能性もあり、帰国研修員の発案を企業に橋渡しすることなども有効な支援となろう。

Box 4: Good Practice- 工業省におけるナレッジ・シェアリングの取り組み

工業省は、幅広い分野の職員を日本等海外での研修に送り出し、先進事例や技術の習得を奨励してきた。2014 年 2 月には JICA 研修に参加した同省職員が JICA と共催で成果普及セミナー（Seminar on the Dissemmination of the Benefit Related to JICA Taining Programs）を開催し、40 名を超える省内外からの参加者に対し、研修成果を発表する機会を持った。

この後、工業省はこうした海外研修の成果を省内で広く共有・普及する取り組みを省内に定着させるべく、「ナレッジ・シェアリング・プログラム」を 2014 年 10 月から導入し、毎月 1 回、研修受講者が講師となって、習得した知識や気づきを発表し、分かち合う時間が持たれている。このプログラム主導する工業省国際協力調整課長 Mr.Eko にその様子を聞いた。

＊　＊　＊　＊

海外であろうと国内であろうと、一定のトレーニングを受けた省の職員は、そこで得た知見や経験を省内に還元すべきだと思ってきました。これまで工業省では、所属する部門の中で職員が研修報告やシェアリングの機会を持つ事例もありましたが、部門を超えて共有できる仕組みが必要だと感じて、ナレッジ・シェアリング・プログラムを立ち上げました。

省内のイントラネットワーク上に、シェアリング・プログラムの計画を掲載し、毎月、有志の発表者を募って、講師としてシェアリングをリードしてもらっています。教材も発表者が用意します。これまでに 4 回実施して、韓国やその他で研修を受けた職員が「e-Government」、「Organization Communication」、「Speech Writing」、「Monitoring and Evaluation」のトピックで、講義・ワークショップを持ち、好評を得ています。このシェアリング・プログラムは、自分の学んだことを共有しようと自発的に手を挙げてくれるボランティア講師がいてくれるからこそ成り立っており、参加者もイントラネット上で広く公募しています。今後、JICA 帰国研修員も講師として手を挙げてくれると思います。このような活動が省内で一定のインパクトが出るまでにはまだ時間がかかると思いますが、今後も地道にシェアリングの機会を持っていく予定です。

＊　＊　＊　＊

工業省内にも相当数の JICA 帰国研修員がいることから、このナレッジ・シェアリングに貢献していくことが期待される。またこのような取り組みが、他省でも JICA 帰国研修生の参画のもとで始動し、研修成果を所属先機関で生かし、普及させる仕組みが導入されることを期待したい。

2-2.5 調査結果・傾向

2-2.4 の議論・回答を踏まえ、帰国研修員の意識、興味・関心、帰国研修員ネットワーキングにおける傾向と課題について次のような点が確認された。

(1) 同窓会の知名度

青年研修参加者には、KAPPIJA21 は周知されている。他方、集団研修、国別研修等の参加者には、IKA-JICA、KAPPIJA21 の存在は周知されておらず、帰国研修員の同窓会やネットワーキングについての情報提供が絶対的に不足していることがフォーカスグループディスカッションにおいて確認された。一般技術研修参加の帰国研修員は、JICA 同窓会の存在、入会の仕方、帰国後自動入会で自分も会員となりうること、などの情報を知らない人がフォーカスグループディスカッション参加者の間でも大多数であった。

研修参加時のオリエンテーションで説明がなされているはずの同窓会ネットワークに関する情報が研修参加中や帰国後に研修員の記憶に残りにくい可能性がある。今後、研修参加の前後および実施中に、IKA-JICA や KAPPIJA21 などの同窓会に限らず、JICA 帰国研修員ネットワークにかかる周知の方法やインプットのタイミングや頻度に関し、工夫の必要性が確認された。

(2) 同窓会の活動状況

青年招へい・青年研修参加者の同窓会である KAPPIJA21 の活動はジャカルタでは活発であり、定期集会やイベントなど自発的な活動が行われている。代表者や事務局などのイニシアティブが発揮され、運営委員会が頻繁に会合を重ねている。

地方での KAPPIJA21 の活動であるが、津波や災害などが発生した地域では、当該地域在住の KAPPIJA21 メンバーが迅速に結束して活発に支援活動を行ったエピソードも紹介された。一方、都市によって活動状況にバラつきがあることも指摘された。 現状として、National network としての KAPPIJA21 の地方への浸透の度合いは、比較的弱いと思われる。

一部の都市で KAPPIJA21 の活動が停滞している理由として、FGD より考察されるのは、①キーパーソンの不在あるいはいたとしても、コミットメントの低下、②日本人訪問者や日本側からのインプットの低下による活動モメンタムの喪失である。

(3)親日の度合い・日本に対する期待

青年招へい時代に参加し、ホームステイや社会・文化交流プログラムを経験した参加者の親日度合いは非常に高い。またホストファミリーやその他日本人との交流が継続している。

一方、2007 年以降、青年研修に変わり、社会・文化交流要素が削減されてからの参加者は日本人や日本社会に対する高評価（勤勉、清潔、時間管理等）はあるものの、感情的な絆を感じるには至っておらず、それと関連して帰国後の日本人とのコミュニケーションも継続しない傾向が観察される。帰国後の日本人や受入機関との交流が継続するかどうかは、どれだけ親密な文化交流や専門的交流を行ったかによると言える。

(4) 社会文化交流への興味・関心

様々な社会文化体験への強い興味・関心が示されたが、活動そのものを体験するというより、むしろ日本人と一緒に体験する、日本人と社会文化活動を通じて交流する、日本人の思考や行動様式を知ることの方に意義を感じていることが観察された。帰国研修員がホームスティや地域の人々との交流が強いインパクトを持ち、鮮明な記憶を留めていることからもその意義が確認できる。

(5) 専門性を通じた関係構築・継続の希望

一般技術研修の参加者（国家公務員)、また 2007 年以降の青年研修参加者の日本に対する期待は、彼らの職業専門性に関わる領域での情報交換・交流が多く、そのためのネットワーキングを強く希望している。またインドネシアにおける彼らの活動への資金的、技術的支援要望も多く聞かれた。

またプロフェッショナルな領域への興味・関心と同時に、ASEAN 諸国との交流の後押しへの期待も強い。これは必ずしも、同じ集団研修、国別研修に参加した ASEAN 出身者ということに限らず、より広い関係者との交流・ネットワーキングが含まれる。

(6) 地域別特性

- ジャカルタ：

  中央省庁職員がメインであり、各省内での帰国研修員ネットワーキング組織の可能性が高い（IKAMAJA 支援の農業省の事例や工業省勉強会からの教訓)。既に警察では Sakura という活発な同窓会が組織され、財務省でも JICA 帰国研修員の同窓会が組織されている。

- ジョグジャカルタ：

  UGM 他学術・学園都市であり、活動しやすい規模である。
  学術交流推進が期待され、発展性がある。
  専門領域・研究分野と絡めた社会貢献活動（学校・コミュニティの連携・協働、たとえば防災教育・活動）への関心も高い
  住友林業・JICA のメラピ国立公園森林保全事業への参画の可能性がある

- バリ、マカッサル：

  環境保全や地域開発など地域ごとの開発イシューがあり、社会貢献の基盤が備わっている。
  コミュニティも相互扶助の伝統があるため、地域の専門家として帰国研修員の活動が受け入れられやすく、地域コミュニティと連携が図れる。
  両地域とも活動の規模の差はあるが、コミュニティと連携をした環境保全活動や保健教育活動を既に開始している。

(7) ポテンシャルと実際の行動

フォーカスグループディスカッションで挙げられた様々な期待や活動アイデアの実現性、それに対する発言者のコミットメントや所属組織の後ろ盾までは確認できていないものが大半である。しかし、実現にむけた一定の基盤があると思われるものは以下のとおりである。

- KAPPIJA21 ジャカルタをはじめ、一部都市ではすでに在インドネシアの日本関係機関（JNTO 等)との持続的ネットワークを有する点で、協働活動の基盤はあるが、巻き込める範囲（周知範囲）が限られる可能性もある。
- 学術関係者は研究領域で日本人研究者との交流（AUN SEED-NET も通して）が続いていることから、日本を絡めた彼らのネットワーキングのアィデア実現にあたっては、一定の基盤がすでに存在していると考えられる。
- 工業省の勉強会に対する担当者のコミットメント、しっかりとした組織の後ろ盾があり、同勉強会との有効な連携のポテンシャルが高い。
- マカッサルでは地域の特産物を日本に紹介する地場産業支援を小規模に行うというアイディアが出されている。

(8) 帰国研修員ネットワーキングにおける共通点

同窓会同士の横のつながり

本調査において、これまで IKA-JICA と KAPPIJA21 との連携が持たれたことがなく、現在に至っているという情報が得られた。両組織とも JICA インドネシア事務所に事務局を置いており、連携することで生まれる可能性も大きいと見込まれる。旧来型の硬直化しやすい縦型あるいはピラミッド型組織マネジメントの体質を見直す時期にきているとも考えられる。

活動への期待感大

研修形態の違いを問わず､フォーカスグループディスカッション参加者は JICA 関連や帰国研修員連携の活動に強い興味を持っている。日常業務などの制約はあり、自由になる時間の個人差は大きいが、負担なく気軽に参加でき、効果的な活動への参加の機会を期待する声が多い。

地域でのつながり

インドネシアでは近年、地域での自主的な動きが目覚ましい。帰国研修員においても、地域での情報共有、連携、活動を開始したいという希望が表明された。社会貢献活動と日本の映画鑑賞等の文化交流を組み合わせた活動など、フォーカスグループディスカッションの場で具体的な活動のアイディアについての話し合いが始まった地域もあった。

日本人・日本の組織との交流への期待

帰国研修員の多くが、インドネシアにおいて開発事業などを通じて日本人専門家やミッションとの交流があり、本邦研修でも研修講師や受入機関と密な交流の経験を有する。帰国後および開発協力案件終了後も専門分野における共同研究や交流などコミュニケーションや連携を望む声が根強い。帰国研修員ネットワーキングをインドネシア側に限定する従来型ではなく、開発事業に参加していたなどゆかりのある日本人および関連機関などの日本側と双方向にし、情報交換の幅をより広げることも求められている。

日本企業の CSR における協力への期待

ほとんどの帰国研修員は、地域の開発に可能な範囲での貢献をすることを意識している。

環境、防災、水資源管理、保健、教育などの専門性を持つ帰国研修員は、近隣の学校や地域住民に対して専門性を生かした社会貢献の機会を希望していることが確認された。日本企業はジャカルタ首都圏 JABOTABEK に集中しているが、その周辺地域や地方都市でも CSR によるコミュニティ支援に帰国研修員のネットワークが貢献できるのであれば、進んで参加するという帰国研修員もかなりいるものと予想される。帰国研修員の連携の範囲は日本企業の CSR に留まらず、日本大使館や領事館などの地域に対する社会活動なども含まれる。

(9) 属性別による意識の違い

青年研修（旧青年招へい事業）参加者と国別・課題別・長期研修参加者との違い

1-1 で述べているとおり、JICA 帰国研修員の同窓会組織は大きく一般技術研修（国別・課題別・長期研修）参加の帰国研修員対象の IKA-JICA と青年研修参加の KAPPIJA21 の二つに分かれている。前者は管理職、政策決定レベル、実務の中堅を担う行政官が中心であり、後者は行政官が多いものの、比較的長い期間一緒に過ごし、20 歳～35 歳までの年齢制限もあり、比較的動きやすい世代である。また、後者は日常的に SNS を活用する世代でもあり、前者に比べ、ネットワーキングがやりやすい環境にあり、帰国研修員間の連携も活発な例が多い。

青年研修と旧青年招へい事業の違い

旧青年招へい事業では、ホームスティや文化交流の機会がより多く、受け入れ機関、ホストファミリー、周辺地域住民との密着した交流の機会が多く、帰国研修員の日本へのこだわりが他の研修員より強い。また、初期の頃のスキームでは、ASEAN の青年が各国 5 人ずつ招へいされ、期間も 1 ヶ月という長期を一緒に日本で過ごすということにより、同国の 5 人の関係だけでなく、ASEAN 友好のネットワークの基盤になっている。旧青年招へい事業参加の帰国研修員は、同スキームが域内交流および日本-インドネシア-ASEAN の良好な関係構築に大きな貢献を果たしているとの認識を持ち、今後同様のスキームの復活を願っている。ASEAN の同スキームの帰国研修員の間で AJAFA21[23]というネットワークを立ち上げ、自主的に相互交流を続けている。

一方、青年研修は 2007 年に同スキームの見直しがあり、改称された。期間、内容とも見直しがあり、期間は 3 週間に短縮され、内容的にはより専門に特化した研修に再編された。その結果、宿泊をともなうホームステイが少なくなり（プログラムによっては全くなくなり）文化交流プログラムも減らされた。2007 年以降の青年研修参加の帰国研修員はプログラムによっては日本での文化体験や日本人との交流体験が乏しいため、それに比例して、帰国後の日本人とのコミュニケーションを継続している例も希薄である。

地域性による違い

同窓会など全国組織の場合、その機会や情報がジャカルタ周辺に偏りがちになる。JICA の帰国研修員に関しては、同窓会入会の情報については、地域差なく、等しく周知が弱いことが確認された。一方で、ジャカルタ以外の地域では、情報提供や活動の対象がジャカ

[23] ASEAN Japan Friendship Association for the 21st Century の略

ルタ中心になっている傾向があり、地域まで情報が行き渡らない、とする印象を持っている。IKA や KAPPIJA21 の本部と支部とのコミュニケーションも近年は途切れがちになってきているという指摘もあり、地方支部機能の再活性化が参加者の間で求められている。帰国研修員の間の同窓会活動や連携への意欲は概ね強く、帰国研修員や JICA 関連の活動の情報にアクセスできれば参加したいという希望を帰国研修員が持っていることが確認された。2001 年以降、行政も地方分権化が進み、今後地方での自主的なネットワークの動きが出てくることが見込まれる。また、企業活動やボランティアなどで地方をベースにする日本人も増えていることから、地域で帰国研修員間および帰国研修員-日本人とのネットワーキングの拡大、深化が期待される。

2-3 日本関係機関に対する面談調査の結果

2-3.1 面談の目的と調査対象機関

面談調査は、①類似の同窓会組織の活動からの教訓抽出、②帰国研修員が参加・貢献する機会があると思われる社会文化振興事業や民間企業振興事業の情報収集、③対象機関とJICA 帰国研修員の連携可能性の検討・打診の 3 点を目的として、日本及びインドネシアに拠点を置く関連機関へのインタビューを行った。

上記の目的にそって JICA インドネシア事務所との協議の上、面談対象機関を絞り込んだが、調査を進める過程でいくつかの機関を追加し、最終的に以下が面談対象機関となった。

表 2-8　面談対象機関

分野	日本に拠点を置く関連機関	インドネシアに拠点を置く関連機関
ビジネス・経済	・ 経済産業省 ・ 日本貿易振興機構（JETRO） ・ 海外産業人材育成協会（HIDA）	・ 日本商工会議所/ジャカルタ・ジャパン・クラブ ・ 住友林業株式会社 ・ JETRO ジャカルタ事務所 ・ HIDA ジャカルタ事務所 ・ JICA インドネシア事務所（中小企業海外展開支援事業担当） ・ 日本政府観光局(JNTO)ジャカルタ事務所
行政	・ 農林水産省 ・ 横浜市 ・ インドネシア共和国大使館	・ インドネシア農業省(アジア農業青年人材育成事業インドネシア同窓会 IKAMAJA) ・ 日本国大使館
学術	・ 東京工業大学	・ 国際交流基金
交流・その他	・ 日本ユースリーダー協会(DAY) ・ JICA 国内事業部	・ 国際交流基金

インタビューで得られた情報を分析し、以下に、2-3-2 類似の同窓会組織の活動からの教訓および JICA 帰国研修員との連携可能性、2-3-3 帰国研修員の参画・貢献ポテンシャルの高いセクターとその現状分析をまとめる。

2-3.2 類似の同窓会組織の活動からの教訓および JICA 帰国研修員との連携可能性

ODA 事業として実施されている産業人材育成研修（実施機関：HIDA）、また農林水産省補助金によるアセアン農業青年訪日農業研修（実施機関：国際農業者交流協会（JAEC）他）の参加者が各々インドネシアで形成している同窓会組織の概要を HIDA ジャカルタ事務所、インドネシア農業省人材育成局よりヒアリングした。同窓会組織の現状、優良事例、教訓等を共有いただき、JICA 帰国研修員との連携の可能性、ネットワーキングの教訓を探った。

＜海外産業人材育成協会（HIDA）インドネシア同窓会＞

海外産業人材育成協会（以下 HIDA）の元研修生は、帰国研修員と類似する同窓会（以下 HIDA・AOTS 同窓会）を組織している。日本で HIDA 研修を受けた元研修生による自発的な同窓会活動は、43 カ国 71 カ所に亘る。活動内容は国によって異なるものの、日本語教育、折り紙、スピーチコンテスト等の文化交流活動、5S（整理、整頓、清掃、清潔、躾）、カイゼン等のマネジメント手法に係るセミナーの開催、講演会、会員同士の親睦活動等多岐に及ぶ。

インドネシアでは、ジャカルタ、メダン、スマランの 3 都市に HIDA・AOTS 同窓会が存在し、その周辺にサテライト支部がある。ボーリング大会、スピーチコンテスト等の文化・スポーツ交流の他、企業からの発注によりインハウスで行う日本語教室を開講している。同窓会会員には会報やメーリングリストを通じて案内の送付等を行い、コミュニケーションを図っている。

HIDA・AOTS 同窓会の特徴の一つは、HIDA の事業運営の一部を実質的に担う機能となっていることにある。HIDA の事業は同窓会との連携で行われることが大半のため、ジャカルタ事務所と同窓会役員は日常的にメール、電話で連絡をとりあい、また役員が定期的に（月に１回程度）同窓会事務局（HIDA ジャカルタ事務所内）でミーティングを持っている。

HIDA・AOTS 同窓会が担う具体的な機能として、一つ目に HIDA が実施する「マネジメント研修」（2 週間、複数国参加）の募集、選考、インドネシア向け国別研修（年 2 本：①企業経営、②リーダーシップ研修各 25 名）の内容企画、募集・人選等を担う。募集・選考業務は経費がかかることから、HIDA は同窓会と委託契約を結び、業務費を支払っている。これらの研修プログラムについては、同窓会の発意と要望に基づきテーマが決められている。これら研修参加者（後に同窓会会員となる）は、製造業が中心だが、近年はサービス業界の人材も増えているとのこと。また、産業関連のシンポジウムを年に 1 回共催しており、２０１３年度のテーマは「産業人材の育成」、「２０１４年度のテーマは「自動車産業の動向」であった。これらのシンポジュウムは参加費が無料である。この他に、HIDA は「インドネシアを事例とする ASEAN における産業人材育成のモデル開発の可能性調査」を 2014 年度の事業として実施し、日系企業が求める人材のスキル、能力のニーズ調査を行い、人材育成カリキュラムを作成し、プルサダ大学工学部（5S、コミュニケーション、報連相を教える基礎講座）およびポリテク（電子工学の基礎）でパイロット事業を行っている。この事業に HIDA 研修生 OB が参画し、彼らの知見が発揮されている。また HIDA の事業の一環で実施される日本の中小企業若手社員や学生のインターンシップの受け入れ事業（25 人×6 か月）でも、同窓会はインドネシア側の受け入れ機関の発掘・調整を担っている。

HIDA・AOTS インドネシア同窓会の組織・実施体制は以下のとおりである。

- 同窓会登録者数 7,000 人、うちアクティブなのは 1,000 人程度（なお研修 OB 総数は 17,000 人）、会費なし
- 会長、事務局、メンバーで構成され、事務局秘書が HIDA 事務所内にデスクを持つ。現在、同窓会長は元アストラ・インターナショナル・グループ副会長のマルトノ氏で、元研修生の篤志家が役員になり、活動を支えている。同氏はダルマ・バクティ・アストラ財団の会長などをつとめており、CSR にも積極的で、

HIDA・AOTS 同窓会も同財団 CSR 活動の一環となっている。メンバーは、経営者層が多いため、利益目当てではなく、社会貢献活動として参画している。

・ インドネシア国内で NPO としての法人格を取得済みのため、HIDA の事業の一翼を担うにあたり、業務契約も取り交わすことが可能となっている。事業委託費が事務局機能の維持、ロジ面の費用に役立てられている。

・ また企業からの要請に応じ、日本語講師を派遣し、企業内日本語研修を実施しており、それが同窓会の収入源の一つなっている。

また、HIDA と同窓会との関係について、〝equal partner″であるとの認識が HIDA 本部、ジャカルタ事務所ともに浸透しており、日本側に軸足が置かれがちな〝帰国研修員の活用”というスタンスとは一線を画しているのが印象的であった。

また HIDA では　国を超えた元研修生の交流活動も活発である。例えば、同窓会同士の、国を超えた協力のために創設された基金である World Network of Friendship　(WNF 基金) が設置され、各国の HIDA・AOTS 同窓会が互いに専門家派遣、研修等を行える仕組みを備えている。基金の規模は 1 億円強で、一例としてスリランカの専門家をアフリカに送ったという事例がある。その他、4 年に一度、各国の同窓会メンバーが一度に会する同窓会代表者会議も開催されている。2014 年 10 月末に日本で行われた第 9 回 HIDA・AOTS 同窓会代表者会議では、日本で学んだ技術や知識を活かし、各国の産業技術分野で活躍する元研修生約 300 名が参加した。

このような同窓会活動が自発的かつ活発に行われている動機として、日本での研修という体験を基盤に同窓会を自主的に設立し、人材育成等の草の根活動を通じて、自国の産業界や地域社会の発展に寄与したいという思いや、研修を通じて培った人と人との信頼関係を維持したいという思いが挙げられる。これらは、比較的長期間に亘り研修を受け、日本に対する思い入れがとりわけ強い元研修生に多い模様である。一方で、研修期間が比較的短かった人が同窓会活動に参加する動機としては、同業者の集まりであるネットワークから得られる便益への期待がある。ビジネス研修で学んだ内容がそのまま自身のビジネスへ直結して活かされることに加え、研修及びその後の同窓会を通じて得られる産業界、財界、政界等とのネットワークが自身のビジネスにつながることへの期待である。実際、インドネシアでは、複合企業であるアストラグループの副社長や国家開発企画庁（BAPPENAS）の元長官等、各界の主要人物が研修生 OB として参加していることが、同窓会参加の動機につながっている側面もあるようだ。

次に、組織として同窓会活動が活発化するための促進要因の一つに、同窓会事務局からのコミュニケーションの頻度が関係している。インドネシアの HIDA・AOTS 同窓会は現在、会長、事務局、メンバーから構成されるが、事務局のスタッフが離職・不在となった時期は、メンバーとのコミュニケーションの頻度が低下し、活動が停滞気味となったという。新たに事務局スタッフを雇用して以降、日本から来訪者がある都度メンバーに声掛けをする等、コミュニケーションの頻度を増やしており、それが同窓会ネットワークの活性化につながっている。

また、同窓会へ思い入れのある人材を確保できるか否かも活性化の促進要因の一つである。HIDA・AOTS 同窓会では、時間や経済的に比較的余裕があり、社会貢献活動にも意欲の

ある経営者層が同窓会活動に熱心に取り組んでいるという話があった。特に同窓会が組織として確立されていない時期には、同窓会活動に手間暇を惜しまない人材がいるかどうかが活動の継続の鍵となりうる。それを経て、組織としてNPO法人格、事務局制度、役員制度等の体制を整備・強化することが更なる活性化につながっていくと考えられる。

❗帰国研修員支援へのヒント❗

- ➔ HIDA事業（HIDAジャカルタ事務所）は同窓会がイニチアチブを発揮し、活動できる機会・場を提供、
- ➔ HIDA と同窓会は日常的に連絡・協働（コミュニケーションをルーティン化、タイムリーな情報提供）
- ➔ HIDA同窓会の独立採算にむけた努力（日本語教師派遣による収入確保、HIDAから事業受注）
- ➔ 事務局機能（会員への情報発信、委託事業実施ができる体制の構築等）
- ➔ 有力ビジネスパーソンのリーダーシップをフル活用
- ➔ HIDA 同窓会同士が連携・協働する仕組み（基金）や場（同窓会代表者会議）を設置し、相互交流を後押し

＜IKAMAJA：IKATAN KELUARGA ALUMNI MAGANG JEPANG[24]＞

IKAMAJAは農林水産省ODA事業として実施されるアジア農業青年人材育成事業に参加し、日本の農家で 1～2 年近くに亘り研修を受けたインドネシア人研修生が組織した同窓会である（日本の農業組合の支援も受けている）。これまでに1,179名のインドネシア農家がアジア農業青年人材育成研修に参加し、日本の農業技術、農業経営、農産物の流通、加工、農業者組織の役割などを学んだ。うち約半数程度がIKAMAJAメンバーとして登録し、インドネシア国内で地元農家向けの農業技術アドバイスや農業ビジネスセミナー等の活動を実施している。インドネシア農業省人材育成局[25]がIKAMAJAの活動支援を行っている。

アジア農業青年人材育成研修参加者の選定はインドネシア農業省が行っており、毎年農業省が独自に実施する農業技術・ビジネス研修の参加者50名の中から、30-40名をスクリーニングし、日本に送り出している。農家・農業ビジネス経営者が研修参加の条件であり、農業青年人材育成研修の参加費の一部は本人負担となっていることもあり、参加者の熱意は高い。

IKAMAJA の活動趣旨は、①青年農業家に対するアグリビジネスにおける専門性の強化、②農業振興を通じた国家開発への貢献、③議会や省庁と連携とされている。メンバー（農家個人）は、各地で地元の農家向けの指導・助言等を日常的に行い、篤農家的な存在として活動している。またメンバーが自発的にネットワークを開拓し、日本への輸出等に成功

[24] 英文Japan Apprenticeship Program Alumni Association。アジア農業青年人材育成事業のインドネシア人参加者の同窓会。アジア農業青年人材育成研修事業の日本側研修実施団体は、①国際農業者交流協会（JAEC）、②NPO法人　I.A.E.A.JAPAN　（国際農業交流協会）在群馬、③新潟県国際農業交流協会（NAEC）、④熊本国際農業団体（KIAO）の4団体だが、KIAOは活動停止中。研修の実施にあたり、インドネシア農業省と各団体でMOUが締結されている。

[25] 正式名称The Agency of Extension and Agricultural Human Resources Development。局内の担当課はCooperation and Agriculture Training Center Sub Division。

した事例もある。農業省が把握している成功事例は、全体の10%程度にとどまるが、主な優良事例として以下が報告されている。

① 中部ジャワ州の農家がスウィートポテトの日本輸出ルートを確立。
② 別のジャワ島の農家が Melinjo をスラバヤ経由で日本への輸出を開始（Melinjo はお茶やケチャップに使用）
③ 種子の日本企業への輸出に成功。
④ 日本への農作物輸出のほかに、IKAMAJA 農家からインドネシア国内の日本食レストランへ卸す事例も増加（Cianjur や Rembang のプランテーションを日本食レストランオーナーが視察し、契約成立）

こうした IKAMAJA メンバーによる農産物輸出などの優良事例は、農業省主催が年2回開催する農業ビジネス研修（各回30名の受講者）で紹介・共有され、農産物の輸出促進を奨励する農業省も、優良事例の発掘・共有を重視している。

また日本の受け入れ農家と IKAMAJA メンバーの交流活動や親睦会も定期的に実施されている。農業省が主導し、日本側実施機関の協力を得て、受け入れ農家をインドネシアに招待し、リユニオン（親睦会）が開催されてきた。渡航費・滞在費は自費での参加となるが、2013年のマランでのリユニオンには日本の農家20名（“Father in Japan ”）が参加した。こうしたリユニオンの機会も、日イ農業関係者のネットワーク構築、ビジネスチャンス発掘に貢献しているとのことである。

地方における IKAMAJA の知名度を上げるため、農業省は各州、郡の農業局に日本研修から帰国した農家の紹介とともに IKAMJA を周知するレターを発出している。また IKAMAJA の活動費が十分でないことから、IKAMAJA メンバーが関わる研修実施費用（渡航費）負担やロジ面でのサポートも農業省が行っている。また情報共有等を通じた支援、活動奨励を行っている。

こうした活動に加え、アジア農業青年人材育成事業に参加した他の ASEAN 農家との合同研修が、持ち回りで実施されている。合同研修のテーマは、毎年各国が１，２のテーマを提案し、その中から決められるが、2013年にインドネシアがホストした研修テーマは、①Goat Milk training ②Rice Processing の2本で、1コースあたりの参加人数は、2名／国×10か国で合計20名（この研修には、元研修生以外の農業研究者や実践家も含まれる）。研修実施費用、参加者の渡航費を農業省が負担している。

IKAMAJA の実施体制は以下に示すとおりである。

- 会員登録は日本研修から帰国したタイミングで、登録料（250,000ルピア）を納入（一度きりの終身会費）。
- 会長、事務局長、秘書が事務局本部を担う。本部では2週間に1度、ミーティング。
- 年次総会を開催し、会長選挙は4年に1回実施。
- NPO 法人（yayasan）としては未登録だが、経済活動団体として登記済み。
- インドネシアの全農家を対象とする KTNA（National Farmers/Fishermen Gathering in Indonesia） という組織があり、現在 IKAMAJA のメンバーが同組織の会長となっている。
- 事務局と会員のコミュニケーション SMS を通じたコミュニケーションがメイン。イ

ンターネットへのアクセスがない地方農家もあり、携帯電話で連絡。

Box 5: 同窓会活動参考事例 - 農家研修同窓会 IKAMAJA の取り組み

IKAMAJA は農業技術の習得を目的として日本の農家で研修（農林水産省補助事業）を受けたインドネシア人農家が組織する同窓会で、インドネシア農業省がこれをバックアップしている。

IKAMAJA メンバーの一人、Mr.Agus Ali Nurdin は、2008 年から 1 年間、和歌山の農家に滞在し、稲作とミカン栽培技術を学び、帰国した。その後、ボゴール農科大学で夜間学びながら学士を取得する傍ら、Cianjur 市で仲間とともに“起き上がるファーム”を立ち上げ、近隣農家を巻き込んで、キャベツ、ダイコン、ホウレンソウ等の野菜栽培を行い、近年はジャカルタやバンドンにある日本食すしチェーン、牛丼フランチャイズ店に提供している。また 2015 年からは日系大手スーパーに出荷することが決まっている。ビジネスの傍ら、日本の農家で学んだ時間管理や計量に基づく農薬等の適性利用方法など、近隣農家に対する普及研修も行っている。IKAMAJA には、Mr.Agus Ali のように、研修終了後も日本とのネットワークを維持し、またインドネシア国内に進出している日系企業とパートナーシップを構築して、活動しているメンバーも多い。

インドネシア農業省は、こうした IKAMAJA メンバーを講師に迎え、農業研修（インドネシア国内）で農業技術 k、農家経営の成功事例を普及し、日本の農家や在インドネシアの日系食品ビジネス関係者とのつながりを強化しようとしている。この一環で、IKAMAJA メンバーをデータベース化し、メンバーの動向や成功事例の蓄積にも努めている。データベースには、メンバーの連絡先、日本での研修受講年・研修地、栽培中の作物、出荷先、所属する組織や日系ビジネスとのパートナーシップの状況等が記録され、検索できる。

IKAMAJA のデータベースは、JICA 帰国研修員データベースの構築にあたり、参考となる可能性がある。

INDONESIAN YOUNG FARMERS
起き上がる
OKIAGARU FARM

❗ ❗帰国研修員支援へのヒント❗

- ➔ セクター省庁が主導する同窓会ネットワークとしての IKAMAJA のモデル性（同窓会支援が省の機能の一つとして組み込まれ、IKAMAJA の活動や広報、日本側関係機関とのネットワーク維持を支援）
- ➔ メンバーの個人業績、成功事例を把握し、組織内で共有する仕組み（研修）の

導入
➔ 他の ASEAN 諸国農業家との定期交流の実施（農業省による研修実施費用、参加者の渡航費の負担）
➔ SMS、電話を使った全土に広がる会員とのコミュニケーション

2-3.3 帰国研修員の参画・貢献ポテンシャルの高いセクターとその現状分析

本調査では日本側関係機関から帰国研修員の参画・貢献が期待されている分野・領域として、ビジネス・経済、学術、文化交流、行政分野の動向・ニーズを分析した。特にビジネス・経済分野では、日本側関係機関からの要請や期待の高い日系中企業支援、CSR、訪日観光誘致を抽出した。

2-3.3.1 ビジネス・経済分野の動向・ニーズ

（１）日系中小企業

インドネシアはASEAN最大の市場（世界第4位の人口規模）を抱え、安定した政治、経済、社会情勢を背景に、消費市場としても注目が集まる。近年は人件費を中心に、事業コストが上昇し、インフラの整備、ビジネス環境の改善は道半ばというところもあり、必ずしも日系を含む現地企業を取り巻く環境は楽観視できるわけではないが、内需型産業を中心に、現地でのビジネス展開意欲は強く、リスクを上回る十分なリターンがあると判断している企業は多いという。[26]

実際JETRO/SMEJには、350社の中小企業が登録しており、毎月100件近いインドネシア進出相談が中小企業から寄せられている。ジャワ島以外はバタム島、スマトラ島、バリ島、スラウェシ島の相談があるものの、五指に入るほど少ない。進出企業の9割以上がジャワ島内、とりわけジャカルタ首都圏に集中している。人件費が割高でもジャカルタ周辺を選ぶ理由は、市場や情報、サービスへのアクセスが担保されることによる。輸出業は中部ジャワにも多い。

大手企業は、独自に省庁やインドネシア財界とのパイプやネットワークがある一方で、中小企業は進出の足場固めに奔走し、拠点を構えてからも各種法規制、税制、商習慣、環境配慮等の様々な課題に直面している。特にインドネシア国内法制は、頻繁に法改正があり、また法律施行、制度運用上の実態が掴みづらい面もあるため、特に中小企業は苦労することが多いという。また、日系企業のインドネシアへの進出が加速する中、これまでの労働者メインの雇用から、技術者や経営幹部等、高度な専門性を有する人材の雇用へと、現地人材へのニーズの多様性が増している。そのような中、日本関連のビジネス従事経験や、日本語に堪能、日本の商習慣への知見を有する等の経験・資質を有する人材の情報を求める企業も増えている。こうした日系中小企業が抱える共通のニーズ・課題は以下にように整理される。

[26] JETRO海外調査部アジア大洋州課 ″インドネシア最新動向”2014年10月

- 現地スタッフ（社員）の人材確保（特にマネジメントレベルの現地人材）
- 現地スタッフの人材育成
- 信頼できる情報入手ルートの確保
- 税務、法務、労務、環境規制・配慮への対応等の経営管理上の知見・助言
- 商習慣等に日常的な事業管理上の知見・助言

中小企業の現地駐在者は、通常、１人から、多くても 3，4 人の日本人駐在員で現地スタッフの採用、事務所立ち上げ、総務、人事、営業、事業などを切り盛りしており、物心両面で厳しい環境に直面することも少なくない。このため、経営上直面する上記のような課題等について、カジュアルな形で意見・助言を求められる親日的なインドネシア人とつながることは中小企業のニーズに適う。また特定の個別課題の解決に際し、関係行政機関等への橋渡しなども期待されている。時として語学的なハンデなどがあり、行政機関とのコミュニケーションのきっかけのない中小企業駐在員にとり、親日的な JICA 帰国研修員との交流・ネットワーキングは有意義なものとなる可能性が高い。

業態としては、従来、自動車産業を中心とする製造業が多勢だったが、2012 年を境に減少傾向で、近年は教育、医療、飲食などのサービス産業も増えつつある。また在京インドネシア大使館によると、日系企業・機関から寄せられるインドネシアのビジネスにかかる照会としては、近年、農業や水産、畜産等の産業分野に関する照会が増えているとのことである。これらの分野においても、将来的に帰国研修員との連携の可能性があると考えられる。

帰国研修員支援へのヒント

- ➔ 帰国研修員との協働・連携を実現するためには、関係者のニーズのマッチングが不可欠であり、この観点から、日系企業への支援を行っている JETRO ジャカルタ事務所や HIDA ジャカルタ事務所と JICA インドネシア事務所の間で、定期的な情報交換を行うことが有益と考えられる。
- ➔ またビジネス分野や日系企業との協働に関心のある帰国研修員を募り、在ジャカルタの日系中小企業駐在員との交流機会を設けることが、連携・協働のきっかけとなると思われる。

（２）CSR

インドネシアには大手企業も多く進出しており、CSR 活動に独自に、あるいは JICA との連携で取り組む企業も多い。メラピ火山国立公園周辺で JICA との連携により森林保全 CSR 事業を実施する三井住友海上や Pt. Tech Indonesia の要請を受け、実施機関としてプロジェクト管理を担う住友林業へのインタビューを通じ、CSR 活動における帰国研修員との協働可能性を検討した。

CSR 事業として森林保全に関心を寄せる企業はかつて多数あったが、現在は教育分野をはじめ多様な CSR 活動があり、また森林保全は事業予算が多額になるため、かつてほどは多くない。木材関連ビジネスの企業からは引き続き関心が寄せられている。

森林保全活動 CSR では、地元コミュニティの協力が不可欠であり、特に事業計画段階で、森林・環境保全への意識やコミットメントの高いコミュニティを見つけ出すのが鍵となる。

人づてにコミュニティを探し、事業形成しているのが現状だが、地元の帰国研修員にコミュニティ探し、キーパーソン探しに協力してもらう余地はある。また小学校等での啓発活動やコミュニティ参加の植林イベントに地元の帰国研修員・同窓会員が協力・参加する形での協働もありえる。現在は、ジャカルタ近郊での新たなCSR事業の検討を進めており、形成段階では本社が主導することから、必要に応じ、本社担当者が関連分野・地域の帰国研修員と直接コンタクトできるとスムーズとのこと。

またJJC/日本商工会議所へのインタビューでは、日系企業に対するCSR活動についてのアンケート調査の結果、CSRとしてインターンシップの受け入れに関心を寄せる企業が50～60社ほどあったとのことである。JJCには以下の業種の日系企業が会員登録している。

JJC会員業種別　企業数　（2014年10月30日現在）
商社（50社）、電子・電機（51社）、自動車（98社）、機械（37社）、金属（33社）、運輸（28社）、金融保険（41社）、生活用品（22社）、化学品合樹（67社）、燃料（6社）、農林水産（16社）、建設不動産（67社）、繊維（12社）、公的団体等（57社）

上記の聴き取りを通じて、在インドネシア日系企業のCSR活動における帰国研修員との協働ポテンシャルとして見出された活動は以下のとおり。

帰国研修員支援へのヒント

- ➔ 地元コミュニティを巻き込んだ日系企業のCSRイベント（植林、防災教育、コミュニティ清掃等）への帰国研修員・家族の参加を奨励するため、JICAに蓄積された帰国研修員データベースを活用し、JICAインドネシア事務所や同窓会支部を通じて、イベント情報を発信・広報していくことが有効と思われる。
- ➔ CSR事業形成・実施におけるリソースパーソンとして、帰国研修員の参画（地元コミュニティや関連行政機関窓口との橋渡し、関連情報の提供等）を得るために、地域毎、またセクター毎にCSR、官民連携、コミュニティ事業に関心のある帰国研修員を抽出できる仕組み備えたデータベースの構築が望ましい。

（3）訪日観光誘致

インドネシアには、日本語学習者が87万人いるといわれ、日本政府は、日本語学習者をはじめ、日本に関心をもっているインドネシア人への訪日観光誘致に力を入れている。2014年3月には日本政府観光局（JNTO）がジャカルタ事務所を開設し、インドネシア人個人旅行者ならび旅行業者を対象とするプロモーションに力をいれている。

2014年12月からはIC旅券保有者には短期滞在ビザが免除となった。インドネシア人観光客の誘致に、日本側自治体も前向きである。たとえば愛知、岐阜、静岡の中部3件は、インドネシアからの観光客を対13年比の2.6倍の10万人に引き上げることを目標とし、自動車工場見学、テーマパークや温泉紹介などを強化している。

一方、インドネシア内での誘致活動は、人口サイズや日本へのアクセス状況を勘案し、現時点ではジャカルタ、スラバヤ、メダン、ついでバンドン、マカッサルがプロモーションの優先都市となっている。

こうした中、日本政府観光局（JNTO）ジャカルタ事務所は帰国研修員との連携に積極的

であり、すでにKAPPIJA21とコンタクトがあり、KAPPIJA21/AJAFA21のイベントにJNTOがブースを設置したこともある。JNTOとのインタビューを通じて、挙がった帰国研修員への期待、連携のアイデアは以下のとおりである。

帰国研修員支援へのヒント

➔ 間もなく発刊予定の JNTO ニュースレターの帰国研修員/同窓会員への配信ができるようデータベース等を整備する。

➔ 特にジャカルタ、スラバヤ、メダン、バンドン、マカッサル等のプロモーション優先地域を念頭に、これら都市の在住の帰国研修員/同窓会員に対し、JNTOのイベント等案内を通知できる体制を整備する。彼らが広報塔となって、知人・友人へのイベント告知を拡散できるよう、facebook 等の手軽なメディアの活用が有効と考えられる。

2-3.3.2 行政分野の動向・ニーズ

＜自治体連携・自治体の国際化＞

横浜市では、既にJICA帰国研修員との連携を活発に進め、自治体連携や自治体による国際協力事業のモデルとなる先進的な活動を行っている。JICA研修員の受け入れ自治体による帰国研修員との連携事例や自治体主導の国際協力の現状を以下のとおり聴取し、他の自治体での適用も念頭に、ネットワーキングのあり方等を考察した。

横浜市水道局は、1973年から2013年度末までに通算2,600名の研修員の受け入れを行い、インドネシアからは主にメダン水道公社からの研修員を中心に、これまでに74名を受け入れている。これら元研修員とのネットワークを活用し、「第3回アジア地域上水道事業幹部フォーラム」[27]などの市が実施するイベントや事業に元研修員が参画するなど、横浜市と元研修員のネットワークが持続されている。

また元研修員とのつながりを活用し、JICAが近年、力を入れる民間連携事業の案件形成が実現した事例もある。17年前に水道局の研修に参加した元研修員で、現在、北スマトラ州水道公社の総裁が横浜市水道局を再訪し、漏水問題への協力依頼を横浜市に行った。それに応える形で漏水探索器を開発した横浜市内の中小企業と横浜市が、JICAに対し「民間提案型普及・実証事業」として提案を行い、採択・実施されている。またJICA草の根事業の採択を受け、絶滅危惧種であるカンムリシロムクの保全のための活動を行う「カンムリシロムク野生復帰事業」[28]でも、2004年以降年に2回、研修員の受入れと現地への専門家の派遣を行っている。

この他、横浜市ではY-PORT（Yokohama Partnership of Resources and Technologies）事業[29]と呼ばれる横浜市の街づくりの技術・ノウハウの新興国への展開を推進する事業を

---

[27] 横浜市・JICA共催、2014年7月実施。フォーラムにはインドネシア他、アジア各国より30名程を招へい、国内の水道関連企業や自治体を含め計300名程が参加した。

[28] 横浜市環境創造局公園緑地部動物園課繁殖センターが平成15年より技術協力を実施している。横浜市は希少動物に特化した繁殖センターがあり、カンムリシロムクの飼育施設も持っていたことが協力開始のきっかけとなった。

[29] 高度経済成長期に横浜市が経験した都市開発課題（公害、ゴミ、交通等）への解決のための経験やノウハウを新興国に展開する事業。「公民連携」と称し、大企業との包括的連携、海外展開を志向する地元

行っており、インドネシアへの展開も始まっている。バダム島からはゴミ焼却関係に関する要請が来ており、今後連携する可能性がある。また毎年秋に横浜で開催される「アジア・スマートシティ会議」ではアジア各国から代表者が来日し、2014 度は 22 都市が参加し、インドネシアはジャカルタ、マカッサルからも参加があった。さらに横浜市は CITY-NET（アジア太平洋都市間協力ネットワーク）[30]と呼ばれる 130 以上のアジア太平洋地域の加盟都市における都市問題や市民の生活環境の改善を目指すネットワークにも参画しており、都市間のネットワークを活用したプロジェクトの企画・実施、研修、情報発信等、多様な事業を行っている。こうした国際会議や、多地域間協力ネットワークの中に、JICA 帰国研修員が参加し、共同事業の実施や情報交換を行っていく可能性が大いにある。

在京インドネシア大使館との面談では、インドネシア側で近年、都市計画、交通管理、上水管理等へのニーズ、とりわけ日本の自治体による協力への期待が高まっており、横浜市のスマートシティプロジェクトにはマカッサル市等からも視察団が来日したとのことである。また日本の行政システムを導入するインドネシアの自治体等もあり、自治体間連携に対するインドネシア側のニーズの高さが確認された。同時に、日本側では特に少子高齢化が進む地方都市において、地域の活性化を視野に、海外進出政策を打ち出す自治体も増えていることから、自治体間連携事業は日イ双方に高い相乗効果が期待でき、また帰国研修員とのネットワークが活きる領域と考えられる。

横浜市が帰国研修員とのネットワークを維持･活用してきた経験から得られた JICA 帰国研修員支援のヒントは以下のとおりである。

帰国研修員支援へのヒント

- ➔ CITY-NET では、年に 3～4 回ニュースレターを発行する他、メーリングリスト、Facebook 等のソーシャルメディアを用いて交流活動を行っており、特に近年はネットワーキングツールとして、ソーシャルメディアの利用が不可欠となっている。
- ➔ 近年、横浜市で受け入れる研修員については、顔写真も添えてデータベースを整備しており、研修期間中のみならず、フォローアップの際にも活用している。
- ➔ 協力関係の継続のためには、都市間の協力フレームワークがないと一回限りの付き合いで終わることも多く、都市間、自治体間の協力枠組みがあることが望ましい。
- ➔ 元帰国研修員がスマトラ州水道公社総裁となり、思い入れを持って横浜市を再訪したのを機に、協力事業が形成された事例にみるように、日本での研修期間中に研修

中小企業への支援等を行っている。また都市づくりに関する技術協力について覚書をセブ市、ダナン市、バンコク市と締結し、都市間協力を進めている。具体的には調査団の派遣、企業のニーズ掘り起し（ビジネスマッチング）等を行い、これらの成果を JICA の民間連携スキームにつなげており普及・実証事業や F/S 調査にこれまで横浜市の企業が 9 件採択されている。

[30] CITY-NE は、アジア太平洋地域の都市問題の改善・解決、都市に住む市民の生活環境の改善を目指す国際的なネットワーク組織で、1987 年に設立された。2013 年 12 月 1 日現在、24 か国・地域において 135 会員（86 都市・49 団体等）を有する。主な活動分野は、環境（固形廃棄物処理、水と衛生）、インフラ、防災、ミレニアム開発目標、情報伝達（ICT）の 6 分野で、それぞれの分野で主として C2C（City to City）の関係で都市間技術協力、専門家の派遣や受け入れなどを行なっている。日本での活動を行うため、2013 年にシティネット横浜プロジェクトオフィスが開設され、国際協力事業の企画・実施やセミナー・研修等の開催を通じて、シティネット会員都市/団体と、知識・経験・技術・ノウハウを共有し、各都市が抱える問題解決に貢献している。（http://www.city.yokohama.lg.jp/seisaku/kokusai/cooperation/ 2015 年 1 月 7 日アクセス）

員が受け入れ地域や組織に対し、どれだけ信頼や愛着を持つかが、その後の関係性の持続や協働機会の発現に少なからず影響を与えると思われる。

➔ 帰国研修員との相互交流を継続する上で、自治体予算のみで対応することは財政的に厳しいため、JICA 草の根技術協力を横浜市は活用している。

➔ 一般的に国家公務員に比べ、自治体内での人事異動は範囲が限られていることもあり、日イ双方のコンタクトパーソンのつながりが維持されやすい可能性がある。

＜その他の行政分野における連携＞

行政分野において、日本の関係機関から共通して聞かれた連携への期待は、インドネシア及び日本で行政が実施する事業やイベントに帰国研修員の知見やネットワークを活用できないかというものである。例えば、農林水産省では 2014 年 6 月に策定された「グローバル・フードバリューチェーン戦略」の中で、農林水産物の生産から消費に至る各段階の付加価値をつなぎ、産学官連携で日本の強みを活かしたフードバリューチェーンの構築を推進している。その中で日本の食産業の海外展開や食にかかるインフラ輸出を JICA や JETRO と連携し、ASEAN 地域では日系企業や現地企業とも提携しながら、活動を展開している。そのような中、現地で行われる農林水産物の輸出促進に向けた日本食フェア、見本市や展示会等の実施に際し、帰国研修員のネットワークを通じた情報発信や交流推進への期待が寄せられた。この他にも、日・インドネシア経済連携協定に沿った経済活動の連携の強化を目途とした行政事業においても、帰国研修員ネットワークに対する類似の期待が存在すると考えられる。

帰国研修員を通じた日イ間の行政分野のネットワークの可能性、とりわけ中央省庁間のネットワーキングや連携の可能性を検討する上で、直面する現実的な課題として、双方の国家公務員の人事異動によるコンタクトの喪失が挙げられる。青年招へい/青年研修参加者を除くと、JICA 帰国研修員の大半が国別・課題別研修に参加した公務員であり、日本と同様、頻繁な人事異動による職務や職制の変更がある。このため、研修員が滞日中に形成した属人的な絆や信頼関係が、組織間の関係性に発展し、定着する前に、当人の異動を機にコンタクトが失われることが非常に多いことが判明した。

現在は研修を受けた側と受け入れた側の双方で、思い入れを持った個人同士がかろうじてつながっている状態である。その関係性を日イ双方の中央省庁内で組織的なものとして定着させることを目指す場合は、双方の行政機関内で知日・親日グループ、知尼・親尼グループのネットワーク形成の必要があると言える。しかし同じ省庁内でも、異なる時期、異なる研修に参加した帰国研修員らが、自発的にネットワークを形成することは現実的には難しく、さらにそのネットワークを省庁を超えてつなぎ、維持することは非常に難易度が高い。実際に 1981 年にインドネシアで設立された公務員帰国研修員の同窓会 IKA は実質的に機能がかなり低下していることが指摘されている。

こうしたことから、HIDA・AOTS 同窓会に見られるような強力なリーダーシップと求心力のある公務員帰国研修員を探し、リーダーとしてたてる可能性を探りつつも、人事異動による頻繁なリーダー交代の可能性も念頭におけば、より専門分野に特化した行政領域毎のネットワークを構築し、研修員らが担当業務や専門性育成面に有用となるコミュニケーションができる場やネットワークの構築を検討することが現実的と考えられる。帰国研修員

が同窓会やネットワークに参画しようと思うだけの実利的なインセンティブをいかに創出するかが、行政分野における帰国研修員ネットワーク、とりわけ中央省庁に所属する研修員ネットワークに要請される課題と考えられる。

2-3.3.3　学術・教育分野の動向・ニーズ

学術・教育分野においては、大学のグローバル化に加え、文部科学省による「留学生 30 万人計画」が掲げる 2020 年までに 30 万人の留学生の受け入れが大きな政策課題となっている。こうした背景の下、面談を行った東京工業大学も留学生の受け入れに積極的で、大学院教育を中心として、優秀なインドネシア人学生・研究者の発掘や招へい、共同研究を実施したい考えである。博士・修士課程に在籍する留学生数は全体の 20%程度。留学生は研究の戦力となっており、とりわけ ASEAN からの学生への期待も大きい。こうしたインドネシア人学生・研究者の発掘や紹介に協力できる帰国研修員は、東京工業大学をはじめ、留学生の受け入れを推進する多くの学術機関にとって心強い存在であろう。また、留学生や研究者のみならず、将来、日本とインドネシアの架け橋となる若手人材を発掘し、日本の高校での受け入れも視野にいれた帰国研修員との情報交換や留学準備を支援できる帰国研修員ネットワークへの期待も寄せられた。

一方、インドネシア大使館からのヒアリングによると、インドネシア側のニーズとしても、インドネシアにおける日本の学術的地位は米国、ドイツに並んで高く、留学先として期待されている。さらにインドネシアは世界中で最も日本語学習者が多く、日本語教育へのニーズが高いことも知られており、インドネシアの高校や大学における日本語教育や日本文化研究等の分野で、特に滞日機関の長かった研修員や、日本の家庭でホームステイを体験した青年招へい研修参加者の活躍の場も多くあると考えられる。

また東京工業大学での面談では、日本の学術機関で学んだインドネシア人留学生の帰国後の進路選択でも、帰国研修員の寄与が期待された。具体的には、卒業・帰国後の就職先を探すインドネシア人留学生が、既に官公庁において一定のポジションにある帰国研修員と交流し、アドバイスを得られるような機会やネットワークを築きたいというものである。日本で学んだ留学生と、同じく日本で研修を受けた知日派・親日派の帰国研修員を結び付けることができれば、日本・インドネシアをつなぐ人材の層の厚みが増し、両国の関係強化により大きな効果を生み出すであろう。

上記を実現するにあたり、帰国研修員が日本の学術機関で学んでいる現役学生が参加する在日インドネシア留学生協会（PPI）[31]やインドネシアに帰国した留学生により組織されるインドネシア元日本留学生協会（PERSADA）[32]とつながる場やネットワークの創出が期待

---

[31] PPI の活動は、メンバーが所属する各大学の活動に加え、PPI 全体としての事業もあり非常に活発である。例えば東京工業大学では、大学の OB 会である蔵前会が主催する蔵前芸能大会に PPI の学生が参加し、民族楽器の演奏等を行う等、交流が図られている。

[32] Perhimpunan Alumni Dari Jepang（インドネシア元日本留学生協会）。PERSADA はボランティアの非営利組織で、ジャカルタに本部を置き、インドネシア国内の 13 か所に支部を持つ。国の将来を背負って立つインドネシア人材の結束をはかり、日本との関係を維持・強化することを目的として 1963 年に設立された。会員は日本のカレッジや大学を卒業し、長期研修生として日本に滞在したことのある元留学生で、現在、正会員（active members）は 1,200 人、このほかに数千人の支持者（sympathizers）がいる。
http://www.studyjapan.go.jp/jp/ath/ath03j_06.html　accessed 2015/1/6

される。例えばPPI東京工業大学支部では理工系教育の支援を目的とした奨学会活動を独自に行っており、年に1度奨学金を利用してインドネシアから学生を招へいし、企業からも人を招き関連する分野のシンポジウムを開催している。また4年に1度PPI全世界大会も開催され、日本ばかりでなく各国に留学している学生や大使等が集い、大規模な活動が行われおり、このような場に帰国研修員がリソースパーソンとして参画する可能性もあろう。PPI、PERSADA等、留学生ネットワークは、学生同士のコミュニケーションの場としてのみならず、日本で学んだことを自国に還元し、貢献したい、日本とインドネシアの絆を強くしたいという留学生一人一人の使命感が大きく、非常に活発に活動や情報交換が行われている。彼らの日イ関係の強化や自国の開発に対する思いは、帰国研修員の思いとも一致するところである。

また研究者や大学教員等の学術分野の帰国研修員に対しては、留学中の研究成果を高める観点からの帰国研修員フォローアップの実施要望が高いとのことである。例えば科研費を用いた元留学生（帰国研修員）との共同研究、日系企業から支援を得て留学生への奨学金を出す等のアイデアが寄せられた。

2-3.3.4　国際交流・その他分野の動向・ニーズ

＜国際交流・青年育成＞

国際交流を行いながら次世代リーダーの育成支援を担うNPOが増えているが、中でも、日本ユースリーダー協会は長年にわたるJICA青年招へい・青年研修事業[33]の研修員受け入れ実績を活かし、帰国研修員と連携しながら、日本・ASEAN の青年の育成のための活動を行っている。インドネシアでは青年招へい/青年研修に参加した帰国研修員が1985年に同窓会組織KAPPIJA21を立ち上げており、またASEAN各国にも同様の同窓会組織が設立され、さらにASEAN各国の同窓会連合としてAJAFA-21(ASEAN-Japan Friendship Association for the 21st Century）が組織されている。日本ユースリーダー協会はAJAFA-21の各種会合にオブザーバー参加し、インドネシアをはじめとする各国帰国研修員とのつながりを維持し、また協会が独自に実施する Global Education Tour (GET)他、日本の若者を海外に送り出すプログラム等を帰国研修員と連携して実施している。具体的にはKAPPIJA21が、受け入れサイトでのオリエンテーションの実施やホームステイや学校訪問のアレンジを行う等の協力が行われている。

2006年まで実施されてきた青年招へい研修は、専門分野に関する研修に加え、日本の家庭でのホームステイや地域における文化交流等を始めとした国際交流プログラムが含まれており、日本の社会や文化への理解を高め、心の交流が叶う要素が多く盛り込まれた内容となっていた。このため、帰国した後も、ホームステイ先や受け入れ団体との交流が続けられ、また研修員同士の結束も強く、研修で得た経験や価値観、思いを母国での地域活動に生かしながら、日本とのつながりを持続させたいという思い入れのある研修員が多い。このような強い思いがKAPPIJA21の活発な同窓会活動につながってきた。2007年から技術研修の趣が強い青年研修に移行後は、青年招へい時代に見られた心のふれ合いから醸成さ

[33] 独立行政法人の整理合理化の一環で、青年招へいの交流プログラムは2006年に廃止され、2007年から青年研修となり、交流要素を削減・排除した技術研修に改編された。

れる日本への強い思い入れは、若干減少傾向にあるようで、むしろ専門分野に特化した領域において、日本との接点を求める帰国研修員が多くなっている模様である。

KAPPIJA21 は非常に親日的かつ活発に活動し、学生をはじめとする日本からの訪問者の受け入れにも前向きであることから、日本ユースリーダー協会からは、引き続き KAPPIJA21 との交流機会を継続的に作り出したいという意向が示された。KAPPIJA21 や他国の帰国研修員ネットワークと日本、もしくは ASEAN 各国の大学生を始めとする若い世代が連携することにより、次世代の人材育成を共に担う活動を今後も強化していきたいとのことである。

今回の面談先は、日本ユースリーダー協会のみであったが、同協会と同様、日本・ASEAN 地域の若手人材の育成に取り組む NGO/NPO が企画する訪イ研修・ホームステイ、インターンシップ等の事業は拡大していくもの思われる。現に JICA 事務所や技術協力プロジェクトにおいて学生や NGO の訪問を受けることも多いことを踏まえれば、今後、彼らの受け皿として KAPPIJA21 やまた KAPPIJA21 メンバーではなくとも、学生の受け入れに関心を寄せる各地の帰国研修員との連携・協力を拡大していく可能性は大いにある。

国際交流基金との面談では、2015 年から今後数年間をかけて日本語パートナーズと呼ばれる日本人ボランティアをインドネシア全国各地に派遣する計画があるとの情報を得た（派遣人数は 1,900 人、初回バッチは 100 人が訪イ予定）。先述のとおりインドネシアには日本語学習者が非常に多いものの、ネイティブスピーカーによる学習指導が限られている現状を踏まえ、主に日本語教育のコアとなる地域の高校を対象に日本語学習補助員として日本人ボランティアの派遣が合意されたものである。国際交流基金は、今後、各地に派遣される日本語パートナーズと各地域の帰国研修員との交流や支援を期待している。このように日本語パートナーズの配属地域在住の帰国研修員や KAPPIJA21 支部ともつながることも有益と考えられる。このための情報提供が KAPPIJA21 や JICA インドネシア事務所からなされることが望ましい。

また、国際交流基金では、セクターや研究者・実務者を超えた専門・学術交流を実施している。2011 年以降、力を入れているのが、東日本大震災からの復興する日本の姿を日本研究者にも知ってもらうことで「災害復興」「防災」というテーマでセミナーを開催している。そこに、インドネシア防災庁の行政官である JICA 帰国研修員が参加し、活動における JICA との接点、関わりが生じている。日本研究は元々は日本語、日本文学、日本文化から始まったが、その後、領域が歴史や社会学など社会科学系、それ以外にも拡大してきている。「防災」などだと工学や技術系、開発関連課題にも関わってくるので、そこに JICA 帰国研修員が参加できる。このほか、「環境」もテーマにしている。学問がたこつぼ化していく中で、可能な限り学際的なものを広めていく方針である。日本語、日本文化、日本文学を研究している人達にも、現代社会が抱える問題につながるような研究を奨励している。

国際交流基金は Persada とは様々な連携を行っている。インドネシアの日本語能力試験は Persada に事務局を委託している。また、KAJI Kai とはイベントで協力している。

参考情報であるが、日本のコミックの学園ものの影響で今は「文化祭 Bunkasai」がインドネシア語になっており、文化祭が各地の大学や高校で行われている。文化祭で数万人を集客するケースもある。

＜在インドネシア日本大使館と日本友好組織、同窓会との連携＞

日本大使館がコンタクトのある日本関連の同窓会、友好団体としては、主なものでPersada、KAJI 会、JICA 帰国研修員、東南アジア青年の船の OB 会のほか、ジェネシス、ハビビ奨学金（BPPT 奨学金制度）のネットワークなどがある。イベントに応じて、大使館から各組織のコンタクトパーソンに声かけを行っている。日本大使館では、年に 1 回大使館でオールジャパンミーティング（AJM）が開催されているがそこにはインドネシア国内各領事館、JICA、JF、JETRO も含めた日本政府関係機関が一堂に会し、様々なテーマについて話し合いが行われる。AJM には、昨年まで各州のプルサダ組織の役員に参加してもらっていた。AJM にはプルサダの他にも友好組織や JJC 会員などが参加している。AJM において、現在政治経済のトピックが中心であるが、留学生、観光客も増え、EPA による介護士派遣も続いている。人的交流については今後様々な場面で話題に上ると思われる。プルサダや KAJI 会の若手から日本友好組織の横のつながり、プラットフォームの活動が期待されている。

日本大使館は、ジャカルタ日本まつりは実行委員会とジャカルタ州政府と共催で実施している。Japan Festival in Indonesia, KAJI のさくらまつり、縁日祭、各地の大学や高校の文化祭など、日本関連の催しが各地で毎週のように行われている状況である。

＜JICA 事業における帰国研修員連携＞

JICA 国内事業部からは、JICA における案件発掘を含む案件実施時に、関係する分野の知見を持つ該当地域に居住する帰国研修員にアイデアやアドバイスを求め、具体的に連携・協働の場を設けていくような方策の導入の提案があった。JICA 事業の中で帰国研修員の知見等を生かし、活躍する機会を醸成していくことは、帰国研修員やその所属組織と JICA 双方に相乗的な便益が生じると考えられる。先に見たように、HIDA では既にこのような取り組みが日常的に行われ、HIDA・AOTS 同窓会のメンバーが HIDA 事業運営の一翼を担い、そのことが同窓会の活性化やメンバー間のネットワーク強化にも寄与していると考えられる。一方、現実的な観点からは、多様な分野のニーズに応え、様々な組織がかかわって構成される JICA 事業では、多種多様な帰国研修員の専門性や意向とのマッチングを行うのは容易ではないのも事実である。しかしながら、高い専門性を持ち、ODA 事業への貢献にモチベーションのある帰国研修員をリソースパーソンとして把握し、コミュニケーションを維持することは、中長期的に日イ関係の強化に資する重要な取り組みと考えられる。このことから、それを実現するためのデータベースの構築や、リソースパーソンの発掘に今から着手することは一考に値する。

2-4　調査結果の分析

上述の 2-1～2-3 の調査結果について、全体的傾向と特徴を以下のとおり概観し、各調査結果から引き出されるニーズやネットワーキングや活動展開におけるポテンシャルについて確認を行っていく。帰国研修員対象の質問紙調査およびフォーカスグループディスカッションの結果分析を表 2-9 に、日本関連機関対象の面談調査の結果分析を表 2-10 にそれぞれ示す。

表 2-9　帰国研修員の意識・ネットワーキングの現状の概観

No.	項目	結果	抽出されたニーズ、ポテンシャル
1	JICA 帰国研修員同窓会についての情報	• 同窓会の会員は回答者の 53.9%で、半数近くは非会員である。非会員の 79.8%が帰国研修員の同窓会の存在を知らず、非会員であることの最も大きな理由となっている。しかし、会員の同窓会に対する感情は好意的で、同窓会のイベントを楽しみしており、会員であることにメリットがあると考えている回答者が多い。(質問紙調査) • FGD 参加者のうち、一般技術研修の帰国研修員のほとんどが JICA 帰国研修員同窓会（IKA JICA）について知らなかった。 • 一方、KAPPIJA21 については、青年研修の帰国研修員の間ではよく知られている。しかし、全国レベルのネットワークとしては地域への浸透や地域間の連携は比較的弱い状況と見られる。一部の都市で KAPPIJA21 の活動が停滞している理由として、①キーパーソンの不在あるいはいたとしても、コミットメントの低下、②日本人訪問者や日本側からのインプットの低下による活動モメンタムの喪失である。	質問紙調査の回答者およびフォーカスグループディスカッション参加者の多くが帰国研修員同窓会活動やネットワーキングについて知りたいと思っており、強い興味を持っている。JICA や同窓会からのより活発かつ効果的な情報発信を望んでいる。同窓会会合（もし開催されれば）にも積極的に参加したいとの意向を表明する帰国研修員が多い。帰国研修員ネットワークの中の好事例である KAPPIJA21 であっても、全国的な活動の展開やネットワークは強いとは言えず、国土の広いインドネシアでは、インドネシアに合ったネットワーキングのアプローチを検討する必要がある。
2	帰国後の交流	• 同じ研修への参加者との研修後の交流頻度は “時々” あるいは “しばしば” 連絡を取り合う関係が多く、回答者の 90.1%が交流を維持している。他国の研修員との交流頻度は同国の研修員に比べて有意に少なくな	同じ研修の帰国研修員の間での帰国後の交流の頻度が高いことは、インドネシアの特徴と考えられる。これをネットワーキングに生かせる

		り、回答者の 41.0%は全く交流していない。 • 研修時に知り合った日本人や研修先との帰国後の交流頻度は多くないものの、日本に関する情報を入手するための日本の友人との交流は回答者の 82.8%が維持しており、また、日本との繋がりや仕事上のアドバイスための交流は 68%程度の回答者が維持している。 • FGD では、青年招へい時代に参加し、ホームステイや社会・文化交流プログラムを経験した参加者の親日度合いは非常に高い。またホストファミリーやその他日本人との交流が継続していることが確認された。	と効果的である。 日本の研修関係者との交流は、日本に関する情報入手や日本とのつながりの継続、仕事上のアドバイスのために高い割合で交流を続けており、高いニーズがある。 様々な社会文化活動のうち、日本人家庭でのホームステイを行った帰国研修員は長い年月を経てもホストファミリーとの交流を継続しており、今後の研修員受入事業見直しの際の効果的事例として再度研修に組み込まれことが効果的である。
3	同窓会の活動内容	• 同窓会会員の活動はそれほど活発とは言えないが、会員間における研修成果の活用や普及を活動として“しばしば”“いつも”行っている回答者が 20%強いる。回答者の 78.7%が研修で習得した知識・技術の普及の活動をしており、習得した知識・技術を活用した提案については 75.9%が行っている。会員間での日本に関する情報交換も“たまに”“時々”の活動頻度で行っている。 • 同窓会の定例会議や日本文化の紹介行事への参加は回答者の 41.8%、34.9%で、参加していない者が多い。 • どのネットワーキングにおいても同窓会会員の方が非会員に比べて得点が高く、“専門分野の仲間”“地域の仲間”“インドネシア在住の日本人”“同じ研修に参加した他国の研修員”“他ドナーの研修参加者”“ASEAN 諸国の人々”グループにおけるネットワーキングは会員の方が多い。 • 興味・関心のある活動に関しては、会員と非会員の活動に対する興味・	全体的には数は多くないものの、一部の同窓会員は活動として、日本での研修成果の活用や普及を活発に行っており、また彼らは制度的、政策的提案も行っている。 同窓会の定例会議や日本文化の紹介行事への参加が少ないのは、FGD での議論からも確認された現状であるが、それらのイベントが開催されていないからと解釈できる。 同窓会会員（と認識できている帰国研修員）の方が専門分野、地域、インドネシア在住の日本人、他国の研修員、他ドナーの研修員、ASEAN 諸国の人々とのネットワーキングに参加していることも確認された。日本企

		関心の程度はほとんど同じであるが、“日本企業の誘致”に対する興味・関心は会員の方が高い。	業の誘致についても同窓会会員の方がより高い興味・関心を持っている。
4	ネットワーキングの状況	• ネットワーキングについては、“職場/組織内での同僚”“専門分野の仲間”“地域の仲間”グループの方が“日本での研修先”“インドネシア在住の日本人”“他ドナーの研修参加者”“同じ研修に参加した他国の研修員”“ASEAN 諸国の人々”グループと比較すると多い。 • 活動内容はどのネットワーキング・グループにおいても“研修で習得した知識・技術の普及”の活動頻度が最も多く、“日本文化の紹介イベント”が最も少ない傾向がみられる。 • “新しい知識・技術についての勉強会”については“職場/組織内での同僚”グループが回答者の 61.2%、“専門分野の仲間”グループでは 54.5%、“地域の仲間”グループでは 40.8%が行っている。 • “社会に貢献するためのボランティア活動”については“職場/組織内での同僚”グループでは回答者の 53.6%、“専門分野の仲間”グループでは 47.6%、“地域の仲間”グループでは 50.5%が行っている。 • “日本での研修先”“インドネシア在住の日本人”“他ドナーの研修参加者”“同じ研修に参加した他国の研修員”“ASEAN 諸国の人々”とのネットワーキングはかなり低い結果となった。 • FGD において、KAPPIJA21 が既に JNTO 等日本関連機関とのコンタクトをしており、ガジャマダ大学ではアジアの工学系学術交流ネットワークである AUN SEED NET を通じてネットワークの基盤があることが確認された。	職場・組織内、同じ専門分野、地域でのネットワーキングが起こりやすい状況となっている。研修成果共有・普及の活動を通じてネットワーキングが行われているケースが多い。新しい知識・技術についての勉強会も回答者の半数強で行われていることも確認された。次いで、社会貢献やボランティア活動も回答者の約半数が職場・組織内、同じ専門分野、地域の仲間とともに行っている。一方、日本文化の紹介イベントへの参加機会は、回答者のうち約 30%弱しか参加しておらず、参加あるいは機会が非常に限られていると言える。 JICA 協力案件の成果として国内・域内ネットワークが継続しているケースがあり、それを紹介・共有する情報発信や各ネットワークを必要に応じてリンクさせていくことも有効と考えられる。
5	日本の印象（研修時に受	• 日本の印象に対する得点は 4 点以上が多く、JICA の研修に参加したこと	日本に対する印象は、日本人の国民性、仕事に対

	けた印象）	により研修員は日本人の国民性や仕事に対する態度、日本の文化に対して良い印象を持っている。日本人の時間に対する几帳面さに最も強い印象を持ち、日本人のきれい好きであることや仕事に対する勤勉さや効率性に対しても強い印象を受けている。 • 日本文化に対する印象は日本人の国民性や仕事への態度に対する印象に比べると若干弱まるが、観光地への旅行の印象はとても良い。さらに、日本の伝統文化や日本人家庭の訪問の経験者は良い印象を抱いている。 • 日本食については“どちらともいえない”とする回答者が多く、日本食を好きになった回答者は半数程度である。 • FGD では、青年招へい時代に参加し、ホームステイや社会・文化交流プログラムを経験した参加者の親日度合いは非常に高い。またホストファミリーやその他日本人との交流が継続していることが確認された。 • 一方、2007 年以降、青年研修に変わり、社会・文化交流要素が削減されてからの参加者は日本人や日本社会に対する高評価（勤勉、清潔、時間管理等）はあるものの、感情的な絆を感じるには至っておらず、それと関連して帰国後の日本人とのコミュニケーションも継続しない傾向が観察される。	する態度、文化に対して良い印象を持っており、特に時間に対する几帳面さ、清潔好きな点、勤勉さ、仕事の効率性に対して好印象を持っていることが確認された。 日本文化については、観光旅行の印象、伝統文化、家庭訪問（ホームステイ含む）が好印象を持たれている。 日本食については、日本での研修をきっかけに好きになった人が回答者全体の約半数程度という結果で、他の要素よりは低いレベルとなっている。 帰国後の日本人や受入機関との交流が継続するかどうかは、研修中にどれだけ親密な文化交流や専門的交流を行ったかによると言える。
6	興味・関心のある活動	• 研修員の専門分野やアカデミック関連の活動に対する興味・関心の得点は 4.3 以上が多く、“専門分野”“日本への留学”“日本での研修”“日本人との共同研究”に対する興味・関心が高い。“日本人学生をインドネシアに招へい”に対する興味・関心は高いが、評価は他に比べて若干低い。 • 日本の文化に関連する活動に対する興味・関心は研修員の専門分野やア	帰国研修員は、専門分野、アカデミック関連の活動に対する興味・関心が非常に高い。この点は質問紙調査、FGD ともに共通して確認された。専門分野での日本留学や研修、日本人との共同研究に最も強い興味・関心を持っていることが確

		カデミック関連の活動に比べると総じて若干低いが、得点の多くは4点台であり、興味・関心は高い。その中で“日本へ旅行”への興味・関心が最も高く、“日本語学習”“日本の伝統的文化”“日本の食文化”への興味・関心が高い。日本食文化については、研修時の日本の食べ物に対する印象はあまり高くなかったが、調査時には興味・関心が高くなっている。“日本映画・アニメ”への得点は3.88と若干低いが回答者の70%程が興味・関心を持っている。 • ビジネス関連の活動に対する得点は3.51から4.00で、ビジネス関連への興味・関心は他の活動に比べて若干低い。日本人と一緒に働くことへの興味・関心は高いが、“日本企業の誘致”“日本人との起業”に対する興味・関心は若干低い。“日本企業との取引”に対する得点は3.51で興味・関心は他に比べて相対的に低い。 • “アセアン諸国と地域間活動”に対する興味・関心はとても高く、“社会福祉ボランティアやNGO活動”“他ドナーが実施している活動”に対しては興味・関心は比較的高い。 • 様々な社会文化体験への強い興味・関心が示されたが、活動そのものを体験するというより、むしろ日本人と一緒に体験する、日本人と社会文化活動を通じて交流する、日本人の思考や行動様式を知ることの方に意義を感じていることが観察された。 • FGDでは、一般技術研修の参加者（国家公務員）、また2007年以降の青年研修参加者の日本に対する期待は、彼らの職業専門性に関わる領域での情報交換・交流が多く、そのためのネットワーキングを強く希望していることが確認された。またインドネシアにおける彼らの活動への資金的、技術的支援要望も多く聞かれた。	認された。日本人学生をインドネシアへ招へいすることに対しては、他よりは低目であるものの、興味関心を持っている。 次いで、日本への旅行、日本語学習、食文化への興味が高い。日本の食文化への興味は、研修時にはそれほど高くないものの、帰国後に興味・関心が高まっている点が確認された。日本映画やアニメへの興味は上記よりも低目になっている。 ビジネス関連の活動については、上記より低目となっている。日本人と一緒に働くことへの興味・関心は高いが、日本企業誘致、日本人との起業、日本企業との取引などは相対的に低いという結果となった。 アセアン諸国との域内活動については、帰国研修員がとても高い興味・関心を持っていることが確認された。社会貢献・ボランティア活動、NGO活動についても高めの興味・関心を持っている。 日本人の思考や行動様式を知ることに意義を感じる帰国研修員が多く、活動企画の際には、日本人と一緒に社会文化を体験できるような「体験型」の活動の実施が効果的と考えられる。

		• ASEAN 諸国との交流の後押しへの期待も強い。これは必ずしも、同じ集団研修、国別研修に参加した ASEAN 出身者ということに限らず、より広い関係者との交流・ネットワーキングが含まれる。 • インドネシアでは近年、地域での自主的な動きが目覚ましく帰国研修員においても、地域での情報共有、連携、活動を開始したいという希望が表明された。 • ほとんどの帰国研修員は、地域の開発に可能な範囲での貢献をすることを意識している。環境、防災、水資源管理、保健、教育などの専門性を持つ帰国研修員は、近隣の学校や地域住民に対して専門性を生かした社会貢献の機会を希望していることが確認された。日本企業はジャカルタ首都圏 JABOTABEK に集中しているが、その周辺地域や地方都市でも CSR によるコミュニティ支援に帰国研修員のネットワークが貢献できるのであれば、進んで参加するという帰国研修員もかなりいるものと予想される。帰国研修員の連携の範囲は日本企業の CSR に留まらず、日本大使館や領事館などの地域に対する社会活動なども含まれる。	また地域ごとの社会貢献活動と日本の映画鑑賞等の文化交流を組み合わせた活動が効果的と見込まれる。 帰国研修員は国内だけではなく、より広範な域内の活動、インドネシアと ASEAN、日本との協力関係構築のために活動に対する期待が高まっている。 JICA 帰国研修員の特徴として、地域の開発に可能な範囲での貢献をすることを意識していることが本調査で再確認された。首都圏・地方にかかわらず日本企業の CSR や日本大使館・領事館の行う社会活動への協力・参加が望まれている。
7	ネットワーキングと興味・関心のある活動との関連	• “地域の仲間”グループでのネットワーキングが多い回答者は“アカデミック関連”“日本の文化関連”“ボランティアや NGO 活動”“他ドナーが実施している活動”“ビジネス関連”の活動に対する興味・関心が高い。 • “専門分野”での活動が多い回答者は“アカデミック関連”“ボランティアや NGO 活動”“他ドナーが実施している活動”に対する興味・関心が高い。 • 一般技術研修の参加者（国家公務員）、また 2007 年以降の青年研修参加者の日本に対する期待は、彼らの	地域での帰国研修員ネットワーキングにおいてアカデミック関連、日本文化、社会貢献・ボランティア・NGO、他ドナーの活動、ビジネス関連などの活動において高いポテンシャルが期待出来る。また、専門分野の活動を多く行っている帰国研修員は、アカデミック関連、ボランティア・NGO 活動、他ドナーの活動への興味・関心が

		職業専門性に関わる領域での情報交換・交流が多く、そのためのネットワーキングを強く希望している。またインドネシアにおける彼らの活動への資金的、技術的支援要望も多く聞かれた。	高いことから、「地域」「専門分野」でのネットワーキングへの働きかけ、複合的な活動の企画が効果的と考えられる。
8	属性による傾向	• 地域別の傾向としては、各州間でのネットワーキングには大きな差はみられないが、総じて中部ジャワ州におけるネットワーキングは他の州に比べて少ない。 • “ASEAN 諸国の人々”“他ドナーの研修参加者”グループにおいては西ジャワ州およびジャカルタ特別州の方が中部ジャワ州に比べてネットワーキングが多い。 • “インドネシア在住の日本人”グループにおいては南スラウェシ州はジャカルタ特別州よりもネットワーキングが多い。 • 興味・関心のある活動については、“日本への留学”に対してバンテン州はジャカルタ特別州に比べて興味・関心が高い。“日本への旅行”に対する興味・関心はジャカルタ特別州、西ジャワ州、バンテン州はジョクジャカルタ特別州に比べ高く、バンテン州は南スラウェシ州に比べると高い。 • FGD が行われたジャカルタ、ジョグジャカルタ、マカッサル、バリでは、地方都市では帰国研修員のネットワークがほとんど機能していない状況であったが、各地域の特性・ニーズに特化した活動への興味・関心について強い関心が示された。ジャカルタでは各省庁内、省庁間の連携可能性、ジョグジャカルタは学術交流や産学官コミュニティ連携の活動、マカッサル、バリでは環境保全、保健教育における社会貢献など、具体的な活動など、具体的なアイディアが共有された。	地域別の傾向から、ネットワーキングが総じて弱い中部ジャワに対しては、アプローチを工夫する必要があると推測される。ASEAN 諸国との人々や多ドナー研修参加者との交流がジャカルタ、西ジャワにおいて既に行われていることが確認された。 南スラウェシでの帰国研修員とインドネシア在住の日本人との交流が活発であることも伺える。 日本留学に対してはバンテン州、日本への旅行については、ジャカルタ、西ジャワ、バンテンで高い興味・関心が示されている。 FGD が行われた 4 都市では、各地域の特性・ニーズに特化したインパクトのある活動実施のポテンシャルが強い。この視点から、他の地域での活動が企画され、他地域との共有や交流のきっかけとなることが期待される。 年代別の傾向から、ネットワーキングを活発に行っている 30 歳代が今後のネットワーキングの推進力となることが

		• 年代別の傾向としては、ネットワーキングについては、30 歳代の方が 20 歳代に比べてネットワーキングが多い傾向がある。“職場/組織内での同僚”“専門分野の仲間”“地域の仲間”“日本での研修先”“他ドナーの研修参加者”グループでは 40 歳代の方が 30 歳代よりもネットワーキングが多い。 • 興味・関心のある活動については、30 歳代・40 歳代では多くの活動対する得点が 4 点台で興味・関心が高い。50 歳以上は総じて活動に対する興味・関心が 30 歳代・40 歳代に比べて低い。	期待される。また、40 歳代も職場/組織内、専門分野、地域において、また日本での研修先、他ドナーの研修参加者とのより広範なネットワーキングを行っており、職位とも比例して、各グループにおける影響力を発揮できる層であると言える。
9	ネットワーキングの手段	• FGD 参加者は JICA 関連や帰国研修員連携の活動に強い興味を持っている。日常業務などの制約はあり、自由になる時間の個人差は大きいが、負担なく気軽に参加でき、効果的な活動への参加の機会を期待する声が多い。 • 帰国後および開発協力案件終了後も専門分野における共同研究や交流などコミュニケーションや連携を望む声が根強い。	手軽・気軽に参加可能な活動や情報発信のニーズが高い。 帰国研修員ネットワーキングをインドネシア側に限定する従来型ではなく、開発事業に参加していたなどゆかりのある日本人および関連機関などの日本側と双方向にし、情報交換の幅をより広げることが効果的と考えられる。

表 2-10　日本関連機関との交流・連携可能性について

No.	項目	参考事例／抽出されたポテンシャル
1	同窓会組織の類似事例［HIDA/AOTS 同窓会］	AOTS/HIDA 同窓会の事例で参考になる点は次の点である。 • 親睦活動、専門・技術・経営に関連したセミナー開催、請負事業の実施など、多様な活動を定期的に行っている。 • 同窓会の収入源を確保し自主財源を持つ。 • インドネシア産業の著名人、篤志家が会長役員となり、社会貢献として同窓会をもりたてている。 • 組織を超えた産学官連携の事業を実施している。 • NPO 法人格があり、事業体として活動できている。 • HIDA と同窓会の関係は Equal Partner であり、インドネシア-日本と双方向の交流・協力関係がある。 • 同窓会内のコミュニケーションの頻度が高い。 • HIDA は産業振興のための産学連携ともなる「インドネシアを事例

		とするASEANにおける産業人材育成のモデル開発の可能性調査」を 2014 年度の事業として実施している。日系企業が求める人材のスキル、能力のニーズ調査を行い、人材育成カリキュラムを作成し、プルサダ大学工学部（5S、コミュニケーション、報連相を教える基礎講座）およびポリテク（電子工学の基礎）でパイロット事業を行っている。
2	同窓会組織の類似事例［IKAMAJA 同窓会］	農林水産省 ODA 事業として実施されるアジア農業青年人材育成事業（日本の農家で約1年滞在)に参加した研修生の同窓会であるIKAMAJAの事例で参考になるのは次の点である。 • インドネシア農業省人材育成局が継続的にIKAMAJAの活動支援を行っている。 • アグリビジネスにおける専門性の強化、農業振興を通じた国家開発への貢献、議会や省庁と連携を活動趣旨とし、各地で地元の農家向けの指導・助言等を日常的に行い、篤農家的な存在として活動している。 • メンバーが自発的にネットワークを開拓し、スウィートポテト、Melingo、種子、農家から日本食レストランへの出荷（産直食材）などの好事例が生まれている。 • 農業省が主導し、日本の研修生受け入れ農家をインドネシアに招待し、リユニオン（親睦会）が開催され、日イ農業関係者のネットワーク構築、ビジネスチャンス発掘に貢献している。 • インターネットへのアクセスがない地方農家もあるため、簡易なSMSを通じたコミュニケーションがメインとなっている。
3	ビジネス・経済分野	＜SMEサポート＞ • 日本の中小企業は進出の足場固めに奔走し、拠点を構えてからも法規制、税制、商習慣、環境配慮等の様々な課題に直面しているため、経営上直面する人材確保や育成、法制度への対処方法などのような課題について、カジュアルな形で意見・助言を求められる親日的な帰国研修員とつながることは中小企業のニーズに適う。 • また特定の個別課題の解決に際し、関係行政機関等への橋渡しなども期待されている。行政機関とのコミュニケーションのきっかけのない中小企業駐在員にとり、親日的な JICA 帰国研修員との交流・ネットワーキングは中小企業サポーターとしてのポテンシャルがある。 ＜事業のCSR＞ • 日本企業のCSRの事例として、メラピ火山国立公園周辺で森林保全の連携があるが、この事例では、地元の帰国研修員にコミュニティ探し、キーパーソン探しに協力してもらう余地はある。また小学校等での啓発活動やコミュニティ参加の植林イベントに地元の帰国研修員・同窓会員が協力・参加する形での協働もありえる。

		• 日本企業でCSRの一環としてインターンシップの受け入れに関心を寄せる企業がかなりある。日本企業のCSRとしてのインターンシップ受入の橋渡しになるポテンシャルがある。 ＜ビジネス連携＞ • 質問紙調査では、日本人との起業、日本企業との取引などは相対的に低いという結果となったが、これは JICA の帰国研修員の多くが行政官であるため、ビジネスと通常業務との関連性が薄いためと考えられる。割合は小さいが、帰国研修員の中には民間企業の人もおり、活発なネットワークを支えている。日本企業とのビジネス連携の可能性は十分にある。 ＜農産物・食品の連携＞ • 農林水産省は、農林水産物の生産から消費に至る各段階の付加価値をつなぎ、産学官連携で日本の強みを活かしたフードバリューチェーンの構築を推進している。その中で日本の食産業の海外展開や食にかかるインフラ輸出を JICA や JETRO と連携し、ASEAN 地域では日系企業や現地企業とも提携しながら、活動を展開している。現地で行われる農林水産物の輸出促進に向けた日本食フェア、見本市や展示会等の実施に際し、帰国研修員のネットワークを通じた情報発信や交流推進への期待されている。
4	学術・教育分野	• 大学のグローバル化に加え、文部科学省による「留学生 30 万人計画」が掲げる 2020 年までに 30 万人の留学生の受け入れが大きな政策課題となっている。面談を行った東京工業大学も留学生の受け入れに積極的で、大学院教育を中心として、優秀なインドネシア人学生・研究者の発掘や招へい、共同研究を推進する方針である。大学院の留学生は全体の 20%程度で、重要な戦力ともなっており、とりわけ ASEAN からの学生への期待も大きい。 • 優秀なインドネシア人学生・研究者の発掘や紹介に協力できる帰国研修員は、東京工業大学をはじめ、留学生の受け入れを推進する多くの学術機関にとって期待されている。また、将来、日本とインドネシアの架け橋となる若手人材を高校生の時から発掘し、受け入れ準備の段階で帰国研修員との情報交換や支援への期待も寄せられている。 • 日本の大学で学んだインドネシア人留学生の帰国後の進路、就職についても行政官の多い帰国研修員の寄与が期待される。具体的には、卒業・帰国後の就職先を探すインドネシア人留学生が、既に官公庁において一定のポジションにある帰国研修員と交流し、アドバイスを得られるような機会が望まれる。各関係機関が協力し、インドネシアの若者の日本留学を準備段階から卒業、そして就職までオールジャパンで支援することが効果的で、そのプロセスで帰国研修員との連携があること望まれる。
5	行政・自治体	• 横浜市では、市を挙げて国際協力を推進しており、2015 年 4 月に

	分野	は国際に特化した課も設立される。水道、「ハマの技術」に根ざした都市・産業開発（Y-PORT）、官民連携、環境、国際都市ネットワーク構築（CITY-NET）、TICAD V 誘致など自治体主導の多角的な国際協力を展開している。 • 水道局は、約 40 年にわたり累計 2,600 名の研修員の受け入れを行い、インドネシアからは主にメダン水道公社からの研修員を中心に、74 名を受け入れている。元研修員とのネットワークを活用し、「第 3 回アジア地域上水道事業幹部フォーラム」などの市が実施するイベントや事業に元研修員が参画するなど、横浜市と元研修員のネットワークが持続されている。 • 17 年前に水道局の研修に参加した元研修員で、現在、北スマトラ州水道公社の総裁が横浜市水道局を再訪し、漏水問題への協力依頼を横浜市に行った。漏水探索器を開発した横浜市内の中小企業と横浜市が、JICA に対し「民間提案型普及・実証事業」として提案を行い、採択・実施されている。 • JICA 草の根事業の採択を受け、絶滅危惧種であるカンムリシロムクの保全のための活動を行う「カンムリシロムク野生復帰事業」にてインドネシアからの研修員を受け入れており、自治体間の環境保全のネットワークが拡大している。 • 130 以上のアジア太平洋地域の都市が加盟する CITY-NET（アジア太平洋都市間協力ネットワーク）は都市問題や市民の生活環境の改善を目指し、都市間のネットワークを活用したプロジェクトの企画・実施、研修、情報発信等、多様な事業を行っており、このような多地域間協力ネットワークの中に、JICA 帰国研修員が参加し、共同事業の実施や情報交換を行っていく可能性が大いにある。 • 横浜市のほかに、北九州市も国際交流に積極的で、著名な学者をアドバイザーとし、地域産業の海外進出を戦略的に支援している。 • マカッサル、スラバヤなどインドネシア自治体から横浜や日本の地方都市の視察も行われており、二国の自治体間連携に対するインドネシア側のニーズの高さが確認されており、今後も相互交流・協力における高い相乗効果が期待でき、また帰国研修員とのネットワーク、強みが活きる領域と考えられる。
6	観光	• 日本政府は、日本に関心をもっているインドネシア人への訪日観光誘致に力を入れており 2014 年 3 月には日本政府観光局（JNTO）がジャカルタ事務所を開設し、インドネシアからの個人旅行者ならび旅行業者を対象とするプロモーションに力を入れている。2014 年 12 月からは IC 旅券保有者には短期滞在ビザが免除となった。 • 日本側自治体も前向きで、愛知、岐阜、静岡の中部 3 県は、インドネシアからの観光客を今後 10 万人に引き上げることを目標とし、自動車工場見学、テーマパークや温泉紹介などを強化してい

		る。 • インドネシア内での広報は、人口サイズや日本へのアクセス状況を勘案し、現時点ではジャカルタ、スラバヤ、メダン、ついでバンドン、マカッサルが優先都市となっており、その地域の帰国研修員と情報発信において連携可能と考えられる。 • JNTO ジャカルタ事務所は帰国研修員との連携に積極的あり、KAPPIJA21 とコンタクトがあり、KAPPIJA21/AJAFA21 のイベントに JNTO がブースを設置したこともある。
7	国際交流・青年育成分野	• 日本ユースリーダー協会は長年にわたる JICA 青年招へい・青年研修事業の研修員受け入れ実績を活かし、帰国研修員と連携しながら、日本・ASEAN の青年の育成のための活動を行っている。インドネシアでは青年招へい/青年研修に参加した帰国研修員が 1985 年に同窓会組織 KAPPIJA21 を立ち上げており、また ASEAN 各国にも同様の同窓会組織が設立され、さらに ASEAN 各国の同窓会連合として AJAFA-21（ASEAN-Japan Friendship Association for the 21st Century）が組織されている。 • Global Education Tour（GET)他、日本の若者を海外に送り出すプログラム等を帰国研修員と連携して実施している。具体的には KAPPIJA21 が、受け入れサイトでのオリエンテーションの実施やホームステイや学校訪問のアレンジを行う等の協力が行われている。 • KAPPIJA21 は非常に親日的かつ活発に活動し、学生をはじめとする日本からの訪問者の受け入れにも前向きであることから、日本ユースリーダー協会からは、引き続き KAPPIJA21 との交流機会を継続したいという意向が示された。KAPPIJA21 や他国の帰国研修員ネットワークと日本、もしくは ASEAN 各国の大学生を始めとする若い世代が連携することにより、次世代の人材育成を共に担う活動を今後も強化していきたいと強く希望している。 • 国際交流基金は、今後、日本語パートナーズと JICA/JOCV との連携を期待しているが、加えて、日本語パートナーズの配属地域在住の帰国研修員や KAPPIJA21 支部ともつながることも有益と考えられる。 • 国際交流基金では、セクターや研究者・実務者を超えた専門・学術交流を実施している。2011 年以降、力を入れているのが、東日本大震災からの復興する日本の姿を日本研究者にも知ってもらうことで「災害復興」「防災」というテーマでセミナーを開催している。そこに、インドネシア防災庁の行政官である JICA 帰国研修員が参加し、活動における JICA との接点、関わりが生じている。 • 「文化祭 Bunkasai」がインドネシア語になっていて、文化祭が各地の大学や高校で行われている。文化祭で数万人集客というケースもある。 • 日本大使館は、ジャカルタ日本まつりは実行委員会とジャカルタ

		州政府と共催で実施。Japan Festival in Indonesia, KAJI のさくらまつり、縁日祭、各地の大学や高校の文化祭など、日本関連の催しが各地で毎週のように行われている状況である。 • 日本大使館では、年に 1 回大使館でオールジャパンミーティング（AJM）が開催されているがそこにはインドネシア国内各領事館、JICA、JF、JETRO も含めた日本政府関係機関が一堂に会し、様々なテーマについて話し合いが行われる。AJM には、昨年まで各州のプルサダ組織の役員に参加してもらっていた。AJM にはプルサダの他にも友好組織や JJC 会員などが参加している。AJM において、現在政治経済のトピックが中心であるが、留学生、観光客も増え、EPA による介護士派遣も続いている。人的交流については今後様々な場面で話題に上ると思われる。 • 日本関連の同窓会、友好団体としては、主なものでプルサダ、KAJI 会、JICA 帰国研修員、東南アジア青年の船の OB 会、ジェネシス、ハビビ奨学金（BPPT 奨学金制度）のネットワークなどがある。イベントに応じて、大使館から各組織のコンタクトパーソンに声かけを行っている。 • プルサダや KAJI 会の若手から日本友好組織の横のつながり、プラットフォームの活動が期待されている。

2-6 にて上記の結果分析により抽出された帰国研修員や日本関連機関のニーズ、潜在性、ポテンシャルに沿い、帰国研修員支援および有効なネットワーキングのための提言について検討を行う。

2-5　調査結果報告セミナーの開催・結果

インドネシア帰国研修員支援に係る情報収集・確認調査の結果報告セミナーが 2015 年 1 月 17 日にジャカルタで開催された。インドネシア国家官房、JICA 帰国研修員（地方からも 3 名）、日本関連機関、日本関連同窓会、JICA インドネシア事務所、JICA 調査チームの代表 46 名が同セミナーに参加した。土曜日にもかかわらず（招待者の間での）出席率が高く、重要なアセットとしての今後の日イ間ネットワーキングに対する関心の高さを示している。

表 2-11: セミナーのプログラム

時間	内容
8:45 - 9:20	開会の辞 国家官房、JICA インドネシア事務所
9:30 - 9:40	コーヒーブレイク
9:40 - 10:50	インドネシア帰国研修員支援に係る情報収集･確認調査の結果･効果的ネットワーキングのための提言 JICA 調査チーム
10:50 - 12:00	優良事例共有 JICA 帰国研修員-工業省 KAPPIJA21 マカッサル支部、ジャカルタ本部 AOTS/HIDA 同窓会
12:00 - 12:15	質疑応答 ディカッションセッションの事前説明
12:00 - 13:05	お昼休み
13:05 - 14:30	［ディカッションセッション］ JICA 帰国研修員と多様なステークホールダーとの行動指向型ネットワーキングのために -示唆と行動- ［共有セッション］
14:30 - 14:40	閉会の辞　JICA インドネシア事務所

セミナーのプログラムは表 2-11 に示すとおりである。開会の辞、調査結果報告や優良事例発表セッションが午前中にあり、午後は参加者全員で参加型ディスカッションのセッションが行われた。グループディスカッションは 5 つのグループで異なるテーマについて話し合われたが、テーマは次のとおりである。

「JICA 帰国研修員と多様なステークホールダーとの行動指向型ネットワーキングのために」

1)　ビジネス連携（産業）
2)　ビジネス連携（農業・食品産業）
3)　社会貢献・コミュニティ開発支援・CSR
4)　文化交流・観光
5)　ASEAN 域内活動・連携

参加者は自由に各自の興味にそったグループを選び、議論に参加した。各グループにファシリテーターおよび通訳が配置され、グループディスカッションをサポートした。

セミナー全体を通して出された重要な情報・インプット・見解などを次にまとめた。いくつかのキーワードを太字で示した。

- インドネシア政府は、多様な研修プログラムを通したインドネシアの人的資源開発、日イ関係強化のためのプログラム実施における日本政府の貢献を賞賛している。
- インドネシア政府は、南南協力などインドネシアが援助受入国から援助国へとシフトするための協力を JICA が実施していることに対して感謝している。
- インドネシア側の課題がいまだにあるものの、日本での JICA 研修の成果を自発的に応用し、普及している成功事例がいくつもある。
- インドネシア国家官房は本調査の結果に感謝しており、自らの研修後のモニタリングシステムへの反映や政府にとっても顕著なフォードバックとなる。
- JICA インドネシア事務所で管理している帰国研修員データベースは主に 1990 年以降の研修に参加した帰国研修員が登録されているが、それ以前の研修に参加した帰国研修員は限定的にしか登録されていない。データベースにまだ登録されていない帰国研修員にもデータベースに登録するように働きかけるべきである。
- 帰国研修員の数多くは、政府機関の高官や企業の経営者レベルで、帰国研修員の間だけでなく、日イ関係にとってこのネットワークは重要なアセットとなっている。
- インドネシアも経済成長で繁栄の時期を迎え、今が JICA と帰国研修員との間の**「黄金時代」**ともなっている。二国間の信頼の基盤の上に、新たなパートナーシップを構築できる。
- インドネシアと日本は**同レベルのパートナー**として、**双方向の交流**が重要である。
- 組織や政府間の関係も、**個人的なつながり・絆**を通して生まれる。
- 帰国研修員のネットワークは相互依存のグローバル社会においてより重要となる。
- 工業省チームは、輸出製品品質向上の JICA 研修とリンクしたインドネシアでのシステム構築を省庁間協働として実践している事例を発表した。本事例は、日本企業との連携可能性の余地もあることを示している。
- 帰国研修員のネットワークは同窓会組織の情報をより多くの帰国研修員に発信するための貴重なアセットであることをセミナー参加者は再認識した。
- 青年研修の帰国研修員は、研修成果を現在の活動に応用している。インドネシア国内外および ASEAN 域内でのネットワーキングを活発に行っている。
- AOTS（HIDA)同窓会は、HIDA がインドネシアの民間セクターへの各種支援事業を行うための**緊密なパートナー**である。共同事業の実施、インドネシア向け企業経営セミナー、経産省国際インターンシップ事業、アジアものづくり会議（4 つの地域にて開催)、(同窓生）成功事例大会などを実施している。
- （ある帰国研修員からの情報共有）IKA JICA への登録申込書に記入し、いくつかの調査にも協力したが、その後のフォローアップが全くない。
- 帰国研修員が日本企業や中小企業の**地方都市**への誘致プロセスにおいて貢献するポテンシャルがある。
- IKA JICA はかつて非常に活発で、JICA 本部から表彰された程であった。残念ながら、今は休眠状態となっている。IKA JICA を揺り起こし、リフレッシュする必要があり、特に若い世代のメンバーの活躍に期待する。

- このような大きな規模の同窓会を運営するには、**自己貢献**が必要で、いくらかの自分の時間の犠牲もともなう。組織の活性化には強いコミットメントが必要とされる。
- **日本・インドネシアとの感情的関係・絆**があって同窓生のネットワークへのコミットメントが持続している。感情的絆はとても影響力があり、世代を超えて伝わっていく。
- グループディスカッションにおいて、次のような具体的な活動のアイディアが話し合われた。
    - 農業機械化産業（ビジネス連携の可能性として）
    - 製品規格認定システム
    - 農業機械化への CSR 支援
    - （情報発信のための）効果的ホームページの例
    - ビジネスフォーラム・展示会
    - 持続的サプライチェーン
    - 環境保護キャンペーン
    - メディアを活用した地域社会啓発
    - 年次日本-インドネシア文化イベント
    - 観光ファシリテーター養成
    - 「ようこそ日本へ、素晴らしいインドネシアへ」文化キャンペーン
    - 経済、産業、貿易、文化、観光などに関する ASEAN 地域フォーラム

2-6　帰国研修員支援に係る提言

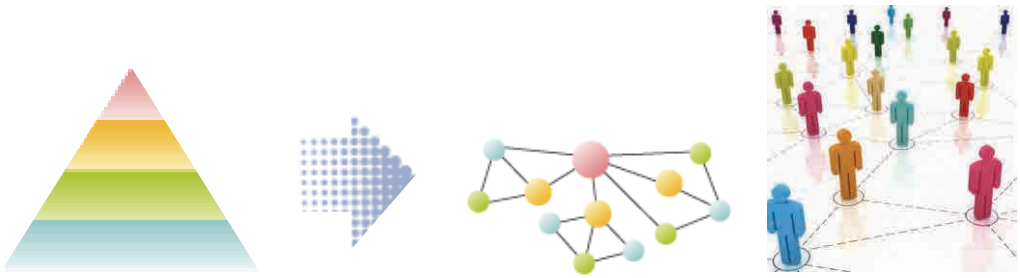
2-1～2-3 の調査結果および 2-4 の分析結果を踏まえ、JICA の帰国研修員支援には次のような方策が効果的と考えられる。

2-6.1　ネットワーク

提言 1：帰国研修員とのネットワーク構築の考え方の変更

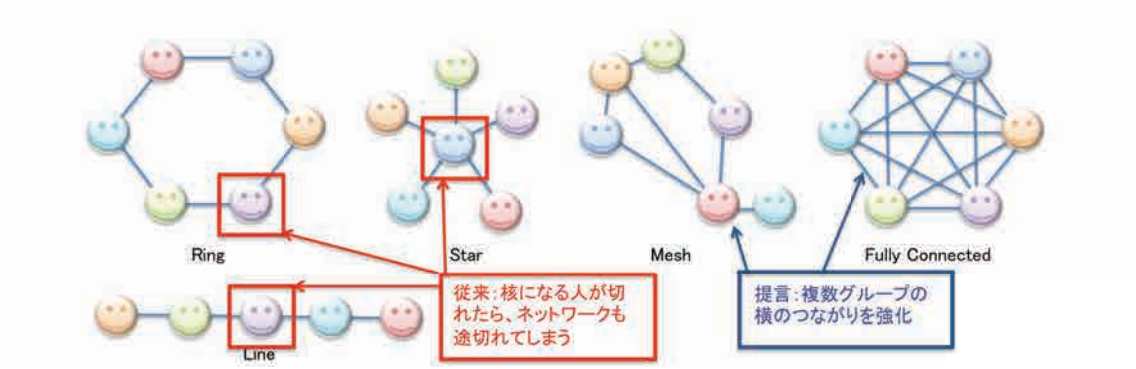
インドネシアは大国であり、地理的に全国をカバーする組織の運営は容易なことではなく、多忙を極める帰国研修員の日常業務の片手間で運営できる規模を超える。帰国研修員ネットワークの中の好事例である KAPPIJA21 であっても、全国的な活動の展開やネットワークは強いとは言えず、国土の広いインドネシアでは、インドネシアに合ったネットワーキングのアプローチを検討する必要がある。

帰国研修員ネットワーキングの基本的な考え方を変更することをここに提案する。従来型の組織運営、展開には限界があり、見直す時期に来ている。従来型とは、縦型/垂直型あるいはピラミッド型運営であり、この場合はやや中央集権的傾向があり、代表や運営委員会の強力なリーダーシップ、イニシアティブ、定期的呼びかけなどがないと硬直化に陥りやすく、上に動きがないと、下も動かなくなるという傾向がある。まさに現在のインドネシアの地方の帰国研修員はこの状態にあると言える。



垂直型・ピラミッド型　　水平型・横のつながり型

垂直型、ピラミッド型組織運営に対して、水平型、横のつながり型ネットワーキングを提案する。調査結果から、専門分野や地域において帰国研修員間の活動や連携のポテンシャルが非常に高いことが確認されており、相互の興味・関心により運営できる規模のグループごとに活動を行い、多様な活動を行っているグループが横につながり、時には一堂に会するというつながりがより現実的、効果的と考えられる。下図のうち、Mesh や Fully Connected タイプのネットワーキングを指向し、いずれかのつながり/線が弱くなっても、他との線が生き続け、ネットワークが切れることはないことが期待される。専門分野のグループや地域グループ、研修プログラムごとのグループなどの存在、コンタクトパーソンの把握、必要によっては会合を行うなどの呼びかけをするなどグループ間の横のつながりをサポートする組織/機能が必要となる。



提言 2：帰国研修員の同窓会およびネットワークについての周知の強化

質問紙調査では回答者の約半数が、同窓会に入会しておらず、同窓会に入会してない大きな理由は、JICA 帰国研修員同窓会の存在を知らなかったことである。フォーカスグループディスカッションでも参加者の多くが同窓会について知らないことが確認された。しかし、いずれも帰国研修員同窓会活動やネットワーキングについて知りたいと思っており、強い興味を持っている。JICA や同窓会からのより活発かつ効果的な情報発信を望んでいる。同窓会会合（もし開催されれば）にも積極的に参加したいとの意向を表明する帰国研修員が多い。会員の方が非会員よりもネットワーキングの活用状況が良い、興味・関心のある活動に対しても会員の方が興味・関心の程度が若干高い傾向がみられることから、同窓会への入会者を増やし、彼等をネットワーキングに巻き込むようにする。具体的には、研修派遣前・終了後の解散前に帰国研修員の同窓会やネットワークがあること、入会手続きなどの周知を強化することが望まれる。もしくは、同窓会に入会している、していない、会員登録している、していないにかかわらず、出来るだけ多くの帰国研修員全体への情報発信や呼びかけをしていくことも重要と考えられる。

提言 3：現在のネットワークの活性化

ネットワーキング状況は職場/組織内グループ、専門分野グループ、地域の仲間グループでの活用が多い。研修員の興味・関心のある活動への参加意思との関連から、この 3 グループの中で地域の仲間グループが興味・関心のある活動との相関が高い。このことより地域の仲間グループで活発にネットワーキングしている帰国研修員を優先に働きかけを行う。

ネットワーキングを最も活用しているのは 40 歳代の研修員である、また、興味・関心のある活動への参加意思が高い研修員も 30 歳代、40 歳代であり、年代としては 30 歳代、40 歳代が優先される層となっている。

ネットワーキングの活動内容は研修で習得した知識・技術の普及で、また、研修員の新知識・技術の習得への興味関心が高い。これまで行った研修のフォローアップを行うことによりネットワークの活性化を図る。

提言 4：活発で効果的な情報発信・共有の推進

多忙な帰国研修員にとって、手軽にアクセスできるホームページや Facebook などのソーシャルメディアでの情報発信が有効である。現同窓会組織のホームページは帰国研修員の

ニーズを満たしているとは言いがたい。帰国研修員にとって必要な役立つ情報やリンク、手軽さなどの観点から現在のホームページをより情報発信を強化したものに再編成することが必要である。ホームページへの掲載内容としては、各専門分野に関する情報、専門の最前線や実践報告、学術交流のアップデート、JICA（政策）Updates、社会貢献、文化、観光、食などの活動も含む Japan Updates、Indonesia-Japan Updates、起業・ビジネス連携、帰国研修員の活躍、日本研修報告、私の一押し Japan/Indonesia、呼びかけコーナー、Q&A コーナー、研修員家族向け欄など多様な情報を網羅したホームページが有効と考えられる。ホームページアップデートや活動の案内などの際には、全帰国研修員に対して定期的な情報発信、メーリングリストや　携帯電話の SMS での定期的情報発信も有効である。

また、JICA インドネシア事務所からより多くの帰国研修員にリーチ、情報発信するため、定期的に（例：年に１～2 回）コンタクトのデータベースをアップデートする体制を整える。帰国研修員ネットワーク関係者が必要に応じてデータベースを活用でき、かつ個人情報保護が徹底できる管理体制が検討される必要がある。

提言５：インドネシア-日本双方向のネットワーキング

帰国研修員は帰国研修員同士の交流のほかに、日本人との交流も強く望んでいる。JICA 案件に参加している、していた日本人専門家および関係者側も交流継続を求めている傾向がある。帰国研修員ネットワーキングをインドネシア側に限定する従来型ではなく、開発事業に参加していたなどゆかりのある日本人および日本関連機関などの日本側と双方向にすることが効果的であり、そうすることで情報交換の幅をより広げられ、新たな連携が生まれるきっかけにもつながることが期待される。

2-6.2　活動

提言６：専門分野・学術関係・社会貢献を中心とした活動の実施

- 帰国研修員は、専門分野、アカデミック関連の活動に対する興味・関心が非常に高いことが質問紙調査、FGD ともに共通して確認された。また、専門分野での日本留学や研修、日本人との共同研究、次いで、日本人学生をインドネシアへ招へいすることに対しても興味関心を持っている。ほかに、日本への旅行、日本語学習、食文化への興味が、日本映画やアニメへの興味よりも高めになっている。ビジネス関連の活動については、帰国研修員のうち、民間企業の人には数が少数であってもポテンシャルは十分あると考えられる。
- 専門分野はさることながら、日本人の思考や行動様式を知ることに意義を感じる帰国研修員が多く、活動企画の際には、日本人と一緒に社会文化を体験できるような「体験型」の活動の実施が効果的と考えられる。
- 社会貢献活動については、JICA 帰国研修員の特徴として、地域の開発に可能な範囲での貢献をすることを意識していることが本調査で再確認された。首都圏・地方にかかわらず日本企業の CSR や日本大使館・領事館の行う社会活動への協力・参加の可能性が探られるべきである。
- 文化関連の活動にも興味を持っているが、文化イベントだけを単独に実施するより

は、より関心の高い専門分野、学術、社会貢献の活動と組み合わせての活動実施が効果的と見られる。

提言 7：地域での活動の立ち上げ・活性化・横の交流

- 調査結果より、首都圏中心型活動ではなく、地域でも活動を立ち上げることへの強い興味・関心が帰国研修員から示された。2001 年以降、行政も地方分権化が進み、今後地方での自主的なネットワークの動きが出てくることが見込まれる。また、企業活動やボランティアなどで地方をベースにする日本人も増えていることから、地域で帰国研修員間および帰国研修員-日本人とのネットワーキングの拡大、深化が期待される。
- また地域ごとの社会貢献活動と日本の映画鑑賞等の文化交流を組み合わせた活動が年齢層も超え、効果的と見込まれる。
- 地域の活動の活性化と横の情報共有・交流を進めるため、ホームページでの事例報告掲載などが有効であり、年次成功事例大会開催、社会貢献資金の授与など競争性のインセンティブの実施も一考に値する（インドネシアではトーナメント大会/Lomba の人気が高い)。

提言 8：ASEAN での域内交流の機会創出

- アセアン諸国との域内活動については、帰国研修員がとても高い興味・関心を持っていることが確認された。社会貢献・ボランティア活動、NGO 活動についても高めの興味・関心を持っている。
- 帰国研修員は国内だけではなく、より広範な域内の活動、インドネシアと ASEAN、日本との協力関係構築のために活動に対する期待が高まっている。
- ASEAN 域内交流/協力への発展性のある活動の企画・実施

2-6.3　日本関連機関との連携可能性

提言 9：類似日本関連同窓会やインドネシア-日本友好団体との交流推進

- HIDA/AOTS 同窓会、IKAMAJA、PERSADA、KAJI-Kai、青年の船同窓会などとの交流の機会を設ける、日本関連の「お祭り/Festival」に JICA 帰国研修員として参加し、情報発信・共有を推進する。All Japan Meeting の公開セッションにも積極的に参加し、親日派ネットワークの横の連携を強める。

提言 10：経済・ビジネス連携・貢献可能性を探る

- 帰国研修員との協働・連携を実現するためには、関係者のニーズのマッチングが不可欠であり、この観点から、日系企業への支援を行っている JETRO ジャカルタ事務所や HIDA ジャカルタ事務所と JICA インドネシア事務所の間で、定期的な情報交換を行うことが有益と考えられる。あくまでもカジュアルな連携から始めることが効果的であると考えられる。
- またビジネス分野や日系企業との協働に関心のある帰国研修員を募り、在ジャカルタ

の日系中小企業駐在員との交流機会を設けることが、連携・協働のきっかけとなると思われる。

- 地元コミュニティを巻き込んだ日系企業の CSR イベント（植林、防災教育、コミュニティ清掃等）への帰国研修員・家族の参加を奨励するため、JICA に蓄積された帰国研修員データベースを活用し、JICA インドネシア事務所や同窓会支部を通じて、イベント情報を発信・広報していくことが有効と思われる。
- CSR 事業形成・実施におけるリソースパーソンとして、帰国研修員の参画（地元コミュニティや関連行政機関窓口との橋渡し、関連情報の提供等）を得るために、地域毎、またセクター毎に CSR、官民連携、コミュニティ事業に関心のある帰国研修員を抽出できる仕組みを備えたデータベースの構築が望ましい。
- 農林水産省が推進している産学官連携で日本の強みを活かしたフードバリューチェーンの構築において、インドネシアで行われる農林水産物の輸出促進に向けた日本食フェア、見本市や展示会等の実施に際し、帰国研修員のネットワークを通じた情報発信や交流推進への期待されている。
- 農業分野に限らず、親日派人材ネットワークとして、日本関連機関のインドネシアの活動、地域での活動のサポーター、情報発信者としての貢献や協力が期待される。

<u>提言 11：学術・教育分野の連携・貢献可能性を探る</u>

- 世界第 2 位の日本語学習人口を誇るインドネシアの高校生の日本留学の入り口（優秀な学生獲得）から出口（日本・日系企業などへの就職支援）までオールジャパンでサポートする協力体制を構築する。そのためにはプラットフォーム機能が不可欠であり、具体的対応の検討が必要となる。
- より学際的、分野を超えたイシュー中心型のセミナーやシンポジウムの開催を実施する。より広範なステークホールダーと専門的・実践的に交流することで帰国研修員にとって専門的・学術的な刺激となる。
- 国際交流基金から全国各地に派遣される日本語サポーターズのサポーターとして交流・見守りで貢献をする。
- 引き続き、国内、域内、インドネシア-日本での青年育成の牽引役となり続ける。

<u>提言 12：地域・自治体間の交流・協力の推進</u>

- 横浜市や北九州市の強いイニシアティブおよび JICA との連携により自治体レベルの国際交流がインドネシア-日本の間で、自治体主導で行われており、その規模は拡大していくことが見込まれる。
- マカッサル、スラバヤなどインドネシア自治体から横浜や日本の地方都市の視察も行われており、二国の自治体間連携に対するインドネシア側のニーズの高さが確認されており、今後も相互交流・協力における高い相乗効果が期待でき、また帰国研修員とのネットワーク、強みが活きる領域と考えられる。また自治体間の協力が推進されるようなきっかけ作り、橋渡しの機能も CITY-NET 以外にも必要となっていると思われる。
- 自治体間の国際交流の枠組みについては、CITY-NET のニュースレターの発行、情報

発信の内容、顔写真入りのデータベースの管理・活用、都市間協力の取り交わしなど、横浜市の事例で参考になる点が多い。

提言 13：日本への観光の推進

- 首都圏だけでなく地方からも日本観光熱が高まっている現在、帰国研修員の間でも日本観光のポテンシャルが非常に高く、周囲への情報発信も期待できる。間もなく発刊予定の JNTO ニュースレターの帰国研修員/同窓会員への配信ができるようデータベース等を整備する。
- 特にジャカルタ、スラバヤ、メダン、バンドン、マカッサル等のプロモーション優先地域を念頭に、これら都市の在住の帰国研修員/同窓会員に対し、JNTO のイベント等案内を通知できる体制を整備する。彼らが広報塔となって、知人・友人へのイベント告知を拡散できるよう、Facebook 等の手軽なメディアの活用が有効と考えられる。

提言を踏まえた対応可能性のある支援

帰国研修員のネットワーキングにおいて次のような JICA の支援が可能かつ効果的と見込まれる。

- 定期的な帰国研修員データベースアップデートのための各省庁、組織に置ける情報網の確立とフォーカルパーソンの開拓（省庁、組織ごとのデータベース整備）
- データベースアップデートの情報網でカバーされない帰国研修員の可能な限りのトレース
- 地域ごとのデータベース整備
- 帰国研修員人材マッピング作成（リソースパーソン・データバンク立ち上げ）
- 帰国研修員への情報発信強化（帰国研修員へ声が届く仕組みづくり）
- 各 JICA 帰国研修員同窓会組織や地域グループのコーディネーター（世話役）との定期的調整会合（情報交換会）の開催
- 帰国研修員と日本関連機関との連携のきっかけづくり
- 帰国研修員と他の類似同窓会・同好会とのプラットフォーム構築（拡大 AJM 実現の働きかけ）
- 実施中の JICA 協力案件との有機的連携のための仕組みづくり（形成から実施、評価まで全サイクルにおいての部分的連携）
- 帰国研修員の優良活動事例共有会開催（競争的インセンティブ・表彰の導入）

添付資料

添付資料 1：帰国研修員対象質問紙調査票

添付資料 2：日本関連機関調査項目

添付資料 3：フォーカスグループディスカッション記録

添付資料 4：帰国研修員アンケート結果

添付資料 5：現地調査日程・面談者リスト・参考資料/文献リスト

添付資料 6：Web アンケート報告書・オンライン調査票

添付資料１：帰国研修員対象質問紙調査票

Questionnaire of JICA Data Collection Survey on Indonesian Ex-Participants of JICA Training Program (4th Draft)

You will be requested to respond to most of the questions in the form of a 5-point scale. When the scale is shown as part of question, please select the number (from 1-5 or 6) that best describes your opinion with respect to each of the statements and write it in the appropriate box.

Please follow the instructions carefully for each question and answer as many questions as possible.

Answers and information you will provid in this survey are used only for this survey purposes. The survey team is responsible for confidentiality of your answers and personal information.

1 JICA Training Program you participated in

1) Title of training program	
2) The start and finish dates	From: Month Year To: Month Year
3) Training program duration	Months Days

2 What impression did you have when you participated in the JICA training program (the Training)?

1	2	3	4	5	6
Strongly disagree	Somewhat disagree	Neither agree nor disagree	Somewhat agree	Strongly agree	Not experienced

1) The level of technology introduced in the training program was high. ☐
2) The level of content and professionalism was high. ☐
3) The contents of the training program was carefully designed for applicability in our country. ☐
4) The contents of the training program was right level for me to understand and adopt. ☐
5) The contents of the training was useful and appropriate for me to adopt just after coming back to Indonesia. ☐
6) Japanese organization where I visited was well managed. ☐
7) I noticed through Japanese institutions visit that Japanese are diligent for their work. ☐
8) I learned at Japanese Institutions that Japanese work efficiently. ☐
9) I learned that Japanese have strong awareness of cleanliness. ☐
10) I learned that Japanese have strong sense of punctuality. ☐
11) I enjoyed tourist spots I visited during my stay in Japan. ☐
12) I enjoyed experiencing and viewing Japanese tea ceremony, flower arrangement (Ikebana), martial arts, traditional music during my stay in Japan. ☐
13) I became a fan of Japanese food during my stay in Japan. ☐
14) I enjoyed visiting Japanese family during my stay in Japan. ☐

3 Change of attitude/behavior after participating in the Training

What do you think of attitude/behaviors among your superior and your colleagues after you completed the Training?

1	2	3	4	5
Strongly disagree	Somewhat disagree	Neither agree nor disagree	Somewhat agree	Strongly agree

1) My superior tried to create an atmosphere at our office to share and utilize knowledge and skills I obtained in Japan. ☐
2) My superior made an effort to secure certain budget to utilize knowledge and skills I obtained in Japan. ☐
3) My superior promoted me to a higher position. ☐
4) My superior showed less interest in knowledge and skills I obtained in Japan. ☐
5) My colleagues have accepted/endorsed my opinion more often. ☐
6) My colleagues have supported to utilize knowledge and skills I obtained in Japan. ☐
7) My colleagues showed less interest in knowledge and skills I obtained in Japan. ☐

4 Contact/communication with Japanese or Japanese organizations you visited during the Training

4.1 What kind of contact / communication do you have with Japanese you met during the Training?

1	2	3	4	5	6
Not at all	Occasionally	Sometimes	Frequently	All the time	Joined some activities before, but not now

I maintain contact with

1) Japanese friends to access and collect new information about Japan. ..... ☐
2) Japanese friends to ask them advice about work-related matters. ..... ☐
3) Japanese friends to be connected with Japan. ..... ☐
4) Japanese friends to get necessary support when I or my family go to Japan. ..... ☐
5) the host organization in Japan to ask advice about work-related matters. ..... ☐
6) the host organization in Japan to implement join projects. ..... ☐

4.2 What is the reason that you don't maintain any contact / communication with Japanese friends or organizations?

1) I became too busy to keep contact with my Japanese friends. 1. Yes 2. No ..... ☐
2) My Japanese friends stopped contacting me. 1. Yes 2. No ..... ☐
3) I lost interest in Japan. 1. Yes 2. No ..... ☐
4) I prioritize relations with other countries more than Japan. 1. Yes 2. No ..... ☐
5) Other (Please specify:)

5 Impression of Japan

5.1 Visit Japan / Indonesia

1) Visit Japan

a. How many times have you visited Japan after the Training ?
Please write the number in the box. If none, please write '0' in the box. ..... ☐

b. What was your purpose of visit to Japan? Please select one number best descries your purpose of visit.
1. Participating in a training program 2. Business 4. Studying (private)
3. Studying (Sent from an organizati 5. Sightseeing 6. Visiting friends
7. Other (Please specify:) ..... ☐

2) Visit Indonesia

a. How many times has your Japanese friend who you met during the Training visited Indonesia?
Please write the number in the box. If none, please write '0' in the box. ..... ☐

b. What was your friends' purpose of visit to Indonesia?
Please select one number best descries your friends' purpose of visit.
1. Business 2. Studying 3. Sightseeing 4. Visiting friends 5. A part of Japanese government program
6. Other (Please specify:) ..... ☐

6 Contact/communication with other ex-participants after the Training

6.1 1) Have you contacted/communicated with other ex-participants of the Training? ..... ☐

1	2	3	4	5	6
Not at all	Occasionally	Sometimes	Frequently	All the time	had some contacts before, but not now

2) What means do you use to communicate with other ex-participants?
Please choose the three means you use most frequently from the following options, rank them in order of frequency and fill in the appropriate boxes with the numbers.

1. E-mail 2. Facebook 3. Twitter 4. Line 5. Mobile Phone 6. SMS 7. Skype
8. Other (Please specify:) .....

First	Second	Third

6.2 1) Have you contacted/communicated with other ex-participants of the Training in foreign countries? ..... ☐

1	2	3	4	5	6
Not at all	Occasionally	Sometimes	Frequently	All the time	had some contacts before, but not now

2) What means do you use to communicate with other ex-participants?

Please choose the three means you use most frequently from the following options, rank them in order of frequency and fill in the appropriate boxes with the numbers.

1. E-mail 2. Facebook 3. Twitter 4. Line 5. Mobile Phone 6. SMS 7. Skype
8. Other (Please specify:) .....

First	Second	Third

7 Relation with JICA after JICA training program

7.1 Are you a member of the alumni of JICA training participants? 1. Yes 2. No ☐

7.2 If you answered 'No' to 7.1, please answer the following.
What is the reason you are not a member of the alumni of JICA training participants?

1) I thought that there is no alumni organization. 1. Yes 2. No ..... ☐
2) The alumni office is located in far distance area from my area. 1. Yes 2. No ..... ☐
3) I have less interest in the alumni activity. 1. Yes 2. No ..... ☐
4) The atmosphere of the alumni is unsuitable for me. 1. Yes 2. No ..... ☐
5) There are few advantages for me to join the alumni. 1. Yes 2. No ..... ☐
6) Other (Please specify:)

7.3 If you answered 'Yes' to 7.1, please answer the following.
What kind of impression do you have towards the alumni of JICA training participants?

1	2	3	4	5
Strongly disagree	Somewhat disagree	Neither agree nor disagree	Somewhat agree	Strongly agree

1) I can exchange useful information with alumni members. ..... ☐
2) Events organized by the alumni is meaningful. ..... ☐
3) I look forward to the alumni event. ..... ☐
4) I feel that the atmosphere of the alumni fits me. ..... ☐
5) Being a member of the alumni is advantageous for me. ..... ☐
6) Other (Please specify:) ..... ☐

7.4 How are you currently involved in the alumni of ex-participants of the Training ?

1	2	3	4	5	6
Not at all	Occasionally	Sometimes	Frequently	All the time	Joined some activities before, but not now

1) I attend the regular meetings of the alumni. ..... ☐
2) I participate in events to introduce Japanese culture. ..... ☐
3) I exchange information on Japan with other alumni members. ..... ☐
4) I organize volunteer activities based on experience in Japan. ..... ☐
5) I exchange knowledge and skills obtained in Japan with other alumni members. ..... ☐
6) I try to disseminate knowledge and skills obtained in Japan (to other alumni members). ..... ☐
7) I propose activities applying knowledge and skills obtained in Japan (to JICA alumni). ..... ☐

8 What kind of (networking) activities are you conducting?

1	2	3	4	5	6
Not at all	Occasionally	Sometimes	Frequently	All the time	Joined some activities before, but not now

1) With my colleagues in my office/institution

a. Disseminating knowledge and skills obtained through the Training ..... ☐
b. Holding a study group on new knowledge and technology ..... ☐
c. Conducting events to introduce Japanese culture ..... ☐
d. Conducting volunteer activity for social contribution ..... ☐

2) With my working partners in the same sector

a. Disseminating knowledge and skills obtained through the Training ..... ☐
b. Holding a study group on new knowledge and technology ..... ☐
c. Conducting events to introduce Japanese culture ..... ☐
d. Conducting volunteer activity for social contribution ..... ☐

3) With-neighboring communities

a. Disseminating knowledge and skills obtained through the Training ..... ☐
b. Holding a study group on new knowledge and technology ..... ☐
c. Conducting events to introduce Japanese culture ..... ☐
d. Conducting volunteer activity for social contribution ..... ☐

4) With the ex-participants of the same program from other countries

a. Disseminating knowledge and skills obtained through the Training ..... ☐
b. Holding a study group on new knowledge and technology ..... ☐
c. Conducting events to introduce Japanese culture ..... ☐
d. Conducting volunteer activity for social contribution ..... ☐

5) With people from ASEAN countries

a. Disseminating knowledge and skills obtained through the Training ..... ☐
b. Holding a study group on new knowledge and technology ..... ☐
c. Conducting events to introduce Japanese culture ..... ☐
d. Conducting volunteer activity for social contribution ..... ☐

6) With Japanese hosting organization during JICA training program

a. Disseminating knowledge and skills obtained through the Training ..... ☐
b. Holding a study group on new knowledge and technology ..... ☐
c. Conducting events to introduce Japanese culture ..... ☐
d. Conducting volunteer activity for social contribution ..... ☐

7) With ex-participants who joined training program with other donors' support

a. Disseminating knowledge and skills obtained through the Training ..... ☐
b. Holding a study group on new knowledge and technology ..... ☐
c. Conducting events to introduce Japanese culture ..... ☐
d. Conducting volunteer activity for social contribution ..... ☐

8) With Japanese in Indonesia

a. Disseminating knowledge and skills obtained through the Training ..... ☐
b. Holding a study group on new knowledge and technology ..... ☐
c. Conducting events to introduce Japanese culture ..... ☐
d. Conducting volunteer activity for social contribution ..... ☐

9 To what extent of intention or interest do you have in participating in following activities?

1	2	3	4	5
Strongly disagree	Somewhat disagree	Neither agree nor disagree	Somewhat agree	Strongly agree

I have an intention/interest in participating in

(Sector oriented)

1) activity related to my specialty/ expertise/ field/ sector ..... ☐
(Such as;)

(Business oriented)

2) activity related to business of Japanese companies ..... ☐
3) activity related to working with Japanese in Japan ..... ☐
4) activity related to working with Japanese in Indonesia ..... ☐
5) activity related to entrepreneurship with Japanese ..... ☐
6) activity related to inviting Japanese company (to our region) ..... ☐

(Academic oriented)

7) activity related to joint study with Japanese ..... [ ]
8) activity related to studying in Japan ..... [ ]
9) activity related to a study tour in Japan ..... [ ]
10) activity related to hosting Japanese students (study tour, studying in Indonesia) ..... [ ]

(Japanese culture oriented)

11) activity related to Japanese language learning ..... [ ]
12) activity related to Japanese traditional culture ..... [ ]
13) activity related to Japanese movies and animated films ..... [ ]
14) activity related to Japanese food culture ..... [ ]
15) activity related to tourism in Japan ..... [ ]

(Others)

16) activity related to regional exchange in ASEAN including Japan ..... [ ]
17) activity related to volunteer for social service and NGO work ..... [ ]
18) activity organized by other donor related alumni [ ]
19) Other (Please specify:) ..... [ ]

10 How do you access information regarding Japan?

Please choose the three means you use most frequently from the following options, rank them in order of frequency and fill in the appropriate boxes with the numbers.

1.Internet 2.Domestic TV programs 3.Books 4.Newspaper 5.JICA 6.JICA Alumni
7.Ex-Participant 8.Japanese Company 9.Host Organization in Japan 10.Japanese living in Indonesia
11.Indonesian Friend
12. Other (Please specify:) ....

First	Second	Third

11 How to apply the outcomes from JICA training program

11.1 Have you shared any outcomes from JICA training program with your superiors and colleagues? ..... [ ]

1	2	3	4	5
Not at all	Slightly	Somewhat	Considerably	Greatly

11.2 Proposal and implementation of project and policy making based on training outcomes

Please read the following questions about your activities and write the appropriate numbers in the column.
If none, please write '0' in the column.

1) How many projects have you proposed based on knowledge and skills obtained through the Training? .... [ ]
2) How many projects that you proposed have been implemented? ..... [ ]
3) How many new policies have you proposed based on knowledge and skills you obtained through the Training? .... [ ]

12 Information about you

1) Name			
2) E-mail Address			
3) Age	a. At time of training program:	b. At present:	
4) Region you currently live (Choose one number from the region list* below.)		Region No.	
5) Gender (Male 1, Female 2)			
6) Your Organization/Company at time of the training program, Job Title **			
		Job Title No. :	
7) Your Current Organization/Company Job Title**			
		Job Title No. :	
8) Your Family		Number of Child(ren)	( )persons

添付資料２：日本関連機関対象調査項目

A　機関のプロファイルおよび国際交流／海外研修員／留学生との交流・連携担当者と連絡先

A1 機関名：

A2 担当部署名：

A3 担当部職員数：

A4 担当者名：

A5 機関住所：

A6 機関電話番号：

A7 機関ファックス番号：

A8 担当者電話番号：

A9 担当者電子メールアドレス：

B　日本関連機関のインドネシアやアセアンに対する意識・関心

B1 貴機関では、現在、事業や活動でインドネシア、アセアンとの連携・交流をしていますか。

B2 連携をしている場合は、具体的にどのような連携ですか。

B3 貴機関では、インドネシア、アセアンとの連携や交流をより強化されるべきという意識はお持ちですか。

B4 今後拡大が必要されている、新たに必要となる、と予想される連携にはどのような連携や活動か。

B5 B4の他に、貴機関の分野に特化した連携・交流のポテンシャルがある活動にはどんなものが考えられるでしょうか。

C　類似の帰国研修員/留学生ネットワークや同窓会組織の有無、活動の情報

C1 インドネシアにおいてJICAの帰国研修員の同窓会活動やネットワーク作りがなされていることをご存知ですか。

C2 貴機関で、JICAの帰国研修員ネットワークや同窓会との連携が望まれるようなことがあるとお考えですか（貴機関での様々な活動において、JICA帰国研修員が役に立つ機会やポテンシャルがあるとお考えですか。）

C3 それは具体的にどのような活動や分野ですか（具体的にどんなポテンシャルがあるとお考えですか）。

C4 JICAでは帰国研修員ネットワークや同窓会を組織していますが、貴機関でも類似のネットワークや同窓会が組織されていますか。

C5 B1の回答が「はい」の場合、そちらのネットワークの規模はどの程度ですか。

C6 B1の回答が「はい」の場合、そちらのネットワークでは、どのようにコミュニケーションを行っていますか（ニュースレター発信、メーリングリスト、WEB、ソシャルメディアなど）

C7 B1の回答が「はい」の場合、そちらのネットワークや同窓会では、どのような活動をしていますか。

C8 B4の活動のうち、どの活動が好評ですか。

C9 B5の活動が好評な理由は何だと思われますか。

C10 B4の活動のうち、もしくは企画された活動の中で、参加状況の思わしくないのはどのような活動でしたか。

C11 B7の参加状況の思わしくない活動の理由は何だと思われますか。

C12 そちらのネットワークや同窓会組織の活動のうち、参加人数の多少にかかわらず、好事例と思われる活動を、要因も含めて教えてください。

C13 そちらのネットワークや同窓会組織からどのような具体的な活動の要望が出ていますか。

C14 そちらのネットワーックや同窓会組織とJICA帰国研修員との連携・交流はありますか。

C15 B11の回答が「はい」の場合、どのような連携・交流ですか。

C16 その他、Bについての関連情報:

D 過去、現在に実施している海外研修員／帰国研修員／帰国留学生との交流事業、社会文化振興事業、民間企業振興事業など、それらの事業へのJICA研修事業の帰国研修員の参加機会／参加可能性、連携可能性

D1 これまでJICA帰国研修員の活動に、貴機関関係者（貴機関実施の活動参加者含む）が参加したことがありますか。

D2 C.1の回答が「はい」の場合、具体的にどのような活動に参加しましたか。

D3 C.1の回答が「いいえ」「把握できていない」の場合、このような機関を超えた帰国研修員の交流活動は有効だと思いますか。

D4 C3の回答が「思う」の場合、具体的にどのような交流活動が有効だと思いますか。

D5 その他、Cについての関連情報:

E 帰国研修員／留学生の交流に対するニーズ把握（専門分野、社会文化的分野、日本のイベント、定期的交流活動など）

E1 そちらの帰国研修員/留学生のネットワークや同窓会組織では、どのように帰国研修員のニーズ把握を行っていますか（アンケート調査、メーリングリストやWEBからの働きかけ、ソシャルメディアなど）

E2 帰国研修員／留学生のニーズ把握を行っている場合、どのようなニーズが確認されていますか。

E3 その他、Dについての関連情報:

F インドネシアの帰国研修員ネットワークや同窓会が果たす役割への期待

F1 JICAの帰国研修員のネットワークや同窓会組織が果たす役割に対して期待されていますか。

F2 JICAの帰国研修員のネットワークや同窓会組織が果たす役割に対して、具体的にどのような期待をされていますか。

F3 G2に関連して、より広い視点で日・イ関係を考えた場合、貴機関でJICAの帰国研修員のネットワークや同窓会組織を活用されるという今後の戦略や展望をお持ちですか。お持ちでしたら、お考えをお聞かせください。

F4 その他、Eについての関連情報:

G ASEANなどの域内の取り組みの有無、活動内容

G1 貴機関では、帰国研修員ネットワークや同窓会組織および貴機関の帰国研修員対象に、ASEANなどの域内の取り組みを何か実施されていますか。

G2 1の回答が「はい」の場合、そちらのネットワークや同窓会組織のアセアンなど域内の取り組みでは、具体的にどのような活動をしていますか。

G3 その他、Fについての関連情報:

H　調査対象機関と類似分野の他国ドナー等が組織する帰国研修員活動の動向、過去の事例

H1　貴機関の類似分野において、他国ドナー、機関が組織する帰国研修員の現在の、あるいはこれまでの活動、好事例などについてご教示いただけますか。

I　JICAの研修事業や帰国研修員ネットワークの有効活用に対する具体的アイディア・提案

I1　JICAの研修事業や帰国研修員ネットワークの有効活用について、何か具体的なアイディアや提案がありましたら、お聞かせいただけますか。

J　その他の関連情報:

添付資料３：フォーカスグループディスカッション記録

Records of Results of Focus Group Discussion (FGD)

【FGD Jakarta 1】	
Date, Time, Venue	12:00 – 14:30, Wednesday, 12 Nov 2014 @ Meeting room of MOI - Jakarta
Participants	4 persons (Ex- Participants of JICA Technical Training Programs/ and coordinator) 2 observers from MOI (Facilitator: Takasawa, Endriyani, Note taking: Matsuura, Interpreter: Yudi)

Results of FGD

Major Findings：

1. One participant has known IKA since 2008 and have received information from IKA through email (but no chance to join any events), while two others who went Japan this year were not aware of JICA Alumni Association.
2. Discussions were mostly focused on professional agenda rather than social/cultural exchanges. They highly appreciate follow-up programs of trainings, such as a program held in Bandung (theme: certification of products) with a Japanese lecturer.
3. They are interested in keeping relations with Japanese professionals to gain updated information on technology in their fields, which leads to further collaboration in the future.
4. In MOI, there was a workshop with JICA last year, but except that few networking activities has been taken place among JICA ex-participants.
5. Mr. E, a person in charge of human resource development in the Ministry, has launched a “sharing knowledge program” in the Ministry for better communication and information sharing among who had training abroad, since October 2014. The 1st session was on e-government and communication organization, facilitated by 2 officials who studied in Korea. 40 officials attended. They will continue to have monthly session with 2 persons each time to present their knowledge. Mr. E expects this effort enable MOI to adopt foreign knowledge and apply them into MOI practice.

Q1: Cultural exchange and social exposure activities they participated during their training program in Japan and their impression regarding the activities

- Mr.ES participated group trainings in 2008 and 2014. Recreation activities and sightseeing (Kyoto visit) were not included in the program in 2014 and transportation allowance was reduced, that caused less exposure to Japanese culture and community.
- Mr. Y suggested to have some cultural/sport activities in the training program such as visit to a Japanese Football club, Japanese food and culinary experience etc.

Q2: Advantages, disadvantages, and necessity of improvement of their training program in Japan

<On SME>

- Theories and concepts introduced in the training were not applicable to Indonesia for practice, such as SME regulations and subsidies mechanism of Japan (i.e. SME definition and SME size/scales are different between Indonesia and Japan).
- A broad view and concept on SME subsidies were explained but detailed procedures (i.e. how to

make a SOP) was not available.

- An Action plan was prepared at the end of the training but due to its timing, it was difficult to be presented to the Ministry for financing the plan as it was at the end of the FY.

<On Certification system>

- Limited no. of participants from a few ASEAN countries (Vietnam. Myanmar, Malaysia and Indonesia) had an advantage for participants know each other well, but on the other hand, it was better to include other ASEASN countries in order to meet the current regional needs.
- It was useful to have a follow-up program in Bandung (theme: certification of products) with a Japanese lecturer joined.
- Training material (text) was good and useful.
- Better coordination among lecturers on what they talk was needed, as there were many duplications and repetitions of what they presented especially in the introduction part (of ISO training). It was preferable that lecturers directly went into the main topic.

<In general>

- Assessment needs to be strengthened to match the background and needs of participants for special trainings.

Q3: Convenience to join the alumni activities, good/best practices of the alumni activities, expectation towards alumni activities

- Mr. Y and Mr. A joined training (group training) this year but did not know about the JICA Alumni Association in Indonesia.
- Mr.ES has known about the Association since 2008 and received information from them through email up to the point he changed his email address. Monthly newsletter from IKA had been circulated. So far no chances to attend events.

Q4: Their expectation towards Japan in Asia and the world

- New president o. Joko Widod expressed his welcome for Japanese investments in fisheries industry. Japan's investment into Indonesia is no. 2 after Singapore.
- They hope Japan to come to Indonesia not only for market chances but for upgrading Indonesian technology and boosting up its technological capacity.
- They hope more Japanese tourists to come to Indonesia.
- They expect METI to improve IEC standardized traffic light by using solar-cell system.
- Standardization for disabilities is expected to be introduced from Japan to Indonesia as in Korea and China.

Q5: The possibility of their contribution for further development of the relation between Indonesia and Japan

- It is necessary for them to have updated information on technology in the fields of industry for further collaboration.
- Mr.ES has joined the facebook among the training participates (20 participants with many countries) in 2008 and will be connected with them.
- SME policy is now cooperated by Koei with 3 regional focuses. (Mr. ES)
  - Samosir island (north Sumatra) to promote Ulos (traditional fabrics)

- Tegal (west Java) to promote ship components (door/windows etc)
- Palu (Sulawesi Central) to promote chocolate and Rattan exports

Q6: Interests and experiences in activities organized by other donor-related alumni

Other donor active in Indonesia

<China>

- Industrial Seminar for 21 days with 2-3 participants from each country (50%: lectures by Chinese, 50% sightseeing program)

<Korea :>

- Many training programs and opportunities
- A project to develop an industrial district of Boyolali in Central Java is on-going and trainings are conducted in Korea for this project. M/P, F/S and D/D are underway.

<Japanese NEDO>

- NEDO conducted training on electric power generation and Mr. E from MOI and 6 others Indonesians (staff of PT. Semen Padang) participated in 2012 for 10 days. The program was for 3 years and ended in 2013.

Other discussions

- In MOI, no networking activities has been implemented among ex-participants of JICA training, though there was one-shot workshop last year with JICA.
- Mr. E as a person in charge of human resource development in the Ministry has launched a "sharing knowledge program" in the Ministry for better communication and information exchange among who had training abroad, since last October. They had 1st sharing session on e-government and communication organization facilitated by 2 officials who studied in Korea with 40 attendants. It is expected to be monthly sharing by 2 persons to share knowledge with others. Through this efforts, Mr. E hopes to adopt foreign knowledge and apply them into MOI practice.
- Activities of HIDA and its alumni association were shared briefly as they have not known about HIDA.

【FGD Jakarta 2】	
Date, Time, Venue	18:00 – 21:15, Thursday, 6 Nov 2014 @ Mahakam Hotel - Jakarta
Participants	9 persons (Ex- Participants of YLTP) (Facilitator: Takasawa, Endriyani)
Results of FGD	

Q1: Cultural exchange and social exposure activities they participated during their training program in Japan and their impression regarding the activities

1. Impressed by Japanese hospitality.
2. Kimono session, Origami, Japanese calligraphy.
3. Heritage and culture are well maintained
4. The cultural exchange is very effective way in building a tight relationship between

participants and Japan

5. Playing golf and barbecue party.
6. Homestay
7. Garbage management, and Japanese awareness on environmental cleanliness.

Q2: Advantages, disadvantages, and necessity of improvement of their training program in Japan

1. Homestay program is very valuable and impactful. This program may be considered to be implemented again by JICA.
2. The suitable of program length is about 1 month, so that program content and culture are able to be discovered.
3. Program that participated by several countries (ASEAN Country) is better than only participated by single country (G to G).
4. Maximum age for Youth Program may be extended (not limited to 35 year of age as max.
5. The program only 3 weeks, and full of content which was only concentrated in garbage management without any expanded contents such as; water and cesspit management. There were no cultural exchange activity, and the were located in small town (?).

Q3: Convenience to join the alumni activities, good/best practices of the alumni activities, expectation towards alumni activities

1. Information can be received by actively involved as KAPPIJA member.
2. KAPPIJA and Regional Organization (ASEAN Japan Alumni Friendship Association) has regularly program, such as;

- TV Conference
- Youth Camp (with regional forum)
- Executive Council Meeting in Regional Level

3. KAPPIJA is usually invited by Sekneg to deliver material in orientation for JICA training participant to Japan before departure. When the participants finished their program and come back to Indonesia, they will automatically be KAPPIJA member and paid registration fees as member (only once).
4. KAPPIJA members are voluntary basis membership.
5. KAPPIJA has financial support from JICA even though the amount is not big. Pak Mul proposed to JICA to support more budget so that KAPPIJA could be more active in conducting activities.
6. In term of financial issues, KAPPIJA is also trying to involve some company to have cooperation with KAPPIA so that the company could donate some budget to KAPPIJA.
7. Some activities that conducted By KAPPIJA;

- Youth Camp Regional Leaders Forum in Yogyakarta, 2011.
- Donation for Tsunami disaster in Aceh
- Competition of Japanese and Indonesian traditional clouthing, and painting competition. The competition was held to help Tsunami disaster in collection donation, KAPPIJA collaborated with TVRI in conducting the event.

- Seminar on Disaster management will be conducted on 6 December 2014, and will invite JICA and ANA to participate.

Q4: The possibility of their contribution for further development of the relation between Indonesia and Japan

Q5. Their expectation towards Japan in Asia and the world (Q4 and Q5 are combined)

1. Japan can be an good examples especially in managing garbage.
2. Training program is can be offered more often so that the opportunity is wider for Indonesian joining to the program.
3. JICA could bridge for teachers who willing to continue their study to Master and Doctoral Program;

- Age of requirement might be extended.
- JICA can provide recommendation for ex-participant who want to get scholarship.

4. Content of the Training program is encouraged to have more scheme on practical skill, and transfer technology.
5. JICA may take initiatives to arrange a meeting between IKA JICA and KAPPIJA, since there is no communication between KAPPIJA and IKA JICA. Besides, JICA may also bridge a meeting between Japanese Companies and KAPPIJA.
6. JICA is well known by national and local government of Indonesia, however government of Indonesia do not know about KAPPIJA. Actually, KAPPIJA can be a "public relation" for JICA.
7. KAPPIJA hope that there is a particular program from JICA for KAPPIJA members.
8. <Pak Dawam- vocational teacher> He proposed to JICA to invite an expert to be facilitator in Vocational school.

Q6: Interests and experiences in activities organized by other donor-related alumni

<no one has experiances with onther donor alumni organzation>

【FGD Makassar】	
Date, Time, Venue	10:00 – 12:00, Monday, 10 Nov 2014 @ Meeting room of UPTD Maminasata/ Dinas PU Propinsi Sulut – Makassar
Participants	10 persons (Ex- Participants of JICA Technical Training Programs) (Facilitator: Takasawa, Ricky)
Results of FGD	
Q1. Cultural exchange and social exposure activities they participated during their training program in Japan and their impression regarding the activities	

Impression of Japanese culture and social

- Discipline (obviously seen in public facilities like on the train, at restaurant, or at road)
- Hard worker
- Clean
- Comfortable in public places/not noisy
- Honest
- Effective use of time/punctual
- Natural Environment were taken care nicely
- Excellent management of public transportation system
- Always showing respect and care to old generation and provide opportunity to keep them be productive
- Very accountable
- Traditional value and culture still reflected in many aspect of modern living
- Effective and efficient function of public service units

Interesting Activities related to social exposure and culture (mostly for YLTP participants)

- Learn to wear Kimono
- Tea ceremony
- Learn to cook/prepare Japanese food

Q2. Advantages/Disadvantages of training, and suggestion for improvement

Advantages/disadvantage

- Opportunity to be exposed to high technology is an advantages
- Sometime the technology introduced during the training is not available in Indonesia makes it difficult to apply after get back (considered as disadvantage)
- Learn and know about practice of land re-adjustment which is supported by law.

Suggestion for improvement

- More time for technical training program to learn about Japanese culture.
- Average optimal time for short training is suggested to be 3 weeks.
- Advance study is suggested as follow-up of short course
- Short course should be connected directly with the ongoing technical cooperation program of JICA in Indonesia
- Best practice is selected by considering the appropriateness with available technology in Indonesia

Q3. Convenience to join the alumni activities, good/best practices of the alumni activities, expectation towards alumni activities

- For KAPPIJA 21, many interesting activities have been conducted (like gathering of alumni fron ASEAN country, Social campaign of washing hands with soap, campaign of reduce plastic and reuse papers, campaign of natural environment awareness.)

Expectation:

- It need somebody to coordinate the ex-participant to organize the alumni organization.
- An active alumni organization is expected by ex-participants

- The existing alumni organizations need to be reorganized
- If Alumni were organized, the gathering of the member could be a medium for information sharing.
- A regular meeting of alumni is expected.

Q4: The possibility of their contribution for further development of the relation between Indonesia and Japan

Q5. Their expectation towards Japan in Asia and the world (Q4 and Q5 are combined)

- Ex participant can contribute to improve the relation between Japan and Indonesia through Alumni organization activities. Therefore the Alumni organization is expected to be exist and active.
- Japan is expected to continue the support for programs in Indonesia through their superiority in technology (in Makassar participants mention the need to support the MAMINASATA program)
- Expanding the relation of cooperation from inter governmental institutions to facilitate private sector cooperation.

Q6: Interests and experiences in activities organized by other donor-related alumni

- Other donor is considered (by the participants) have similar activities with JICA that concentrate in capacity building.
- Results of other donor activities is also effective and successful
- Alumni organization of other donor ex-training participant is available but also not active.
- The activity conducted by alumni of other donor that experienced by participant so far is reunion.
- Relation with Japan/JICA is as important as relation with other country/donor

【FGD Bali】	
Date, Time, Venue	18:00 – 21:00, Tuesday, 11 Nov 2014 @ D' Cost Retaurant in Denpasar – Bali
Participants	6 persons (Ex- Participants of JICA Technical Training Programs) 1 observer from NGO (Facilitator: Takasawa, Ricky)
Results of FGD	

Q1. Cultural exchange and social exposure activities they participated during their training program in Japan and their impression regarding the activities

Interesting Activities related to cultural exchange and social exposure, and Impression of Japanese culture and social value

- Tea ceremony

- Ikebana
- Family home stay
- Receptions and souvenir exchange
- Neat environment
- Functional public facility
- Discipline (on the road)
- Care for natural environment
- Festivals that involving and interesting for all ages
- Sincerity in helping others
- Interesting cultural philosophy
- Kampai
- Very good and arranging and organizing an event thoroughly
- Cleanliness that become a strong culture
- Respect and appreciation to senior citizen.

Q2. Advantages/Disadvantages of training, and suggestion for improvement

Advantages

- Obviously beneficial to improve the knowledge and insight
- Can adapt the concept or system of management
- Opportunity to learn from participants from other country
- Learn the importance to look and manage an issue from comprehensively not just from single sector perspective.
- Learn various systems to manage an issue.

Disadvantages

- Sometime the technology introduced during the training is not available in Indonesia makes it difficult to apply after get back
- Sometimes the method used by the resource person to give a lecture is not interesting for participants
- Difficult to get the copy/file of the lectured material because of copyright issue.

Suggestion for improvement

- Background of participants supposed to be from similar filed and level to ensure smooth discussion
- Training program related to mangrove is still needed
- The selection of participant have to be improve to avoid candidates that have no potential to contribute in the future were selected/sent.

Q3. Convenience to join the alumni activities, good/best practices of the alumni activities, expectation towards alumni activities

- Alumni in Bali has just organized,
- Suggest JICA to a page in their website for Alumni with information of ex-training participants that can be access by alumni member.
- Suggest to make a Alumni group in Facebook .

- Expecting the alumni organization can organize/conduct events that involving members from various background/sector to participate.
- Expecting the alumni organization can organize/conduct events that involving Japanese people who lives in Bali
- Potential activities :
  - Related to natural environment
  - Education for community based on members expertise

Q4: The possibility of their contribution for further development of the relation between Indonesia and Japan

- JICA expand the opportunity for Indonesian people to participate in training programs. Selection process can be tighter but by open selection.
- JICA facilitate training not merely about technical issues, but also soft skill issues or cultural issues. Japanese people have lived in a modern technology world but still conserving the traditional culture and its values.
- Since JICA has many offices in many countries, JICA could share important global information to Indonesia and help in anticipating it.
- JICA keep conducting program for capacity development of human resources.

Q5. Their expectation towards Japan in Asia and the world

- As agent to introduce best practices and good culture of Japan
- Start to get connected and build relationship with Japanese people who live in Indonesia
- The alumni organization start to build relation with consulate/embassy and conducting joint activities.

Q6: Interests and experiences in activities organized by other donor-related alumni

- Other donor (ADS) always monitor the progress of their alumni's achievement and career. They used to conduct workshops that involving alumni members and non-alumni.
- Other donor used to conduct workshop that informing training and study opportunity that they offered.
- ADS make a mailing list for alumni members to share and inform various information including available opportunities.

【FGD Yogyakarta 1】	
Date, Time, Venue	9:00 – 11:30, Saturday, 15 Nov 2014 @ UNY Hotel – Yogyakarta
Participants	10 persons (Ex- Participants of JICA Technical Training Programs) (Facilitator: Matsuura, Endriyani, Interpreter: Pipit)
Results of FGD	

Major Findings：

1. The existence of IKA and KAPPIJA were not known and all of the participants have very limited communication with JICA after the training.
2. They are willing to re-establish relations with JICA and have ideas of activities to propose such as:
   - ✓ Community activities at schools and disaster response
   - ✓ Activities to develop Indonesian business potential and promote local products to Japan
   - ✓ Academic networking in their own expertise
3. They seek JICA's facilitation to connect ex-participants and Japan-related organizations/stakeholders as well as expect financial support.
4. As a good example of centralized online networking of alumni, a US initiative called International Exchange Alumni was introduced by a participant.
   Link: https://alumni.state.gov/about-international-exchange-alumni

Q1: Cultural exchange and social exposure activities they participated during their training program in Japan and their impression regarding the activities

1. Participants impressed about :

- Punctual time of Japanese
- Japanese are very helpful and tolerant since participants mostly Muslim and Japanese are considered that they don't eat pork.
- Japanese manner and politeness
- Disabled people receive appropriate attention; including public transportation (bus) facilities are set for them, so they can easily enter to the bus.
- Habit to not littering
- < Mr. W – Lesson Study Training Program>

He was impressed by students in Japan that they are aware to take care of their environment cleanliness.

2. Some cultural activities experienced by participants such as; origami, Japanese language class, tea ceremony, dance, kimono class, japan traditional art tools. Mr. Ak said that every year Perhimpunan Pelajar Indonesia /PPI Jepang (Indonesia Student Association in Japan) conducted "charity day" that aims to collect donation for underprivileged students in Indonesia to continue their study. The form of Charity day was cultural day where Indonesian culture and Japanese culture performance are held.
3. During training all participants are prohibited to eat and drink, the smokers are strictly smoking in the special area/room.

Q2: Advantages, disadvantages, and necessity of improvement of their training program in Japan

1. Mr. Ak (Doctoral program in Japan)

- JICA scholarship is very good that is why he hopes that the opportunities could be offered for all Indonesian.
- Allowance rate is decreasing and allowance for housing is excluded whereas the cost for renting house is very expensive in Japan.

- As for transportation he suggested that the students are allowed to drive their own car since price of car is affordable in Japan, So that the students can press their transportation expenses.

2. Ms. Wd (Sakura program)

- Contents of program is useful and could be applied in Indonesia
- Very difficult to take a picture (it was very strict) and to access some documents, so she suggested that documents needed by participants can be accessed easier.
- There were no cultural activities or sites visitation in the program, it may be good that the participant could also get the cultural experiences during their program.

3. Training program was not interactive and mostly done in class and less of practice.

4. <Mr. Sh. Training program for agriculture> The training was too many theoretical concepts, and training in laboratory was not designed well. He expected that the program is more consist of practical skills.

5. <Ms. Um. Industrial Collaboration Program> She said that the content was good. But there are differences between industries in Japan and Indonesia, so that it was difficult to be implemented in Indonesia.

Q3: Convenience to join the alumni activities, good/best practices of the alumni activities, expectation towards alumni activities

1. Mr. Ak and also agreed by almost all FGD participants.

- There is no contact or connection after the program with JICA.
- They do not know about JICA alumni organization and what the organization vision.

2. Police Institution, There is an JICA alumni that initiated by the institution and this organization is quite active.
3. <participants>

- The JICA experts can facilitate establishment of Alumni Organization.
- Some suggestion for Alumni activities:
  - Alumni to accommodate community activity-related to aspect of alumni member.
  - Activities to be conducted non only included social and cultural activities only.
  - Thought alumni organization to collect and bridge regarding Indonesian potential local product to be marketed in Japan.
  -

4. <Input for JICA policy from Mr. Is>

Regarding JICA policy on Long Term Collaboration to be reviewed, since some projects/program has good results, and it is still support form JICA to sustain the programs.

Q4: The possibility of their contribution for further development of the relation between Indonesia and Japan

1. <Mr. Ak>

Exchange activities was conducted by UGM with one University in Japan under U to U collaboration. The university collaboration happened by using ex-participant JICA program network. The expenses for this exchange was covered by each University and the program coverage is still limited since under U to U collaboration.

2. Conducting promotion events and JICA may accommodate by inviting Japanese business man to come.
3. <Information from Participant> There was an promotion events last year in Yogyakarta and it was initiated by Local Government.

Q5. Their expectation towards Japan in Asia and the world

1. JICA could take initiative to facilitate student exchanges program in Asia.
2. JICA could provide some grants so that the ex-participants through alumni could access and as part of alumni organization activities.

Q6: Interests and experiences in activities organized by other donor-related alumni

1. Alumni US Program. The alumni organization provides grant especially for South Easy Asian Region and The world. The website and Facebook are available.
2. AUN SEED Net program. The alumni organization provides 3 categories of grant;

- Individual grants; each alumnus is eligible to propose this grant.
- Joint grants with Japanese institution.

Besides grants, some regular activities are also inducted by the alumni organization;

- Visitation Program to Japan
- Regional workshop/symposium for Asian Region.

The Alumni secretariat is managed by a staff who is hired by the organization. This staff will manage information in the organization and spread out the information to all alumni.

Communication channel at AUN SEED Net alumni are accommodated by the organization through website, mailing list and Facebook.

【FGD Yogyakarta 2】	
Date, Time, Venue	13:00 – 15:30, Saturday, 15 Nov 2014 @ UNY Hotel – Yogyakarta
Participants	4 persons (Ex- Participants of YLTP) (Facilitator: Matsuura, Endriyani, Interpreter: Pipit)
Results of FGD	
Major Findings：	

1. There is a huge gap of emotional attachment with Japan/Japanese between previous and recent participants. The recent participants had very few cultural/social exchanges in Japan due to tight schedule of school visits.
2. KAPPIJA is not currently active in Yogyakarta but its network is maintained without holding many events.
3. Mr. Sp, an entrepreneur/NGO organizer, has taken significant initiative to bridge Japan and Indonesia in business, education and cultural sectors. He still have strong relation with DAY and will receive Japanese high school and university students in March 2015.
4. Recent ex-participants seems more interested in collaboration with JICA in their own specialties (education) rather than in social/cultural events.
5. Middle-aged participants maintain communication with Japanese host families by using telephone/mobile call. Young participants rarely stay in touch with Japanese whom they met during the training, while they are connected with other foreign participants of the training through Facebook.

Q1: Cultural exchange and social exposure activities they participated during their training program in

1. < Mr. Q – Friendship program in 1998>

- The program was very memorable. In school in Yokohama, he learn that every morning in each first class, before students start their study, the teacher asks to students about 1 benevolence that has been done by each student yesterday. He believes that this action can be built a good character in each student from beginning.
- In other school, he learn that the school has regulation asking the student to read book as many as the schools age. The books have to be read in a year.
- Japanese are discipline, hard work.
- Since his program was emphasized on cultural exchange, therefore that he got many experiences regarding Japanese culture such as; tea ceremony, watch kabuki , and involve in many arts activity.

2. <Mr. Sp – Friendship Program in 1985>

He experienced in making otemoya (?) (Calligraphy) and at that time he gave it to Mr. Governor of Kumamoto.

3. < Ms. Ap – Young Leader Program 2014>

- Students understand well about their responsibility in cleaning their school. The students clean up their school without any instruction from their teacher.
- In public area, especially in fast food corner, Japanese usually clean up their own garbage

4. <Ms. Ft– Young Leader Program 2013>

She experienced Japanese culture through Homestay program

Q2: Advantages, disadvantages, and necessity of improvement of their training program in Japan

1. < Ms. Ap and Ms. Ft – Young Leader Program>

- There was no cultural program during their training in Japan, but they had 1 day of free time for them to go anywhere without any assistance from Japanese committee.

2. <Mr. Sp>

- This network has been developing in ASEAN region and in Japan after he came back from he program. He is many times invited by DAYL to Japan for business presentation.

3. Communication with ex-homestay parents is still continuing and also communication with some trainers. Communication has been done through email and mobile phone.

Q3: Convenience to join the alumni activities, good/best practices of the alumni activities, expectation towards alumni activities.

1. KAPPIJA Yogya is not so active, the last big event was conducted by KAPPIJA and AJAVA in 2011. Meeting is not regularly conducted, usually Mr. Sp who invites (take initiative) for a meeting.
2. Communication/ coordination with KAPPIJA Headquarter has done by Mr. Sp, and the communication itself is run smoothly.
3. The KAPPIJA Yogya members are aware that they are member of KAPPIJA, unfortunately they are rare come to meeting. Ms. Ft and Ms. Ap never had accessed KAPPIJA website before.
4. Communication among the members are done through social media (Facebook), however the member is limited to sectoral member or based on cohort of training. There is no communication between the FB groups.
5. Communication among KAPPIJA Yogya usually done by phone.
6. There were no a activities fundamental activities in KAPPIJA Yogya, so far the activities are only conducting seminars and workshops.
7. KAPPIJA in collaboration with MAVINDO conducted KODOMO nomi in Yogya.
8. Some of KAPPIJA's idea, that is cultural fair was adopted by UGM, so UGM conducted UGM Fair every year since 1987 to 1990 and supported by JICA.
9. Facilitate Local Goverment of Yogya in conducting sister city Yogya and Kyto since 1990.

<expectation>

- KAPPIJA can be a media for its member to change and shared information.

Q4: The possibility of their contribution for further development of the relation between Indonesia and Japan

1. <Mr. Sp>.

- He succeeded to export live lobster to Japan in 1993 to 1997. At that time he exported the lobsters he was joining with Ms. Susi (the current Minister of Fisheries)
- He imported used-machine to produce car motorbike components from Yokohama in 1993 - 2000. Those machine was used by vocational school students to practice.
- Some activities with DAYL :
  - Japanese student (high school and Univ Student) visit to schools and universities in Yogya in march 2015
  - Exported Jamur kuping (kinoko) to Japan
  - Participating in Global Education in Vietnam
- Mr. S is now designing for "Desa Jepang" in Yogyakarta for Japanese who want to experience stay in Yogya for long time. The village will be built as an integrated village where some shop, market, and other services (one stop point) will be provided in that village. He will be invited by his company partner for presenting the business plan.
- He organized International Walking Event in Yogya (Borobudur and Prambanan route) and it was attended by participants from 13 countries.

Q5. Their expectation towards Japan in Asia and the world

< Ms. Ap>

1. JICA to facilitate exchange student from Bantul to Japan and Vice versa.

Q6: Interests and experiences in activities organized by other donor-related alumni

No one of participants have experienced in other donor-alumni.

添付資料４：帰国研修員アンケート結果

Questionnaire of JICA Data Collection Survey
on Indonesian Ex-Participants of JICA Training Program

1 JICA Training Program you participated in

1) Title of training program				
2) The start and finish dates	From: Month	Year	To: Month	Year
3) Training program duration			Months	Days

2 What impression did you have when you participated in the JICA training program (the Training)?

1	2	3	4	5	6
Strongly disagree	Somewhat disagree	Neither agree nor disagree	Somewhat agree	Strongly agree	Not experienced

1) The level of technology introduced in the training program was high.

	1	2	3	4	5	6	Mean	S D	N=(6) is excluded
No. of respondents	3	37	109	242	124	16	3.87	0.88	515

2) The level of content and professionalism was high.

3	10	40	286	191	1	4.23	0.71	530

3) The contents of the training program was carefully designed for applicability in our country.

1	10	116	266	137	0	4.00	0.76	530

4) The contents of the training program was right level for me to understand and adopt.

0	4	78	269	180	0	4.18	0.70	531

5) The contents of the training was useful and appropriate for me to adopt just after coming back to Indonesia.

0	3	117	242	168	1	4.08	0.74	530

6) Japanese organization where I visited was well managed.

1	2	3	157	368	0	4.67	0.53	531

7) I noticed through Japanese institutions visit that Japanese are diligent for their work.

1	1	6	129	392	2	4.72	0.51	529

8) I learned at Japanese Institutions that Japanese work efficiently.

1	0	8	176	342	4	4.63	0.54	527

9) I learned that Japanese have strong awareness of cleanliness.

2	0	4	107	418	0	4.77	0.49	531

10) I learned that Japanese have strong sense of punctuality.

1	1	3	83	443	0	4.82	0.44	531

11) I enjoyed tourist spots I visited during my stay in Japan.

0	3	20	216	273	19	4.48	0.60	512

12) I enjoyed experiencing and viewing Japanese tea ceremony, flower arrangement (Ikebana), martial arts, traditional music during my stay in Japan.

2	14	56	169	121	169	4.09	0.83	362

13) I became a fan of Japanese food during my stay in Japan.

6	56	179	179	102	9	3.60	0.96	522

14) I enjoyed visiting Japanese family during my stay in Japan.

3	26	36	113	113	240	4.05	0.98	291

3 Change of attitude/behavior after participating in the Training

What do you think of attitude/behaviors among your superior and your colleagues after you completed the Training?

1	2	3	4	5
Strongly disagree	Somewhat disagree	Neither agree nor disagree	Somewhat agree	Strongly agree

1) My superior tried to create an atmosphere at our office to share and utilize knowledge and skills I obtained in Japan.

1	2	3	4	5	Mean	S D	N
11	54	180	245	41	3.47	0.86	531

2) My superior made an effort to secure certain budget to utilize knowledge and skills I obtained in Japan.

19	111	241	137	23	3.06	0.88	531

3) My superior promoted me to a higher position.

30	119	213	140	29	3.04	0.97	531

4) My superior showed less interest in knowledge and skills I obtained in Japan.

63	301	130	30	7	2.28	0.79	531

5) My colleagues have accepted/endorsed my opinion more often.

1	18	236	260	16	3.51	0.62	531

6) My colleagues have supported to utilize knowledge and skills I obtained in Japan.

0	10	152	326	43	3.76	0.62	531

7) My colleagues showed less interest in knowledge and skills I obtained in Japan.

53	334	127	17	0	2.20	0.65	531

4 Contact/communication with Japanese or Japanese organizations you visited during the Training

4.1 What kind of contact / communication do you have with Japanese you met during the Training?

1	2	3	4	5	6
Not at all	Occasionally	Sometimes	Frequently	All the time	Joined some activities before, but not now

I maintain contact with

1) Japanese friends to access and collect new information about Japan.

1	2	3	4	5	6	Mean	S D	N=(6) is excluded
75	152	151	107	32	17	2.75	1.13	517

2) Japanese friends to ask them advice about work-related matters.

156	158	112	73	15	20	2.29	1.13	514

3) Japanese friends to be connected with Japan.

154	164	101	84	14	17	2.30	1.14	517

4) Japanese friends to get necessary support when I or my family go to Japan.

277	103	71	52	24	7	1.94	1.21	527

5) the host organization in Japan to ask advice about work-related matters.

201	159	82	59	18	15	2.10	1.14	519

6) the host organization in Japan to implement join projects.

249	120	86	48	16	15	1.96	1.14	519

4.2 What is the reason that you don't maintain any contact / communication with Japanese friends or organizations?

	Yes	No
1) I became too busy to keep contact with my Japanese friends.	182	350
2) My Japanese friends stopped contacting me.	243	291
3) I lost interest in Japan.	1	532
4) I prioritize relations with other countries more than Japan.	11	522

5) Other (Please specify:

5 Impression of Japan

5.1 Visit Japan / Indonesia

1) Visit Japan

a. How many times have you visited Japan after the Training ?
Please write the number in the box. If none, please write '0' in the box.

Mean	S D	N
0.45	1.21	534

No. of visits	0	1	2	3	4	5	6	7	·····	10	11	12	13
	405	80	29	9	3	4	0	1		1	0	1	1

b. What was your purpose of visit to Japan? Please select **one** number best descries your purpose of visit.

1. Participating in a training program	2
2. Business	0
3. Studying (Sent from an organization/ government)	2
4. Studying（private）	0
5. Sightseeing	1
6. Visiting friends	0
7. Other（Please specify:	1

2) Visit Indonesia

a. How many times has your Japanese friend who you met during the Training visited Indonesia?
Please write the number in the box. If none, please write '0' in the box.

No. of visits	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
	344	88	42	25	11	15	2	0	1	0

10	11	12	13	14	15
2	1	1	0	1	1

Mean	S D	N
0.86	1.77	534

b. What was your friends' purpose of visit to Indonesia?
Please select one number best descries your friends' purpose of visit.

1. Business	0
2. Studying	1
3. Sightseeing	2
4. Visiting friends	1
5. A part of Japanese government program	4
6. Other（Please specify:	5

6 Contact/communication with other ex-participants after the Training

6.1 1) Have you contacted/communicated with other ex-participants of the Training?

1	2	3	4	5	6
Not at all	Occasionally	Sometimes	Frequently	All the time	had some contacts before, but not now

1	2	3	4	5	6
31	126	151	145	59	22

Mean	S D	N=(6) is excluded
3.15	1.10	512

2) What means do you use to communicate with other ex-participants?

Please choose the three means you use most frequently from the following options, rank them in order of frequency and fill in the appropriate boxes with the numbers.

1. E-mail 2. Facebook 3. Twitter 4. Line 5. Mobile Phone
6. SMS 7. Skype 8. Other（Please specify:

	1st	2nd	3rd
1. E-mail	189	127	77
2. Facebook	187	131	33
3. Twitter	1	3	7
4. Line	0	5	12
5. Mobile Phone	82	75	106
6. SMS	24	101	109
7. Skype	0	9	18
8. Other	10	5	20

6.2 1) Have you contacted/communicated with other ex-participants of the Training in foreign countries?

1	2	3	4	5	6
Not at all	Occasionally	Sometimes	Frequently	All the time	had some contacts before, but not now

1	2	3	4	5	6
217	140	98	47	12	15

Mean	S D	N=(6) is excluded
2.02	1.09	514

2) What means do you use to communicate with other ex-participants?

Please choose the three means you use most frequently from the following options, rank them in order of frequency and fill in the appropriate boxes with the numbers.

1. E-mail 2. Facebook 3. Twitter 4. Line 5. Mobile Phone
6. SMS 7. Skype 8. Other（Please specify:

	1st	2nd	3rd
1. E-mail	158	113	11
2. Facebook	142	103	3
3. Twitter	0	2	12
4. Line	1	3	20
5. Mobile Phone	3	9	22
6. SMS	2	10	36
7. Skype	0	8	34
8. Other	3	2	10

7 Relation with JICA after JICA training program

7.1 Are you a member of the alumni of JICA training participants?

Yes	No
283	251

7.2 If you answered 'No' to 7.1, please answer the following.
What is the reason you are not a member of the alumni of JICA training participants?

	Yes	No
1) I thought that there is no alumni organization.	198	50
2) The alumni office is located in far distance area from my area.	144	102
3) I have less interest in the alumni activity.	27	221
4) The atmosphere of the alumni is unsuitable for me.	15	232
5) There are few advantages for me to join the alumni.	16	232

7.3 If you answered 'Yes' to 7.1, please answer the following.
What kind of impression do you have towards the alumni of JICA training participants?

1	2	3	4	5
Strongly disagree	Somewhat disagree	Neither agree nor disagree	Somewhat agree	Strongly agree

1) I can exchange useful information with alumni members.

1	2	3	4	5	Mean	S D	N
7	4	28	81	48	3.95	0.96	168

2) Events organized by the alumni is meaningful.

6	2	49	79	33	3.78	0.90	169

3) I look forward to the alumni event.

5	0	18	80	66	4.20	0.85	169

4) I feel that the atmosphere of the alumni fits me.

7	0	56	77	30	3.72	0.90	170

5) Being a member of the alumni is advantageous for me.

5	0	26	91	47	4.04	0.84	169

6) Other (Please specify:

7.4 How are you currently involved in the alumni of ex-participants of the Training ?

1	2	3	4	5	6
Not at all	Occasionally	Sometimes	Frequently	All the time	Joined some activities before, but not now

1) I attend the regular meetings of the alumni.

1	2	3	4	5	6	Mean	S D	N=(6) is excluded
152	82	22	6	7	11	1.63	0.90	262

2) I participate in events to introduce Japanese culture.

174	70	20	4	4	8	1.52	0.82	266

3) I exchange information on Japan with other alumni members.

83	129	43	13	7	6	2.01	0.93	268

4) I organize volunteer activities based on experience in Japan.

111	88	46	18	12	5	2.01	1.10	268

5) I exchange knowledge and skills obtained in Japan with other alumni members.

71	130	44	22	9	5	2.15	1.00	269

6) I try to disseminate knowledge and skills obtained in Japan (to other alumni members).

56	97	62	41	21	4	2.54	1.19	270

7) I propose activities applying knowledge and skills obtained in Japan (to JICA alumni).

64	87	63	44	19	4	2.51	1.20	270

8 What kind of (networking) activities are you conducting?

1	2	3	4	5	6
Not at all	Occasionally	Sometimes	Frequently	All the time	Joined some activities before, but not now

1) With my colleagues in my office/institution

a. Disseminating knowledge and skills obtained through the Training

1	2	3	4	5	6	Mean	S D	N=(6) is excluded
32	193	165	93	45	7	2.86	1.05	528

b. Holding a study group on new knowledge and technology

199	185	90	39	13	8	2.02	1.03	526

c. Conducting events to introduce Japanese culture

376	104	33	7	3	7	1.39	0.72	523

d. Conducting volunteer activity for social contribution

242	185	67	25	10	6	1.82	0.96	529

2) With my working partners in the same sector

a. Disseminating knowledge and skills obtained through the Training

92	232	118	65	20	6	2.41	1.03	527

b. Holding a study group on new knowledge and technology

238	175	77	28	10	4	1.86	0.98	528

c. Conducting events to introduce Japanese culture

384	106	25	9	1	7	1.36	0.67	525

d. Conducting volunteer activity for social contribution

273	171	51	19	12	5	1.72	0.94	526

3) With-neighboring communities

a. Disseminating knowledge and skills obtained through the Training

162	219	92	40	19	2	2.13	1.04	532

b. Holding a study group on new knowledge and technology

310	156	43	12	6	5	1.57	0.83	527

c. Conducting events to introduce Japanese culture

373	120	21	10	2	7	1.38	0.69	526

d. Conducting volunteer activity for social contribution

258	189	42	26	11	5	1.75	0.95	526

4) With the ex-participants of the same program from other countries

a. Disseminating knowledge and skills obtained through the Training

359	119	35	11	3	2	1.44	0.76	527

b. Holding a study group on new knowledge and technology

425	80	17	3	2	2	1.25	0.58	527

c. Conducting events to introduce Japanese culture

465	43	7	2	3	4	1.14	0.49	520

d. Conducting volunteer activity for social contribution

447	58	9	3	8	3	1.22	0.65	525

5) With people from ASEAN countries

a. Disseminating knowledge and skills obtained through the Training

373	112	33	4	4	3	1.39	0.71	526

b. Holding a study group on new knowledge and technology

430	78	14	5	1	3	1.24	0.56	528

c. Conducting events to introduce Japanese culture

468	50	5	2	1	2	1.13	0.42	526

d. Conducting volunteer activity for social contribution

468	47	4	4	2	3	1.14	0.48	525

6) With Japanese hosting organization during JICA training program

a. Disseminating knowledge and skills obtained through the Training

289	143	65	13	9	12	1.67	0.91	519

b. Holding a study group on new knowledge and technology

358	117	31	13	4	8	1.45	0.78	523

c. Conducting events to introduce Japanese culture

394	89	29	2	7	9	1.35	0.72	521

d. Conducting volunteer activity for social contribution

409	86	19	6	4	8	1.30	0.67	524

7) With ex-participants who joined training program with other donors' support

a. Disseminating knowledge and skills obtained through the Training

358	132	32	6	1	2	1.41	0.67	529

b. Holding a study group on new knowledge and technology

409	95	17	5	1	2	1.28	0.59	527

c. Conducting events to introduce Japanese culture

445	69	8	1	2	2	1.18	0.49	525

d. Conducting volunteer activity for social contribution

436	72	13	3	5	1	1.24	0.62	529

8) With Japanese in Indonesia

a. Disseminating knowledge and skills obtained through the Training

338	122	48	14	5	4	1.53	0.84	527

b. Holding a study group on new knowledge and technology

394	93	28	8	1	6	1.34	0.67	524

c. Conducting events to introduce Japanese culture

423	81	18	2	2	5	1.25	0.57	526

d. Conducting volunteer activity for social contribution

436	67	18	2	3	4	1.23	0.58	526

9 To what extent of intention or interest do you have in participating in following activities?

1	2	3	4	5
Strongly disagree	Somewhat disagree	Neither agree nor disagree	Somewhat agree	Strongly agree

I have an intention/interest in participating in

Sector oriented

1) activity related to my specialty/ expertise/ field/ sector

1	2	3	4	5	Mean	S D	N
8	6	44	234	244	4.31	0.79	536

Business oriented

2) activity related to business of Japanese companies

10	59	189	198	76	3.51	0.93	532

3) activity related to working with Japanese in Japan

3	24	121	249	136	3.92	0.84	533

4) activity related to working with Japanese in Indonesia

3	13	104	272	141	4.00	0.78	533

5) activity related to entrepreneurship with Japanese

5	36	155	227	109	3.75	0.89	532

6) activity related to inviting Japanese company (to our region)

3	25	174	231	100	3.75	0.83	533

Academic oriented

7) activity related to joint study with Japanese

2	8	52	228	242	4.32	0.74	532

8) activity related to studying in Japan

2	6	51	192	281	4.40	0.74	532

9) activity related to a study tour in Japan

2	12	57	192	268	4.34	0.79	531

10) activity related to hosting Japanese students (study tour, studying in Indonesia)

3	14	102	228	185	4.09	0.83	532

Japanese culture oriented

11) activity related to Japanese language learning

2	17	79	264	169	4.09	0.79	531

12) activity related to Japanese traditional culture

1	16	88	278	149	4.05	0.76	532

13) activity related to Japanese movies and animated films

4	35	118	241	134	3.88	0.89	532

14) activity related to Japanese food culture

2	20	93	264	153	4.03	0.80	532

15) activity related to tourism in Japan

1	13	57	239	221	4.25	0.76	531

Others

16) activity related to regional exchange in ASEAN including Japan

2	12	67	247	204	4.20	0.77	532

17) activity related to volunteer for social service and NGO work

2	35	132	233	130	3.85	0.88	532

18) activity organized by other donor related alumni

4	27	130	253	118	3.85	0.85	532

19) Other (Please specify:)

10 How do you access information regarding Japan?

Please choose the three means you use most frequently from the following options, rank them in order of frequency and fill in the appropriate boxes with the numbers.

1.Internet 2.Domestic TV programs 3.Books 4.Newspaper 5.JICA 6.JICA Alumni
7.Ex-Participant 8.Japanese Company 9.Host Organization in Japan 10.Japanese living in Indonesia
11.Indonesian Friend
12. Other（Please specify:

	1st	2nd	3rd
1. Internet	476	36	10
2. Domestic TV programs	17	157	59
3. Books	4	80	72
4. Newspaper	1	40	66
5. JICA	26	107	66
6. JICA alumni	2	28	45
7. Ex-participant	2	16	53
8. Japanese company	0	8	17
9. Host organization in Japan	1	13	20
10. Japanese living in Indonesia	1	21	29
11.Indonesian friend	2	17	82
12. Other	2	5	6

11 How to apply the outcomes from JICA training program

11.1 Have you shared any outcomes from JICA training program with your superiors and colleagues?

1	----	2	----	3	----	4	----	5
Not at all		Slightly		Somewhat		Considerably		Greatly

1	2	3	4	5
3	101	201	170	60

Mean	S D	N
3.34	0.93	535

11.2 Proposal and implementation of project and policy making based on training outcomes

Please read the following questions about your activities and write the appropriate numbers in the column.
If none, please write '0' in the column.

1) How many projects have you proposed based on knowledge and skills obtained through the Training?

No. of projects	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
	161	134	112	59	22	36	2	2	0	1

10	11	12	13	14	15
5	0	1	0	0	1

Mean	S D	N
1.71	1.90	536

2) How many projects that you proposed have been implemented?

No. of projects	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
	247	151	75	37	11	8	1	1	1	0	4

Mean	S D	N
1.04	1.45	536

3) How many new policies have you proposed based on knowledge and skills you obtained through the Training?

No. of policies	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
	241	152	79	44	7	8	1	2	0	0	2

Mean	S D	N
1.03	1.33	536

12 Information about you

1) Name		
2) E-mail Address		
3) Age	a. At time of training program:	b. At present:
4) Region you currently live (Choose one number from the region list* below.)		Region No.
5) Gender (Male 1, Female 2)		
6) Your Organization/Company at time of the training program, Job Title **		Job Title No. :
7) Your Current Organization/Company Job Title**		Job Title No. :
8) Your Family	Number of Child(ren)	( ) persons

3) Age

age	- 24	25 - 29	30 - 34	35 - 39	40 - 44	45 - 49	50 - 54	55 - 59	60 -
at the time of training	14	104	192	94	59	41	21	5	1
at present	2	40	131	156	82	62	38	16	6

	Mean	S D	N
at the time of training	35.0	7.25	531
at present	38.9	7.69	533

4) Region you currently live

1.Aceh	6	13.Banten	42	25.Gorontalo	1
2.Sumatera Utara	10	14.Jawa Tengah	25	26.Sulawesi Utara	4
3.Sumatera Barat	8	15.DI Yogyakarta	22	27.Sulawesi Tengah	2
4.Riau	6	16. Jawa Timur	25	28.Sulawesi Selatan	31
5. Kepulauan Riau	3	17.Bali	12	29.Sulawesi Barat	0
6. Jambi	5	18.Nusa Tenggara Barat	4	30.Sulawesi Tenggara	3
7.Sumatera Selatan	7	19.Nusa Tenggara Timur	2	31.Maluku	2
8.Kepulauan Bangka Belitung	3	20.Kalimantan Barat	4	32.Maluku Utara	1
9.Bengkulu	1	21.Kalimantan Tengah	7	33.Papua	0
10.Lampung	2	22.Kalimantan Selatan	6	34.Papua Barat	1
11. DKI Jakarta	153	23.Kalimantan Timur	2		
12. Jawa Barat	133	24.Kalimantan Utara	1		

5) Gender

Male	Female
349	185

6), 7) Job Title

	6) at participation	7) at present
1. Planning	40	32
2. Administration	3	2
3. Governance	148	144
4.Public works/ infrastructure	42	42
5. Agriculture	15	14
6. Fishery	7	7
7. Mining	1	2
8. Energy	1	2
9. Commerce/ Business	8	7

	6) at participation	7) at present
10. Tourism	1	2
11. Education/ Human Development	86	88
12. Health/ Medical science	33	32
13. Social welfare	2	2
14. Retired	0	1
15. Other	148	155

13 Change of job

1) Have you changed your job since participating in the Training ?

Yes	No
76	460

2) What was the reason to change your job?
Please choose **one** reason why you changed your job from the following and fill in the box with the number.

1.The previous job was not suitable to me.	0
2.I was headhunted by other organization/company.	21
3.I established a new company.	1
4.Other (Please specify:	55

14 Are you interested in being contacted by JICA if JICA needs collaboration with you or your support?

Yes	No
526	10

添付資料５：現地調査日程・面談者リスト・参考資料/文献リスト

現地調査日程

[Fieldwork 1]

Date	AM	PM
2/11/2014 Sun		*Takasawa's arrival in Jakarta (NH855)*
3/11/2014Mon	Preparation for Web-Survey tender Revising of web-survey questionnaire	**Meeting with SIEP JICA Indonesia Office Team** **Interview with EOJ (Mr. Kubo)**
4/11/2014 Tue	**Web-Survey Tender meeting**	**Interview with JJC (Mr. Yoshida)**
5/11/2014 Wed	Preparation for FGD in Makassar and Bali	**Courtesy call to SETNEG (Ms. Rika)** (Takasawa)
6/11/2014 Thu	**Interview with Japan Foundation (Mr. Ogawa)**	**FGD Jakarta1 (KAPPIJA)**
7/11/2014 Fri	Preparation for Web-Survey contract	Arrangement for FGD in 4 regions
8/11/2014 Sat	Proposal appraisal of the Web-Survey tender	Proposal appraisal of the Web-Survey tender
9/11/2014 Sun	Preparation for Web-Survey contract	*Move to Makassar (Takasawa)* *Matsuura's arrival in Jakarta (NH855)*
10/11/2014 Mon	**FGD Makassar** **Interview with Mr. Shimura, HIDA**	*Move to Bali (Takasawa)* **Meeting with JICA Indonesia Office**
11/11/2014 Tue	**Contract negotiation with the candidate firm**	**FGD Bali** **Meeting with Mr. Eko and Mr. Wildan, Ministry of Agriculture/IKAMAJA**
12/11/2014 Wed	*Back to Jakarta (Takasawa)*	**FGD Jakarta 2 (MOI)** **Signing contract with LP3ES and kick-off of web-survey work**
13/11/2014 Thu	Documentation/FGD arrangement	**Brief Reporting to JICA Indonesia Office** *Takasawa's departure from Jakarta (NH856)*
14/11/2014 Fri	FGD preparation	*Move to Yogyakarta (Matsuura)*
15/11/2014 Sat	**Yogyakarta FGD 1**	**Yogyakarta FGD 2 (KAPPIJA)**
16/11/2014 Sun	*Back to Jakarta (Matsuura, Endriyani)*	Documentation
17/11/2014 Mon	Documentation/Appoint arrangement	**Interview with Mr. Ozawa and Mr. Yaguchi (SME support), JICA Indonesia**
18/11/2014 Tue	**Interview with Mr. Nishi, Marketing Advisor, Pt. Sumitomo Forestry**	**Interview with Mr. Ishizaki, Executive Director, JNTO**
19/11/2014 Wed	Meeting with Ms, Endriyani, Research Assistant	**Interview with Mr. Kamata, Investment Advisor, SMEJ/JETRO**
20/11/2014 Thu	**Interview with Mr. Saptodarsono, former Chairperson of IKA**	**Brief Reporting to JICA Indonesia Office** *Matsuura's departure from Jakarta (NH856)*

[Fieldwork 2]

Date	AM	PM
13/1/2015, Tue	*Takasawa's arrival in Jakarta (GA 875)* 11:00 Meeting with Ms. Endriyani and check the venue	**13:30 Meeting with Ms. Suda-Interpreter**
14/1/2015, Wed	Seminar preparation	*Matsuura's arrival in Jakarta (NH855)* **Seminar preparation** **19:30 Meeting with 4 Interpreters**
15/1/2015, Thu	**10:00 Meeting with Mr. Andi (Moderator/ Facilitator)** @ Sultan Seminar preparation	**14:00 Meeting with JICA Indonesia Office Team (1)** Seminar preparation
16/1/2015, Fri	Seminar preparation	Seminar preparation
17/1/2015, Sat	**Result Sharing Seminar at Hotel Sultan**	**Seminar at Hotel Sultan** **15:00 (after the seminar) Meeting with JICA Indonesia Office Team (2)**
18/1/2015, Sun	Documentation	Documentation *Takasawa's departure from Jakarta (GA87)*
19/1/2015, Mon	*Takasawa's arrival in Tokyo* Post seminar logistics	Post seminar logistics *Matsuura's departure from Jakarta (NH856)*
20/1/2015, Tue	*Matsuura's arrival in Tokyo*	

面談者リスト

No.	機関名	名前	部署・職位
1	Ministry of State Secretariat	Ms. Rika Kiswardani	Head of Bureau for Technical Cooperation
2	Ministry of Agriculture	Mr. Wiweko Setiawan	Assistant Deputy for Cooperation and Agriculture Training Center Sub Division, Agency of Extension and Agricultural Human Resources Development
3	IKA JICA	Mr. Saptodarsono	Former Chairperson of IKA Chairman, Indonesian Bonsai Society
4	Tokyo Institute of Technology	Dr. Yuriko Sato	Associate Professor International Student Center Dept. of Environmental Science and Technology
5	Ministry of, Economy, Trade, and Industry (METI)	Mr.Shinji Maruyama	Deputy Director, Technical Cooperation Division
6	METI	Ms. Yuka Soyama	Deputy Director, Technical Cooperation Division
7	METI	Mr. Katsunori Oki	Deputy Director, Technical Cooperation Division
8	METI	Mr. Atsuhiko Minowa	Deputy Director, Technical Cooperation Division
9	METI	Mr. Kimiyoshi Tabe	Assistant Director, Technical Cooperation Division

10	METI	Mr. Kentaro Oshima	Chief Officer, Technical Cooperation Division
11	METI	Mr. Masahito Iwahana	Deputy Director, International Cooperation Division, International Department, Secretariat General
12	Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries (MAFF)	Mr. Tomoyuki Shinada	Deputy Director, International Cooperation Division, International Affairs Department, Minister's Secretariat
13	MAFF	Mr. Masahito Iwahana	Deputy Director, International Cooperation Division, International Affairs Department, Minister's Secretariat
14	Development Association for Youth Leaders (DAY)	Mr. Koji Kato	Executive Director, Secretary General
15	Embassy of the Republic of Indonesia	Dr. M. Iqbal Djawad	Education Attaché
16	Overseas Human Resources and Industry Development Association (HIDA)	Mr. Yuji Shimo-osawa	General Manager, General Affairs and Planning Departnment
17	HIDA Headquarters	Mr. Kazuhisa Ogawa	Chief Researcher, Global Strategy Group and World Convention Group, HIDA Research Institute
18	HIDA Headquarters	Ms. Miho Furuhashi	Researcher, Global Strategy Group HIDA Research Institute
19	Japan External Trade Organization (JETRO) Headquarters	Mr. Manabu Tsukada	Deputy Director, Asia Pacific Division, Overseas Research Department
20	Yokohama City	Ms. Mikiko Uchiyama	Manager, Office of International Policy Bureau
21	Yokohama City	Mr. Takashi Kondo	Manager, International Technical Cooperation Division, Y-PORT (Yokohama Partnership of Resources and Technologies)
22	Yokohama City	Mr. Toshihiro Yamaguchi	Manager, International Project Division, Yokohama Waterworks Bureau
23	Yokohama City	Dr. Emi Sunaga	Director of Preservation and Research Center, Environmental Planning Bureau
24	Embassy of Japan	Mr. Hiroyuki Kubo	Cultural Exchange
25	Japan Foundation	Mr. Tadashi Ogawa	Director
26	JETRO Jakarta Office	Mr. Yoshiaki Kamata	EPA Trade/ Investment Advisor
27	HIDA Jakarta Office	Mr. Takuya Shimura	Chief Representative
28	Japan National Tourism Organization (JNTO) Jakarta Office	Mr. Katsuhisa Ishizaki	Executive Director
29	Jakarta Japan Club (JJC)	Mr. Susumu Yoshida	Secretary General
30	Pt. Sumitomo Forestry Indonesia	Mr. Shuhei Nishi	Marketing Advisor

31	JICA Yokohama	Mr. Masaru Honda	Director, Training Program Division
32	JICA Headquarters	Mr. Masao Watanabe	Director, Training Program Planning Division, Domestic Strategy and Partnership Department
33	JICA Headquarters	Ms. Makiko Nakano	Training Program Planning Division, Domestic Strategy and Partnership Department
34	JICA Indonesia Office	Ms. Dinur Krismasari	Senior Representative
35	JICA Indonesia Office	Mr. Shigeki Nakazawa	Project Formulation Advisor
36	JICA Indonesia Office	Ms. Angel	Program Officer
37	JICA Indonesia Office	Mr. Masaya Yaguchi	Representative
38	JICA Indonesia Office	Mr. Taisuke Ozawa	Project Formulation Advisor
39	JICA Indonesia Office	Ms. Nita Arianti	Secretary/ Interpreter

参考資料・文献

No.	タイトル	出所	入手日
1	JICA (2010) *Indonesia's Development and JICA' Cooperation, Final Report*	http://libopac.jica.go.jp/images/report/P0000254213.html http://libopac.jica.go.jp/images/report/P0000254214.html	
2	Prime Minister's Office, Japan, (2013) *National Security Strategy*	http://www.cas.go.jp/jp/siryou/131217anzenhoshou/nss-j.pdf	
3	Ministry of Foreign Affairs Japan (2012) *Evaluation of Training and Dialogue Programs*	http://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/shiryo/hyouka/kunibetu/gai/kenshuin/sk11_01_index.html	
4	JICA (2013) *Ex-post Evaluation and Monitoring Survey of Training and Dialogue Programs in Japan JFY2012*	http://libopac.jica.go.jp/images/report/P1000010362.html	
5	Ministry of Foreign Affairs Japan (2014) *Opinion Poll on Japan in Seven ASEAN Countries*	http://www.mofa.go.jp/mofaj/press/release/press23_000019.html	
6	Sato, Yuriko (2010) *Evaluation of Japan's Foreign Student Policy From the Perspective of Human Resource Development, Friendship Promotion and Economic Effect*, Toshindo	Publication	
7	Yokohama City's International Cooperation through Public Private Partnership	Provided by Yokohama City	November 18, 2014
8	Press Release on JICA Public Private Partnership Project	Ditto	Ditto
9	Material on CITY-NET	Ditto	Ditto
10	Tokyo Tech Profile（2013-2014）	Provided by TI Tech	October 17, 2014
11	Tokyo Tech Data Book（2014-2015）	Ditto	Ditto

12	Data on Foreign Student by Countries	Ditto	Ditto
13	Newsletter of DAY (Spring, 2014)	Provided by DAY	October 31, 2014
14	History of Youth International Exchange	Ditto	Ditto
15	Material on KAPPIJA21	Ditto	Ditto
16	KAPPIJA21 Newsletter	Ditto	Ditto
17	Material on AJAFA21	Ditto	Ditto
18	Material on Activities of JJC	Provided by JJC	November 4, 2014
19	List of Japanese Companies by Product Groups (October 30, 2014)	Ditto	Ditto
20	Introduction of Investment in Indonesia by JETRO 2014-2015	Provided by JETRO Jakarta	November 19, 2014
21	Indonesia Update	JETRO Asia and Oceania Division	October, 2014
22	Guide of JNTO 2014	Provided by JNTO Jakarta	November 18, 2014
23	Annual Report of IKAMAJA (in Indonesian)	Provided by IKAMAJA	November 11, 2014
24	Copy of MOU between MOA and Japanese Host organization (in English)	Ditto	Ditto
25	Sumitomo Group Report: Power of Forest Empowers the Future	Provided by Sumitomo Forestry	November 18, 2014
26	Sumitomo Forestry Group Profile "Power of Forest Empowers the Future"	Ditto	Ditto
27	Pamphlet: Japanese Technology Changes the World – Support for Japanese SME Overseas Advancement	Provided by SME Support Team, JICA Indonesia Office	November 17, 2014
28	Indonesia Project Map –Public and Private Sector	Ditto	Ditto

* 上記 No. 1 – 22 および 25 – 28 は全て日本語資料。

添付資料 6： Web アンケート報告書・オンライン調査票

Web Survey for JICA's Data Collection Survey on Indonesian Ex-Participants of JICA Training Program

A. Sending Link Process

In online survey for JICA's data collection survey on Indonesian Ex-Participants of JICA Training Program, E-mail and Sort Massage Send (SMS) has been sent to the respondents on Tuesday, November 18, 2014, by using 3 methods, namely:

1. Send an e-mail containing a *link* and SMS notifications.
   We send an e-mail containing a *link* followed by the SMS notification. This method is used for respondents who have e-mail addresses and Hand Phone number.

   Example:

   "Mr/Ms of ex-participant of jica Training Program. JICA has sent you an email (aangkunaefy@hotmail.com) to collect information from ex-participants of JICA trining program, Thank you"

2. Send an e-mail containing a *link* without SMS notification.
   We send an e-mail containing a link without SMS notification for respondents who only have the e-mail address.

3. Send an SMS containing a *link.*
   We send SMS containing the *link* only to ex-participants who have a mobile phone number, due to invalidity or N/A of e-mail address.

   Excample:

   "Mr / Ms of ex-participants of JICA training programs, JICA is expecting that you please take the time to fill out a questionnaire survey to collect information ex-participants of JICA training programs. You can fill out the survey form via a mobile phone or personal computer / laptop by visiting the following link: http://siep-jica.lp3es.or.id/kuesioner/psvy/ 8dd48d6a2e2cad2

Note: dispatch of Email and SMS to the respondent was done two time: first on 18 November 2014 and the second on 23 November 2014. Resend was done when the response of the respondents to fill out the questionnaire began to decline and the response increased after resending is done.

B. Failed delivery E-mail (mailer daemon)

In the process of sending e-mail, not all e-mail addresses listed in the database are valid. To address these issues we use two steps as follow:

1. The first step, we made a recap of the ex-participants invalid E-mail address , then browsed other E-mail address of the ex-participans if they have, and we also traced the hand phone number of ex-participans.
2. The second step, we send e-mail containing a *link* to the ex-participans who have alternative e-mail address. If the alternative email address is also undeliverable, then we solve it by sending an SMS containing a *link* to a handphone number that has been identified.

C. Re-sending *link*

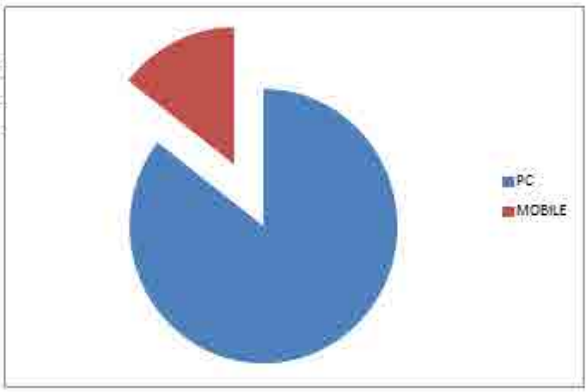
We resend e-mail to the ex-participans who has invalid email address. They are generally directly responding by SMS gateway and informed that their e-mail address is wrong, and they asked the link to be sent to the correct e-mail address. Resending precess of the e-mail is divided into three (3) phases. The first phase was sent at 09.00 pm, the second phase was sent at 15:00 pm, and the third phase was sent at 21:00

D. The device used to fill the questionnaire respondents

There are two types of devices used to fill questionnaire online respondents, namely using Mobil Phone and PC. We can clearly be seen in the following graph

Type of Device Used by the Respondent to Fill Out in an Online Questionnaire

Gadget	Number of Respondent
PC	465
MOBILE	79
Total	544



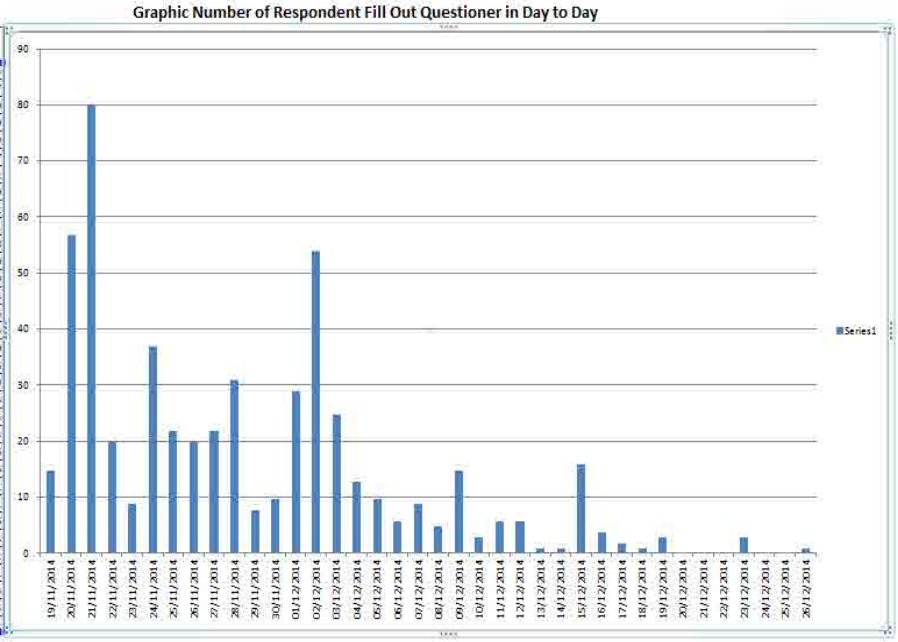
E. Monitoring Process

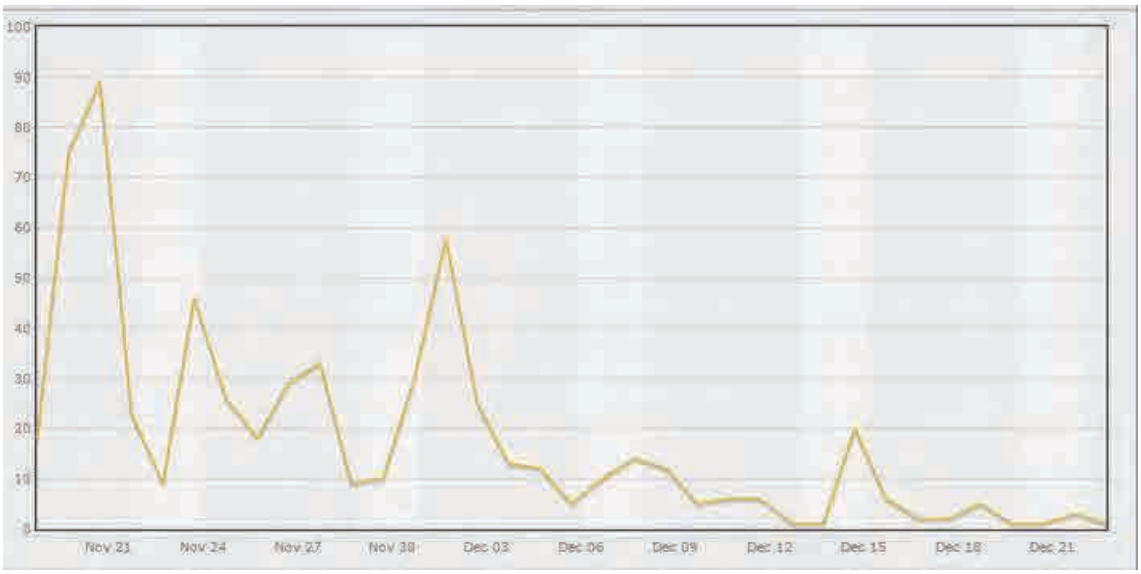
In the process of entering data monitoring, helpdesk operator can see the progress of the incoming data stream every day. The ex-participants, who communicated regarding the survey, are mostly using SMS.

After a survey run a week, the incoming data from the ex-participants was decline. Most of ex-participants had filled out questionnaires completely, while some of them had not

filled until finished. For the ex-participants who have not finished filling out the qustionnaire after a week, then we send the qustionaire again to their e-mail and SMS to remind them. The ex-participants usually responses the reminder and they completed to fill out the questionaire, so that the incoming data is increasing. The ex-participants who did not fill out the questionaire yet, informed us that they were out of town, or they were busy, and ECT. They promised to fill questioner once they have time. The fluctuations in the incoming data were illustrated in the following graph:

Date	Number of Respndent
19/11/2014	15
20/11/2014	57
21/11/2014	80
22/11/2014	20
23/11/2014	9
24/11/2014	37
25/11/2014	22
26/11/2014	20
27/11/2014	22
28/11/2014	31
29/11/2014	8
30/11/2014	10
01/12/2014	29
02/12/2014	54
03/12/2014	25
04/12/2014	13
05/12/2014	10
06/12/2014	6
07/12/2014	9
08/12/2014	5
09/12/2014	15
10/12/2014	3
11/12/2014	6
12/12/2014	6
13/12/2014	1
14/12/2014	1
15/12/2014	16
16/12/2014	4
17/12/2014	2
18/12/2014	1
19/12/2014	3
23/12/2014	3
26/12/2014	1





F. The Submit Data Report

The submit of the result of data survey ex-participants JICA training via web application online was done in two phases namely:

1. The First phase

On November 28, 2014 have been sent progress report to IDCJ. Achievement the result of collecting data when the progress report submitted more than 50%. Data Ex-Participants of JICA Training Program that has filled completely namely 310 people from 510 that targeted. While there are some ex-participants who are in the process of filling out the questionnaire and unfinished about 100 respondents. Therefore, the total number of respondents who had filled completely and in the process of filling out the questionnaire is about 410 respondents.

After the progress report submitted, the IDCJ find an error in the choice answer questionnaire number 7.3 that should be there are 5 answer choices listed only two answers choice. More details are as follows:

The Right questionnaire:

7.3. If you answer 'Yes' on number 7.1, please answer the next part. What kind of impression that you got to the alumnus of participants of JICA trainees?

1	----------	*2*	----------	*3*	----------	*4*	----------	*5*
strongly disagree;		*disagree*		*can Yes can Not;*		*agree;*		*strongly agree*

1. *I can exchange the useful information with alumnus*
2. *The program that organized by the alumnus are very significant*
3. *I am waiting for alumnus's event/activities*
4. *I feel the atmosphere in the alumni suitable for me*
5. *become alumnus member worthwhile for me*
6. *Others (mention please)*

The previous questionnaire that listed on web site:

7.3. If you answer 'Yes' on number 7.1, please answer the next part. What kind of impression that you got to the alumnus of participants of JICA trainees?

1	----------	*2*
disagree		*Agree*

1. *I can exchange the useful information with alumnus*

2. *The program that organized by the alumnus are very significant*
3. *I am waiting for alumnus's event/activities*
4. *I feel the atmosphere in the alumni suitable for me*
4. *Become alumnus member worthwhile for me*
5. *Others (mention please)*

Question number 7.3 is a leap question so not all respondents fill out it. Respondents who fills incorrect has reached as many as 234 people of the total respondents who complete as much as 310.

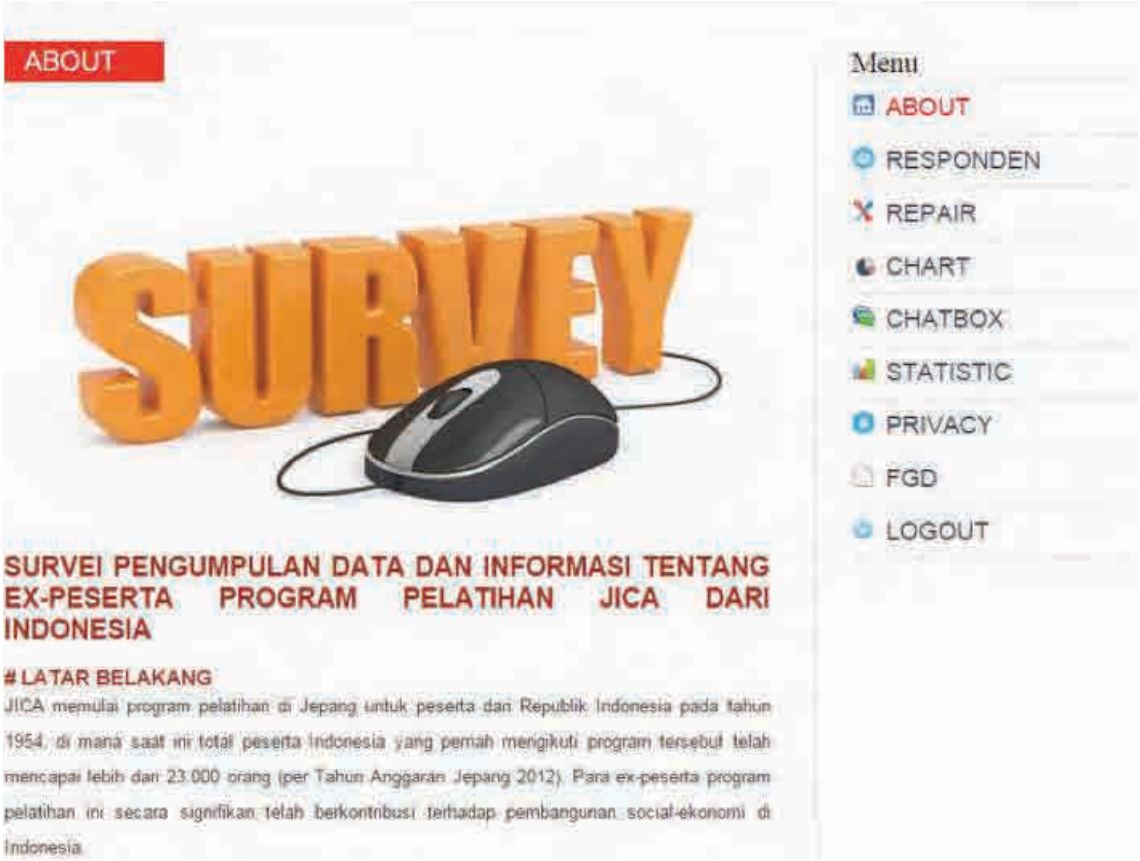
To handle the error was done resubmission the questionnaire numbers 7.3 that have revised to all respondents. The result, there are 116 that refill out and 118 are not refill out quetioner.

Until the online web in the lid (was closed), the total number of respondents is as much as 537, although not all respondents refill out the question number 7.3, but statistically already eligible for analyzed. Thus, no need to resend the respondents who do not respond to questions numbers 7.3 that have revised.

2. The Second Phase (Final)

On December 24, 2014 was submitted the second phase of the data by the total respondents reached 537 people, where the number has exceeded the target of 510 respondents. Closure of online web made December 26, 2014, earlier than planned to date January 2, 2015.

[オンライン調査票]


ABOUT
SURVEY
SURVEI PENGUMPULAN DATA DAN INFORMASI TENTANG EX-PESERTA PROGRAM PELATIHAN JICA DARI INDONESIA
LATAR BELAKANG
JICA memulai program pelatihan di Jepang untuk peserta dari Republik Indonesia pada tahun 1954, di mana saat ini total peserta Indonesia yang pernah mengikuti program tersebut telah mencapai lebih dari 23.000 orang (per Tahun Anggaran Jepang 2012). Para ex-peserta program pelatihan ini secara signifikan telah berkontribusi terhadap pembangunan social-ekonomi di Indonesia
Menu
ABOUT
RESPONDEN
REPAIR
CHART
CHATBOX
STATISTIC
PRIVACY
FGD
LOGOUT

Asosiasi alumni Program Pelatihan Pemimpin Muda / Young Leader Training Program (sebelumnya Youth Invitation Program) KAPPIJA – 21 adalah salah satu contoh dari sedikit kasus yang telah mempromosikan kegiatan-kegiatan mereka sendiri dengan memperluas dan memperkuat jaringan di kawasan ASEAN. Jaringan individu-individu semacam ini masih menjadi tren yang sangat topical dan terbatas di kalangan kelompok-kelompok tertentu.

JICA berharap akan ada ruang untuk pendekatan yang lebih efektif bagi jejaring ex-peserta karena dianggap sebagai asset berharga untuk membangun kemitraan Indonesia-Jepang di masa depan. Berbagai hasil evaluasi mengenai para ex-peserta Indonesia yang dilakukan oleh Kementerian Luar Negeri Jepang (2012) juga merekomendasikan perlunya peningkatan hubungan JICA dan para ex-peserta pelatihan dari persfektif jangka panjang.

Dalam rangka penumusan mekanisme kerjasama yang efektif antara ex-peserta pelatihan dan JICA di masa depan, JICA mulai dengan mengumpulkan dan menganalisa informasi dasar, terkait motivasi para ex-peserta pelatihan dalam menjalin hubungan dengan JICA serta ketertarikannya baik terhadap JICA maupun Jepang.

Untuk survei pengumpulan data dan informasi tentang ex-peserta program pelatihan , JICA mendelegasikannya kepada International Development Center of Japan (IDCJ) selaku konsultan pelaksana. Di Indonesia, IDCJ bermitra dengan LP3ES yang didukung oleh para peneliti IDCJ dengan rekam jejak yang dapat dipertanggungjawabkan serta pengalamannya dalam melakukan melakukan survei. Survei tidak hanya focus pada JICA dan isi-isu ODA, tetapi juga aspek sosial-budaya Jepang.

TUJUAN

Survei ini secara ekstensif akan mengumpulkan dan menganalisa informasi dasar tentang motivasi dari ex-peserta dari Indonesia untuk penumusan mekanisme kerjasama yang efektif antara para ex-peserta dan JICA.

PENANGANAN INFORMASI PERSONIL

1. Kami menjaga privasi responden kami secara bijaksana dan dengan penuh kehati-hatian.
2. Kami hanya akan mengumpulkan informasi personal yang relevan dengan tujuan survei.
3. Kami hanya akan menyimpan dan menggunakan informasi personal responden selama informasi tersebut masih relevan dengan tujuan survei.

KEAMANAN INFORMASI PERSONIL

Perlindungan data adalah masalah kepercayaan dan privasi anda sangat penting bagi kami. Kami memastikan bahwa seluruh informasi yang dikumpulkan tersimpan dengan aman. Kami menjaga informasi pribadi anda dengan cara:

1. Membatasi akses ke informasi pribadi.
2. Mengikuti kemajuan teknologi pengamanan untuk mencegah akses komputer tidak sah.
3. Menggunakan teknologi enkripsi 128-bit SSL (secure socket layer) saat memproses pengisian kuesioner dan informasi personil responden.

KONTAK KAMI

Jika Anda memiliki komentar, saran atau keluhan, Anda dapat menghubungi kami melalui e-mail di siep-jica@lp3es.or.id ,melalui bantuan online yang tersedia pada halaman web survei.

Pengumpulan Informasi Personal

Ketika Responden mengisi kuesioner survey atau memberikan informasi personal responden melalui kuesioner yang ada di website, informasi personal yang kami kumpulkan dapat meliputi: Nama, Alamat Rumah, Alamat Kantor, Alamat Email, Nomor Telepon, Nomor Ponsel, Tanggal Lahir, Jenis Kelamin.

Responden harus memberikan informasi yang akurat, lengkap dan tidak menyesatkan. Responden bisa menginformasikannya kepada kami apabila ada perubahan data dan informasi. Kami akan melakukan verifikasi informasi yang Responden berikan (spotcheck)

Penggunaan dan Pengungkapan Informasi Personal

Informasi personal yang kami kumpulkan dari Responden dapat digunakan, atau dibagikan dengan pihak ketiga yaitu JICA untuk beberapa atau semua tujuan berikut:

1. Untuk memfasilitasi penggunaan Layanan survey online
2. Untuk memberi informasi kepada ex participant
3. Untuk memverifikasinya informasi ex participant dalam rangka memastikan keakuratan informasi.

Penarikan Persetujuan

Responden dapat komunikasikan keberatan Responden atas pengungkapan informasi personal responden untuk tujuan dan dengan cara tersebut di atas dengan menghubungi kami di alamat e-mail kami di bawah.

Memperbarui Informasi Personal Responden

Responden dapat memperbarui Informasi personal responden dengan menghubungi operator kami secara online dalam Platform web survey atau responden dapat menghubungi kami pada alamat email di bawah.

Keamanan Informasi Personal Responden

Perlindungan data adalah masalah kepercayaan dan privasi responden sangat penting bagi kami. Kami memastikan bahwa seluruh informasi yang dikumpulkan tersimpan dengan aman. Kami menjaga informasi personal Responden dengan cara:

1. Membatasi akses ke informasi personal.
2. Mengikuti kemajuan teknologi pengamanan untuk mencegah akses komputer tidak sah.
3. Menggunakan teknologi enkripsi 128-bit SSL (secure socket layer) saat memproses pengisian kuesioner dan informasi personal Responden.

Jika Responden yakin bahwa privasi Responden telah dilanggar oleh kami, silahkan hubungi kami di alamat e-mail kami di bawah.

Pengumpulan Data Komputer

Kami mungkin menggunakan cookies, web beacons, dan teknologi serupa lainnya untuk menyimpan informasi dalam rangka memberi Responden pengalaman yang lebih baik, lebih cepat, lebih aman dan personal ketika Responden mengakses web survey.

Ketika Responden mengunjungi web survey, server kami akan secara otomatis menyimpan informasi bahwa browser Responden mengunjungi sebuah website. Data ini mungkin termasuk:

1. Alamat IP komputer Responden.
2. Tipe browser.
3. Halaman Web yang Responden kunjungi sebelum Responden datang ke platform kami.
4. Halaman-halaman dalam Platform yang Responden kunjungi.
5. Waktu yang dihabiskan pada halaman tersebut, barang dan informasi yang dicari pada Platform, waktu akses dan tanggal, dan statistik lainnya.

Informasi ini dikumpulkan untuk analisa dan evaluasi guna membantu kami meningkatkan Platform yang kami sediakan.

No Spam, Spyware, or Virus

Spam, Spyware, atau virus tidak diperbolehkan dalam Platform. Responden tidak memiliki ijin atau tidak diizinkan untuk menambahkan pengguna lain ke milis Responden (email atau surat fisik) tanpa persetujuan kami. Jika Responden ingin melaporkan pesan yang mencurigakan, silahkan hubungi kami di alamat email kami di bawah.

Perubahan pada Kebijakan Privasi

Kami dapat secara berkala meninjau kecukupan Kebijakan Privasi ini. Kami berhak untuk memodifikasi dan mengubah kebijakan privasi setiap saat. Setiap perubahan kebijakan ini akan dipublikasikan pada Platform.

Menghubungi Kami

Jika Responden ingin menarik persetujuan Responden dalam penggunaan informasi personal, meminta akses dan / atau koreksi dari informasi personal Responden, memiliki pertanyaan, komentar atau masalah, atau memerlukan bantuan mengenai hal-hal teknis atau terkait dengan survey online, jangan ragu untuk hubungi kami di siep-jica@lp3es.or.id.

PRIVACY

KEBIJAKAN PERLINDUNGAN INFORMASI PERSONAL

Kami menjaga privasi responden kami dengan serius dan kami hanya akan mengumpulkan, merekam, menyimpan, dan menggunakan informasi personal responden seperti yang diuraikan di bawah

1. Kami menjaga privasi responden kami secara bijaksana dan dengan penuh kehati-hatian
2. Kami hanya akan mengumpulkan informasi personal yang relevan dengan tujuan survey
3. Kami hanya akan menyimpan dan menggunakan informasi personal responden selama informasi tersebut masih relevan dengan tujuan survei

JICA | LP3ES
JICA'S DATA COLLECTION SURVEY

JICA'S DATA COLLECTION SURVEY ON INDONESIAN EX-PARTICIPANTS OF JICA

ABOUT PRIVACY

Selamat Datang Aang Kunaefi

Kuesioner Survei Pendataan JICA terhadap Mantan Peserta Program Pelatihan JICA dari Indonesia

Anda diminta untuk menanggapi sebagian besar pertanyaan dalam bentuk skala 5-poin. Ketika skala ditunjukkan sebagai bagian dari pertanyaan, silahkan pilih nomor (1-5) yang paling tepat menggambarkan pendapat anda terkait tiap pernyataan dan menuliskannya dalam kotak yang sesuai.

Mohon ikuti petunjuk dengan cermat setiap pertanyaan dan jawablah sebanyak mungkin pertanyaan yang ada.

Jawaban dan informasi yang anda berikan untuk survei ini digunakan hanya untuk tujuan survei. Tim Survei bertanggung-jawab secara tegas melindungi jawaban dan informasi pribadi anda terhadap penggunaan lainnya.

Pertanyaan akan dibagi menjadi 14 tahap dan akan disimpan otomatis setiap tahapnya, artinya jika Anda tidak dapat menjawab seluruh pertanyaan sekaligus atau karena suatu sebab Anda harus meninggalkan pada saat sedang menjawab Anda dapat meneruskan kembali jawaban Anda nanti dengan mengunjungi link yang Kami kirimkan melalui email dan atau SMS. Kami akan mengarahkan Anda ke tahap terakhir yang Anda isi.

→ Klik disini untuk memulai menjawab pertanyaan

JICA | LP3ES
JICA'S DATA COLLECTION SURVEY

JICA'S DATA COLLECTION S

ABOUT PRIVACY

STEP 1 dari 14 : Program Pelatihan JICA yang anda ikuti?

Nama Program Pelatihan

Mulai Pelatihan Pada Bulan Tahun

Akhir Pelatihan Pada Bulan Tahun

Durasi Pelatihan Bulan Hari

→ Simpan, lanjut ke tahap berikutnya.

STEP 2 dari 14 : Kesan apa yang anda dapatkan ketika ikut dalam program pelatihan JICA (Pelatihan)?

1. Tingkat teknologi yang diperkenalkan dalam pelatihan adalah tingkat tinggi
   - Sangat tidak setuju
   - Tidak setuju
   - Bisa Ya bisa Tidak
   - Setuju
   - Sangat setuju
   - Tidak sempat mengalami
2. Tingkatan isi dan profesionalisme pelatihan tergolong tinggi
   - Sangat tidak setuju
   - Tidak setuju
   - Bisa Ya bisa Tidak
   - Setuju
   - Sangat setuju
   - Tidak sempat mengalami
3. Isi dan program pelatihan dirancang secara seksama agar dapat diterapkan di negara kami
   - Sangat tidak setuju
   - Tidak setuju
   - Bisa Ya bisa Tidak
   - Setuju
   - Sangat setuju
   - Tidak sempat mengalami

4. Isi dan program pelatihan ada pada tingkatan yang tepat bagi saya untuk dipahami dan diadopsi/digunakan.
   - Sangat tidak setuju
   - Tidak setuju
   - Bisa Ya bisa Tidak
   - Setuju
   - Sangat setuju
   - Tidak sempat mengalami

5. Isi dari pelatihan sesuai dan berguna bagi saya untuk diadopsi/digunakan segera setelah kembali ke Indonesia.
   - Sangat tidak setuju
   - Tidak setuju
   - Bisa Ya bisa Tidak
   - Setuju
   - Sangat setuju
   - Tidak sempat mengalami

6. Organisasi Jepang yang saya kunjungi dikelola dengan baik.
   - Sangat tidak setuju
   - Tidak setuju
   - Bisa Ya bisa Tidak
   - Setuju
   - Sangat setuju
   - Tidak sempat mengalami

7. Saya amati dari kunjungan ke Lembaga-lembaga Jepang, orang Jepang rajin dalam pekerjaan mereka.
   - Sangat tidak setuju
   - Tidak setuju
   - Bisa Ya bisa Tidak
   - Setuju
   - Sangat setuju
   - Tidak sempat mengalami

8. Saya pelajari pada Lembaga-lembaga Jepang bahwa orang-orang Jepang bekerja secara efisien

- Sangat tidak setuju
- Tidak setuju
- Bisa Ya bisa Tidak
- Setuju
- Sangat setuju
- Tidak sempat mengalami

9. Saya pelajari bahwa Orang Jepang memiliki kesadaran yang kuat akan kebersihan.

- Sangat tidak setuju
- Tidak setuju
- Bisa Ya bisa Tidak
- Setuju
- Sangat setuju
- Tidak sempat mengalami

10. Saya pelajari bahwa orang Jepang memiliki kepekaan yang kuat akan ketepatan waktu

- Sangat tidak setuju
- Tidak setuju
- Bisa Ya bisa Tidak
- Setuju
- Sangat setuju
- Tidak sempat mengalami

11. Saya menikmati tempat-tempat wisata yang saya kunjungi selama saya di Jepang.

- Sangat tidak setuju
- Tidak setuju
- Bisa Ya bisa Tidak
- Setuju
- Sangat setuju
- Tidak sempat mengalami

12. Saya menikmati melihat dan mengikuti tradisi minum teh, merangkai bunga (Ikebana), seni bela diri, musik tradisional, selama saya di Jepang.

- Sangat tidak setuju.
- Tidak setuju.
- Bisa Ya bisa Tidak.
- Setuju.
- Sangat setuju.
- Tidak sempat mengalami

13. Saya menjadi penggemar masakan Jepang selama saya tinggal di Jepang.

- Sangat tidak setuju.
- Tidak setuju.
- Bisa Ya bisa Tidak.
- Setuju.
- Sangat setuju.
- Tidak sempat mengalami

14. Saya menikmati kunjungan ke keluarga Jepang selama saya tinggal di Jepang.

- Sangat tidak setuju.
- Tidak setuju.
- Bisa Ya bisa Tidak.
- Setuju.
- Sangat setuju.
- Tidak sempat mengalami

→ **Simpan, lanjut ke tahap berikutnya.**

STEP 3 dari 14 : Perubahan sikap/perilaku setelah ikut serta dalam Pelatihan

 # Apa pendapat anda tentang sikap/perilaku di antara atasan dan rekan sekerja setelah anda menyelesaikan pelatihan?

1. Atasan saya mencoba menciptakan suasana di kantor kami agar bisa berbagi dan menerapkan pengetahuan serta keterampilan yang saya peroleh di Jepang
   - Sangat tidak setuju
   - Tidak setuju
   - Bisa Ya bisa Tidak
   - Setuju
   - Sangat setuju
2. Atasan saya mengupayakan tersedianya anggaran tertentu untuk memanfaatkan pengetahuan dan keterampilan yang saya dapat di Jepang.
   - Sangat tidak setuju
   - Tidak setuju
   - Bisa Ya bisa Tidak
   - Setuju
   - Sangat setuju
3. Atasan saya mempromosikan saya ke posisi yang lebih tinggi
   - Sangat tidak setuju
   - Tidak setuju
   - Bisa Ya bisa Tidak
   - Setuju
   - Sangat setuju

STEP 4 dari 14 : Kontak/komunikasi dengan orang Jepang atau organisasi Jepang yang anda temui/kunjungi selama Pelatihan.

 # 4.1 Kontak/komunikasi bagaimana yang anda miliki dengan orang-orang Jepang yang anda temui selama Pelatihan?

1. Teman-teman Jepang untuk mengakses dan mengumpulkan informasi baru tentang Jepang
   - Tidak sama sekali
   - Sesekali
   - Beberapa kali
   - Seringkali
   - Selalu
   - Ikut serta dalam beberapa kegiatan sebelumnya, tapi sekarang tidak.
2. Teman-teman Jepang untuk meminta saran mereka tentang hal-hal terkait pekerjaan.
   - Tidak sama sekali
   - Sesekali
   - Beberapa kali
   - Seringkali
   - Selalu
   - Ikut serta dalam beberapa kegiatan sebelumnya, tapi sekarang tidak.
3. Teman-teman Jepang untuk hubung dengan Jepang
   - Tidak sama sekali
   - Sesekali
   - Beberapa kali
   - Seringkali
   - Selalu

- Ikut serta dalam beberapa kegiatan sebelumnya, tapi sekarang tidak

4. Teman-teman Jepang untuk mendapatkan dukungan yang diperlukan manakala saya atau keluaga saya pergi ke Jepang.
   - Tidak sama sekali
   - Sesekali.
   - Beberapa kali
   - Seringkali.
   - Selalu
   - Ikut serta dalam beberapa kegiatan sebelumnya, tapi sekarang tidak

5. Organisasi penyelenggara pelatihan di Jepang: untuk meminta saran tentang hal-hal terkait pekerjaan
   - Tidak sama sekali
   - Sesekali.
   - Beberapa kali
   - Seringkali
   - Selalu
   - Ikut serta dalam beberapa kegiatan sebelumnya, tapi sekarang tidak

6. Organisasi penyelenggara pelatihan di Jepang untuk mengimplementasikan proyek bersama:
   - Tidak sama sekali
   - Sesekali.
   - Beberapa kali
   - Seringkali.
   - Selalu
   - Ikut serta dalam beberapa kegiatan sebelumnya, tapi sekarang tidak

 # 4.2 Apa alasan sehingga anda tidak lagi memiliki kontak/komunikasi dengan organisasi atau teman-teman di Jepang?

1. Saya terlalu sibuk untuk terus melakukan kontak dengan teman-teman Jepang.
   - Ya.
   - Tidak.

2. Teman-teman Jepang saya berhenti mengontak saya.
   - Ya.
   - Tidak.

3. Saya kehilangan minat terhadap Jepang.
   - Ya.
   - Tidak.

4. Saya memprioritaskan hubungan dengan negara-negara lain dibanding Jepang.
   - Ya.
   - Tidak.

5. Lainnya harap sebutkan:

→ **Simpan, lanjut ke tahap berikutnya.**

STEP 5 dari 14 : Kesan tentang Jepang (Mengunjungi Jepang/Indonesia).

5.1 Mengunjungi Jepang

1. Berapa kali anda mengunjungi Jepang setelah mengikuti pelatihan tersebut? Harap tuliskan jumlahnya di kotak. Jika tidak pernah, harap tuliskan '0' di kotak.

   Jawab :

2. Apa tujuan kunjungan anda ke Jepang? Harap pilih satu angka yang paling menggambarkan tujuan kunjungan anda.
   - Ikut serta dalam program pelatihan
   - Bisnis
   - Studi (Dikirim oleh organisasi/pemerintah)
   - Studi (Pribadi)
   - Jalan-jalan
   - Mengunjungi teman
   - Lainnya, harap sebutkan

5.2 Mengunjungi Indonesia

1. Berapa kali teman-teman Jepang yang anda kenal saat pelatihan datang berkunjung ke Indonesia Harap tuliskan jumlahnya di kotak. Jika tidak pernah, harap tuliskan '0' di kotak.

   Jawab :

2. Apa tujuan kunjungan teman anda ke Indonesia? Harap pilih satu angka yang paling menggambarkan tujuan kunjungan teman anda
   - Bisnis
   - Studi
   - Jalan-jalan
   - Mengunjungi teman
   - Bagian dari Pemerintah Jepang
   - Lainnya, harap sebutkan

→ **Simpan, lanjut ke tahap berikutnya.**

STEP 6 dari 14 : Kontak/komunikasi dengan mantan peserta lainnya setelah pelatihan.

6.1 Hubungan dengan mantan peserta lain yang berasal dari Indonesia.

1. Pernahkah anda mengontak/berkomunikasi dengan mantan peserta pelatihan lainnya?
   - Tidak sama sekali
   - Sesekali
   - Beberapa kali
   - Seringkali
   - Selalu
   - Melakukan beberapa kontak sebelumnya tapi sekarang tidak

2. Cara apa yang anda gunakan untuk berkomunikasi dengan mantan peserta lainnya? Harap pilih tiga cara yang paling sering anda gunakan dan yang berikut ini, urutkan menurut tingkat kesenngan dan isilah kotak-kotak yang sesuai dengan angka-angka

   Pertama: » Kedua: » Ketiga:

   1. Email
   2. Facebook
   3. Twitter
   4. Line
   5. Telepon Selular
   6. SMS
   7. Skype
   8. Lainnya, harap sebutkan:

6.2 Hubungan dengan mantan peserta lain yang berasal dari negara lain.

1. Pernahkan anda mengontak/berkomunikasi dengan mantan peserta pelatihan lainnya yang dari negara lain?
   - Tidak sama sekali
   - Sesekali
   - Beberapa kali
   - Seringkali
   - Selalu
   - Melakukan beberapa kontak sebelumnya tapi sekarang tidak

2. Cara apa yang anda gunakan untuk berkomunikasi dengan mantan peserta lainnya? Harap pilih tiga cara yang paling sering anda gunakan dan yang berikut ini, urutkan menurut tingkat kesenngan dan isilah kotak-kotak yang sesuai dengan angka-angka

   Pertama: » Kedua: » Ketiga:

   1. Email
   2. Facebook
   3. Twitter
   4. Line
   5. Telepon Selular
   6. SMS
   7. Skype
   8. Lainnya, harap sebutkan:

→ **Simpan, lanjut ke tahap berikutnya.**

STEP 7 dari 14 : Hubungan dengan JICA setelah program pelatihan JICA.

 # 7.1 Apakah anda anggota alumni peserta pelatihan JICA?

- Ya
- Tidak

 # 7.2 Jika jawaban anda 'Tidak' pada nomor 7.1, harap menjawab bagian 7.2 berikut ini: Apa alasannya anda tidak menjadi anggota alumni peserta pelatihan JICA?

1. Saya kira tidak ada organisasi alumni
   - Ya
   - Tidak
2. Kantor organisasi alumni letaknya jauh dari tempat saya
   - Ya
   - Tidak
3. Saya kurang tertarik dengan kegiatan alumni
   - Ya
   - Tidak
4. Suasana organisasi alumni kurang cocok untuk saya
   - Ya
   - Tidak
5. Kurang manfaatnya bagi saya untuk bergabung dengan organisasi alumni
   - Ya
   - Tidak

 # 7.3 Jika anda menjawab 'Ya' pada nomor 7.1, harap menjawab bagian 7.3 dan 7.4 berikut ini. Kesan seperti apa yang ada dapatkan terhadap alumni peserta training JICA?

1. Saya dapat saling bertukar informasi berguna dengan anggota alumni
   - Sangat tidak setuju
   - Tidak setuju
   - Bisa Ya bisa Tidak
   - Setuju
   - Sangat Setuju
2. Acara yang diorganisir oleh alumni sangat berarti.
   - Sangat tidak setuju
   - Tidak setuju
   - Bisa Ya bisa Tidak
   - Setuju
   - Sangat Setuju
3. Saya menantikan acara/kegiatan alumni.
   - Sangat tidak setuju
   - Tidak setuju
   - Bisa Ya bisa Tidak
   - Setuju
   - Sangat Setuju

4. Saya merasa suasana di alumni cocok bagi saya.
   - Sangat tidak setuju
   - Tidak setuju
   - Bisa Ya bisa Tidak
   - Setuju
   - Sangat Setuju
5. Menjadi anggota alumni bermanfaat bagi saya
   - Sangat tidak setuju
   - Tidak setuju
   - Bisa Ya bisa Tidak
   - Setuju
   - Sangat Setuju
6. Lainnya, harap sebutkan

 # 7.4 Bagaimana anda terlibat di alumni peserta latihan?

1. Saya menghadiri pertemuan rutin dari alumni
   - Tidak sama sekali
   - Sesekali
   - Beberapa kali
   - Seringkali
   - Selalu
   - Terlibat dalam beberapa kegiatan sebelumnya, tapi sekarang tidak
2. Saya ikut serta dalam acara-acara memperkenalkan budaya Jepang
   - Tidak sama sekali
   - Sesekali
   - Beberapa kali
3. Saya bertukar informasi tetang Jepang dengan anggota-anggota alumni lainnya.
   - Tidak sama sekali
   - Sesekali
   - Beberapa kali
   - Seringkali
   - Selalu
   - Terlibat dalam beberapa kegiatan sebelumnya, tapi sekarang tidak
4. Saya melakukan kegiatan sukarela berdasarkan pengalaman saya di Jepang
   - Tidak sama sekali
   - Sesekali
   - Beberapa kali
   - Seringkali
   - Selalu
   - Terlibat dalam beberapa kegiatan sebelumnya, tapi sekarang tidak

5 Saya bertukar pengetahuan dan keterampilan yang diperoleh di Jepang dengan anggota alumni lainnya.

- Tidak sama sekali
- Sesekali
- Beberapa kali
- Seringkali
- Selalu
- Terlibat dalam beberapa kegiatan sebelumnya, tapi sekarang tidak.

6 Saya mencoba mendiseminasikan pengetahuan dan keterampilan yang diperoleh di Jepang.

- Tidak sama sekali
- Sesekali
- Beberapa kali
- Seringkali
- Selalu
- Terlibat dalam beberapa kegiatan sebelumnya, tapi sekarang tidak.

7 Saya mengusulkan kegiatan-kegiatan yang menerapkan pengetahuan dan keterampilan yang diperoleh di Jepang.

- Tidak sama sekali
- Sesekali
- Beberapa kali
- Seringkali
- Selalu
- Terlibat dalam beberapa kegiatan sebelumnya, tapi sekarang tidak.

→ **Simpan, lanjut ke tahap berikutnya.**

STEP 8 dari 14 : Kegiatan pertukaran informasi apakah yang anda laksanakan?

8.1 Dengan rekan-rekan kerja di kantor/lembaga saya

a. Mendiseminasikan pengetahuan dan keterampilan yang diperoleh melalui Pelatihan

- Tidak sama sekali
- Sesekali
- Beberapa kali
- Seringkali
- Selalu
- Ikut serta dalam beberapa kegiatan sebelumnya, tapi sekarang tidak

b. Mengadakan kelompok studi mengenai pengetahuan dan teknologi baru

- Tidak sama sekali
- Sesekali
- Beberapa kali
- Seringkali
- Selalu
- Ikut serta dalam beberapa kegiatan sebelumnya, tapi sekarang tidak

c. Menyelenggarakan acara-acara untuk memperkenalkan budaya Jepang

- Tidak sama sekali
- Sesekali
- Beberapa kali
- Seringkali
- Selalu
- Ikut serta dalam beberapa kegiatan sebelumnya, tapi sekarang tidak

8.2 Dengan mitra-mitra kerja di sektor yang sama

a. Mendiseminasikan pengetahuan dan keterampilan yang diperoleh melalui Pelatihan

- Tidak sama sekali
- Sesekali
- Beberapa kali
- Seringkali
- Selalu
- Ikut serta dalam beberapa kegiatan sebelumnya, tapi sekarang tidak

b. Mengadakan kelompok studi mengenai pengetahuan dan teknologi baru

- Tidak sama sekali
- Sesekali
- Beberapa kali
- Seringkali
- Selalu
- Ikut serta dalam beberapa kegiatan sebelumnya, tapi sekarang tidak

c. Menyelenggarakan acara-acara untuk memperkenalkan budaya Jepang

- Tidak sama sekali
- Sesekali
- Beberapa kali
- Seringkali

d. Melaksanakan kegiatan sukarela sebagai kontribusi sosial

- Tidak sama sekali
- Sesekali
- Beberapa kali
- Seringkali
- Selalu
- Ikut serta dalam beberapa kegiatan sebelumnya, tapi sekarang tidak.

8.5 Dengan orang-orang dari negara-negara ASEAN

a. Mendiseminasikan pengetahuan dan keterampilan yang diperoleh melalui Pelatihan

- Tidak sama sekali
- Sesekali
- Beberapa kali
- Seringkali
- Selalu
- Ikut serta dalam beberapa kegiatan sebelumnya, tapi sekarang tidak.

b. Mengadakan kelompok studi mengenai pengetahuan dan teknologi baru

- Tidak sama sekali
- Sesekali
- Beberapa kali
- Seringkali
- Selalu
- Ikut serta dalam beberapa kegiatan sebelumnya, tapi sekarang tidak

c. Menyelenggarakan acara-acara untuk memperkenalkan budaya Jepang

- Tidak sama sekali.
- Sesekali.
- Beberapa kali.
- Seringkali.
- Selalu.
- Ikut serta dalam beberapa kegiatan sebelumnya, tapi sekarang tidak.

d. Melaksanakan kegiatan sukarela sebagai kontribusi sosial

- Tidak sama sekali.
- Sesekali.
- Beberapa kali.
- Seringkali.
- Selalu.
- Ikut serta dalam beberapa kegiatan sebelumnya, tapi sekarang tidak.

8.6 Dengan organisasi penyelenggara saat program pelatihan JICA

a. Mendiseminasikan pengetahuan dan keterampilan yang diperoleh melalui Pelatihan

- Tidak sama sekali.
- Sesekali.
- Beberapa kali.
- Seringkali.
- Selalu.
- Ikut serta dalam beberapa kegiatan sebelumnya, tapi sekarang tidak.

b. Mengadakan kelompok studi mengenai pengetahuan dan teknologi baru

- Tidak sama sekali.
- Sesekali.
- Beberapa kali.
- Seringkali.

b. Mengadakan kelompok studi mengenai pengetahuan dan teknologi baru

- Tidak sama sekali.
- Sesekali.
- Beberapa kali.
- Seringkali.
- Selalu.
- Ikut serta dalam beberapa kegiatan sebelumnya, tapi sekarang tidak.

c. Menyelenggarakan acara-acara untuk memperkenalkan budaya Jepang

- Tidak sama sekali.
- Sesekali.
- Beberapa kali.
- Seringkali.
- Selalu.
- Ikut serta dalam beberapa kegiatan sebelumnya, tapi sekarang tidak.

d. Melaksanakan kegiatan sukarela sebagai kontribusi sosial

- Tidak sama sekali.
- Sesekali.
- Beberapa kali.
- Seringkali.
- Selalu.
- Ikut serta dalam beberapa kegiatan sebelumnya, tapi sekarang tidak.

→ **Simpan, lanjut ke tahap berikutnya.**

STEP 9 dari 14 : Sampai sejauh mana niat atau ketertarikan anda untuk ikut serta pada kegiatan-kegiatan berikut ini?

(Berorientasi sektoral)

1. Kegiatan terkait spesialisasi/keahlian/bidang/sektor saya
   - Sangat tidak setuju
   - Tidak setuju
   - Bisa Ya bisa Tidak
   - Setuju
   - Sangat setuju

   Seperti:

(Berorientasi bisnis)

2. Kegiatan terkait dengan bisnis perusahaan-perusahaan Jepang
   - Sangat tidak setuju
   - Tidak setuju
   - Bisa Ya bisa Tidak
   - Setuju
   - Sangat setuju

3. Kegiatan terkait dengan bekerja bersama orang Jepang di Jepang
   - Sangat tidak setuju
   - Tidak setuju
   - Bisa Ya bisa Tidak
   - Setuju
   - Sangat setuju

9 Kegiatan terkait dengan study tour di Jepang

- Sangat tidak setuju.
- Tidak setuju.
- Bisa Ya bisa Tidak.
- Setuju.
- Sangat setuju.

10 Kegiatan terkait dengan menjadi tuan rumah bagi siswa/mahasiswa Jepang (study tour, studi di Indonesia)

- Sangat tidak setuju.
- Tidak setuju.
- Bisa Ya bisa Tidak.
- Setuju.
- Sangat setuju.

(Berorientasi budaya Jepang)

11 Kegiatan terkait dengan pembelajaran bahasa Jepang

- Sangat tidak setuju.
- Tidak setuju.
- Bisa Ya bisa Tidak.
- Setuju.
- Sangat setuju.

12 Kegiatan terkait dengan budaya tradisional Jepang

- Sangat tidak setuju.
- Tidak setuju.
- Bisa Ya bisa Tidak.
- Setuju.
- Sangat setuju.

13. Kegiatan terkait dengan film Jepang dan film animasi Jepang
- Sangat tidak setuju
- Tidak setuju
- Bisa Ya bisa Tidak
- Setuju
- Sangat setuju

14. Kegiatan terkait dengan budaya kuliner Jepang
- Sangat tidak setuju
- Tidak setuju
- Bisa Ya bisa Tidak
- Setuju
- Sangat setuju

15. Kegiatan terkait dengan pariwisata di Jepang
- Sangat tidak setuju
- Tidak setuju
- Bisa Ya bisa Tidak
- Setuju
- Sangat setuju

(Lainnya)

16. Kegiatan terkait dengan pertukaran regional di ASEAN termasuk Jepang
- Sangat tidak setuju
- Tidak setuju
- Bisa Ya bisa Tidak
- Setuju
- Sangat setuju

17. Kegiatan terkait dengan sukarelawan untuk layanan sosial dan kerja LSM
- Sangat tidak setuju
- Tidak setuju

STEP 10 dari 14 : Bagaimana anda mengakses informasi mengenai Jepang?

1. Bagaimana anda mengakses informasi mengenai Jepang? Harap pilih tiga cara yang paling sering anda gunakan dari yang berikut ini, urutkan menurut tingkat kesenngan dan isilah kotak-kotak yang sesuai dengan angka-angka.

   Pertama » Kedua » Ketiga

   1. Internet
   2. Program TV lokal
   3. Buku-buku
   4. Surat Kabar
   5. JICA
   6. Alumni JICA
   7. Mantan peserta
   8. Perusahaan Jepang
   9. Organisasi penyelenggara di Jepang
   10. Orang Jepang yang tinggal di Indonesia
   11. Teman orang Indonesia
   12. Lainnya, harap sebutkan

→ Simpan, lanjut ke tahap berikutnya.

STEP 11 dari 14 : Bagaimana menerapkan hasil-hasil dari program pelatihan JICA?

 # 11.1 Pernahkah anda berbagi hasil pengetahuan dari program pelatihan JICA dengan atasan atau rekan kerja?

- Tidak sama sekali
- Sesekali
- Beberapa kali
- Seringkali
- Selalu

 # 11.2 Usulan serta pelaksanaan proyek dan pembuatan kebijakan berdasarkan hasil pelatihan.
Harap membaca pertanyaan-pertanyaan berikut mengenai kegiatan-kegiatan anda dan tuliskan angka yang sesuai pada kotak. Jika tidak, tuliskan '0' pada kolom.

1. Berapa banyak proyek yang pernah anda usulkan berdasarkan pengetahuan dan keterampilan yang didapat melalui Pelatihan?

   Jawab:

2. Berapa banyak proyek yang anda usulkan yang telah dilaksanakan?

   Jawab:

3. Berapa banyak kebijakan baru yang pernah anda usulkan berdasarkan pengetahuan dan keterampilan yang diperoleh melalui Pelatihan?

   Jawab:

→ Simpan, lanjut ke tahap berikutnya.

STEP 12 dari 14 : Informasi mengenai diri anda.

Nama Anda:	
Alamat Email:	
Umur:	Pada saat pelatihan: Sekarang:
Provinsi Tempat Tinggal Anda Saat Ini:	Pilih Provinsi
Jenis Kelamin:	Jenis Kelamin
Organisasi/Perusahaan Anda Saat Program Pelatihan:	
	Bidang: Perencanaan Administrasi Pemerintahan Pekerjaan umum/ Infrastruktur Pertanian Perikanan Pertambangan Energi Perdagangan atau bisnis Pariwisata Pendidikan/ Pengembangan SDM Kesehatan/ Sains medis Kesejahteraan Sosial Pensiun Lainnya, harap sebutkan:
Organisasi/Perusahaan Anda Saat Ini:	
	Bidang: Perencanaan Administrasi Pemerintahan

- Perencanaan
- Administrasi
- Pemerintahan
- Pekerjaan umum/ Infrastruktur
- Pertanian
- Perikanan
- Pertambangan
- Energi
- Perdagangan atau bisnis
- Pariwisata
- Pedidikan/ Pengembangan SDM
- Kesehatan/ Sains medis
- Kesejahteraan Sosial
- Pensiun
- Lainnya, harap sebutkan:

Organisasi/Perusahaan Anda Saat Ini:

Bidang:
- Perencanaan
- Administrasi
- Pemerintahan
- Pekerjaan umum/ Infrastruktur
- Pertanian
- Perikanan
- Pertambangan
- Energi
- Perdagangan atau bisnis
- Pariwisata
- Pedidikan/ Pengembangan SDM
- Kesehatan/ Sains medis
- Kesejahteraan Sosial
- Pensiun
- Lainnya, harap sebutkan:

Keluarga Anda: Jumlah Anak: Orang

→ **Simpan, lanjut ke tahap berikutnya.**

STEP 13 dari 14 : Perubahan Pekerjaan

1. Apakah anda pindah kerja sejak ikut dalam Pelatihan ?
   - Ya
   - Tidak
2. Apa alasan anda untuk berpindah kerja? Harap pilih satu alasan mengapa anda pindah kerja dari yang berikut ini dan isi pada kotak dengan angka.
   - Pekerjaan sebelumnya tidak cocok bagi saya
   - Saya ditawari dengan lebih menarik oleh organisasi/perusahaan lain
   - Saya membangun perusahaan baru
   - Lainnya, harap sebutkan:

→ **Simpan, lanjut ke tahap berikutnya.**

STEP 14 dari 14 : Apakah anda bersedia untuk dihubungi, apabila JICA ingin berkolaborasi atau membutuhkan dukungan anda?

1. Apakah anda bersedia untuk dihubungi, apabila JICA ingin berkolaborasi atau membutuhkan dukungan anda?
   - Ya
   - Tidak

→ **Simpan, selesai.**

JICA | LP3ES
JICA'S DATA COLLECTION SURVEY

JICA'S DATA COLLECTION SURVEY ON INDONES

Chart (Click on row for details)

#	Name	Title	Responden
1	Step 1	Program Pelatihan JICA yang anda ikuti?	661
2	Step 2	Kesan apa yang anda dapatkan ketika ikut dalam program ...	652
3	Step 3	Perubahan sikap/perilaku setelah ikut serta dalam Pelatihan	637
4	Step 4	Kontak/komunikasi dengan orang Jepang atau organisasi Je...	624
5	Step 5	Kesan tentang Jepang (Mengunjungi Jepang/Indonesia).	615
6	Step 6	Kontak/komunikasi dengan mantan peserta lainnya setelah ...	612
7	Step 7	Hubungan dengan JICA setelah program pelatihan JICA.	597
8	Step 8	Kegiatan pertukaran informasi apakah yang anda laksanaka...	577
9	Step 9	Sampai sejauh mana niat atau ketertarikan anda untuk ikut ...	558
10	Step 10	Bagaimana anda mengakses informasi mengenai Jepang?	555
11	Step 11	Bagaimana menerapkan hasil-hasil dari program pelatihan J...	552
12	Step 12	Informasi mengenai diri anda.	546
13	Step 13	Perubahan Pekerjaan	545
14	Step 14	Apakah anda bersedia untuk dihubungi, apabila JICA ingin b...	544

Record ID: step_2 1-14 of 14

ジャイカ
JICA